埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第20集

籠原裏古墳群 IV
（籠原裏古墳群第12・13・14・15号墳）
籠原裏遺跡 III

－熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書Ⅲ－

2015

埼玉県熊谷市教育委員会

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第20集

籠原裏古墳群Ⅳ
（籠原裏古墳群第12・13・14・15号墳）
籠原裏遺跡Ⅲ

－熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書Ⅲ－

2015

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土熊谷は、丘陵、台地、沖積低地と地形が変化に富んでいる上、我が国及び関東を代表する２大河川である利根川・荒川が市内を流れ、大河がもたらす肥沃な大地と豊な自然が広がっております。このような自然環境のもと、市内には、先人たちによって多くの文化財が営々と引き継がれてきました。これらの文化財は、郷土の発展やその過程を物語る証しであるとともに、私たち子孫の繁栄の指標ともなる先人の貴重な足跡であります。私たちは、こうした文化遺産を継承し、次世代に伝え、さらに豊かな熊谷市形成の礎としていかなければならないと考えております。

さて、熊谷市では市民が暮らしやすく、生活環境の豊かさを実感できる土地利用を図ることを目的に土地区画整理事業を進めております。ＪＲ高崎線籠原駅北口前で施行されている籠原中央第一土地区画整理事業もその一つであります。事業地内では既に行われた発掘調査により古代の集落跡や古墳群等が確認され、その成果については既に報告書を刊行してまいりました。このたびは、その土地区画整理事業に伴う街路築造及び移転に伴う新店舗建築工事が予定され、事前の試掘調査により新たに古墳や集落跡の存在が明らかとなりました。当教育委員会では、遺跡の重要性を鑑みて、関係部局と保存について協議を行ってまいりましたが、事業上やむを得ず計画の変更ができないとの結論に達し、当該か所について記録保存の措置を講ずることとなりました。

本書は、平成25年度に実施された籠原裏古墳群第12～15号墳及び籠原裏遺跡の発掘調査の成果をまとめたものです。このたびの調査では、籠原裏古墳群に新たに４基の古墳の存在が知られることなり、その範囲がさらに南へと広がったほか、古代から中世へと展開した集落の存在が明らかとなりました。特に籠原裏古墳群は、八角形の墳形や刀装具等の特殊な出土遺物をもつ特異な古墳が存在することや、市内西別府地区から隣接する深谷市域にかけて広がる古代の幡羅郡の郡役所跡及びその関連遺跡である幡羅・西別府官衙遺跡群との関係においても、築造時期が郡役所造営時期と前後するといった点から郡役所の造営や執務を担った郡司との関係が深いと想定されることで注目されています。

本書が埋蔵文化財保護、学術研究の基礎資料として、また埋蔵文化財の普及・啓発の資料として広く活用されることとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書刊行に至るまで、文化財保護に御理解、御協力を賜りました熊谷都市整備部都市計画課、土地区画整理西部事務所、並びに地元関係者の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成27年３月

熊谷市教育委員会
教育長　**野原　晃**

例　　言

1　本書は、埼玉県熊谷市新堀字諏訪前781番１ほかに所在する籠原裏古墳群中の第12･13･14･15号墳（埼玉県遺跡番号59－051－12～15）及び籠原裏遺跡（埼玉県遺跡番号59－082）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷計画事業籠原中央第一土地区画整理事業 施行者 熊谷市 代表者 熊谷市長 富岡　清から委託を受け、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、第Ⅰ章３のとおりである。

4　発掘調査期間は、次のとおりである。

　籠原裏古墳群第12・13号墳及び籠原裏遺跡（Ａ区調査）：平成25年８月28日～11月13日

　籠原裏古墳群第14・15号墳及び籠原裏遺跡（Ｂ区調査）：平成25年11月12日～平成26年１月23日

　整理・報告書作成期間は、平成26年５月30日～平成27年３月17日である。

5　発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会吉野　健が行い、腰塚博隆が補助した。また、整理・報告書作成事業は、吉野が担当し、本書の執筆・編集を行った。

6　写真撮影は、発掘調査を担当者が、遺物を吉野が行った。

7　出土遺物の整理及び図版等の作成は、熊谷市立江南文化財センター作業員、綾川美幸、木村のぶ子、小林まゆみ、斉藤千賀子、清水貴子、十亀祥子、中島清香、平山雄浩、福島ひとみ、松本美由紀の協力を得て、吉野が行った。

8　石室の石材鑑定については、清水康守、小川政之、駒井　潔、武藤博士の四氏の御教示を得た。また、その結果について寄稿いただいた。

9　発掘調査にかかる基準点測量は、株式会社東京航業研究所に委託した。

10　籠原古墳群第12･14･15号墳の石室図面作成にあたっては、一部株式会社東京航業研究所に委託した。

11　本書にかかる資料は、熊谷市教育委員会で保管している。

12　発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の方々及び機関等からご教示、ご協力を賜った。記して謝意を表します。（敬称略、五十音順）

小川政之（日本第四紀会会員）、清水康守（熊谷市史編さん特別調査員）、菅谷浩之（熊谷市文化財保護審議会会長）、駒井　潔（埼玉県立和光高等学校）、武藤博士（化石研究会会員）、埼玉県教育局生涯学習文化財課

凡　　例

1　本書における、遺構の略記号は、次のとおりである。

ＳＢ…掘立柱建物跡　ＳＤ…溝跡　ＳＥ…井戸跡　ＳＩ…竪穴住居跡　ＳＫ…土坑　ＳＳ…古墳

ＳＸ…性格不明竪穴遺構　Ｐ…ピット

2　遺構挿図の土層断面図及び平面図中の表記記号は、次のとおりである。

Ｐ…土器

3　遺構挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

調査区全測図…１／300　　Ａ区・Ｂ区全測図…１／200　　掘立柱建物跡・ピット…１／60

溝跡・井戸跡・竪穴住居跡・土坑・性格不明竪穴遺構…１／40　　古墳石室・石室掘り方…１／40

古墳墳丘・断面図…１／80・１／100

4　遺構挿図中のスクリーントーンは、次のとおりである。

…地山　　…石室棺床面　　…石室礫・川原石　　…スロープ（未調査か所）

5　遺構挿図中、断面に添えてある数値は標高を示している。また、原則として、同一図版・同一遺構の標高は統一し、Ａポイントまたは筆頭に登場する遺構に表記した。なお、ピットについては、Ａ区は37.200及び37.000、Ｂ区は37.000に統一し、Ａ区については異なる標高のものを挿図中に全て表記した。

6　遺物挿図の縮尺は、原則として次のとおりであるが、それ以外のものは個別に示した。

土師器・須恵器…１／４　　縄文土器・土器断面・石器・石製品…１／３　　鉄製品…１／２

7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。また、表現方法は、次のとおりである。

須恵器の断面：黒塗り　縄文土器、土師器、石器の断面：白抜き　鉄製品断面：

8　遺物拓影は、左右あるものは向って左に外面、右に内面、左のみのものは外面を示す。

9　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

法量の単位は、㎝、ｇである。また、推定値は括弧付けで示した。

胎土は、土器に含まれる鉱物等を次の記号で示した。

Ａ…白色粒子　Ｂ…黒色粒子　Ｃ…赤色粒子　Ｄ…褐色粒子　Ｅ…赤褐色粒子

Ｆ…白色針状物質　Ｇ…長石　Ｈ…石英　Ｉ…白雲母　Ｊ…黒雲母　Ｋ…角閃石　Ｌ…片岩

Ｍ…砂粒　Ｎ…礫

焼成は、次のように区分した。

Ａ…良好　Ｂ…普通　Ｃ…不良

10　ピット一覧表中の〔　〕は、残存検出長を、（　）は、推定長を示す。

11　写真図版の遺物縮尺は、すべて任意である。

12　土層及び遺物の色調は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修、日本色研事業株式会社発行　2008）に照らし最も近似した色相を示した。

目　　次

序
例　言 …… Ⅰ
凡　例 …… Ⅱ
目　次 …… Ⅲ
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1　調査に至る経過 …… 1
　2　発掘調査、報告書作成の経過 …… 2
　3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織 …… 2
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 4
　1　地理的環境 …… 4
　2　歴史的環境 …… 6
Ⅲ　遺跡の概要 …… 14
　1　調査の方法 …… 14
　2　検出された遺構と遺物 …… 14
Ⅳ　遺構と遺物 …… 18
　1　Ａ区の調査 …… 18
　（1）　古墳 …… 18
　（2）　溝跡 …… 34
　（3）　井戸跡 …… 36
　（4）　土坑 …… 37
　（5）　ピット …… 42
　（6）　性格不明竪穴遺構 …… 54
　2　Ｂ区の調査 …… 56
　（1）　古墳 …… 56
　（2）　竪穴住居跡 …… 70
　（3）　掘立柱建物跡 …… 71
　（4）　溝跡 …… 81
　（5）　土坑 …… 86
　（6）　ピット …… 90
　（7）　性格不明竪穴遺構 …… 111
　（8）　Ｂ区出土遺物 …… 113
　3　遺構外出土遺物 …… 114
Ⅴ　調査のまとめ …… 115
附編　籠原裏古墳群第14号墳・第15号墳石室壁の礫種・礫径分析 …… 121

挿 図 目 次

第１図　埼玉県の地形図 …… 5
第２図　周辺遺跡分布図 …… 7
第３図　調査地点位置図 …… 12
第４図　調査区全測図 …… 13
第５図　Ａ区全測図 …… 19
第６図　第12号墳 …… 20
第７図　第12号墳土層断面図（１） …… 21
第８図　第12号墳土層断面図（２） …… 22
第９図　第12号墳石室 …… 24
第10図　第12号墳石室掘り方 …… 25
第11図　第12号墳石室閉塞状況図 …… 26
第12図　第12号墳出土遺物 …… 27
第13図　第13号墳 …… 30
第14図　第13号墳土層断面図 …… 31
第15図　第13号墳石室（上）、石室掘り方（下） …… 32
第16図　第13号墳出土遺物 …… 33
第17図　第１・３～５号溝跡、第４・56・57号ピット …… 35
第18図　第１号井戸跡、第２・６号溝跡、第１号土坑 …… 37
第19図　第１号井戸跡、第２・６号溝跡、第１号土坑土層断面図 …… 38
第20図　第２～７号土坑、第10・15・97号ピット …… 40
第21図　Ａ区ピット全体図区割図 …… 42
第22図　Ａ区ピット平面図（１） …… 43
第23図　Ａ区ピット平面図（２） …… 44
第24図　Ａ区ピット平面図（３） …… 45
第25図　Ａ区ピット平面図（４） …… 46
第26図　Ａ区ピット平面図（５） …… 47
第27図　Ａ区ピット土層断面図（１） …… 48
第28図　Ａ区ピット土層断面図（２） …… 49
第29図　Ａ区ピット土層断面図（３） …… 50
第30図　第１・２号性格不明竪穴遺構 …… 55
第31図　Ｂ区全測図 …… 57
第32図　Ｂ区基本土層図 …… 57
第33図　第14号墳 …… 58
第34図　第14号墳土層断面図（１） …… 59
第35図　第14号墳土層断面図（２） …… 60
第36図　第14号墳石室 …… 61

第37図　第14号墳石室掘り方（上）、石室閉塞状況図（下）…… 62
第38図　第15号墳…… 64
第39図　第15号墳土層断面図…… 65
第40図　第15号墳石室（上）、石室掘り方（下）…… 68
第41図　第15号墳石室第１次検出状況図…… 69
第42図　第１号竪穴住居跡…… 71
第43図　第１・２号掘立柱建物跡…… 73
第44図　第３号掘立柱建物跡…… 74
第45図　第４号掘立柱建物跡…… 76
第46図　第４号掘立柱建物跡土層断面図…… 77
第47図　第５・６号掘立柱建物跡…… 80
第48図　第７・８号掘立柱建物跡…… 81
第49図　第７～14号溝跡、第15号土坑、第369号ピット…… 83
第50図　第15～17号溝跡、第414号ピット…… 85
第51図　第８～13号土坑、第428号ピット…… 88
第52図　第14・16・17号土坑…… 89
第53図　Ｂ区ピット全体図区割図…… 90
第54図　Ｂ区ピット平面図（１）…… 91
第55図　Ｂ区ピット平面図（２）…… 92
第56図　Ｂ区ピット平面図（３）…… 93
第57図　Ｂ区ピット平面図（４）…… 94
第58図　Ｂ区ピット平面図（５）…… 95
第59図　Ｂ区ピット平面図（６）…… 96
第60図　Ｂ区ピット土層断面図（１）…… 97
第61図　Ｂ区ピット土層断面図（２）…… 98
第62図　Ｂ区ピット土層断面図（３）…… 99
第63図　Ｂ区ピット土層断面図（４）…… 100
第64図　Ｂ区ピット土層断面図（５）…… 101
第65図　Ｂ区ピット土層断面図（６）…… 102
第66図　Ｂ区ピット土層断面図（７）…… 103
第67図　第３・４号性格不明竪穴遺構…… 112
第68図　Ｂ区出土遺物…… 113
第69図　遺構外出土遺物…… 114
第70図　個数による礫種組成…… 121
第71図　礫の径区分と形状分類…… 122
第72図　長径による礫の個数分布…… 123
第73図　長径・中径による礫の個数分布…… 124
第74図　荒川の川原礫採取地点【地点Ａは籠原裏古墳群・籠原裏遺跡、地点Ｂは在家遺跡】…… 125

第75図　現在の荒川の川原礫における礫径（長径）による礫の個数分布 …… 125

表 目 次

第１表　変更遺構番号新旧対照表 …… 17
第２表　第12号墳出土遺物観察表 …… 28
第３表　第13号墳出土遺物観察表 …… 33
第４表　Ａ区ピット一覧表 …… 42
第５表　Ｂ区ピット一覧表 …… 103
第６表　Ｂ区出土遺物観察表 …… 113
第７表　遺構外出土遺物観察表 …… 114

図 版 目 次

図版１　Ａ区全景（第12号墳墳丘除去後、上が西）
Ａ区基本土層（南東部南壁、北から）
第12号墳全景（南から）
第12号墳石室完掘状況（南から）
第12号墳石室検出状況（崩落石・閉塞石除去前、南から）
第12号墳石室閉塞石検出状況（南から）
図版２　第12号墳石室完掘状況（左：玄室　右：羨道部、南から）
第12号墳石室羨門部完掘状況（南から）
第12号墳石室前庭部完掘状況（南から）
第12号墳石室全景（棺床面礫除去後、南から）
第12号墳石室奥壁（棺床面礫除去後、南から）
図版３　第12号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、西から）
第12号墳石室左側壁（棺床面礫除去後、東から）
第12号墳石室右側壁（左：玄室　右：羨道部、棺床面礫除去後、西から）
第12号墳石室左側壁（右：玄室　左：羨道部、棺床面礫除去後、東から）
図版４　第12号墳石室根石検出状況（棺床面礫除去後、南から）
第12号墳石室掘り方完掘状況（南から）
第12号墳周溝（西側）完掘状況（南から）
第12号墳周溝（西側）土層断面（南東から）
第12号墳石室右側壁裏込め土（土層断面B-B’、南から）
第12号墳墳丘東側盛土（土層断面B-B’、南東から）
図版５　第12号墳墳丘西側盛土（土層断面B-B’、南東から）
第13号墳全景（南から）
第13号墳石室完掘状況（羨道部左側壁、南から）
第13号墳石室羨道部左側壁（東から）
第13号墳墳丘・石室検出状況（南から）
第13号墳周溝（西側）礫出土状況（南から）

図版６　第13号墳周溝（西側）完掘状況（南から）
第13号墳周溝（東側）完掘状況・土層断面（南から）
第１・３号溝跡、第３～５号土坑、第４・５・７～12・15・55～61・67・72・95～98・106・107・110号ピット完掘状況（南から）
第２・６号溝跡、第１号井戸跡、第１号土坑、第６・72・110号ピット完掘状況（南から）
第18～33・38・83・87・91号ピット完掘状況（南から）
第４・５号溝跡、第13・39・40・42～44・46～50・52～54・74～79・82・84～86・92～94・99～102・104・105・117号ピット完掘状況（東から）
図版７　第１号性格不明竪穴遺構完掘状況（東から）
Ｂ区全景（北東から）
第14号墳全景（棺床面礫除去後、南から）
第14号墳石室完掘状況（南から）
第14号墳石室検出状況（崩落石・閉塞石除去前、南から）
第14号墳石室閉塞状況（玄門部、北から）
図版８　第14号墳石室完掘状況（左：玄室　右：羨道部、南から）
第14号墳石室全景（棺床面礫除去後、南から）
第14号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、北西から）
第14号墳石室羨道部左側壁（棺床面礫除去後、東から）
第14号墳石室掘り方完掘状況（南から）
図版９　第15号墳全景（石室上面礫除去前、北から）
第15号墳石室全景（北から）
第15号墳石室奥壁（棺床面礫除去後、南から）
第15号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、西から）
第15号墳石室左側壁（棺床面礫除去後、東から）
第15号墳石室掘り方完掘状況（南から）
図版10　第１号竪穴住居跡完掘状況（右上がカマド、北西から）
第３号掘立柱建物跡、第８号溝跡、第８号土坑、周辺ピット完掘状況（北から）
第１・２号掘立柱建物跡、第７・９号溝跡、周辺ピット完掘状況（北から）
第５号掘立柱建物跡、第３号性格不明竪穴遺構、周辺ピット完掘状況（南から）
第４号掘立柱建物跡、第17号溝跡、第10号土坑、周辺ピット完掘状況（南から）
図版11　第12号墳　　第12図１～12（土師器、須恵器、鉄製品、石器）
第13号墳　　第16図１・２（須恵器、石製品）
Ｂ区出土遺物　　第68図１～４（縄文土器）
遺構外出土遺物　第69図１～４（土師器、須恵器、縄文土器、石器）
図版12　在家古墳群第２号墳石室
在家古墳群第４号墳石室（左：北から　右：左側壁）
在家古墳群第５号墳石室（上：北から　下：右側壁）
在家古墳群第６号墳石室（上：北から　下：左側壁）

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成25年６月25日付け熊土西発第31号で熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業、施行者熊谷市、代表者熊谷市長（以下、土地区画整理西部事務所）より、籠原中央第一土地区画整理事業地内（熊谷市新堀字諏訪前781番１ほか）の埋蔵文化財包蔵地（籠原裏古墳群、籠原裏遺跡）において、街路築造工事に伴い、文化財保護法（以下、法）第94条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の通知が提出された。これにより、熊谷市教育委員会は、埋蔵文化財が存在することが予想されたため、平成25年７月５・22・23日に、その詳細な内容を確認するため試掘調査を実施した。その結果、古代の集落跡及びこれまで未確認であった籠原裏古墳群第12号墳の存在を新たに確認した。この結果を踏まえ、熊谷市教育委員会教育長から土地区画整理西部事務所あてに次のように通知した。

街路築造工事を予定しているか所には、埋蔵文化財（集落跡及び古墳）が所在する。当該地は開発計画予定地から除外し、現状保存することが望ましい。やむを得ず現状変更する場合には、法第94条第１項の規定により、記録保存のための発掘調査を実施すること。なお、発掘調査を実施する場合には、事前に当教育委員会及び埼玉県教育委員会と協議すること。

一方、平成25年７月12日付けで株式会社埼玉りそな銀行オペレーション改革部長青木啓之より、籠原中央第一土地区画整理事業地内（熊谷市新堀字諏訪前780番１ほか）の埋蔵文化財包蔵地（籠原裏遺跡）において、土地区画整理事業に伴う店舗移転のため新規に店舗を建設することにかかり、法第93条第１項の規定による埋蔵文化財発掘の届出が提出された。これについても、熊谷市教育委員会は、埋蔵文化財包蔵地が広がりを見せ、埋蔵文化財が存在することが予想されたため、平成25年７月24日に、その詳細な内容を確認するため試掘調査を実施した。その結果、古代の集落跡の広がりを新たに確認した。この結果を踏まえ、熊谷市教育委員会教育長から株式会社埼玉りそな銀行あてに、上記の土地区画整理西部事務所あてと同様な通知をした。

その後、街路築造工事か所は土地区画整理西部事務所・熊谷市教育委員会間で、新店舗建設工事か所は、土地区画整理事業が原因との判断から、土地区画整理西部事務所、熊谷市教育委員会、株式会社埼玉りそな銀行３者間で協議を重ねたが、工事計画変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。法99条第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知は、熊谷市教育委員会教育長より次のとおり提出され、調査が実施された。

平成25年８月27日付け熊教社発第1363号（街路築造工事か所）

平成25年11月５日付け熊教社発第1508号（新店舗建設工事か所）

2　発掘調査、報告書作成の経過

（1）　A区の調査

街路築造工事予定地であるA区（以下、A区）の調査は、平成25年８月28日から11月13日にかけて行った。調査面積は、400㎡である。

まず、重機による表土除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行い、古墳時代後期から平安時代までの遺構・遺物が検出された。９月上旬から11月初旬にかけて作業員による遺構掘削作業を行い、９月中旬から遺構掘削作業と並行して遺構の実測作業、写真撮影を行い、11月上旬に調査区全体の完掘写真の撮影を行った。

遺構の実測については、その分布状況を平面図に作成し、遺構掘削の際に出土した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。また、掘削した遺構については、平面図及び土層断面図を作成した。

写真撮影については、主要な遺構を中心に近接撮影を行った。

（2）　B区の調査

新店舗建設工事予定地であるB区（以下、B区）の調査は、平成25年11月12日から平成26年１月23日にかけて行った。調査面積は、510㎡である。

まず、重機による表土除去を行い、その後人力による遺構確認作業を行い、古墳時代後期から平安時代までの遺構・遺物が検出された。11月中旬から翌年１月中旬にかけて作業員による遺構掘削作業を行い、11月下旬から遺構掘削作業と並行して遺構の実測作業、写真撮影を行い、１月中旬に調査区全体の完掘写真の撮影を行った。

遺構の実測については、その分布状況を平面図に作成し、遺構掘削の際に出土した遺物については、分布図を作成し取り上げを行った。また、掘削した遺構については、平面図及び土層断面図を作成した。

写真撮影については、主要な遺構を中心に近接撮影を行った。

（3）　整理・報告書作成作業

本書の整理作業は、平成26年５月から平成27年３月にかけて実施した。

まず、遺物の洗浄、注記、接合、復元作業を行った。その後、遺物の分類を行い、実測作業を開始した。また、これらと並行して遺構の図面整理を行った。

次に、土器等の遺物のトレース・拓本を採り図版を作成し、併せて遺構等のトレース・図版の作成を行った。そして、遺構の写真整理・遺物写真撮影を行い、写真図版の割付・編集を行った。また、これと並行して原稿執筆を行った。

最後に、印刷業者の選定を行い印刷に入り、校正を経て本報告書を刊行した。

3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

主　体　者　　熊谷市教育委員会

（1）　発掘調査

平成25年度

教育長	野原　　晃
教育次長	鯨井　　勝

社会教育課長	岩上　精純
社会教育課文化財保護・市史編さん担当副参事	根岸　敏彦
社会教育課副課長兼文化財保護係長	森田　安彦
社会教育課文化財保護係主幹	吉野　　健
主査	杉浦　朗子
主査	松田　　哲
主任	蔵持　俊輔
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
発掘調査員	原野　真祐

（２）　整理・報告書作成

平成26年度

教育長	野原　　晃
教育次長	米澤ひろみ
社会教育課長	岩上　精純
社会教育課文化財保護・市史編さん担当副参事	森田　安彦
社会教育課副課長兼文化財保護係長	吉野　　健
社会教育課文化財保護係主査	杉浦　朗子
主査	松田　　哲
主査	小島　洋一
主任	蔵持　俊輔
主任	山下　祐樹
主任	腰塚　博隆
発掘調査員	原野　真祐

Ⅱ　発掘調査の概要

1　地理的環境

埼玉県は、関東地方の西部に位置する内陸の県である。熊谷市は、埼玉県の北部、東京都心から50～70㎞圏に位置し、近年の妻沼町、大里町、江南町との合併により、南北に約20㎞、東西に約14㎞の面積159.82㎢の規模を有する。また、人口は、平成22年の国勢調査によると203,180人となり、埼玉県で９番目、県北で最大の人口を有する。

熊谷市は、南には荒川が、北には利根川がそれぞれ西から南東方向に流れ、両河川が最も近接する地域にある。地形的には、西側に櫛挽台地、荒川を挟んで南側には江南台地及び比企丘陵、北側及び東側には妻沼低地が広がり、妻沼低地と接して荒川を挟んで南には荒川低地が広がる。市域の大半は妻沼低地上にある（第１図）。

櫛挽台地は、荒川左岸に広がる広大な台地で、荒川によってつくられた荒川扇状地と呼ばれる古い扇状地が侵食されてできたものである。この台地は、寄居町末野付近を扇頂として東は市西部の三ヶ尻付近まで、北東方向へは西別府付近まで延びる崖線で妻沼低地に面し、南側は荒川に沿う崖線で境されている。標高は、扇頂で100ｍ、北東端の崖線で50ｍとなり、傾斜の緩い特徴をもっている。また、台地上面は一般に平坦であるが、いくつかの残丘状の小丘陵があり、市西部三ヶ尻にある観音山（標高77ｍ）はその小丘陵である。

そして、台地面は二つの段丘面に分けられる。一つは、北西側の高い面で武蔵野Ⅱ面に比定される櫛挽面（櫛引段丘）であり、櫛挽台地の主体をなすところである。もう一つは、市域がのる南東側の低い面で立川面に比定される寄居面（御稜威ヶ原段丘）であり、櫛挽面の南側を侵食した荒川の河岸段丘である。なお、妻沼低地との接線である三ヶ尻や西別府の台地裾部においては、扇央部で伏流水となっていた水が湧水となって現れ、かつては多数の湧泉が確認されていた。

江南台地は、荒川右岸に広がる台地で、荒川扇状地の南部が残ったところであり、武蔵野Ⅰ面に比定され、櫛挽台地より古い台地である。この台地は、荒川に沿って幅狭く河岸段丘上に続き、市域のうち荒川右岸は大部分がこの台地で占められる。標高は、上流の寄居町で140ｍを測り、下流方向にいくにしたがい低くなり、熊谷市平塚新田付近で45ｍとなり、比高差16～22ｍをもって北に広がる妻沼低地と接している。また、箕輪付近では40ｍとなり、比高差21～22ｍをもって東に広がる荒川低地と接している。

比企丘陵は、荒川と都幾川の間にある東西に長い丘陵で、和田川を挟んで江南台地の南にある。市域ではわずかに塩が該当し、その標高は60～80ｍである。丘陵内部は、市野川・滑川及びその支流により開折が進み、北西から南東あるいは南北方向の開折谷を形成しているが、熊谷市域方向の丘陵北側にある和田川の支谷の発達は非常に悪い。

妻沼低地は、利根川の自然堤防及び沖積低地であり、加須低地と共に利根川中流低地と呼ばれる。この低地は東西に長く、西は利根川と烏川の合流点付近、東は行田市利根大堰付近・加須低地と接するか所まで広がる。南は、櫛挽台地の崖線と荒川を挟んで接する荒川低地までである。標高は、熊谷市域内では、20～40ｍを測る。地形は、自然堤防及び荒川新扇状地による微高地と後背湿地や古流路跡からなり、市西部の大麻生から玉井、上中条、曙町に至る地域は荒川新扇状地と呼ばれ、荒川の形成した新し

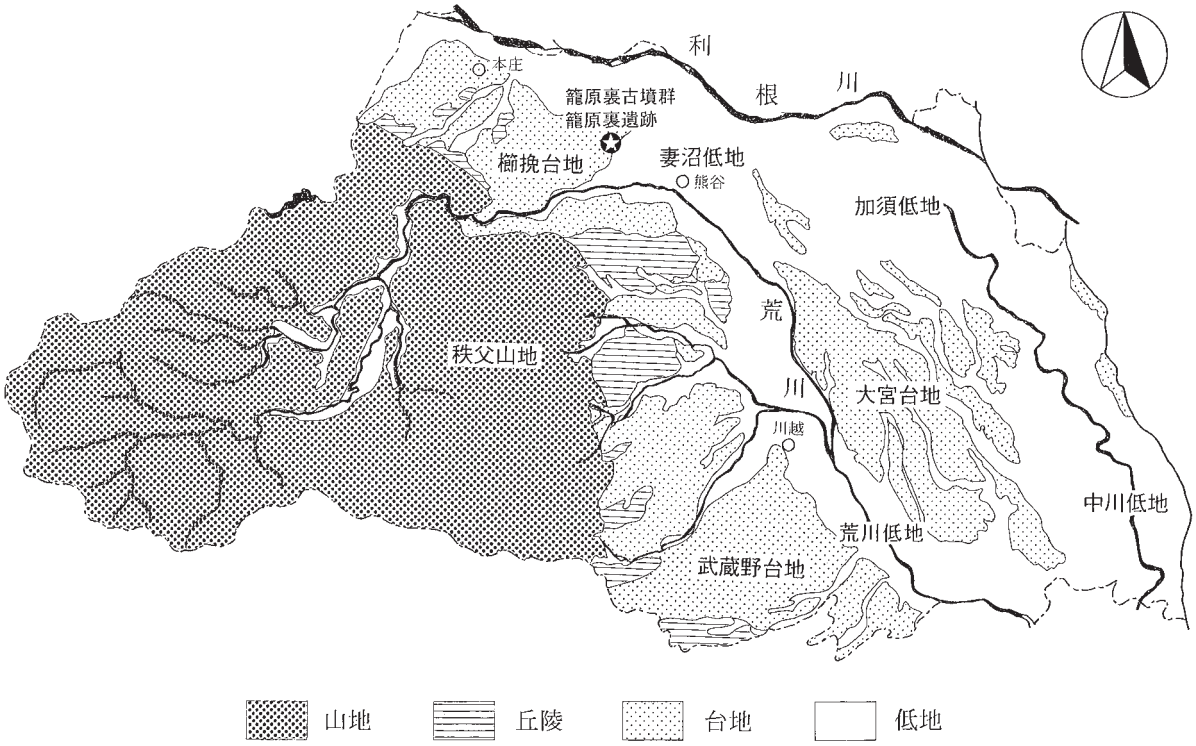
い扇状地にあたり、扇頂の大麻生で標高40ｍ、扇端の上中条で25ｍを測る。この荒川新扇状地の扇端にはかつて湧泉がみられた。

荒川低地は、県南東部の荒川に沿う広い低地で、東の大宮台地と西の武蔵野台地の間にあり、中川低地と共に東部低地と呼ばれる。上流は市南部旧大里町で、荒川を挟み妻沼低地と接し、下流は川口市南部の県境付近までである。標高は、上流の小八林付近で約20ｍを測る。低地には、市域内では荒川のほか和田吉野川が流れ、自然堤防や後背湿地などの微高地が認められる。

本報告の籠原裏古墳群及び籠原裏遺跡は、櫛挽台地の東端、標高約37ｍを測る台地縁辺部に立地する。遺跡の所在する熊谷市新堀地区は、西に深谷市が隣接する。籠原裏遺跡は、ＪＲ高崎線籠原駅前北側、国道17号線との間に挟まれ、西は県道美土里町・新堀線、東は熊谷市立新堀小学校の東までに位置し、南北約320ｍ、東西約1,120ｍを測る東西に細長く広がる遺跡である。一方、籠原裏古墳群は、籠原裏遺跡と同じくＪＲ高崎線籠原駅前北側、国道17号線との間に挟まれる駅前道路の東に位置し、東西約350ｍ、南北約290ｍの範囲に分布する古墳群である。

このあたり一帯は、関東造盆地運動による地盤の沈降及び河川の氾濫等の影響を受け、関東ローム層までは厚い表土層に覆われており、今回の調査区においては、現地表面から関東ローム層までは130～140㎝を測った。また、現地表面下約70～80㎝には約15～20㎝の厚みをもつシルト質の黄色粘質土が堆積しており、これは中世段階の洪水層であると推定される。検出された古墳は、この層の直下に検出され、この層にすっぽりと覆われる状況であった。古墳は墳丘までもが覆われて残存するという状況下にあり、遺存状態は比較的良好であった。

両遺跡が所在するこの地区は区画整理事業が終盤を迎え、街路築造が大部進み、駅前等の僅かな整備を残すのみとなっているため、近年は住宅等の建設が進み、市街化に一段と拍車がかかっている。こう



第１図　埼玉県の地形図

いった中、古墳を除く集落跡については、確認面までの表土層の厚みがあり、比較的遺跡の保存状態が良好であると考えられる。

2　歴史的環境

次に、本報告の遺跡を中心に歴史的環境を概観する（第２図）。

旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、本報告である籠原裏遺跡において、平安時代の竪穴建物跡の埋土中から出土した黒耀石製尖頭器の事例がある。

縄文時代になると、櫛挽台地北端にある深谷市東方城跡において、草創期の可能性がある尖頭器が出土している。

前期になると台地のみならず低地上にも出現しはじめ関山式土器が出土した寺東遺跡等の集落跡が確認されている。中期は、特に後半段階の加曽利Ｅ式期の遺跡が爆発的に出現するが、依然として櫛挽台地及び台地直下の低地上に集中している。

後期になると遺跡数は減少傾向ではあるが、徐々に低地へと進出をはじめ、市西部の西別府・東別府周辺では、中期と同様に集中して所在し、深谷市内においても、台地縁辺部及び台地下の低地上で遺跡が確認されている。

晩期になると、さらに遺跡数が減少し、市内においては非常に少ないが、低地の自然堤防上に進出した遺跡が目立つようになる。市東部の妻沼低地に位置する上之地区で安行式土器が検出されている程度である。深谷市では低地においていくつかの遺跡が確認されているが、上敷免遺跡では晩期終末の浮線文土器片が多数出土しており、また、市東部妻沼低地の前中西遺跡（地図未掲載）の包含層中及び他時期の遺構からも浮線文土器が出土している。これは、次の弥生時代が始まる以前に人々が低地に進出してきた証であり、次代へのつながりが看取できる。

弥生時代については、深谷市において妻沼低地の上敷免遺跡の包含層から県内初の前期遠賀川式土器の胴部上半破片が出土している。その後、中期に至ると多くの遺跡の存在が確認されるようになる。中期以降の集落は、櫛挽台地上及び台地下の自然堤防上に営まれている。市内では三ヶ尻遺跡に含まれる三ヶ尻上古遺跡、横間栗遺跡、飯塚遺跡、飯塚南遺跡、飯塚北遺跡、深谷市では上敷免遺跡等であり、飯塚遺跡を除きいずれも再葬墓が検出された遺跡である。横間栗遺跡は、前期末から中期中頃の再葬墓が16基発見され、この一括資料は1999年３月に埼玉県指定文化財となっている。この横間栗遺跡に近接する関下遺跡では中期中頃の竪穴建物跡が確認され、隣接する石田遺跡とともに集落域の広がりを想起させる遺跡である。

一方、市東部の低地上では、水稲耕作を基盤とした本格的な集落が営まれ、池上遺跡（地図未掲載）は環濠集落として知られている。また、行田市小敷田遺跡（地図未掲載）では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が確認されている。

中期後半には、市内では妻沼低地の北島遺跡（地図未掲載）や前中西遺跡等で集落が確認されており、深谷市のやはり妻沼低地では、宮ヶ谷戸遺跡や上敷免遺跡で集落が確認されている。後期中頃から終末にかけては、少ないものの低地上各地に遺跡が見られる。市内弥藤吾新田遺跡、中条条里遺跡（地図未

飯塚北遺跡
飯塚古墳群
飯塚遺跡
飯塚南古墳群
砂田遺跡
上増田古墳群
城北遺跡
飯塚南遺跡
弥藤吾新田遺跡
本郷前東遺跡
明戸東遺跡
上敷免遺跡
原遺跡
居立遺跡
新田裏遺跡
前遺跡
道ヶ谷戸条里遺跡
上江袋古墳群
新屋敷東遺跡
八日市遺跡
城西遺跡
木の本 10 号墳
宮ヶ谷戸遺跡
東川端遺跡
清水上遺跡
木の本古墳群
根絡遺跡
関下遺跡
別府条里遺跡
森吉古墳
横間栗遺跡
東方城跡
西別府祭祀遺跡
西方遺跡
幡羅遺跡
西別府遺跡
石田遺跡
一本木前遺跡
横塚山古墳
中耕地遺跡
第 2 号方形周溝墓
西別府館跡
西別府廃寺
寺東遺跡
大竹遺跡
二子山古墳
下郷遺跡
別府城跡
別府氏館跡
カンニチ山古墳
別府古墳群
在家古墳群
籠原裏古墳群 1 号墳
在家遺跡
籠原裏古墳群
籠原裏遺跡
抬六間後遺跡
樋の上遺跡
黒沢館跡
若松遺跡
運派塚古墳
三ヶ尻遺跡
二子山古墳
三ヶ尻古墳群
石原古墳群
宮塚古墳
社裏北遺跡
広瀬古墳群
熊商内古墳
社裏遺跡
社裏南遺跡
S=1/45,000

第 2 図　周辺遺跡分布図

掲載）に含まれる東沢遺跡、行田市池守遺跡（地図未掲載）が存在する。東沢遺跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代になると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地のみならず低地の自然堤防上にも活発に営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期の遺跡は特に低地における確認例が増え、市内は横間栗遺跡、根絡遺跡、中耕地遺跡、一本木前遺跡が、深谷市は明戸東遺跡、東川端遺跡、宮ヶ谷戸遺跡、上敷免遺跡等がある。北部や東部まで広く見てみると、市内では池上遺跡、中条条里遺跡に含まれる東沢遺跡、北島遺跡、前中西遺跡、藤之宮遺跡（地図未掲載）、弥藤吾新田遺跡が知られるほか、行田市池守遺跡、小敷田遺跡等が知られる。集落では、北島遺跡においては弥生時代に続いて大規模な集落が営まれており、東沢遺跡と併せて河川跡から鋤・鍬をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られる。さらに、北島遺跡では東海地方にその系譜が求められるパレス壺や高坏が多く見られ、近接する小敷田遺跡においても畿内や東海地方等の外来系の土器が多数出土している。

墓域の存在としては、一本木前遺跡、上敷免遺跡、東川端遺跡等で方形周溝墓群が確認されている。これら方形周溝墓も古墳の出現とともにその影響を受け、江南台地では埼玉県指定史跡である塩古墳群Ⅰ支群（地図未掲載）の前方後方墳や方墳等のように古墳が定着する過渡期の墳墓が出現する。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。市内の北島遺跡、中条遺跡（地図未掲載）、藤之宮遺跡、前中西遺跡等、深谷市の森下遺跡（地図未掲載）等で遺構・遺物が検出されている。森下遺跡では竪穴建物跡が８棟検出されており、大型建物跡を中心に配置されている。

一方、古墳に目を転じてみると、数こそ少ないが、妻沼低地の福川の自然堤防上に市指定史跡・横塚山古墳が存在する。これは、Ｂ種横刷毛の円筒埴輪をもつ前方後円墳（後円部は一部欠損）である。

後期になると遺跡数は爆発的な増加をみる。集落は台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようであり、奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが多く見受けられる。市内では櫛挽台地の三ヶ尻遺跡、荒川新扇状地の樋の上遺跡、妻沼低地の本郷前東遺跡、新屋敷東遺跡、一本木前遺跡、飯塚南遺跡等をはじめ数多くの遺跡が確認されている。樋の上遺跡では平安時代までの竪穴建物跡が150軒以上検出されている。一本木前遺跡では古墳時代後期を中心に奈良・平安時代の竪穴建物跡が450軒以上も検出されており、河川の氾濫にもかかわらず同じところに累々と集落が営まれている状況が確認されている。また、同じく後期の祭祀跡も発見されている。

一方、古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地の別府古墳群、在家古墳群、本報告である籠原裏古墳群、三ヶ尻古墳群、深谷市木の本古墳群、荒川新扇状地の広瀬古墳群、石原古墳群、肥塚古墳群（地図未掲載）、荒川右岸の段丘堆積層上の埼玉県指定史跡の深谷市鹿島古墳群（地図未掲載）、妻沼低地の中条古墳群（地図未掲載）、上之古墳群（地図未掲載）、上江袋古墳群等数多くが分布する。これらは概ね６世紀から７世紀ないしは８世紀初頭にかけて形成された古墳群である。

市内において本報告の遺跡及びその周辺を中心に特筆すべき古墳を挙げてみる。木の本古墳群及び別府古墳群は、幡羅遺跡成立に最も関係が深いと考えられる。木の本古墳群は、５世紀末～７世紀前半にかけての古墳群で、東西約４㎞にわたって分布する。木の本10号墳及び幡羅遺跡内に所在する森吉古墳

は帆立貝式前方後円墳と推定されており、これらの古墳を盟主墳として形成された古墳群と考えられている。木の本10号墳は埴輪をもち６世紀中葉、森吉古墳は埴輪をもたず７世紀初頭～前半と考えられている。一方、幡羅・西別府官衙遺跡群を挟んで木の本古墳群と対称の東に分布する別府古墳群は、現在18基確認されており、前方後円墳のカンニチ山古墳を盟主墳とし形成された考えられる（円墳の二子山古墳は、その名称から前方後円墳の可能性があるので、カンニチ山古墳と併せて２基が盟主墳の可能性がある）。その分布は、１基だけ離れて低地の自然堤防上に所在するが、それ以外はすべて台地上に所在し、台地縁辺部に10基、台地の中程に７基分布する。また、埴輪を出土する古墳は台地縁辺部に分布する古墳に限られ、台地中程の古墳では確認されていないことから、埴輪樹立の消滅と呼応して、築造の選地を変えた可能性が考えられる。よって、別府古墳群は６世紀から７世紀前半までの築造古墳群と考えられる。三ヶ尻古墳群は、前方後円墳の二子山古墳と運派塚古墳の２基を盟主墳とし、円墳58基が分布する。かつては100基以上あったとされる大古墳群であり、６世紀を中心に７世紀前半まで形成された古墳群である。在家古墳群は、胴張型横穴式石室をもつ古墳や小規模な竪穴系の川原石積石室をもつ古墳６基で構成される。籠原裏古墳群は、幡羅・西別府官衙遺跡群から南東へ約1.8㎞の距離にあり、本報告の古墳を含めて直径が10ｍ前後の八角形墳２基、円墳13基で構成される古墳群で、第１号墳の石室からは銅製双脚足金具、鉄製鞘尻金具等の刀装具が出土し特異な様相を示している。築造時期は、７世紀後半ないしは末～８世紀初頭と考えられ、幡羅遺跡（幡羅評家）の成立と密接に関係するものと考えられている上に、８世紀初頭創建と考えられる西別府廃寺との関係においても注目される古墳群である。広瀬古墳群中の宮塚古墳は、上円下方墳という特異な墳形を今に残し熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。肥塚古墳群では、川原石乱石積と角閃石安山岩切組積の２種類の胴張型横穴式石室をもつ古墳が確認されており、前者は荒川水系の石材、後者は利根川水系の石材と判断され非常に興味深い様相を見せている。中条古墳群中の鎧塚古墳（地図未掲載）は全長43.8ｍの帆立貝式前方後円墳で、須恵器高坏型器台等（県指定文化財）を伴う墓前祭祀跡２か所が確認されており、築造年代は５世紀末～６世紀初頭に比定されている。

奈良・平安時代には、熊谷地域も律令制の体制に組み込まれていき、市内には幡羅郡、男衾郡、大里郡、埼玉郡の４郡が存在していたとされる。本遺跡はそのうち幡羅郡に属し、その幡羅郡は現在の市域の西部及び北部、深谷市東部の一帯が該当すると考えられ、上秦、下秦、広沢、荏原、幡羅、那珂、霜見、余部の８郷からなる中郡であった。

前述したとおり、古墳時代後期に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは、増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていき、また規模の大きいものが多い。この頃の中心的集落遺跡は妻沼低地の北島遺跡に見られる。300軒以上もの竪穴建物跡が検出されている大規模集落である。７世紀から９世紀までを中心に、12世紀さらには中世にまで及ぶ集落であり、大規模な掘立柱建物跡･道路状遺構･河川跡等様々な遺構と遺物が検出されている。また、９世紀前半には二重の溝で区画され、区画内に大型の掘立柱建物跡と少数の竪穴建物跡で構成される地区が登場している。この区画施設は、10世紀前半には位置を変え、11世紀前半には消滅する。つまり、北島遺跡は地域の中核となる典型的律令制集落である。その近隣には、７世紀末から８世紀初頭頃の出挙木簡を出土した小敷田遺跡、整然と配された９世紀代の掘立柱建物跡群が検出された池上遺跡も存在する。また、諏訪木遺跡（地図未掲載）では、古

墳時代後期から平安時代にかけての祭祀が行われた河川跡が検出され、玉類、被熱した銅鋺、さらには斎串・人形等の木製祭祀具を使った水辺の祭祀が行われていたことが確認されたほか、平安時代の溝に区画された集落跡や大型の掘立柱建物跡群、多数の灰釉陶器や緑釉陶器が検出されるなど官衙的様相が看取できる。

市西部の櫛挽台地上では、幡羅・西別府官衙遺跡群に隣接して南及び西に深谷市下郷遺跡、これに連続する市内の大竹遺跡、東に西別府館跡で集落跡が確認され、そして、南東に在家遺跡、その南西に本報告である籠原裏遺跡、さらにその南西には拾六間後遺跡と集落跡が確認されている。下郷遺跡、大竹遺跡、西別府館跡内の集落は幡羅郡家関連の周辺集落と考えられる。下郷遺跡は、7世紀後半幡羅遺跡の出現と同時期に群家造営にかかると考えられる集落が営まれ始め、郡家が廃絶するまで大規模な集落が継続的に営まれる。多数の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、道路跡、区画溝跡が検出され、幡羅郡を指すと考えられる「坡？」、「婆羅？」の墨書土器、円面硯、銙帯金具等が出土している。また、大竹遺跡でも、7世紀末から10世紀にかけての集落跡が確認されている。在家遺跡は、下郷遺跡・大竹遺跡の南東約1㎞の櫛挽台地縁辺部に立地し、8世紀前半から9世紀末までの竪穴建物跡31棟が検出されたやや規模の大きい集落跡である。在家遺跡の南西約0.5㎞離れた同じく櫛挽台地縁辺部に立地する籠原裏遺跡は、9世紀後半から10世紀初頭までと短期間営まれた小規模な集落跡であり、在家遺跡の終焉時期に始まりその後僅かながら営まれた集落である。そして、籠原裏遺跡の南西約1㎞の拾六間後遺跡は、同じく櫛挽台地縁辺部に立地し、9世紀後半から10世紀初頭までの時期を除く8世紀末から10世紀前半までの小規模な集落跡であり、空白の9世紀後半から10世紀初頭までの時期は、籠原裏遺跡に一時的に集落を移動したことを想定している（熊谷市教育委員会　2006）。

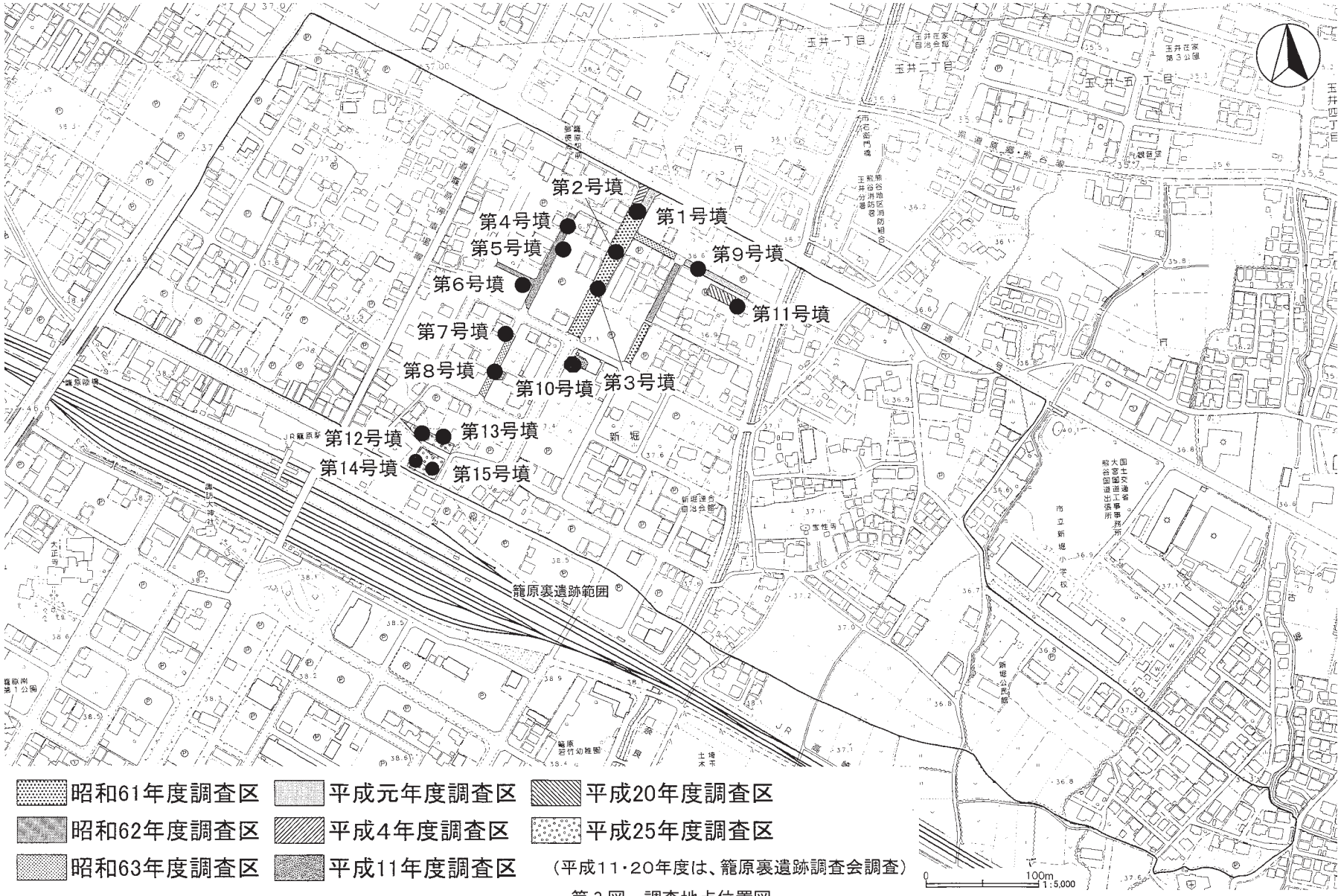
集落以外の遺跡では、櫛挽台地北東端に深谷市幡羅遺跡が所在する。この幡羅遺跡は東西約500ｍ、南北約500ｍの範囲をもつ幡羅郡家跡であり、これまでに郡庁院を除く正倉院、館、厨家、曹司、道路等の施設が検出されている。そして、この幡羅遺跡に隣接して西別府官衙遺跡群の3遺跡である、西別府遺跡・西別府廃寺・西別府祭祀遺跡が存在し、郡家との関連で注目されている。西別府遺跡は幡羅遺跡と一体の遺跡と捉えることができ、西別府廃寺は郡司が創建に関わったとされる8世紀初頭創建の寺院、西別府祭祀遺跡は7世紀後半から11世紀まで石製模造品や土器を用いて湧泉で行われた水辺の祭祀跡である。また、この西別府祭祀遺跡の北西、妻沼低地上の本郷前東遺跡・新屋敷東遺跡では、河川跡の縁辺部や集落内の祭祀跡で7世紀前半の土器と共伴する石製模造品が出土し、水利にかかわる再生を祈願した水の祭祀と理解されている。なお、幡羅遺跡及び西別府遺跡、西別府廃寺、西別府祭祀遺跡に挟まれる空間地は、郡家の郡庁院が存在する可能性を残し注目されている。

さらに、これらの遺跡が所在する台地下の低地には、同郡に属する別府条里遺跡や道ヶ谷戸条里遺跡が所在し条里制に関わる遺構の痕跡を留めている。条里跡の存在については、同じく幡羅郡に属する市東部の中条条里遺跡（地図未掲載）が所在する。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになるが、実態については不明なものが多い。市西部の櫛挽台地には別府城跡、別府氏館跡、西別府館跡等がある。別府城跡は別府氏の居館で、現在でも土塁と空堀が良く残っている。西別府館跡は、以前は土塁を一部残す状態であったが、現在は石標がその存在を示すのみである。また、荒川新扇状地にある三ヶ尻地区に

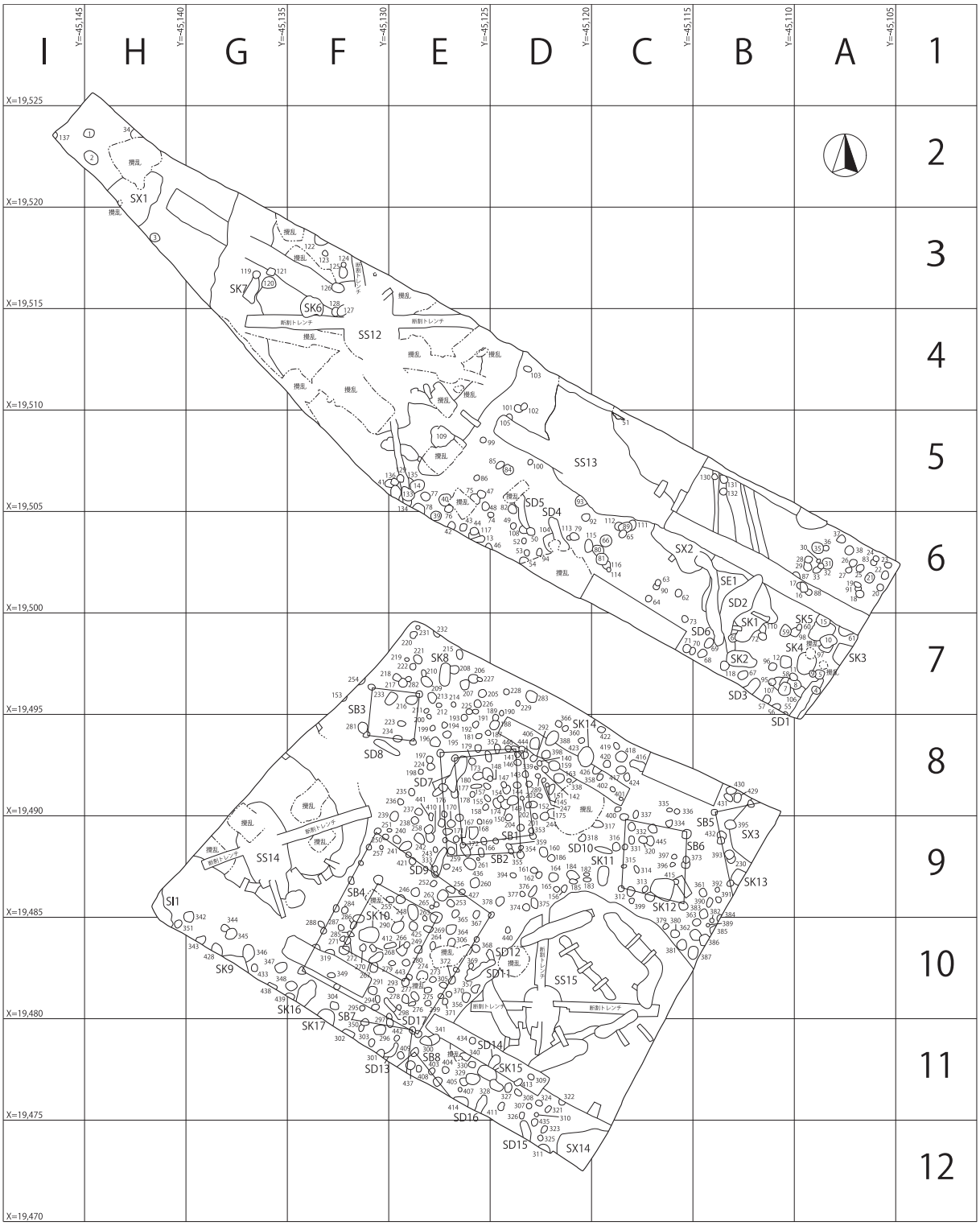
は黒沢館跡が所在し、さらに、樋の上遺跡、若松遺跡、社裏北遺跡、社裏遺跡、社裏南遺跡といった土坑墓が多数検出された遺跡等多くの中世遺跡や遺物が確認されている。特筆すべきは黒沢館跡で、発掘調査により出隅をもち全周する堀と土塁、虎口等が検出され、渡辺崋山が記した文献である『訪瓰録（ほうへいろく）』にある「黒沢屋敷」と調査成果が一致するという大変貴重な例である。ところで、中世に関しては依然として資料がまだまだ不足している状態で、今後の資料の蓄積に期待されるといった状況であるが、荒川右岸の江南地区では鎌倉時代初期からの多数の板石塔婆が存在することから、信仰心の厚い有力な武士が居住していたことが分かる重要な資料が残っていることで注目される。

最後に、近世については、市西部の櫛挽台地先端に所在する西方遺跡で土坑墓群が検出されているほか、隣接する西別府廃寺内に検出された土坑群や竪穴遺構からは近世の陶磁器、瓦質土器、瓦、古銭等が出土している。なお、近世についても中世と同様に、市内において調査例が見られるものの、不明な点が多いといった実態である。



昭和61年度調査区　平成元年度調査区　平成20年度調査区
昭和62年度調査区　平成4年度調査区　平成25年度調査区
昭和63年度調査区　平成11年度調査区　（平成11・20年度は、籠原裏遺跡調査会調査）

第3図　調査地点位置図



※　数字のみで表記した遺構名は、ピットを示す。

0　5m
1:300

第４図　調査区全測図

Ⅲ　遺跡の概要

1　調査の方法

発掘調査の方法は、A区・B区とも、まず遺構確認面まで重機により掘削し、その後人力による手掘り作業を行っていった。そして、調査の際には、一辺５ｍのグリッド方式を用いて行い、世界測地系（測地成果2011）の座標を基準にしてグリッド設定した。そのグリッド設定にあたっては、調査区の二つを網羅できるようにし、調査区北東部をＡ－１として西へＡ・Ｂ・Ｃ…、南へ１・２・３…とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３…と呼称した。Ｂライン以西もＡラインと同様に呼称した。

手掘り作業終了後は、遺構ごとに実測、遺物の取り上げ、写真撮影等の作業を順次行っていった。なお、実測作業にあたっては、原則として、グリッド交点に設定した杭を基準に水糸による１ｍ間隔のメッシュを張り、簡易遣り方による方法で行った。

2　検出された遺構と遺物

（1）　A区

検出された遺構は、古墳時代後期（終末期）の古墳２基、概ね平安時代と考えられる溝跡６条、井戸跡１基、土坑７基、ピット137基、性格不明竪穴遺構２基である。

古墳は、２基のうち調査区西に所在する第12号墳については、その存在を試掘調査時から把握していたが、東に所在する第13号墳については、重機による表土除去の際までその存在を知ることはなく、重機による掘削により墳丘の西側を削平してしまった。規模については、いずれも周溝まで含めて約12～15ｍを測ると推定される。また、平面形態については、いずれも周溝が多角形の状況を示すようにコーナーをもっていたが、明確な決め手はない。

第12号墳は、後世の攪乱により墳丘の到る所が破壊を受けていたが、墳丘は最大で約70㎝残存していた。外部施設については、葺石が見られなく、周溝は比較的良好な状態で、東西の一部の状況を確認することができた。なお、埴輪列については検出されていない。主体部については、石室天井部は残存しなかったが、奥壁を除きそのプランを把握できる状態であり、川原石により構築された胴張型横穴式石室であった。遺物については、石室内からは検出されず、前庭部及びその前庭部が攪乱を受けていたか所から土師器、須恵器、鉄釘等が検出された。一方、調査区東に所在する第13号墳については、前述のとおり墳丘の一部を失う結果となった。墳丘については、最大約80㎝残存していた。外部施設については、第12号墳と同様に埴輪列は検出されなかった。葺石については、墳丘検出時に主体部前及び東の墳丘に川原石が散っていたので葺かれていた可能性はあるが、いずれも原位置を留めていなかった。周溝については、西において良好な状態で検出できたが、東においてはその南の一部を検出するに止まった。なお、西側の周溝内では多数の川原石が埋土中から検出されたことから、墳丘には葺石が葺かれていたことが推定された。主体部については、後世の攪乱により、石室天井部はおろか、羨道部左側壁の一部を残すのみで、石室全体の状況を把握することは困難であった。なお、玄室については調査区域外にあると推定されたが、土層断面観察から著しく破壊を受けていることが想像された。遺物については、石室内からは検出されず、西側の周溝内から僅かに検出された。

溝跡、土坑、ピット、性格不明竪穴遺構については、遺物を伴わず、時期の特定には至らなく、周辺の集落跡の遺構状況と基本土層の状況から、その大多数が平安時代に所属する遺構と推定した。

溝跡は、いずれも長さの短いもので、調査区の東に第１～３・６号溝跡、中央付近に第４・５号溝跡が検出された。第２号溝跡と第６号溝跡は重複関係にあり､両溝跡が第１号井戸跡を切っていた。なお、第２号溝跡は第１号土坑をも切り、第６号溝跡は第２号性格不明竪穴遺構をも切っていた。

土坑は、平面形が隅丸方形、楕円形、不整形と様々であり、第１～５号土坑が調査区東で、第６・７号土坑が調査区西の第12号墳の墳丘下に検出されたものである。よって、第６・７号土坑については、古墳築造以前の時期に所属すると思われる。

ピットは、集中して分布する傾向にあり、調査区の東の一群、中央部の一群に大別され、西端の一群は数基と希薄な分布であった。また、第12・13号墳の墳丘下にも数基のピットが検出され、それらは古墳築造以前の時期に所属すると思われる。

性格不明竪穴遺構は、平面形が概ね隅丸方形状をなしていると推定され、調査区西端に第１号性格不明竪穴遺構が、調査区東の第13号墳の南側に第２号性格不明竪穴遺構が検出された。なお、いずれも規模の詳細は不明である。

井戸跡は、前述のとおり調査区東で、第２・６号溝跡、第１号土坑等と重複して検出された。平面形は方形状をなすと推定され、断面形は西側が緩やかな漏斗状をなす。同遺跡内で検出された他の井戸跡とは様相が異なり、大量の礫は伴わず、短期間に大量の土が投入され埋没したと考えられた。時期については遺物が伴わず判断が難しいが、重複する遺構が概ね平安時代と推定されることから、これらの遺構の所属する時期以前と思われる。

出土遺物は少なく、大半が第12号墳に所属するものであった。また、その時期は古墳時代末から奈良時代初頭の時期が主体であり、その他は縄文時代の石器、そして、図示はできなかったが平安時代の土器であった。

（２）　Ｂ区

検出された遺構は、古墳時代後期（終末期）の古墳２基、平安時代と考えられる竪穴住居跡１軒、掘立柱建物跡８棟、溝跡11条、土坑10基、ピット307基、性格不明竪穴遺構２基である。

古墳は、２基ともその存在を試掘調査時点では把握できなく、重機による表土除去の際に初めてその存在を知ることとなった。規模については、第14号墳が周溝まで含めて約11ｍを測ると推定されるが、第15号墳については特異で、墳丘部に構築された溝跡がこの古墳に所属するか否かは不明であり、規模については不明な点がある。なお、平面形については、第14号墳は円形と考えられる。

第14号墳は、調査区南西部に所在し、重機による掘削により墳丘の西側の一部を削平してしまい、さらに後世の攪乱を受けて一部破壊されていたが、墳丘は最大で約54㎝残存していた。外部施設については、葺石が見られなく、周溝は東側が比較的良好な状態で検出できた。また、西側（南西の一部）については、攪乱及び削平により検出できなかったが、調査区壁面の土層断面観察から一部その状況を確認することができた。なお、埴輪列については検出されていない。主体部については、石室天井部、玄室部の奥壁から左側壁の一部にかけて後世の攪乱により残存しなかったが、概ねそのプランを把握できる状態であり、川原石により構築された胴張型横穴式石室であった。遺物については、石室内からは検出

されず、残存状態の良かった東側周溝から川原石が数点出土しただけであった。

一方、調査区南東部に所在する第15号墳については、周囲を廻っていた西側の溝跡（積極的に周溝とは言えない）の一部を重機による掘削により削平してしまったが、墳丘は最大で約50㎝残存していた。外部施設については、葺石が見られなく、周溝については、前述のとおり、主体部の周囲をあたかも周溝のように溝跡が廻ってはいるが、主体部との位置関係から、そのバランスが不均衡である状況であり、直接この古墳に伴うものかは疑問が残る状況である。なお、埴輪列については検出されていない。主体部については、石室天井部は残存しなかったが、石室のほぼ全体のプランを把握できる状況で検出できた。それは、川原石により構築されたやや胴が張る短冊型の横穴式石室であったが、規模が狭小であることから竪穴式石室を意識したものであった可能性が高いと思われる。また、良好な状態での検出の要因は、石室全体をすっぽりと覆うように川原石が堆積していたためであり、重機による掘削の際に削平をしてしまうことが避けられたからである。なお、このような検出状況から天井部は有機物質を高架していた可能性も残る。さらに、葺石の存在は確認できなかったが、主体部上面のみ積石塚のように石を積み構築した古墳であった可能性もある。

竪穴住居跡は、１軒が調査区の南東隅にかろうじて検出された。東壁にカマドが設置されており、籠原裏遺跡において検出されている他の竪穴住居跡の傾向と同じである。なお、出土遺物がなく時期の特定は難しいが、これまでに検出された竪穴住居跡と同時期と想定されるであろう。

掘立柱建物跡は、いずれも側柱式のもので、調査区の北側、第14号墳と第15号墳の北側において東西に第１～３・５・６号掘立柱建物跡が、第14号墳と第15号墳に挟まれる形で第４号掘立柱建物跡が、その南に第７・８号掘立柱建物跡が検出された。第１・２号掘立柱建物跡は互いに重複し、その他の掘立柱建物跡は単独の状況で検出され、第４号掘立柱建物跡はこの中では最大で、身舎の周囲を塀と考えられる掘立柱列が囲むものであった。主軸方位については、第１～３・５～７号掘立柱建物跡が概ね北方向、第４・８号掘立柱建物跡が東に傾きをもつものであった。なお、竪穴住居跡と同様に出土遺物がなく時期の特定が困難であるが、竪穴住居跡と同じく遺跡内の周辺遺構と同じ時期が与えられると思われる。

溝跡、土坑、ピット、性格不明竪穴遺構は、Ａ区と同様に遺物を伴わず、時期の特定には至らなく、周辺の集落跡の遺構状況と基本土層の状況から、概ね平安時代に所属するものと推定した。

溝跡は、Ａ区同様いずれも長さが短く、最長でも2.5ｍ程であった。調査区内に点在して検出され、その分布は概ね、第７・８・10号溝跡が北側、第９号溝跡が中央部付近、第11～17号溝跡が第15号墳周辺の西及び南に検出された。

土坑は、平面形が方形、楕円形、中央部が左右に広がるやや菱形状のものに大別され、点在はするものの大きく分けて調査区の北及び南に分布する。第８・11～14号土坑が北で、第９・10・15～17号土坑が南で検出された。

ピットは、調査区内にほぼまんべんなく分布する。その中でも集中して分布するか所は、調査区北西から中央部にかけての第１～４号掘立柱建物跡が所在するか所、そして、第７・８号掘立柱建物跡が中央付近に所在する調査区南壁付近の帯状の区域である。

性格不明竪穴遺構は、Ａ区と同様に平面形が概ね隅丸方形状をなしていると推定され、調査区北東隅に第３号性格不明竪穴遺構が、調査区南東隅に第４号性格不明竪穴遺構が検出された。第３号性格不明

竪穴遺構は、第５号掘立柱建物跡等と重複関係にあるが、第４号性格不明竪穴遺構は単独で検出された。なお、いずれも一部が調査区域外に及ぶため規模の詳細は不明である。

出土遺物は非常に少なく、遺構内からの出土はほとんどなく、大半が遺構外の出土であった。また、縄文時代の遺物が主体であり、縄文時代中期の深鉢土器破片が見られた。

第１表　変更遺構番号新旧対照表（左：新番号、右：旧番号）

掘立柱建物跡（SB）		溝　跡（SD）		土　坑（SK）		ピット（P）				性格不明竪穴遺構（SX）	
	SB４	SD８	SD10	SK３	P６	6		333		SX２	SS13南部溝状遺構
SB４	SB５、SA１	SD９	SD11	SK４	P13	13		352	X	SX３	SX101
SB５	SB６	SD10	SD12	SK５	P14	14		353	M	SX４	SX102
SB６	SB７	SD11	SD101	SK６	SK３	41		354	K		
SB７	SB８	SD12	SD102	SK７	SK４	45		355	J		
SB８	SB９	SD13	SD103	SK８	SK５	51		356	I		
		SD14	SD105	SK９	SK６	129		357	H		
		SD15	SD106	SK10	P289	133		358	G		
		SD16	SD107	SK11	P311	134		359	F		
		SD17	P292	SK12	P319	135		360	E		
				SK13	P394	136		366	D		
				SK14	P421	137		388	C		
				SK15	P410	153	446	394	448		
				SK16	P442	156	447	398	B		
				SK17	P443	159	133	406	A		
						163	134	410	SB４・P６		
						175	135	421	SB４・P５		
						230	473	425	SB４・P３		
						244	136	427	SB４・P２		
						247	137	436	SB４・P１		
						289	138	442	451		
						292	139	443	450		
						311		445	449		
						319		446			

Ⅳ　遺構と遺物

1　A区の調査

調査区は、幅最大約９ｍ、長さ約46ｍの東西に長いもので、籠原裏遺跡遺跡範囲の中央部南端に位置し、籠原裏古墳群遺跡範囲においては南西端に位置する。調査区の座標は、Ｘ＝19,490～19,530、Ｙ＝－45,100～－45,150内にあり、グリッドについてはＡ～Ｉ－１～８グリッド内にある（第５図）。

調査区周辺の標高は約37.5ｍで、遺構確認面までの深さは、古墳の墳丘か所で約0.35～1.25ｍ、その他の遺構か所で約1.12～1.34ｍあった。

基本土層は、現地表面から、第Ａ層：旧路盤面の砕石、第Ｂ層：褐灰色土、第Ｃ・Ｄ・Ｅ層：灰黄褐色土（第Ｅ層はシルト質）、第Ｆ層:浅黄色粘質土（シルト質）、第Ｇ層:黒褐色土（粘性有り）、第Ｈ層:褐灰色土であり、以下はソフトローム土が堆積し、第Ｈ層またはソフトローム土面が集落跡の遺構確認面であった。第Ｆ層は厚さ10～20㎝をもち、中世段階の洪水層と想定され、古墳の墳丘はこの層に覆われていた。また、第Ｇ層は厚さ20～30㎝をもち、今回の調査では遺物を伴わないが、遺跡内の過去の調査成果から遺物包含層に相当する層であると思われる。なお、基本土層を観察し、図示したか所は調査区南東部である（第17図）。

（１）　古墳

第12号墳（第６～12図、第２表）

位置・状態

調査区西部、Ｄ～Ｇ－２～５グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,505～19,525、Ｙ＝－45,120～－45,140内にある。現在確認されている15基の古墳のうち最西端かつ最南端付近にあり、東に隣接して第13号墳、南約25ｍに第14号墳、南東約35ｍに第15号墳が所在する。なお、これまで最南端であった第８号墳からの距離は、約80ｍである。

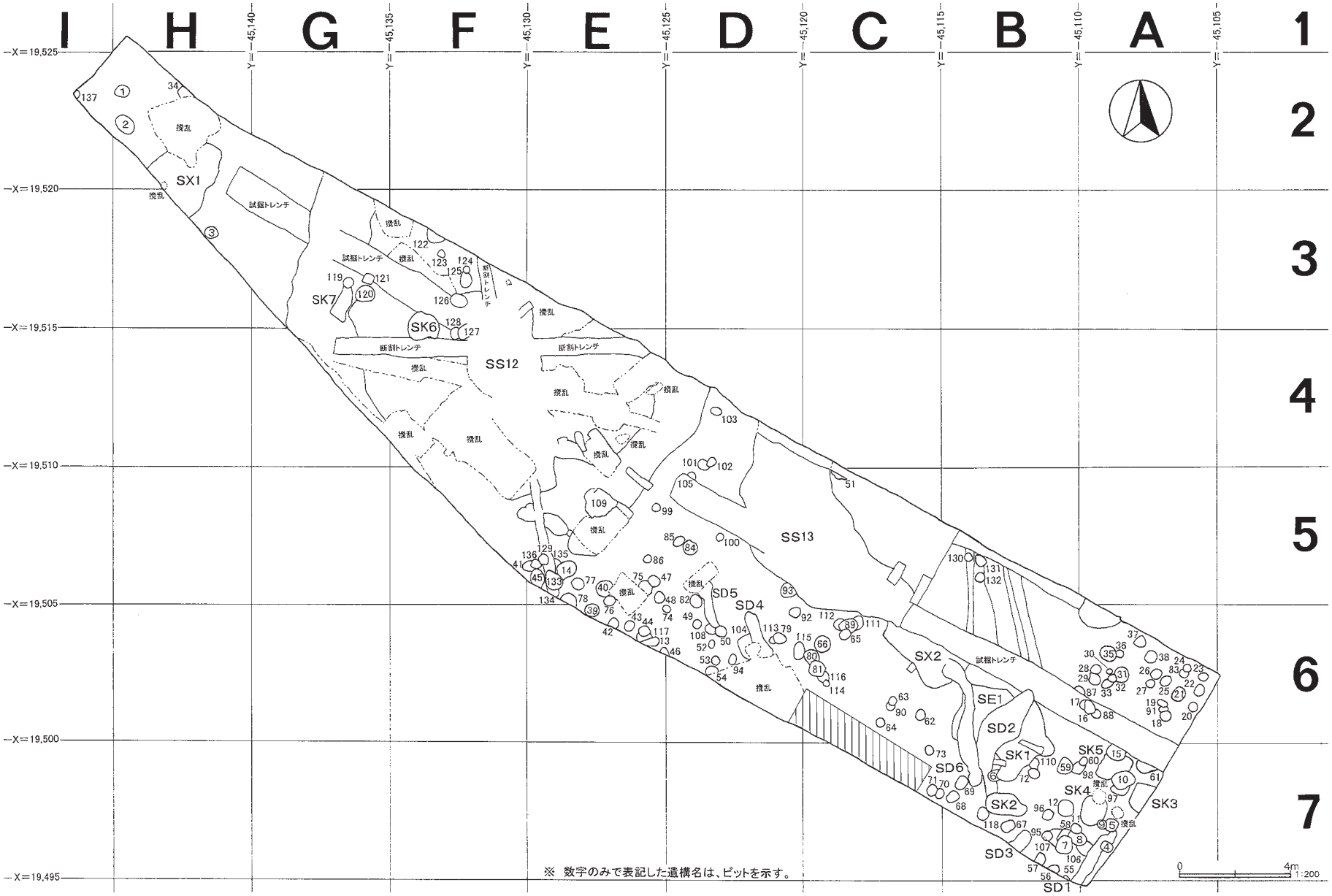
他遺構との重複関係については、第109号ピットと重複関係にあり、本遺構が切られていた。また、墳丘土を除去後の主体部西側の墳丘下に第６・７号土坑、第119～128号ピットが検出された。なお、墳丘の多くの部分、主体部（石室・前庭部）の一部が後世の攪乱を受け著しく破壊されていた。

墳丘・外部施設（第６～８図）

墳丘は、現地表面下約0.35～0.65ｍで検出された。前述とおり墳丘が著しく破壊されていたため、墳頂部も既に削平されていた。葺石については、墳丘はおろか周溝に転落していた礫も検出されなかったため、当初から葺石は葺かれていなかったものと判断される。

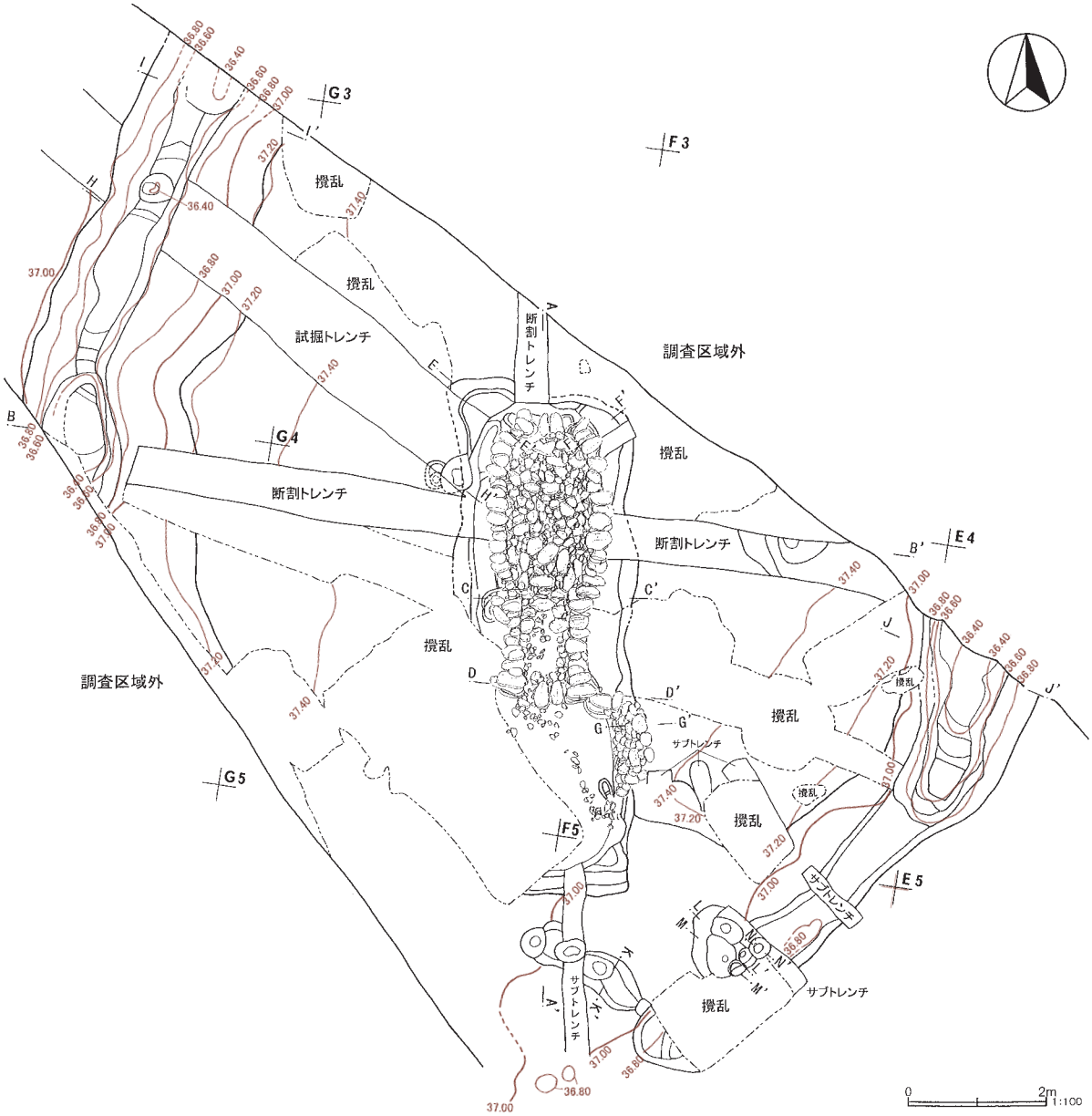
墳丘の規模は、相対する東西の周溝間で約12.50ｍ、石室奥壁の中心から周溝までの距離を墳丘半径として考えると約12.00～12.40ｍを測る。墳丘盛土は、主体部の構築に合わせて、下から概ねにぶい黄褐色土、灰黄褐色土の順でソフトローム土面の低いか所に盛り水平にし、その上に暗褐色土、黒色土や黒褐色土を主体部寄りから外側へ積み重ねていったようである。いずれの層にも褐灰色土、にぶい黄橙色土、黒褐色土、ソフトローム土ブロック・粒子等の混入物を含む。盛土は、全体的にしまりがあまり良くない。

周溝は、現地表面下約0.65～1.05ｍで検出された。北部、北東部及び南西部は調査区域外にあり、主

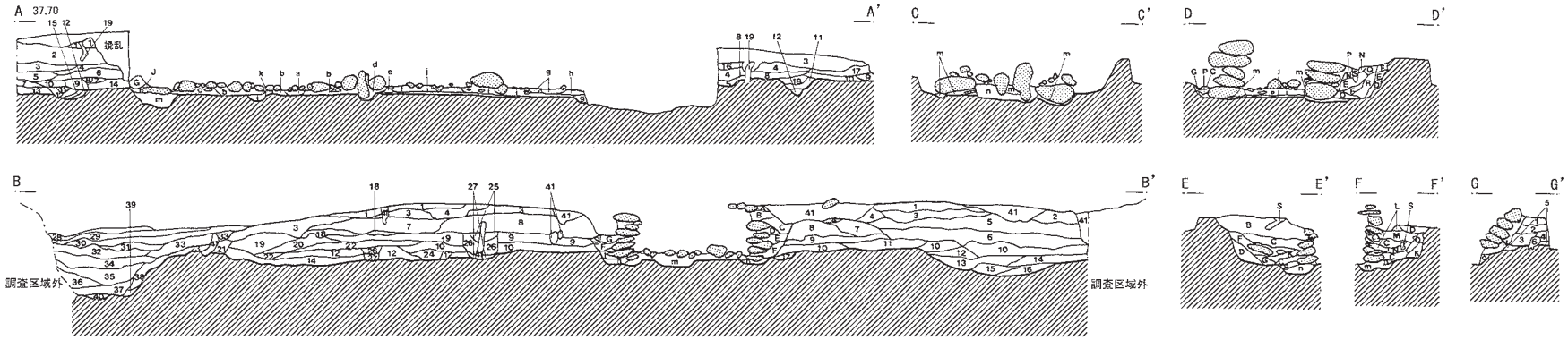

I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
Y=−45,140
Y=−45,135
Y=−45,130
Y=−45,125
Y=−45,120
Y=−45,115
Y=−45,110
Y=−45,105
X=19,525
X=19,520
X=19,515
X=19,510
X=19,505
X=19,500
X=19,495
SX1
SK7
SK6
SS12
SS13
SD5
SD4
SX2
SE1
SD2
SK1
SD6
SK2
SK5
SK4
SK3
SD3
SD1
試掘トレンチ
断割トレンチ
撹乱
※ 数字のみで表記した遺構名は、ピットを示す。
0
4m
1:200

第５図　Ａ区全測図

体部・石室前庭部前は途切れているようで、攪乱により定かではないが前庭部前を除き全周していた可能性が考えられる。平面形は、東西に検出されたか所を見る限り、ややコーナーを持ち多角形を意識しているとも考えられた。その角度は、東溝で約156°、西溝で約140°～151°である。周溝を含む規模は、相対する東西の周溝間で約14.80～15.30ｍ、石室奥壁の中心から周溝までの距離を半径として考えると約15.30～16.10ｍを測る。なお、半径の距離は西溝までのそれよりも東溝までの距離の方が約１ｍ長い。上面幅は1.50ｍ前後、深さは0.45～0.65ｍを測る。断面形は、舟底または逆台形の平底をなすが、コーナー状のか所を境に片方がさらに掘り込まれているか所もあり、最深の数値はそのか所である。また、立ち上がりの状況は、外側で急峻、内側で緩やかであり、墳丘との境には犬走り状のやや平坦なか所が廻り、その幅は約0.5ｍを測る。周溝内には、黒色土や黒褐色土を主体にして灰黄褐色土等が堆積しており、その上に本古墳群及び本遺跡を覆う黒褐色土等が堆積していた。墳丘及び周溝から埴輪の検出はなかった。



第６図　第12号墳



土層説明(A-A')

SS12

1 灰黄褐色土	ややしまりがある、にぶい黄橙色土粒子若干含
2 黒色土	比較的しまる、にぶい黄褐色土ブロック・粒子わずか含
3 黒褐色土	黒色土ブロック多量含
4 黒褐色土	黒褐色土ブロックブロック多量含
5 黒褐色土	灰黄褐色土ブロック若干含
6 暗褐色土	黒褐色土ブロック少量含
7 灰褐色土	ハードローム土粒子ごくわずか含
8 オリーブ黒色土	
9 黄灰色土	
10 黒褐色土	
11 黒褐色土	ソフトローム土ブロックわずか含
12 黒褐色土	ハードローム土粒子・微粒子わずか含
13 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック少量含
14 黒褐色土	にぶい黄褐色若干帯びる、黒褐色土ブロック大若干含
15 ソフトローム土ブロック	
16 黒色土	ソフトローム土微粒子若干含
17 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか、にぶい黄褐色土ブロック少量含
18 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量含
19 攪乱	

土層説明(A-A'～H-H')

SS12石室裏込め土

A にぶい黄褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
B 暗褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
C 黒褐色土	ソフトローム土粒子若干含
D 灰黄褐色土	にぶい黄褐色帯びる
E 黒褐色土	
F 黒褐色土	ソフトローム土粒子少量含
G 暗褐色土	ソフトローム土粒子、黒色土粒子多量混
H にぶい黄橙色土	
I 黒褐色土	ソフトローム土粒子少量、黒色土粒子多量含
J 灰黄褐色土	若干灰黄褐色帯びる
K にぶい黄褐色土	黒色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック小わずか含
L 暗灰黄色土	黄灰色粘質土混
M 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
N 黒色土	にぶい黄褐色土ブロックわずか、ソフトローム土粒子わずかに含
O 黒褐色土	ソフトローム土微粒子・ブロック含
P 褐灰色土	
Q 黒色土	黒色土ブロックわずか含
R 黒色土	にぶい黄褐色土ブロックわずか、ソフトローム土ブロック若干含
S 攪乱	

土層説明(A-A'～G-G')

SS12石室床面下

a にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
b にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含、やや軟弱な層
c 灰黄褐色土	黒褐色土粒子若干含
d 暗灰黄色土	
e にぶい黄褐色土	ややしまる
f 暗褐色土	ソフトローム土粒子少量、ソフトローム土微粒子多量含
g 暗褐色土	黒褐色土ブロック少量含
h 灰褐色土	ハードローム土粒子ごくわずか含
i 黒褐色土	ソフトローム土ブロック小・微粒子わずか含
j 黒褐色土にソフトローム土ブロック混合層【貼床土】	
k 黒褐色土	
l にぶい黄褐色土	黒色土ブロック多量、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
m 灰黄褐色土	【根石据付土】比較的しまる、にぶい黄褐色土ブロック多量、黒色土粒子少量、ソフトローム土ブロック少量含
n 黒褐色土	ソフトローム土粒子多量含
o 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干、黒褐色土粒子わずか含

土層説明(B-B')

SS12

1 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック・粒子多量含
2 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック、ソフトローム土ブロック多量含
3 黒色土	にぶい黄橙色土ブロック・粒子少量含
4 灰黄褐色土	ややしまりがある、にぶい黄橙色土粒子若干含
5 黒色土	にぶい黄橙色土粒子わずか含
6 黒色土	にぶい黄褐色土・ソフトローム土ブロック若干含
7 黒褐色土	黒色土ブロック大少量、ソフトローム土粒子わずか含
8 黒色土	比較的しまる、にぶい黄褐色土ブロック・粒子わずか含
9 暗褐色土	黒褐色土ブロック少量含
10 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック少量含
11 黒褐色土	にぶい黄褐色若干帯びる、黒褐色土ブロック大若干含
12 灰黄褐色土	褐灰色土ブロックわずか含
13 黒褐色土	褐灰色帯びる、ソフトローム土ブロックわずか含
14 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
15 暗灰黄色土	ソフトローム土粒子若干、黒色土ブロックわずか含
16 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか、黒色土粒子ごくわずか含
17 暗灰黄色土	にぶい黄褐色帯びる、ソフトローム土ブロックわずか含
18 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック多量混
19 暗褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
20 黒褐色土	黒褐色若干帯びる
21 黒褐色土	灰黄褐色若干帯びる
22 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか、灰黄褐色土ブロックごくわずか含
23 黒色土	褐色土ブロック小・粒子若干含
24 黒褐色土	ソフトローム土粒子若干含
25 黒褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
26 黒褐色土	
27 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
28 浅黄色粘質土	【墳丘を覆った氾濫土】黒色土粒子わずか含
29 黒色土	ソフトローム土粒子わずか含、浅黄色粘質土粒子わずか含
30 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子ごくわずか含
31 黒褐色土	黒色土ブロック・粒子若干含
32 黒色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
33 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
34 黒色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
35 黒色土	
36 黒色土	
37 黒色土	ソフトローム土粒子若干含
38 黒色土	ソフトローム土ブロック・粒子少量含
39 灰黄褐色土	明黄褐色帯びる、ソフトローム土多量混
40 黒色土	ソフトローム土粒子多量混
41 攪乱	

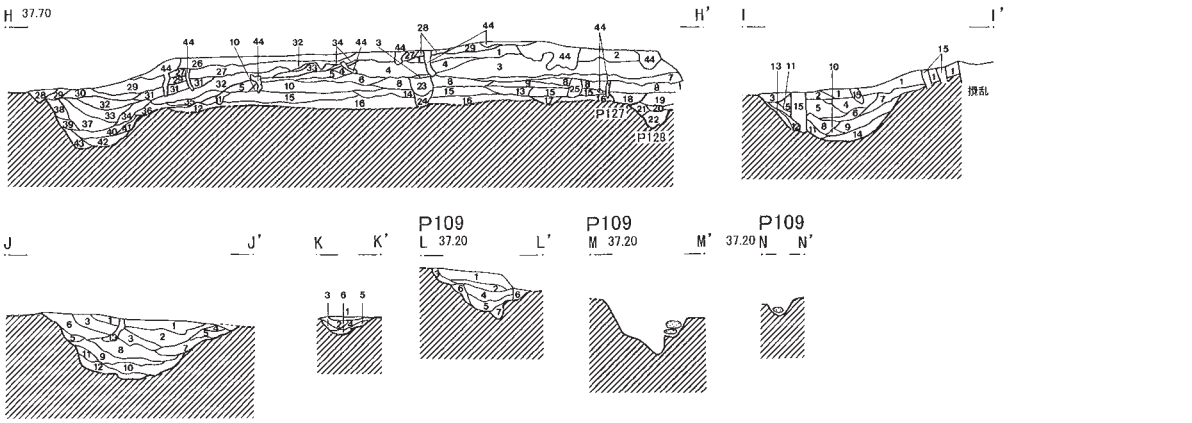
土層説明(G-G')

SS12

1 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
2 黒色土	ソフトローム土微粒子わずか含
3 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか、ハードローム土粒子ごくわずか、にぶい黄褐色土ブロックわずか含
4 黒褐色土	
5 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干、黒褐色土粒子わずか含
6 攪乱	

0 2m 1:80

第７図　第12号墳土層断面図（１）



土層説明(H-H')

SS12

1 灰黄褐色土	ややしまりがある、にぶい黄橙色土粒子若干含
2 黒色土	にぶい黄橙色土ブロック・粒子少量含
3 黒色土	比較的しまる、にぶい黄褐色土ブロック・粒子わずか含
4 黒褐色土	黒色土ブロック大少量、ソフトローム土粒子わずか含
5 黒褐色土	浅黄色粘質土粒子わずか、にぶい黄褐色土少量混
6 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック多量混
7 暗褐色土	黒褐色土ブロック少量含
8 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック少量含
9 黒褐色土	黒褐色土ブロック少量含
10 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土ブロック少量含
11 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量含
12 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子少量含
13 黒褐色土	黒色土ブロック少量、ソフトローム土粒子わずか含
14 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック若干、にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子わずか含
15 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
16 にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック小・粒子若干含
17 暗褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
P127	
18 暗褐色土	ソフトローム土ブロック大少量含
P128	
19 暗褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
20 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
21 暗灰黄色土	ソフトローム土ブロック少量含
22 黒褐色土	ソフトローム土粒子少量含
SS12	
23 黒褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
24 褐灰色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
25 黒褐色土	灰黄褐色土ブロック、ソフトローム土ブロック少量含
26 浅黄色粘質土	ソフトローム土粒子わずか含、浅黄色粘質土粒子わずか含
27 黒色土	浅黄色粘質土ブロック・粒子多量混
28 灰黄褐色土	比較的かたくしまる、黒褐色土ブロック少量含
29 暗褐色土	浅黄色粘質土粒子わずか含
30 黒褐色土	黒色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干含
31 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子ごくわずか含
32 黒褐色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子若干含
33 黒褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
34 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
35 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
36 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロックわずか含
37 黒色土	
38 黒褐色土	ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
39 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干、黒色土ブロックわずか含
40 黒色土	ソフトローム土粒子若干含
41 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干、黒色土ブロックわずか含
42 黒色土	ソフトローム土粒子多量混
43 灰黄褐色土	明黄褐色帯びる、ソフトローム土多量混
44 撹乱	

土層説明(I-I')

SS12周溝

1 黒褐色土	浅黄色粘質土ブロック・粒子若干含
2 黒褐色土	褐灰色若干帯びる
3 黒褐色土	灰黄褐色土微粒子ごくわずか含
4 黒褐色土	浅黄色粘質土微粒子ごくわずか含
5 黒色土	灰黄褐色土粒子ごくわずか、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
6 黒色土	黒褐色若干帯びる、ソフトローム土微粒子若干含
7 黒褐色土	黒色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干、浅黄色粘質土粒子ごくわずか含
8 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
9 黒褐色土	黒色土ブロック少量含
10 暗灰黄色土	ソフトローム土微粒子若干含
11 黒褐色土	ソフトローム土・ハードローム土粒子多量含
12 黄灰色土	ハードローム土粒子・微粒子少量含
13 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子多量含
14 黒褐色土	褐灰色若干帯びる、ソフトローム土粒子・微粒子少量含、黒色土ブロック多量含
15 撹乱	

土層説明(J-J')

SS12周溝

1 黒褐色土	浅黄色粘質土ブロック・粒子若干含
2 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
3 褐灰色土	ハードローム土粒子わずか含
4 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
5 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干、炭化物粒わずか含
6 暗褐色土	ソフトローム土粒子若干含
7 黒褐色土	にぶい黄橙色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子わずか含
8 黒色土	ハードローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
9 黒色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干含
10 黒色土	ソフトローム土ブロック大・粒子多量(全体の70～80%占める)含
11 黒褐色土	灰黄褐色帯びる、ソフトローム土粒子若干含
12 にぶい黄褐色土	黒色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子多量(全体の70%程占める)含
13 撹乱	

土層説明(K-K')

SS12

1 黒褐色土	
2 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
3 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干含
4 黒褐色土	黒褐色土ブロックわずか含
5 暗灰黄色土	
6 灰黄褐色土	にぶい黄褐色土ブロック多量含

土層説明(L-L')

P109

1 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック・粒子・微粒子わずか含
2 暗褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
3 褐灰色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
4 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか、にぶい黄褐色土粒子ごくわずか含
5 黒褐色土	黒色土ブロック・粒子多量、ソフトローム土粒子若干含
6 灰黄褐色土	にぶい黄褐色帯びる、ソフトローム土ブロック・粒子多量、黒褐色土ブロック少量含
7 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子若干含

0 2m
1:80

第８図　第12号墳土層断面図（２）

主体部（第７～11図）

主体部は、川原石を乱石積みした胴張型の横穴式石室である。天井部は既に失われ、玄室奥壁のいわゆる鏡石があったと思われるか所は後世の攪乱により破壊または抜き取られていた。側壁については、東西に後世の攪乱が入るか所があり、玄室と羨道部との境付近が大きく破壊されており、基底部の根石だけや根石から0.3ｍ程度の高さしか残存していなかったか所も見られた。全体的には石室全体の様子が把握できる状況で残存していた。

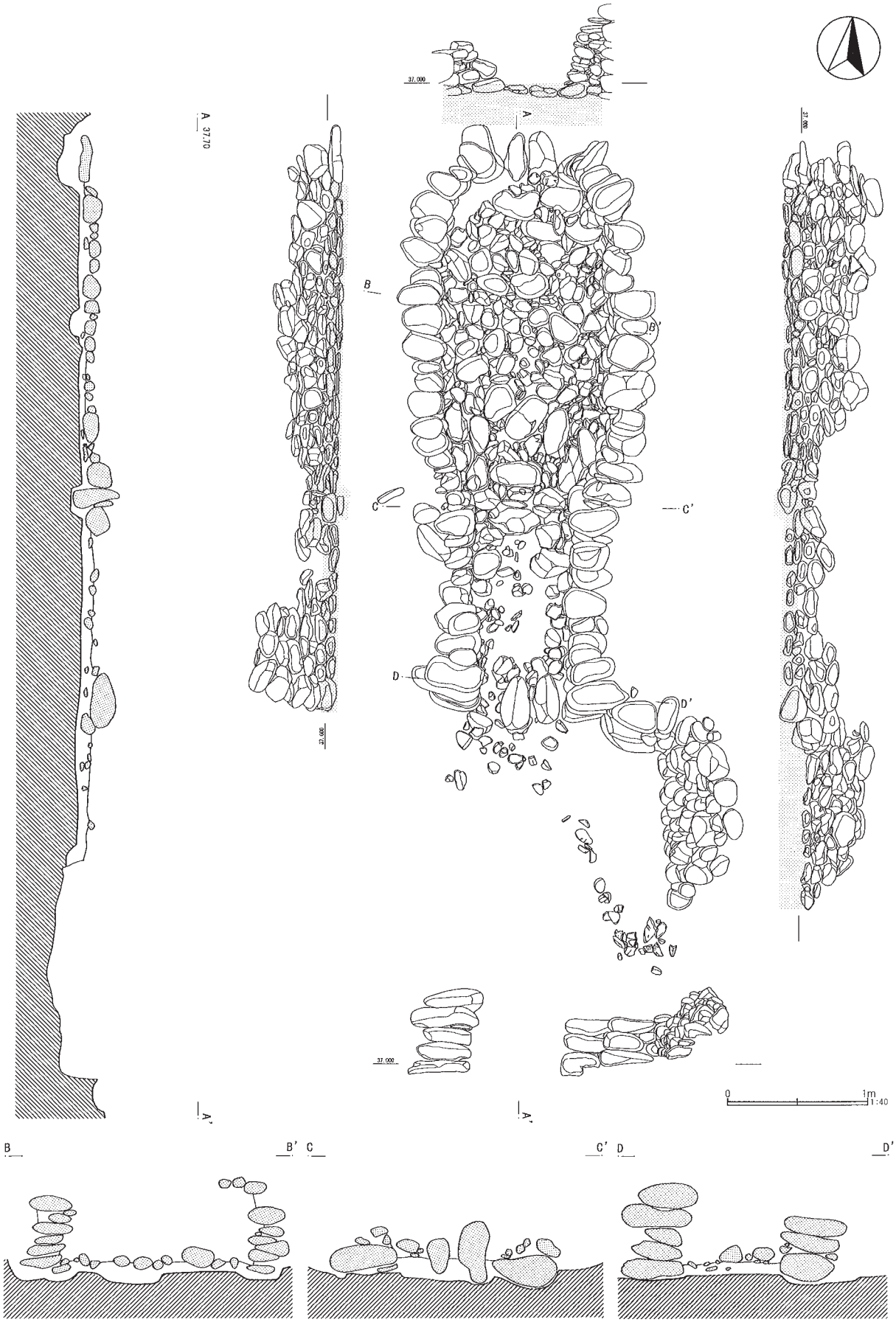
石室の主軸はＮ－８°－Ｗを示し、南に開口する。石室の規模は、内側で全長3.84ｍ、玄室の長さは2.42ｍ、幅は奥壁が0.78ｍ、ほぼ中央の最大幅が1.20ｍ、玄門部が0.66ｍを測る。羨道部は長さ1.42ｍ、幅は中央付近が0.68ｍ、羨門部が0.58ｍを測る。玄室と羨道部の長さの比率は、およそ1.7：１の割合である。平面形は、いわゆる胴張型であり、玄室の奥壁が直線的で、側壁が奥壁から弧を描きながらほぼ中央部で最大幅となり玄門部に向かってすぼまる細長い三味線胴形をなし、羨道部は直線で羨門部へとつながり、全面には台形状に広がる前庭部が接続する。奥壁は失われており基底部の根石のみ残存し、側壁は川原石による小口積みであり、ごく少数だが隙間を充填する石に緑泥石片岩も用いられていた。小口積みにされた川原石には、内側の面に平坦面をもつ川原石も見られ、意識的に平坦面を作る工夫がなされていた。玄室側壁の最大残存高は根石から約0.72ｍ、遺存状態の良い羨道部側壁が最大約0.63ｍの高さまで残存していた。なお、前庭部の右壁は、最大残存高が0.49ｍを測った。

根石は棺床面の高さから基本的に二段であり、下に扁平な川原石を据え、その上にやや大きめの幅広で扁平な川原石が積んであった。なお、根石は大きいもので長軸40㎝、短軸27㎝、厚さ10㎝、小さいもので長軸15㎝、短軸12㎝、厚さ４㎝であり、奥壁と側壁の転換点には大きな石を選択し、当然ながら玄門部及び羨門部の根石には大きな石が据えられていた。その大きさは、玄門部で大きく長軸46～50㎝、短軸23～27㎝、厚さ11～14㎝、羨門部で長軸38～44㎝、短軸25～27㎝、厚さ19㎝前後であった。ちなみに玄門部左の根石下の石室内側には小ぶりな緑泥石片岩が隙間石の役目として挟み込まれ、水平が保たれていた。また、根石の上の石は、最大で長軸23㎝、厚さ10㎝を測り内側に平坦面をもつ石が多く用いられていた。

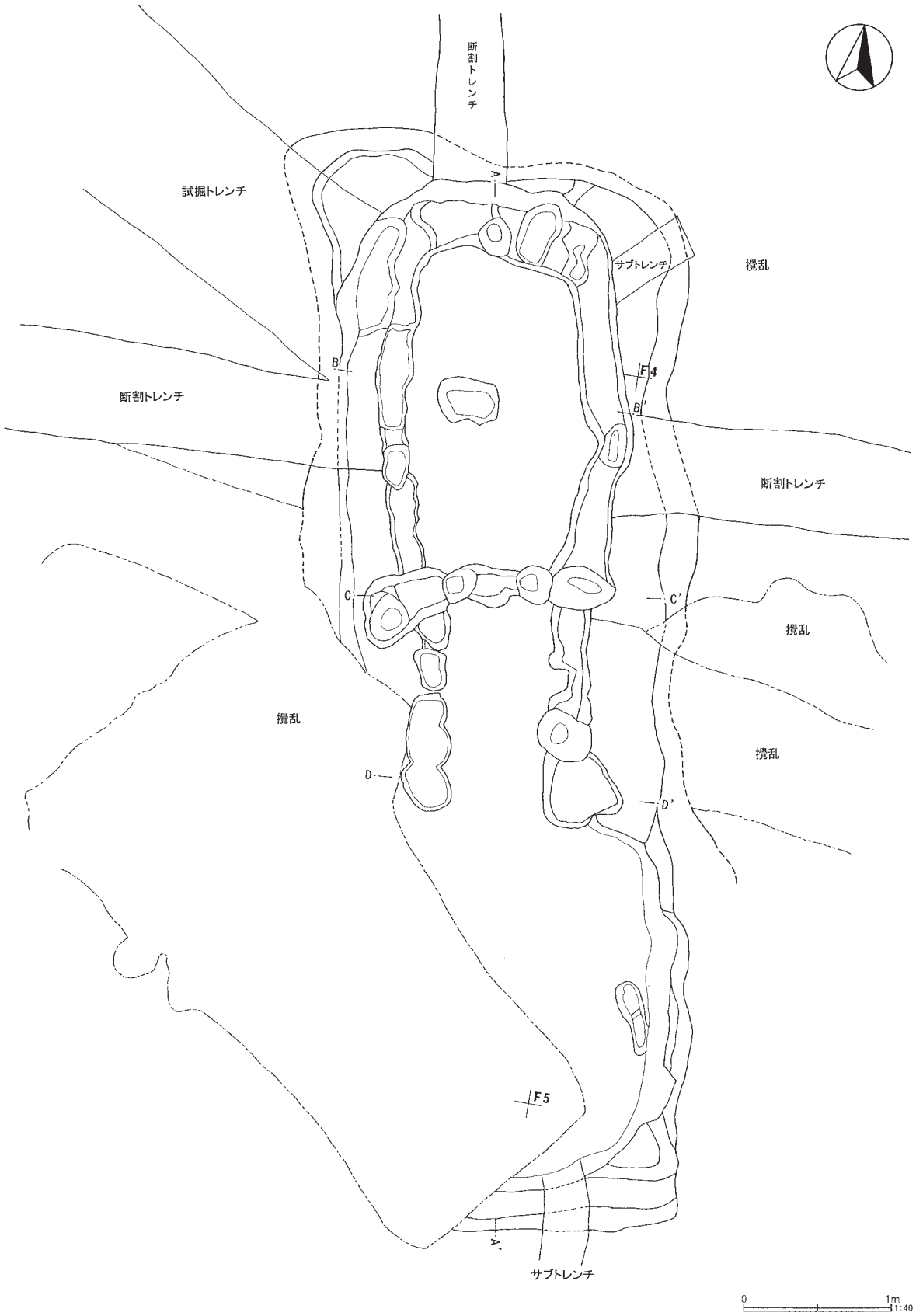
玄室と羨道部との境の梱石は、中央に長軸32㎝、短軸15㎝、厚さ12㎝の川原石を縦にして据え、長軸28㎝、短軸21㎝、厚さ17㎝の川原石を羨道部側に、長軸18㎝、短軸17㎝、厚さ17㎝の川原石を玄室側に据え挟み込み、その左右には平面的に見ると長軸20㎝前後、短軸15㎝前後の川原石が据えてあった。なお、右の石は縦にして据えられており、その高さは44㎝を測るもので、突き立てやすく棺床面下は先がすぼまる石が選択してあった。そして、その掘り方も石の先端の形状に合わせて掘りくぼめられていた。

羨門部には梱石のように、長軸38㎝・短軸21㎝・厚さ12㎝、長軸36㎝・短軸19㎝・厚さ９㎝の二つの川原石が残存しており、その据え方は長軸が南北方向であり、玄門部の梱石とは様相を異にしていた。

床面については、玄室内は最大で長軸35㎝強、短軸20㎝強の大きさから拳大以下の小さな川原石をその平坦面を上にしてほぼ水平に敷き詰め棺床面を造り、羨道部は遺存状態が悪かったが最大で長軸30㎝、短軸24㎝の大きさから小さいもので４㎝四方の川原石が敷いてあった。床面のレベルは、玄室・羨道部を通して石の上面でほぼ水平に移行し、前庭部では８㎝前後高くなると思われる。また、前庭部南、羨門部から約2.60ｍのか所には東西に幅0.40ｍ、残存深0.07ｍの溝状の施設があり、石室内に浸入する水



第９図　第12号墳石室

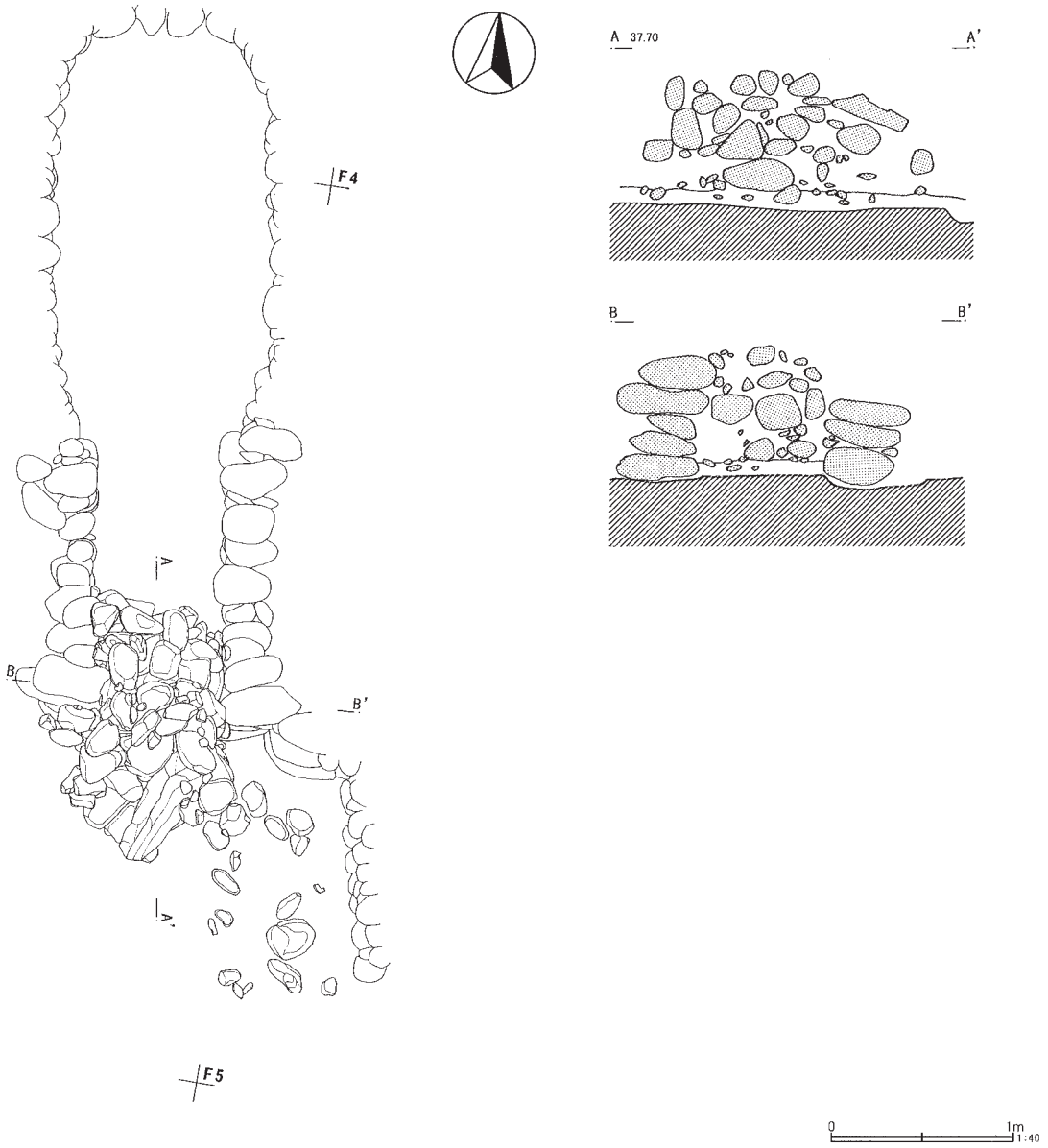


第10図　第12号墳石室掘り方

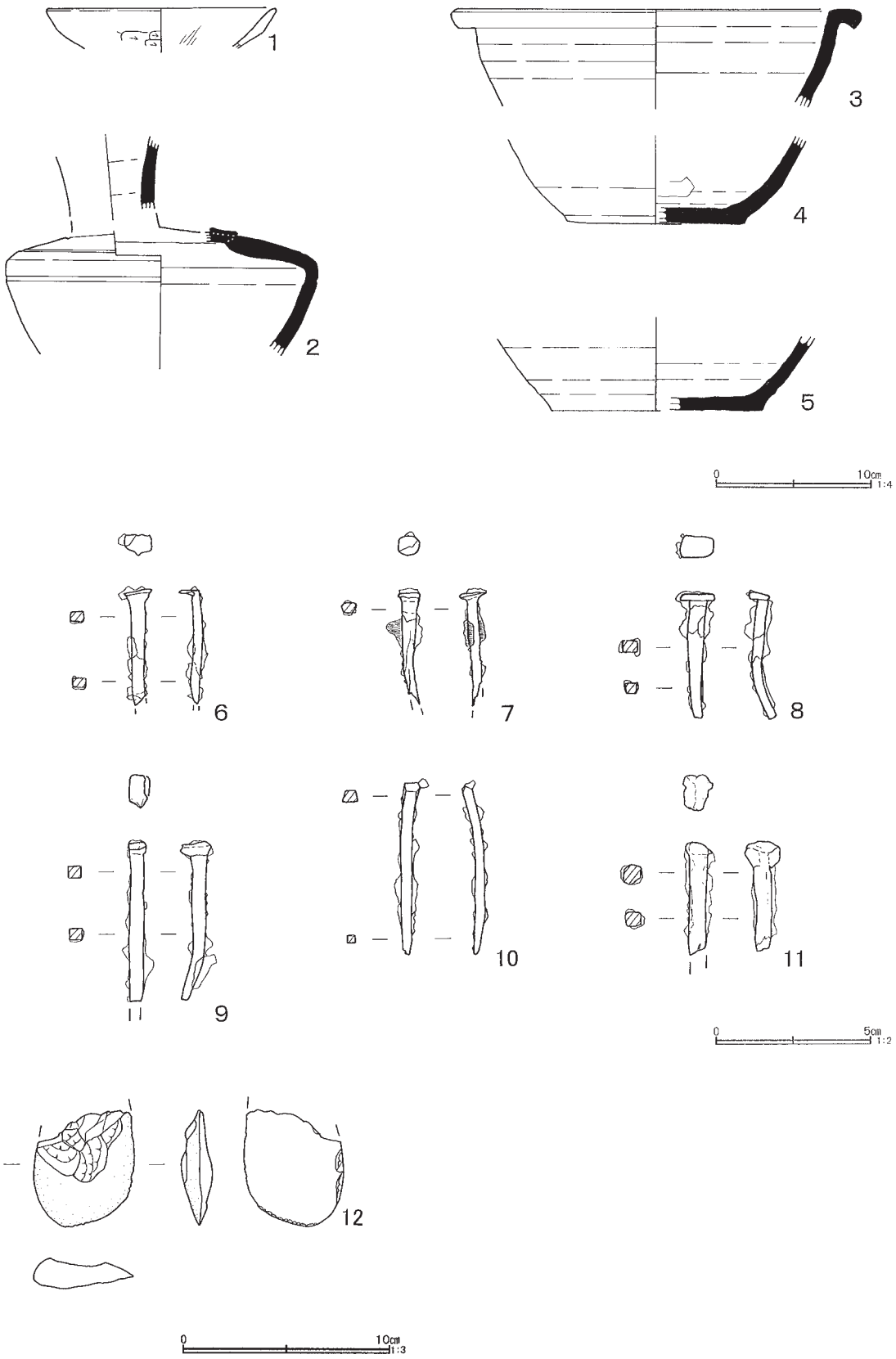
の防御に造られた施設と思われる。なお、羨道部の床面石は大振りの石は少なく、小さいものが主体であった。

羨門部の閉塞状況は、羨道部の南半から前庭部にかけて、大きさ24×20㎝の大ぶりの川原石から大きさ６㎝四方の小ぶりな川原石を用い、川原石間には小砂利混じりの土が充填され、入念に閉塞されており、最大で床面から約0.65ｍまで遺存していた。また、閉塞石の中には長軸66㎝、短軸26㎝の緑泥石片岩が１点見られたが、これについては天井部として架橋した石材の可能性もあろうか。なお、閉塞石とした石の中には羨道部の側壁が倒壊したものも含まれている可能性もあると思われる。

石室の構築については、まず墳丘盛土の形成時に、平面形が側壁については馬蹄形に、玄室部の梱石については玄門部を東西にわたるように、石材に合わせた幅や大きさで帯状または繭玉状に根石を据えるための掘り方をソフトローム土面に掘りくぼめて作成し、次にその掘り方に黒褐色土や灰黄褐色土を充填し根石を据えていた。その後、墳丘盛土を形成し、おそらく天井部架橋前の途中の段階で石室全体



第11図　第12号墳石室閉塞状況図



第12図　第12号墳出土遺物

の掘り方を平面形・長方形に作成し、側壁の石積みと並行してその掘り方に石室崩壊防止のための補強として裏込め土を充填しながら構築していったものと推定された。その裏込め土は、黒褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、黒色土等を用い交互に充填していったものと考えられ、その作業単位は、概ね側壁の石を１個または２個積んだ後に裏込め土を充填し、これを繰り返していったと推定される。玄室及び羨道部の床面形成は、根石より浅くソフトローム土面を５㎝前後全体的に掘りくぼめた掘り方に、にぶい黄褐色土、灰黄褐色土、暗灰黄褐色土、暗褐色土、黒褐色土を充填し、床面の石を据えていた。

出土遺物（第12図）

本墳に伴う遺物は少なく、全てが前庭部及び前庭部の後世の攪乱土中から検出された。また、石室からは１点も遺物が検出されなかった。検出された遺物は、土師器坏、須恵器鉢・壺・平瓶、鉄製の角釘であった。これらの遺物は、本墳に所属し、本墳の築造時期を決める遺物であると考えられる。角釘は、

第２表　第12号墳出土遺物観察表（第12図）

番号	器　種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	土師器 坏	(14.8)	残存高 2.6	―	ABEIK	B	橙色	口縁部20%	内面に放射状暗文。 前庭部出土。
2	須恵器 平瓶	―	残存高 (14.1)	―	ABFHIKL	A	灰色	頸部破片 胴部上半25%	胴部最大径（20.3）㎝。 外面に自然釉。 前庭部出土。
3	須恵器 鉢	(26.4)	残存高 6.3	―	ABI	A	褐灰色	口縁部40%	No. 4 と同一個体か。 前庭部出土。
4	須恵器 鉢	―	残存高 5.4	(11.6)	ADIN	A	褐灰色	底部付近40%	No. 3 と同一個体か。 前庭部出土。
5	須恵器 壺	―	残存高 4.7	(13.7)	ABFI	A	黄灰色	底部付近40%	前庭部出土。
6	角釘	残存長3.80　最大幅0.50　最大厚0.30　重量2.6g						茎部先端欠損	頭部は先端部を折り曲げて長方形に平らに鍛き出す。断面形は長方形。 前庭部出土。
7	角釘	残存長3.50　最大幅0.50　最大厚0.40　重量1.6g						茎部先端欠損	頭部は先端部を折り曲げて長方形に平らに鍛き出した思われるが欠損。断面形はほぼ長方形。 前庭部出土。
8	角釘	長さ4.00　最大幅0.55　最大厚0.40　重量3.5g						ほぼ完存	頭部は先端部を折り曲げて長方形に平らに鍛き出す。断面形は長方形。 前庭部出土。
9	角釘	残存長5.50　最大幅0.50　最大厚0.40　重量3.0g						頭部欠損	頭部は先端部を折り曲げて長方形に平らに鍛き出した思われるが欠損。断面形は長方形または正方形。 前庭部出土。
10	角釘	残存長5.20　最大幅0.40　最大厚0.40　重量4.0g						頭部の一部・ 茎部先端欠損	頭部は先端部を折り曲げて平らに鍛き出す。断面形は正方形。 前庭部出土。
11	角釘	残存長3.60　最大幅0.60　最大厚0.60　重量4.0g						茎部先端欠損	頭部は先端部を折り曲げてに平らに鍛き出した思われるが不明。断面形はほぼ正方形と思われる。 前庭部出土。
12	剥片石器	最大長5.60　最大幅4.80　最大厚1.50　重量38.3g						―	側面に敲打痕有り。 ホルンフェルス。 石室棺床面下埋土中出土。

埋葬につかわれた木棺の止め釘であった可能性があり、それが攪乱や何らかの理由で前庭部まで掻き出されたものと思われる。なお、石器については本墳の石室下の充填土から検出されたもので、何らかの原因で流入したものと思われる。

出土土器から判断される本墳の築造時期は、７世紀末から８世紀初頭と考えられる。

第13号墳（第13～16図、第３表）

位置・状態

調査区東部、Ａ～Ｄ－４～６グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,500～19,515、Ｙ＝－45,105～－45,125内にある。現在確認されている15基の古墳のうち最南西端付近にあり、西に隣接して第12号墳、南約27ｍに第15号墳、南西約30ｍに第14号墳が所在する。なお、これまで最南端であった第８号墳からの距離は、約70ｍである。

他遺構との重複関係については、第93号ピットと重複関係にあり、本遺構が切っていたと思われる。また、墳丘土を除去後の主体部のすぐ西側の墳丘下には第130～132号ピットが、西側周溝の東の墳丘下には第51号ピットが検出された。なお、第２号性格不明竪穴遺構、第２・６号溝跡等は位置的には重複関係にあるが、試掘トレンチにより切り合いの新旧の判断ができなかった。墳丘の西半は表土除去の際に削平をしてしまい墳丘が失われる状況になった。主体部（石室の羨道部）の一部が後世の攪乱を受け著しく破壊されていた。なお、玄室については調査区域外となっていたため不明である。

墳丘・外部施設（第13・14図）

墳丘は、現地表面下約0.80～1.25ｍで検出された。前述とおり羨道部の一部が検出されたに過ぎない上に著しく破壊されていたため、おそらく墳頂部も既に削平されていると考えられた。葺石については、前庭部から墳丘東側の斜面にかけて多数の川原石を検出したが、これらの川原石は羨道部が破壊された際の石材が散っていたものと判断され、墳丘の礫は墳丘盛土より大分上に浮いた形での検出であったため、例え葺石であったとしても原位置を留めていないものと判断された。一方、西側の周溝では、墳丘寄りの埋土中に多数の川原石が含まれていたので、このことから本墳には葺石が葺かれていたと考えられる。

墳丘の規模は、相対する東西の周溝間で約15.00ｍであるが、墳丘の中心部が調査区域外にあると判断されるため墳丘規模を正確に判断するのは困難であったが、大まかに15ｍ前後ではないかと思われる。墳丘盛土は、主体部の構築に合わせて、下からにぶい黄褐色土、黒褐色土の順で水平に盛り、その上に黒色土ブロックを多量に含む黒褐色土等をやはり水平に積み重ねていったようである。残存していた墳丘の最上部の盛土は、墳丘外側に灰黄褐色土やにぶい黄褐色土を積み重ねていた。いずれの層にも黒褐色土、にぶい黄褐色土、ソフトローム土ブロック・粒子等の混入物を含む。盛土は、比較的しまりがあった。

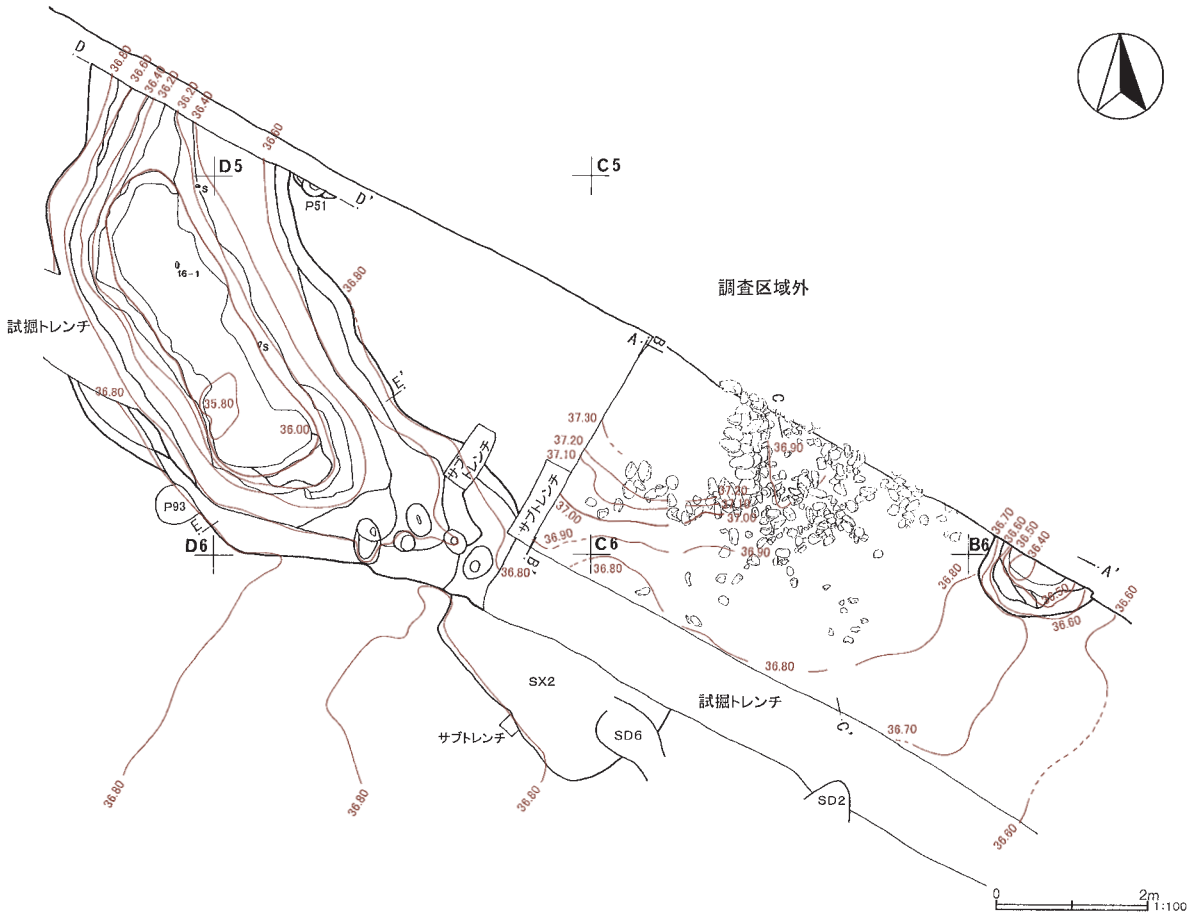
周溝は、現地表面下約1.25ｍで検出された。北西部、北部及び東部の大部分は調査区域外にあり、一部試掘トレンチにより定かではないが、主体部・石室前庭部前は距離にして６ｍ程途切れているようである。大部分が調査区域外となっているため前庭部前を除き全周していたか否かは不明である。平面形は、南西に検出されたか所を見る限り、明確にコーナーを持ち多角形を意識しているようにも見受けられた。その角度は、約123°～132°であり、第12号墳と比べるとかなり鋭角であり、多角形であった可能性を傍証する。周溝を含む規模は、相対する東西の周溝間で約15.00ｍであるが、前述のとおり墳丘の

中心部が不明であることから正確な規模については不明である。上面幅は2.00～3.65ｍ（平均すると３ｍ前後）、深さは0.72～0.93ｍを測り深いものであった。断面形は、舟底または底部がさらに逆台形の平底をなす形状を示すが、コーナー状のか所を境にそのコーナー間の底部がさらに深く掘り込まれているか所も見受けられ、最深の数値はそのか所である。また、立ち上がりの状況は、内側外側で大差なく、急峻なか所は互いに急峻、緩やかなか所は互いに緩やかなものであった。第12号墳のように墳丘との境には犬走り状の平坦部はなく、墳丘から周溝へとスムーズに移行するものと判断された。周溝内には、黒褐色土を主体にしてにぶい黄褐色土等が堆積しており、最下層には黒色土が堆積していた。その上に本古墳群及び本遺跡を覆う黒褐色土等が堆積していた。墳丘及び周溝から埴輪の検出はなかった。なお、前述のとおり墳丘寄りの上層には、長軸10.0～18.0㎝大の川原石が多数見られたことから、周溝がある程度埋没した段階で、墳丘から転落した葺石を含みながら埋没していったと考えられる。

主体部（第14・15図）

主体部は、川原石を乱石積みした横穴式石室と考えられる。羨道部左側壁の一部が遺存していただけであるので、石室全体の様子は定かではない。羨道部右側壁については、後世の攪乱により破壊されたものと考えられる。

石室の主軸はおそらくＮ－12°－Ｗ前後を示し、南に開口する。石室全体の規模・平面形とも不明である。残存していた羨道部は、直線で羨門部へとつながると推定されるが、前庭部の状況は不明である。羨道部左側壁は川原石による小口積みであった。この羨道部左側壁の最大残存高は根石から約0.46ｍを

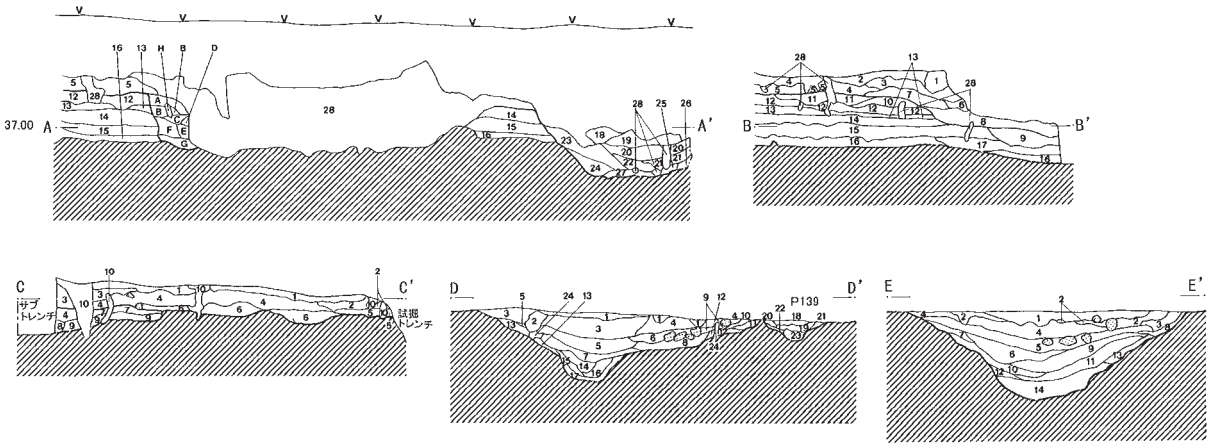


第13図　第13号墳

を測った。

羨道部の根石は、床面の高さとほぼ同じであり、やや扁平な川原石を用いて据えてあった。なお、根石は大きいもので長軸短軸とも20㎝前後、厚さ10㎝前後であった。羨門部の根石についてはさほど大きな石は据えられていなかったが、その上の川原石は比較的大きなものであった。

床面については、羨道内は大きく攪乱を受け川原石が散乱している状況であったが、川原石が敷き詰めてあったであろう床面はほぼ水平であり、前庭部に移行するにしたがい緩やかな傾斜をもって下がっ



土層説明(A-A'、B-B')

SS13

1 攪乱	
2 黒褐色土	暗灰黄色土ブロックわずか、ソフトローム土微粒子若干含
3 褐灰色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含
4 黒褐色土	やや軟弱、黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック・粒子多量含
5 ソフトローム土ブロック	灰黄褐色土ブロック多量、黒褐色土粒子若干含
6 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子若干、にぶい黄褐色土多量混
7 暗灰黄色土	黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子わずか、にぶい黄褐色土粒子ごくわずか含
8 褐灰色土	黒褐色土混、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
9 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック多量、にぶい黄褐色土ブロックわずか、にぶい黄橙色土粒子わずか含
10 灰黄褐色土	褐灰色土ブロック多量含
11 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量、黒褐色土粒子若干含
12 黒褐色土	黒色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック・粒子若干含
13 黒褐色土	黒褐色土ブロック少量含
14 黒褐色土	黒褐色土混、にぶい黄褐色土ブロック若干含
15 黒褐色土	黒褐色土ブロック多量、にぶい黄褐色土ブロック少量含
16 にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子若干含
17 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干含
18 褐色土	砂礫多量含
19 黒褐色土	にぶい黄橙色土ブロック少量含
20 灰黄褐色土	ソフトローム土ブロック少量、黒褐色土わずか含
21 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子少量含
22 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
23 黒褐色土	褐色土・褐灰色土わずか混
24 暗褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子少量含
25 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子少量、にぶい黄橙色土わずか含
26 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子多量含
27 黒褐色土	ソフトローム土粒子多量混
28 攪乱	

土層説明(A-A')

SS13石室裏込め土

A 灰黄褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子若干含、黒褐色土少量含
B 暗褐色土	ソフトローム土ブロック若干含
C 黄灰色土	ソフトローム土ブロック少量、黒褐色土粒子少量含
D 黄灰色土	
E 黒褐色土	暗褐色土混
F 暗褐色土	黒褐色土粒子多量、ソフトローム土粒子少量含
G 褐灰色土	にぶい黄褐色土ブロックわずか含
H 黒褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子わずか含

土層説明(C-C')

SS13

1 暗灰黄色土	にぶい黄橙色土ブロック、火山灰粒少量含
2 黒褐色土	ソフトローム土粒子少量、にぶい黄橙色土ブロック含
3 褐灰色土	砂質、軟弱、火山灰粒多量含
4 オリーブ黒色土	にぶい黄橙色土ブロック、火山灰粒少量、含
5 黒褐色土	にぶい黄褐色土混
6 灰黄褐色土	黒褐色土少量混、にぶい黄橙色土ブロック含
7 灰黄褐色土と黒褐色土の混合層	
8 にぶい黄褐色土	黒褐色土少量混
9 黒褐色土	砂質、軟弱、ソフトローム土少量混
10 攪乱	

土層説明(D-D')

SS13周溝

1 にぶい黄橙色粘質土	黒褐色土ブロック・粒子若干、礫含
2 黒褐色土	にぶい黄橙色粘質土粒子多量含
3 黒褐色土	ソフトローム土微粒子少量、にぶい黄橙色粘質土粒子わずか含
4 黒褐色土	ソフトローム土微粒子多量、礫含
5 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干含
6 灰黄褐色土	にぶい黄褐色帯びる、ソフトローム土微粒子多量含
7 黒色土	ソフトローム土微粒子若干含
8 黒色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量含
9 黒褐色土	ソフトローム土微粒子多量、礫含
10 黒褐色土	ソフトローム土微粒子少量、黒色土粒子若干含
11 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子若干、黒褐色土粒子少量含
12 黒色土	灰黄褐色土粒子多量含
13 黒褐色土	ソフトローム土粒子、ハードローム土粒子少量含
14 にぶい黄褐色土	黒色土ブロック多量含
15 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量含
16 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子多量、黒色土粒子下層付近に少量含
17 黒色土	ソフトローム土ブロック・粒子多量(全体の70～80%占める)含
P139	
18 黒色土	灰黄褐色土ブロックわずか、ハードローム土微粒子若干含
19 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干含
20 灰黄褐色土	黒色土ブロックわずか、にぶい黄褐色土ブロックわずか含
21 暗褐色土	
22 灰黄褐色土	
23 黒褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子若干含
24 攪乱	

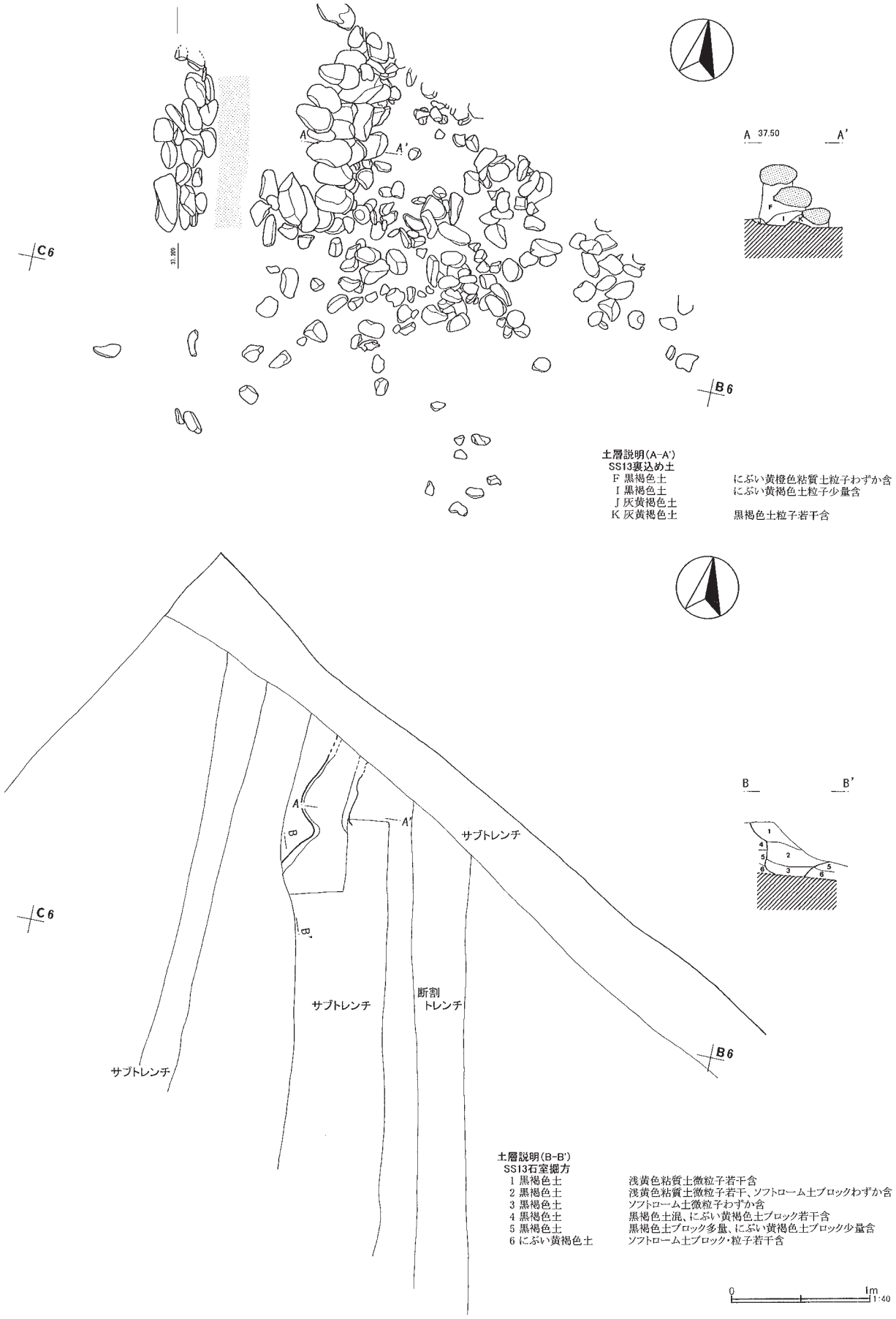
土層説明(E-E')

SS13周溝

1 にぶい黄橙色粘質土	黒褐色土ブロック・粒子若干、礫含
2 黒褐色土	にぶい黄橙色粘質土多量混、礫含
3 にぶい黄褐色土	黒褐色土少量混
4 黒褐色土	にぶい黄橙色粘質土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干含
5 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干、礫含む
6 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干、にぶい黄橙色粘質土粒子わずか含
7 黒褐色土	灰黄褐色帯びる、ソフトローム土微粒子若干含
8 にぶい黄褐色土	ソフトローム土混、黒褐色土ブロック若干含
9 黒色土	ソフトローム土微粒子少量含
10 黒色土	ソフトローム土ブロック・粒子少量含
11 黒褐色土	黒色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック・粒子多量、ハードローム土粒子わずか含
12 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
13 黒褐色土	灰黄褐色帯びる、ソフトローム土ブロック多量、ソフトローム土粒子・微粒子少量含
14 黒色土	ソフトローム土ブロック大小多量・粒子少量、ハードローム土ブロック大少量含

0 2m 1:80

第14図　第13号墳土層断面図



第15図　第13号墳石室（上）、石室掘り方（下）

ていた。また、その前庭部は、多少の起伏が認められた。

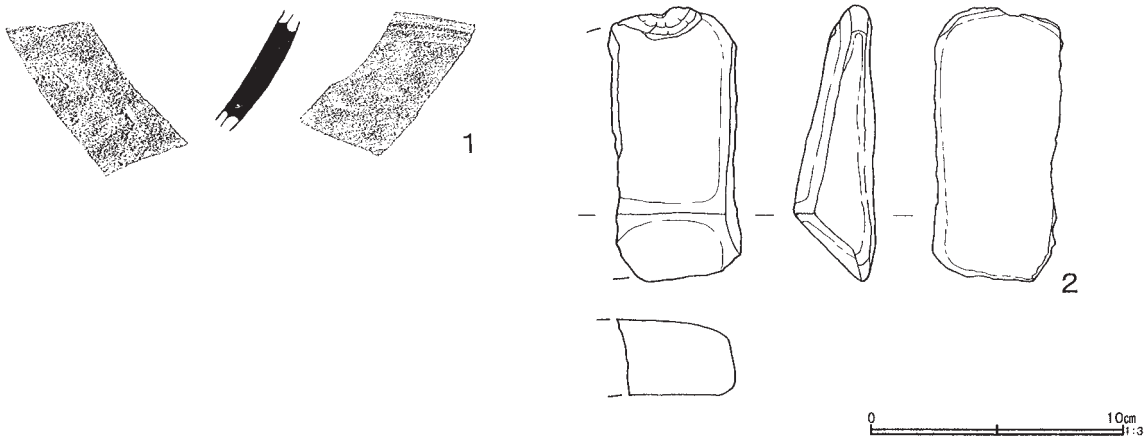
羨門部の閉塞状況については、不明である。

石室の構築については、羨道部のみの状況ではあるが、第12号墳と同様に、まず墳丘盛土の形成時に、石材に合わせた幅で帯状に根石を据えるための掘り方をソフトローム土面に掘りくぼめて作成し、次にその掘り方に黒褐色土や灰黄褐色土を充填し根石を据えていた。その後、墳丘盛土を形成し、おそらく天井部架橋前の途中の段階で石室全体の掘り方を作成し、側壁の石積みと並行してその掘り方に石室崩壊防止のための補強として裏込め土を充填しながら構築していったものと推定された。その裏込め土は、褐灰色土、黒褐色土、暗褐色土、黄灰色土、灰黄褐色土等を用い交互に充填していったものと考えられる。なお、その作業単位については、攪乱を受け不明な点は多いが、概ね側壁の石を１個または２個積んだ後に裏込め土を充填し、これを繰り返していったと推定される。羨道部の床面形成は、根石の掘り方より深く、ソフトローム土面を10～25㎝掘りくぼめた掘り方に、主として黒褐色土、灰黄褐色土を充填し、根石とほぼ同じレベルまで床面を形成していたものと判断された。

出土遺物（第16図）

本墳に伴う遺物は非常に少なく、全て南西の周溝から検出された。また、石室からは１点も遺物が検出されなかった。検出された遺物は、須恵器長頸壺と考えられる破片や砥石等であった。須恵器長頸壺については、本墳の築造時期を決める唯一の遺物であると考えられる。

出土土器やその他古墳群の状況からから判断される本墳の築造時期は、７世紀末から８世紀初頭と推定される。



第16図　第13号墳出土遺物

第３表　第13号墳出土遺物観察表（第16図）

番号	器　種	法　　量	胎 土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	須恵器 壺 （長頸壺）	厚さ0.80	ABI	A	灰色	胴部破片	外面に自然釉。 周溝（西）出土。
2	砥石	最大長10.80　最大幅5.20　最大厚3.00　重量226.5g				―	四面使用か。 砂岩。 周溝（西）出土。

（２） 溝跡

第１号溝跡（第17図）

調査区の南東部、Ａ・Ｂ－７・８グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,490～19,500、Ｙ＝－45,105～－45,115内にある。第３号溝跡とほぼ並行し、双方間の距離は約2.5ｍを測る。

第４・５・106号ピットと重複関係にあり、本遺構が第４・５号ピットに切られ、第106号ピットを切っている。

規模は、南部が調査区域外となっているが、検出長約2.35ｍ、幅0.27～0.99ｍを測る。走行軸の方位は、およそＮ－35°－Ｅを示し、第４号ピットと第５号ピットに切られている間の北端間が、鉤の手状に屈曲する。

断面形は船底状で底面が平坦であるが、底面の一部がピット状に掘り込まれているか所がある。また、北端部は段をもって北から南へ２段階に底面が下がる。深さは、土層断面観察から0.16～0.28ｍを測る。埋土は、レンズ状に水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第２号溝跡（第18・19図）

調査区の東部、Ｂ－６・７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,505、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第６号溝跡、第１号井戸跡、第１・２号土坑、第６号ピットと重複関係にあり、本遺構が第６号溝跡、第２号土坑及び第６号ピットに切られ、第１号井戸跡及び第１号土坑を切っている。

規模は、残存長約4.29ｍ、幅0.33～1.32ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－42°－Ｅから残存長のほぼ中間でほぼ北に変化する、くの字状の平面形をなす。また、南端部は、幅が狭まる。

断面形は、箱形または船底状をなすが、底面が土坑状に深く掘られている最も深いか所では逆凸形をなす。また、南端は大きく段差をもって浅くなる。深さは、土層断面観察から0.33～1.03ｍを測る。埋土は、ランダムかつブロック状に堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第３号溝跡（第17図）

調査区の南東部、Ｂ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。第１号溝跡とほぼ並行し、双方間の距離は約2.5ｍを測る。

単独で所在し、重複関係にある他の遺構はない。

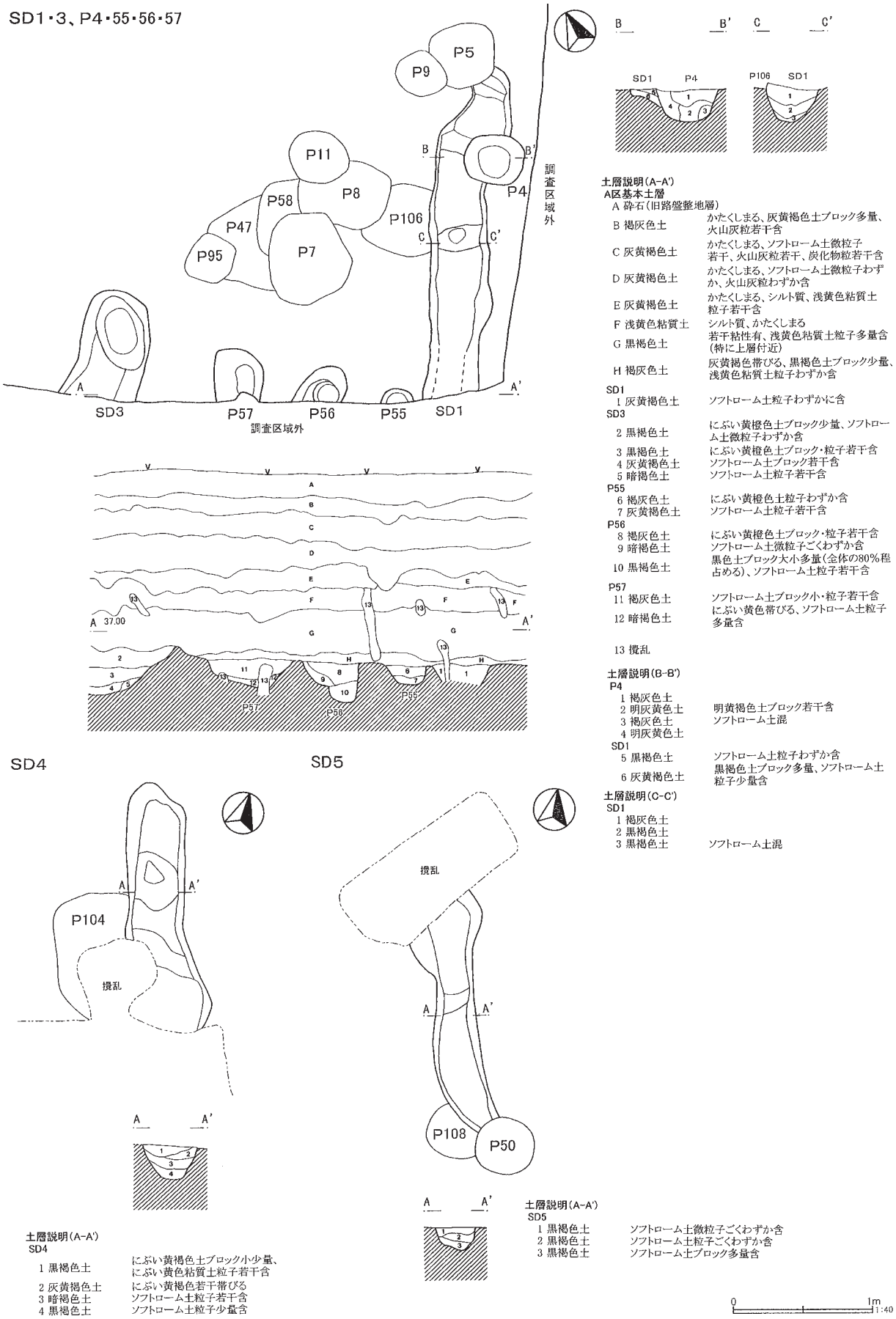
規模は、南端が調査区域外となっていて、検出長約0.79ｍ、幅0.45～0.56ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－46°－Ｅを示す。

断面形は、船底状の逆台形であり、北端の底面がピット状に一段掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.35ｍを測る。埋土は、ややレンズ状に水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第４号溝跡（第17図）

調査区の中央部東寄りの南部、Ｄ－６グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,500～19,505、Ｙ＝－



第17図　第１・３～５号溝跡、第４・56・57号ピット

45,120～－45,125内にある。第５号溝跡とほぼ並行し、双方間の距離は約1.5ｍを測る。

第104号ピットと重複関係にあり、本遺構が切っている。

規模は、南端が大きく攪乱を受けており、最大検出長約1.78ｍ、幅0.41～0.43ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－19°－Ｗを示す。

断面形は、逆台形であり、検出された部分のやや北寄りの底面がピット状に一段掘りくぼめられていた。また、南端の底面が一段下がる。深さは、土層断面観察から最深部で0.24ｍを測る。埋土は、ややレンズ状に水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号溝跡（第17図）

調査区の中央部東寄りの南部、Ｄ－５・６グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,500～19,510、Ｙ＝－45,120～－45,125内にある。第４号溝跡とほぼ並行し、双方間の距離は約1.5ｍを測る。

第50･108号ピットと重複関係にあり、本遺構が第50号ピットに切られ、第108号ピットを切っている。

規模は、北端が攪乱を受け、南端が第50号ピットに切られており、検出長約1.73ｍ、幅0.27～0.59ｍを測る。走行軸の方位は、おおよそＮ－15°－Ｗを示す。平面形は、ややＳ字状をなす。

断面形は、やや崩れた船底状であり、北側の底面が一段下がる。深さは、土層断面観察から0.13～0.16ｍを測る。埋土は、ほぼ水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第６号溝跡（第18・19図）

調査区の東部、Ｂ－６・７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,505、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第２号溝跡、第１号井戸跡及び第２号性格不明竪穴遺構と重複関係にあり、本遺構が重複関係にある全ての遺構を切っている。

規模は、検出長約4.68ｍ、幅0.28～0.64ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－33°－Ｗから第１号井戸跡の北西端と重複するか所でおおよそＮ－3°－Ｗに変化する、頭を少しもたげた蛇のような平面形をなす。

断面形は、逆台形、船底状、崩れた船底状と様々な形状をなすが、北端の第２号性格不明竪穴遺構と重複するか所の底面が小規模なピット状に掘りくぼめられている。また、北端から南端へ向かい傾斜をもち次第に深くなる。深さは、土層断面観察から0.13～0.17ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

（３）　井戸跡

第１号井戸跡（第18・19図）

調査区の東部、Ｂ－６・７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,505、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第２・６号溝跡及び第１号土坑と重複関係にあり、本遺構が第２・６号溝跡に切られるが、第１号土坑との新旧関係の詳細は不明である。

規模は一辺約1.90～2.10ｍで、平面形が方形状をなすと考えられるが、他遺構に著しく切られており、詳細は不明である。

断面形は、最深部が幅広に掘り下げられ先端が太い漏斗状をなすが、東西の立ち上がりが均一ではなく、西は緩やかに、東は第２号溝跡との切り合いにより定かではないが直立気味に立ち上がっているものと推定される。深さは、土層断面観察から1.30ｍを測る。埋土については、中間から下層は黒褐色土、黒色土、暗灰黄色土、褐灰色土等様々な土がランダムかつブロック状に堆積しているのに対し、上層はにぶい黄褐色土が堆積した後黒褐色土を主体にしてややレンズ状に堆積していることから、途中までは人為的に埋め戻され、その後は自然堆積したと思われる。

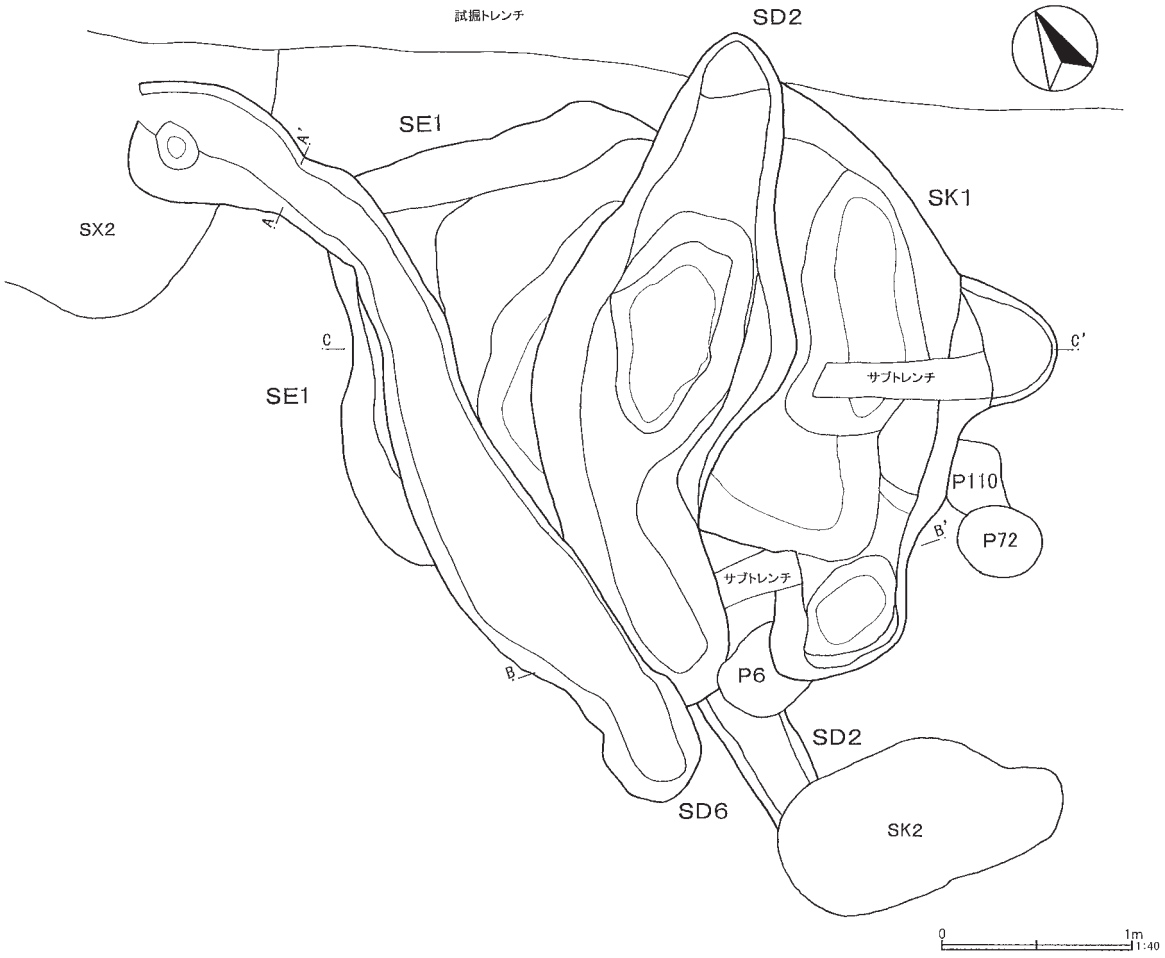
出土遺物は、検出できなかった。

（４）　土坑

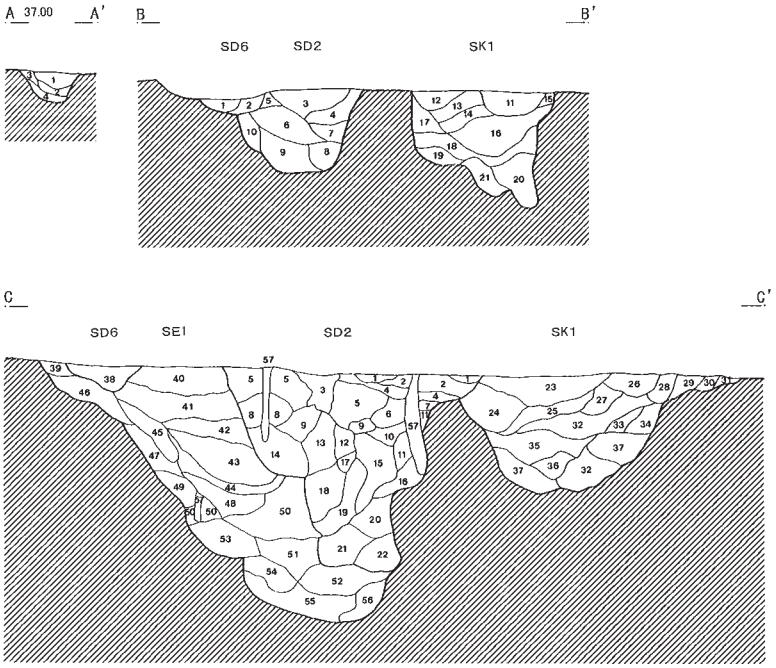
第１号土坑（第18・19図）

調査区の東部、Ｂ－６・７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,505、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第２号溝跡、第６・110号ピットと重複関係にあり、本遺構が第２号溝跡に切られ、第６・110号ピッ



第18図　第１号井戸跡、第２・６号溝跡、第１号土坑



土層説明(A-A')

SD6

1 黒色土	にぶい黄褐色土粒子わずか含
2 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量
3 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
4 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック・粒子多量

土層説明(B-B')

SD6

1 暗褐色土	ソフトローム土ブロック小・微粒子若干含
2 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子多量含

SD2

3 ソフトローム土【投入土】	
4 ソフトローム土にハードローム土ブロック小混合層【投入土】	
5 黄褐色土	やや軟弱、ソフトローム土微粒子多量含
6 灰黄褐色土	やや軟弱、ソフトローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子多量含
7 暗灰黄色土	やや軟弱、ハードローム土ブロック小・粒子多量、ソフトローム土粒子わずか含
8 ソフトローム土ブロック	やや軟弱、ハードローム土ブロック小・粒子わずか含
9 にぶい黄褐色土	やや軟弱、ソフトローム土ブロック若干、ソフトローム土微粒子多量、黒色土粒子わずか含
10 灰黄褐色土	やや軟弱、ソフトローム土微粒子少量含

SK1

11 灰オリーブ色砂質土	暗灰黄色土粒子若干含
12 オリーブ黄色砂質土	灰白色粘質土ブロック小若干含
13 灰オリーブ色砂質土	灰白色粘質土微粒子わずか含
14 オリーブ黄色砂質土	若干粘性有
15 暗灰黄色砂質土	灰オリーブ色砂質土含
16 灰白色砂	灰白色粘質土粒子若干含
17 灰オリーブ色粘質土	若干砂質、灰白色砂混、灰白色粘質土ブロック若干含
18 灰オリーブ色砂	にぶい黄色粘質土若干含
19 灰オリーブ色砂	にぶい黄色粘質土ブロック少量、褐灰色粘質土粒子わずか含
20 灰オリーブ色砂質土	下層付近にぶい黄色粘質土混、褐灰色粘質土粒子わずか含
21 灰オリーブ色砂	にぶい黄色粘質土ブロック多量(全体の60%程占める)含

土層説明(C-C')

SD2

1 暗灰黄色土	ハードローム土粒子小多量含
2 浅黄色土	ハードローム土ブロック小わずか含
3 黒褐色土	黒色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック若干含
4 にぶい黄色土	ソフトローム土・ハードローム土粒子多量含
5 にぶい黄褐色土	ハードローム土ブロック大若干含
6 にぶい黄褐色土	ハードローム土ブロック大小少量、黒色土粒子ごくわずか含
7 ハードローム土ブロック	
8 暗褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子わずか含
9 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
10 にぶい黄褐色土	ハードローム土ブロック大小わずか含
11 暗灰黄色土	ハードローム土粒子多量含
12 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
13 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック大多量含
14 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量含
15 灰黄褐色土	若干ボロボロした感じ、ハードローム土微粒子わずか、ソフトローム土微粒子わずか含
16 暗灰黄色土	やや軟弱、ハードローム土粒子・微粒子若干、マンガン粒わずか含
17 暗灰黄色土	
18 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
19 黒褐色土	にぶい黄褐色土混、黒褐色土ブロック大ごくわずか、ソフトローム土ブロック小若干含
20 黒褐色土	ソフトローム土ブロック若干、黒褐色土ブロック大わずか含
21 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック若干、ハードローム土粒子ごくわずか含
22 褐色土	にぶい黄褐色土混

SK1

23 浅黄色土	(ハードローム土粒子層のような様相呈す)
24 浅黄色土	ハードローム土粒子層のような様相呈す、ハードローム土ブロック小若干含
25 浅黄色土	灰黄色土粒子若干、ハードローム土ブロック小わずか含
26 灰黄褐色土	ハードローム土ブロック・粒子多量含
27 浅黄色土	灰黄褐色土ブロック若干含
28 褐灰色土	ソフトローム土粒子若干含
29 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
30 褐色土	ソフトローム土微粒子少量含
31 暗褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
32 灰白色砂質土	浅黄色土ブロック・粒子若干含
33 黄褐色土	褐灰色土ブロックわずか、ソフトローム土粒子多量含
34 黒褐色土	褐灰色土混、ハードローム土ブロックわずか、ソフトローム土粒子若干含
35 浅黄色土	
36 浅黄色土と灰白色砂質土混合層	
37 浅黄色土	褐灰色土若干混、ハードローム土ブロックわずか

SD6

38 黒褐色土	灰黄褐色土混

SE1

39 灰黄褐色土	
40 黒褐色土	ハードローム土粒子ごくわずか、ソフトローム土微粒子若干含
41 黒褐色土	灰黄褐色土ブロックわずか、ソフトローム土微粒子わずか含
42 黒褐色土	灰黄褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
43 黒褐色土	灰黄褐色土ブロック・粒子わずか、ソフトローム土微粒子わずか含
44 褐灰色土	黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
45 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子少量含
46 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか、黒褐色土ブロックわずか含
47 にぶい黄褐色土	ソフトローム土微粒子多量含
48 黒褐色土	灰黄褐色土ブロック・粒子わずか、ソフトローム土粒子若干含
49 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロックわずか含
50 黒色土	黒褐色土混、ソフトローム土微粒子少量含
51 褐灰色土	全体的に灰黄褐色帯びる、ハードローム土粒子・微粒子若干含
52 暗灰黄色土	ハードローム土ブロック・粒子多量、ソフトローム土粒子わずか含
53 暗灰黄色土	黒褐色土ブロック多量、灰黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
54 黒色土	ハードローム土粒子ごくわずか含
55 黒色土	暗灰黄色土ブロック若干、ソフトローム土ブロック小少量、灰白色土ブロックわずか含
56 灰黄褐色土	黒色土粒子わずか、ハードローム土ブロック多量、暗灰黄色土ブロックわずか含
57 攪乱	

0 1m 1:40

第19図　第１号井戸跡、第２・６号溝跡、第１号土坑土層断面図

トを切っている。

規模は、西部が第２号溝跡に切られているため詳細は不明であるが、検出長軸3.10ｍ、残存短軸1.48ｍを測る。平面形は、西部については不明であるが、東と南に岬のような突出部が付くやや不整形な楕円形をなすと推定される。

底面は、一部が長軸1.40ｍ、短軸0.58ｍの楕円形状に浅く掘りくぼめられており、突出部は底面の一部が局所的に深くなる箱形やＶ字状をなす。深さは、土層断面観察から0.62ｍを測る。なお、南の突出部の深さは、0.39～0.62ｍを測る。埋土については、浅黄色土を主体にして灰白色砂質土が混じりややランダム気味な堆積であるが、概ねレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。また、南の突出部は、にぶい黄色粘質土ブロックを含む灰オリーブ色砂が堆積した後、灰白色砂、灰オリーブ色やオリーブ黄色の砂質土がレンズ状に堆積していることからも、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第２号土坑（第20図）

調査区の東部南寄り、Ｂ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第２号溝跡と重複関係にあり、本遺構が、第２号溝跡を切っている。

規模は、長軸1.50ｍ、短軸0.77ｍを測る。平面形は、全体的には東西に長い楕円形をなすが、東側に突出部が付く。

底面は、一定しておらず、中央から南西部にかけて局所的に土坑またはピット状に掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.05～0.25ｍを測る。埋土は、ランダムに堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第３号土坑（第20図）

調査区の東端中央部、Ａ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,105～－45,110内にある。単独で所在し、東側が調査区域外となっている。

規模は、前述のとおり一部が調査区域外となっているため、検出長で長軸1.10ｍ、短軸0.54～0.65ｍを測る。平面形は、隅丸方形をなすと推定される。

底面は、中央部付近が長楕円形のピット状に掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.08～0.32ｍを測る。埋土は、概ねレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

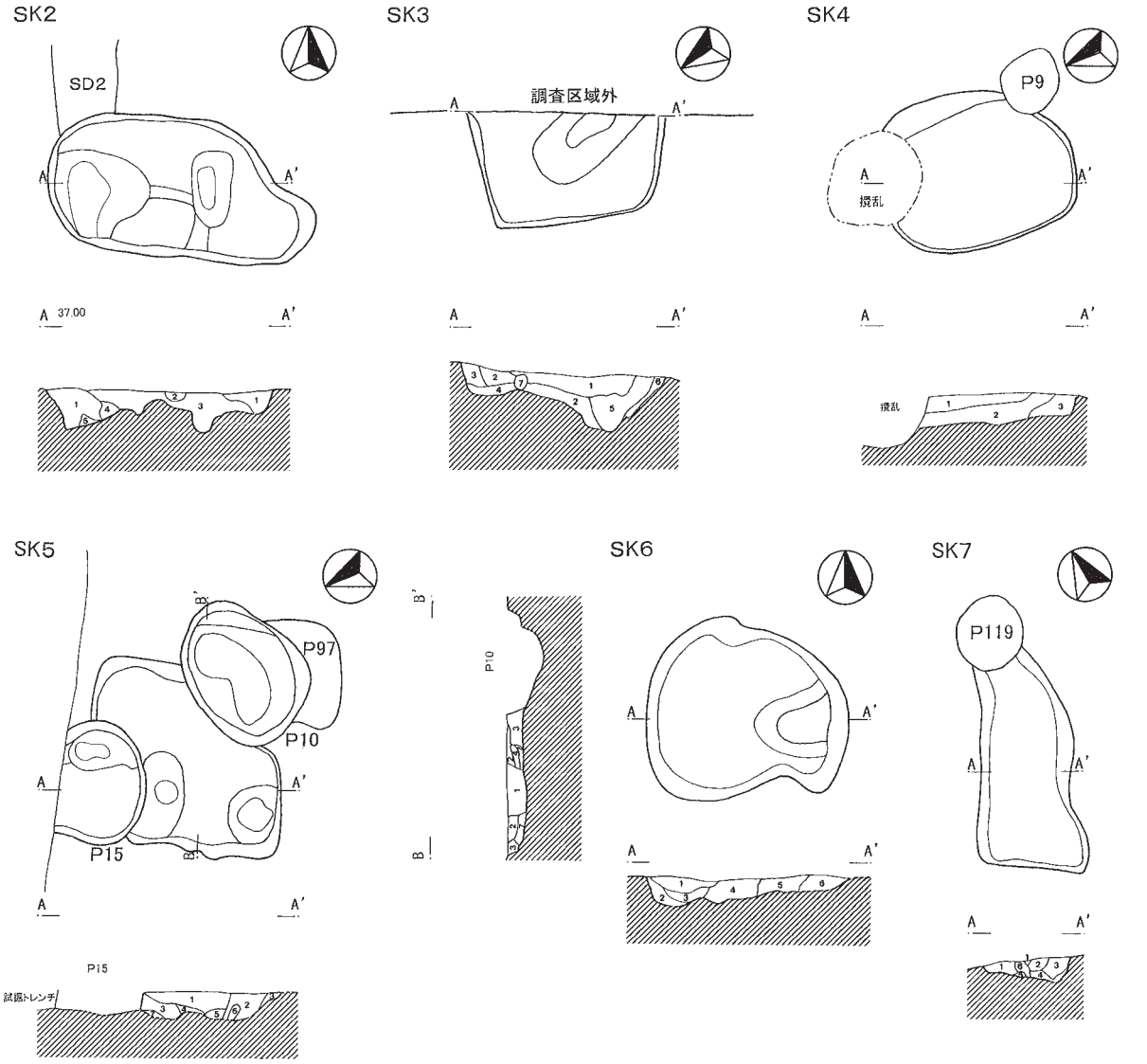
出土遺物は、検出できなかった。

第４号土坑（第20図）

調査区の東部南寄り、Ａ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,105～－45,110内にある。

第９号ピットと重複関係にあり、本遺構が第９号ピットに切られている。また、北端の一部が攪乱を受けていた。

規模は、前述のとおり一部攪乱を受けているため推定長の長軸1.11ｍ、短軸0.88ｍを測る。平面形は、南北に長い楕円形をなす。



土層説明(A-A')
SK2
1 黒褐色土
2 にぶい黄褐色土ブロック　少々粘質
3 黒褐色土　明黄褐色土少量混
4 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
5 黒褐色土と灰黄褐色土の混合層

土層説明(A-A')
SK3
1 暗灰黄色土　にぶい黄橙色土ブロック少量含
2 黄褐色土　にぶい黄橙色土若干混
3 オリーブ褐色土
4 明黄褐色土　オリーブ褐色土混
5 褐灰色土
6 暗灰黄色土
7 撹乱

土層説明(A-A')
SK4
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土混
3 灰黄褐色土　黒褐色土若干混

土層説明(A-A'、B-B')
SK5
1 黒褐色土
2 暗灰黄色土
3 にぶい黄褐色土
4 にぶい黄褐色土
5 黒褐色土　ソフトローム土混
6 黄褐色土と暗灰黄色土の混合層
7 にぶい黄褐色土　ソフトローム土混

土層説明(A-A')
SK6
1 黒褐色土
2 黒褐色土　黒褐色土、ソフトローム土少量混
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黄灰色土
5 黄灰色土　黒褐色土少量混
6 褐灰色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子少量含

土層説明(A-A')
SK7
1 灰黄褐色土　黒褐色土多量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
6 黒褐色土　にぶい黄褐色土混

0　1m　1:40

第20図　第２～７号土坑、第10・15・97号ピット

底面は、ほぼ一定しており、深さは、土層断面観察から0.11～0.18ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号土坑（第20図）

調査区の東部中央、Ａ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,105～－45,110内にある。

第10・15号ピットと重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構にも切られている。

規模は、推定長軸1.04ｍ、短軸1.00ｍを測る。平面形は、南東部が三角形に欠ける台形状をなす。

底面は、西寄りの北部及び南部がピット状に浅く掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.12～0.16ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積した後に、その一部が切られて堆積しているか所が見られることから、自然堆積した後一部人為的に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第６号土坑（第20図）

調査区の西部中央、Ｆ－３・４グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,510～19,520、Ｙ＝－45,130～－45,135内にある。なお、本遺構は、第12号墳の墳丘を除去した後に西側の墳丘下から検出された。

単独で所在し、第７号土坑とほぼ東西に並ぶ間係で、その距離は約３ｍである。

規模は、東西軸1.13ｍ、南北軸0.78～1.00ｍを測る。平面形は、東西に長く、南東部が一部凹む楕円形状をなす。

底面は、東側が浅く、西側がやや深く掘り込まれていた。深さは、土層断面観察から0.09～0.16ｍを測る。埋土は、ランダム気味に堆積しているか所及びレンズ状に堆積しているか所が見られることから、最初は人為的に埋め戻されたが、その後は自然堆積したと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第７号土坑（第20図）

調査区の西部南寄り、Ｇ－３グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,515～19,520、Ｙ＝－45,135～－45,140内にある。なお、本遺構は、第６号土坑と同様に第12号墳の墳丘を除去した後に西側の墳丘下から検出された。

第119号ピットと重複関係にあり、本遺構が切られていた。また、前述のとおり第６号土坑とほぼ東西に並ぶ間係で、その距離は約３ｍである。

規模は、推定長軸1.30ｍ前後、短軸0.39～0.63ｍを測る。平面形は、南北に長い溝状をなし、南端は幅広で平らなものである。

底面は、南北方向ではほぼ一定であるが、東西方向は東側が深く、西側が浅い。深さは、土層断面観察から0.05～0.14ｍを測る。埋土は、ランダムに堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

（５） ピット

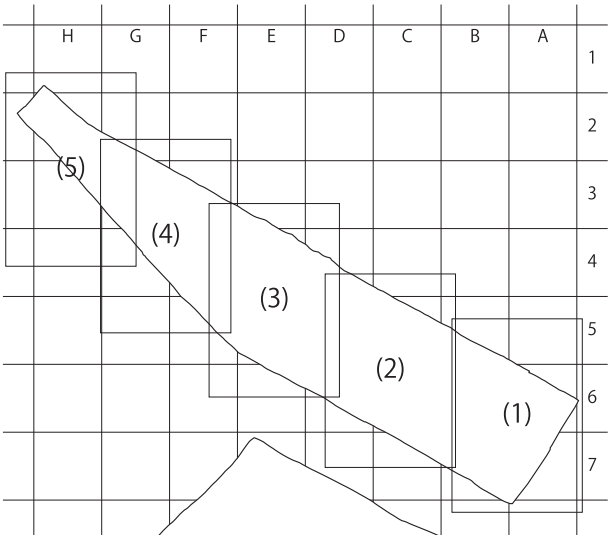
ピットは、総数137基が検出された。分布状況は、概ね集中して分布していたが、西端部では希薄な分布状況であった。集中して分布していたか所は、大きく東部、中央部南寄りで、本調査区の大半がこの２区域に分布していた。そのせいか、単独で所在するよりもピット同士や他遺構と重複関係にあるものが多く見受けられた。また、２基検出された古墳（第12・13号墳）の墳丘下からも、墳丘の盛土を除去したところ数基検出された。

平面形は、円形または楕円形をなすものが多い。また、土層断面観察から、建物の柱穴状のものもあり、第66・84・92・100・101・106号ピットのように柱痕と思われる痕跡が確認できたものや、第１・３・16・19・44・50・53・54・65・67・70・86号ピットのように、平面観察からも底面の中央またはどちらか寄りが一段下がる掘り方が確認され、柱が据えられていた痕跡の可能性があるものも見られた。

出土遺物は、いずれのピットからも検出できなかった。

以下、一覧表で掲載する（第６･13･17･20～29図、第４表）。なお、平面図については、第21図の示す区割図に沿って掲載した。土層断面図については、原則として平面図の区割に沿って掲載した順番通りに掲載したため順不同であるが、なるべく平面図の掲載順と対応するように心掛けた。

なお、調査時点では、Ａ区・Ｂ区を通して通し番号でピットを呼称したが、報告書刊行の際に都合で振り替えたものや新規で呼称したものもあり、第138・139号は欠番号である。新旧対照については、第１表を参照されたい。

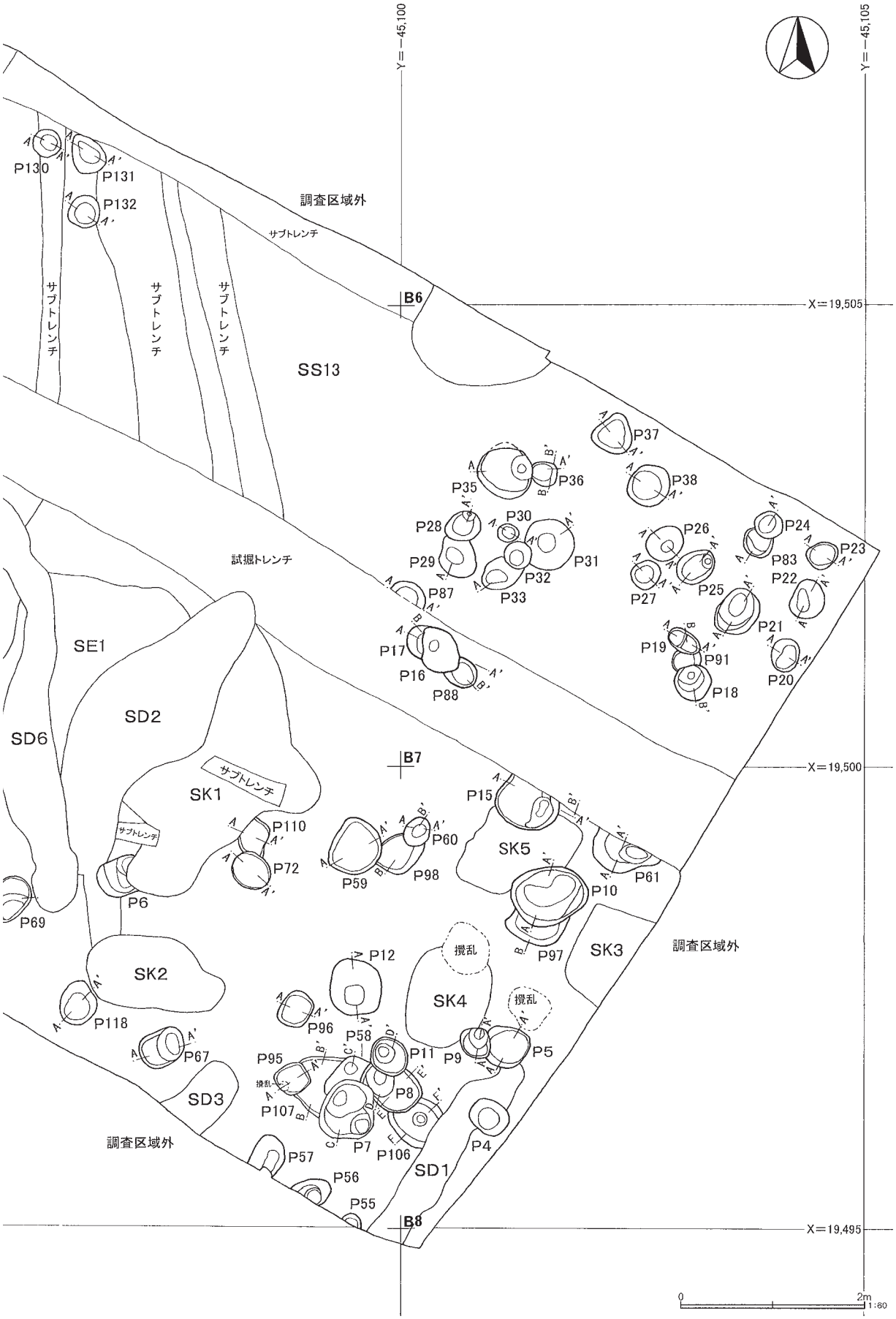


第21図　Ａ区ピット全体図区割図

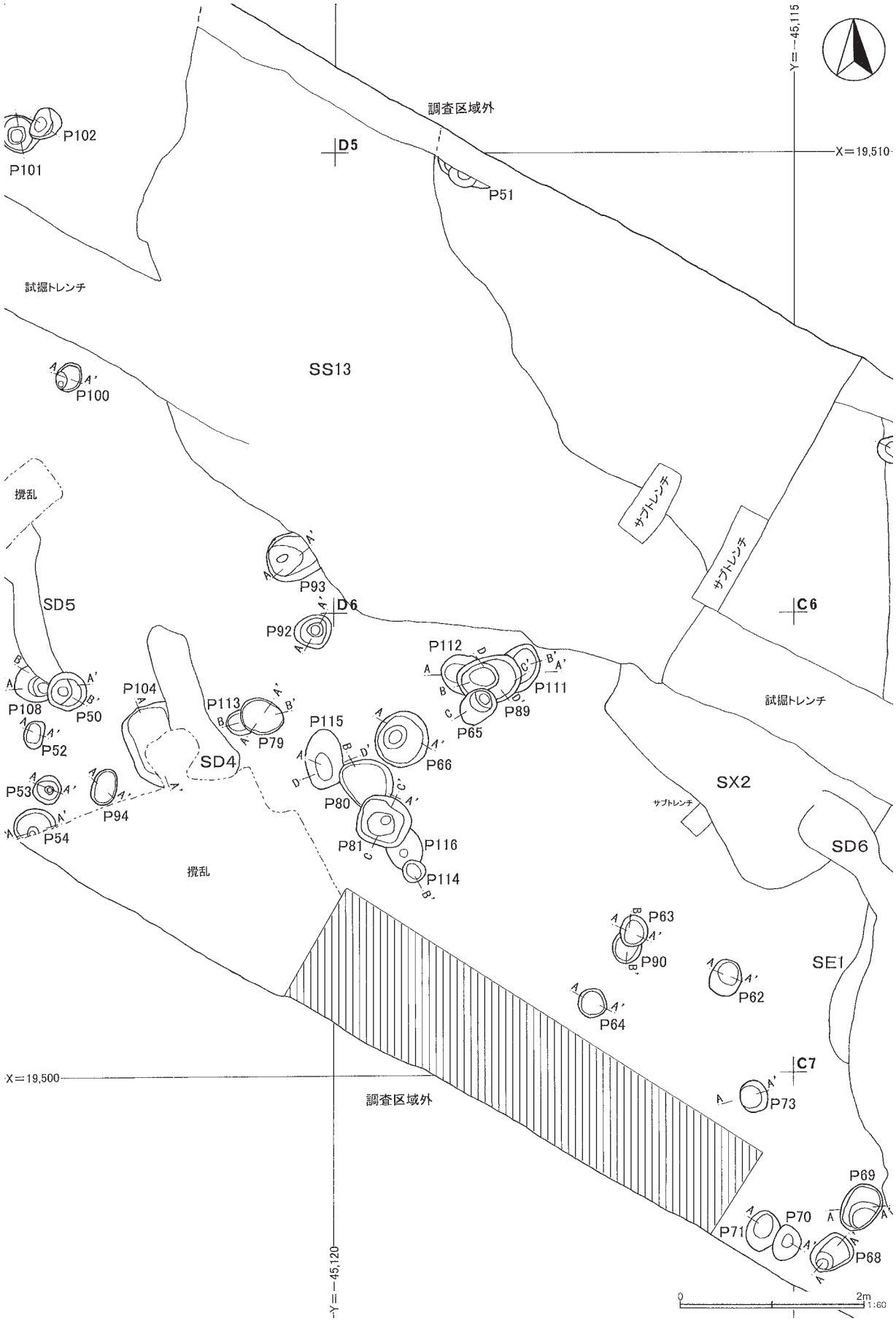
第４表　Ａ区ピット一覧表（第６・13・17・20～29図）

規模単位：㎝

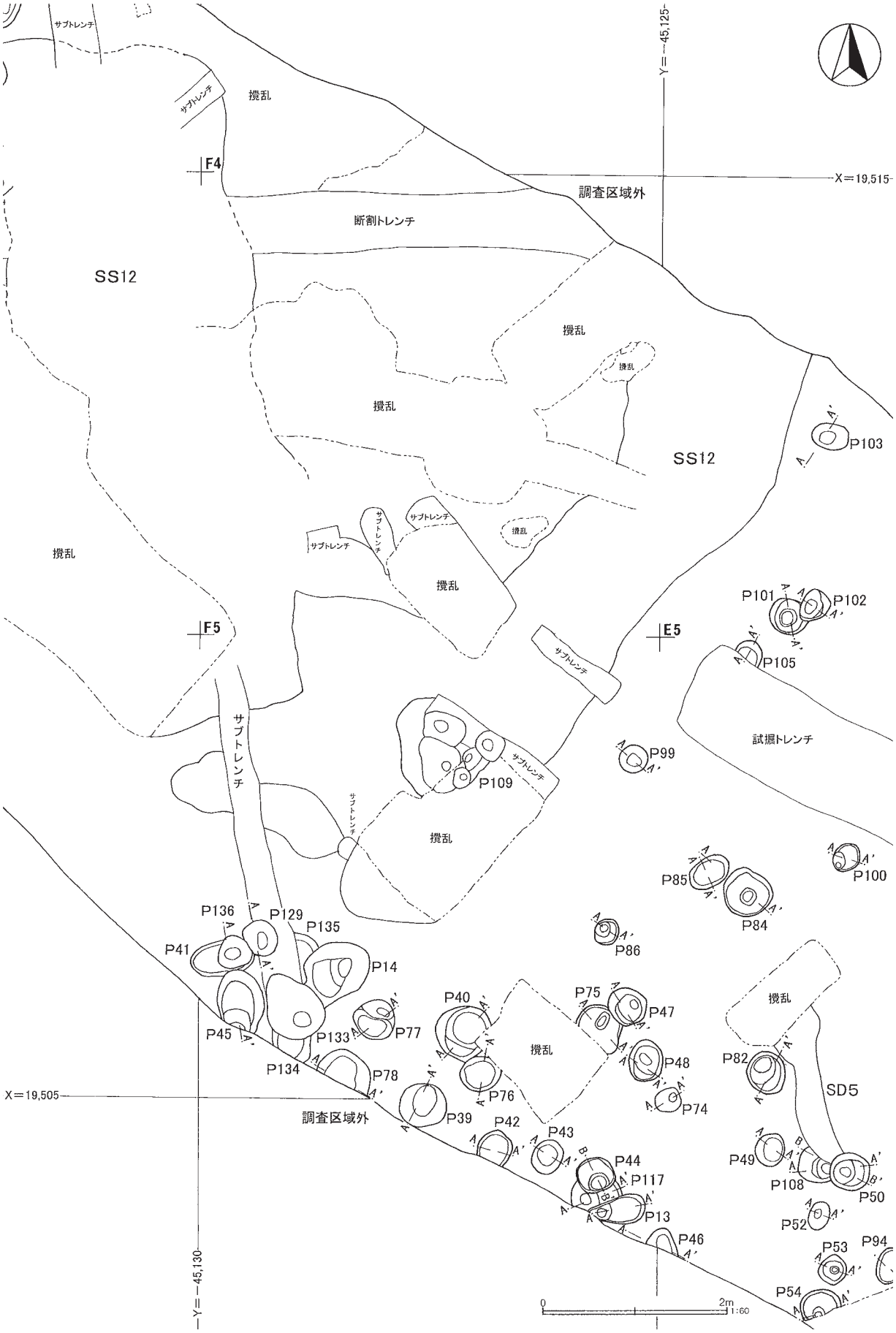
番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
1	H･I-2	楕円形	54 × 40 × 37	なし	—		
2	H-2	楕円形	79 × 56 × 33	なし	—		
3	H-3	円形	48 × 42 × 54	なし	—		
4	A-7	楕円形	46 × 45 × 24	なし	—	SD1	
5	A-7	隅丸方形	〔46〕× 45 × 9	なし	—	SD1、P9	
6	B-7	楕円形	〔44〕× 42 × 48	なし	—	SK1、SD2	
7	B-7	隅丸方形	65 × 58 × 26	なし	—	P8、P58、P107	
8	A･B-7	隅丸方形	67 × 49 × 20	なし	—	P7、P11、P58、P106	
9	A-7	楕円形	34 × 33 × 18	なし	—	P5、SK4	
10	A-7	楕円形	80 × 63 × 23	なし	—	SK5、P97	
11	A･B-7	楕円形	41 × 40 × 25	なし	—	P8、P58	



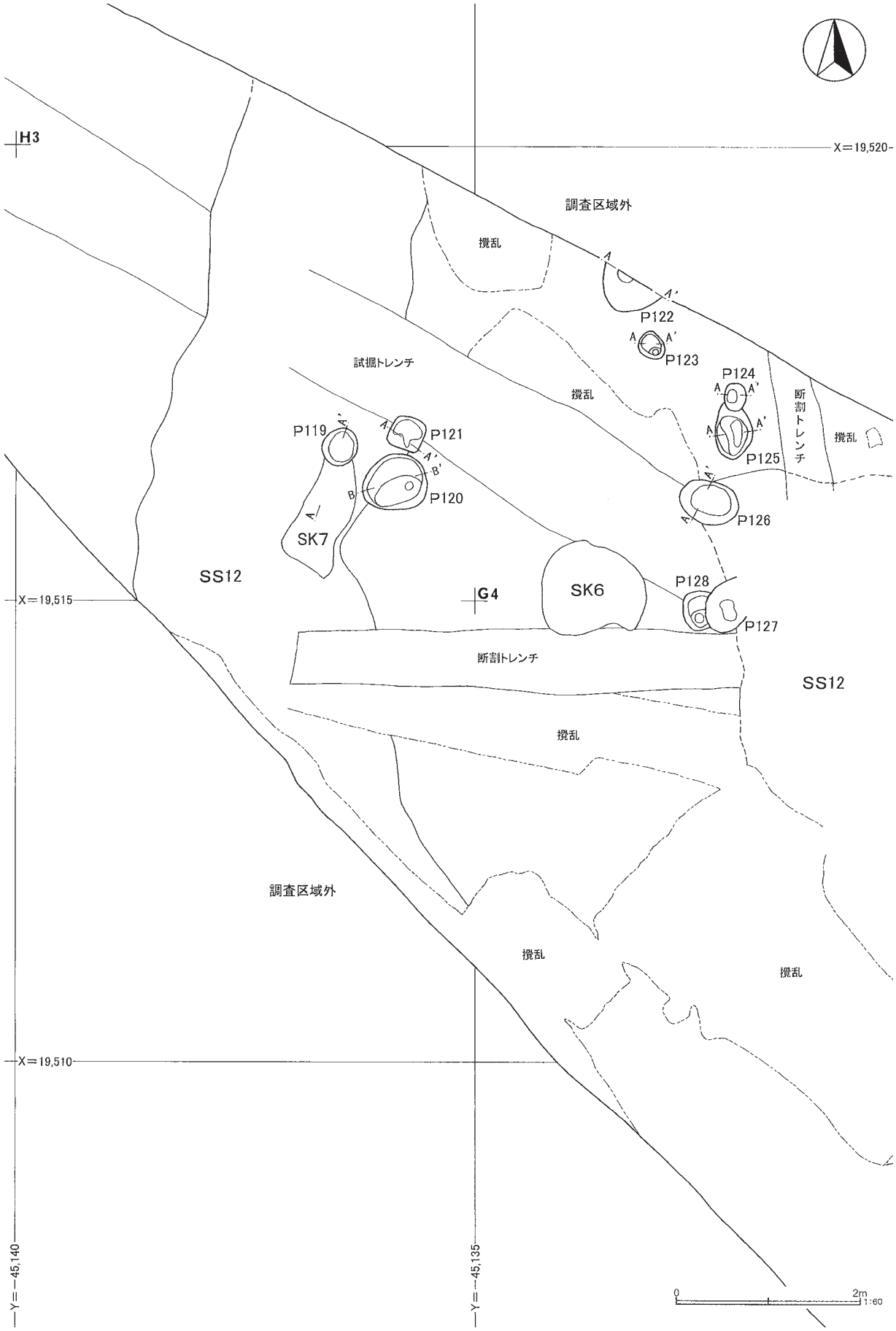
第22図　A区ピット平面図（1）



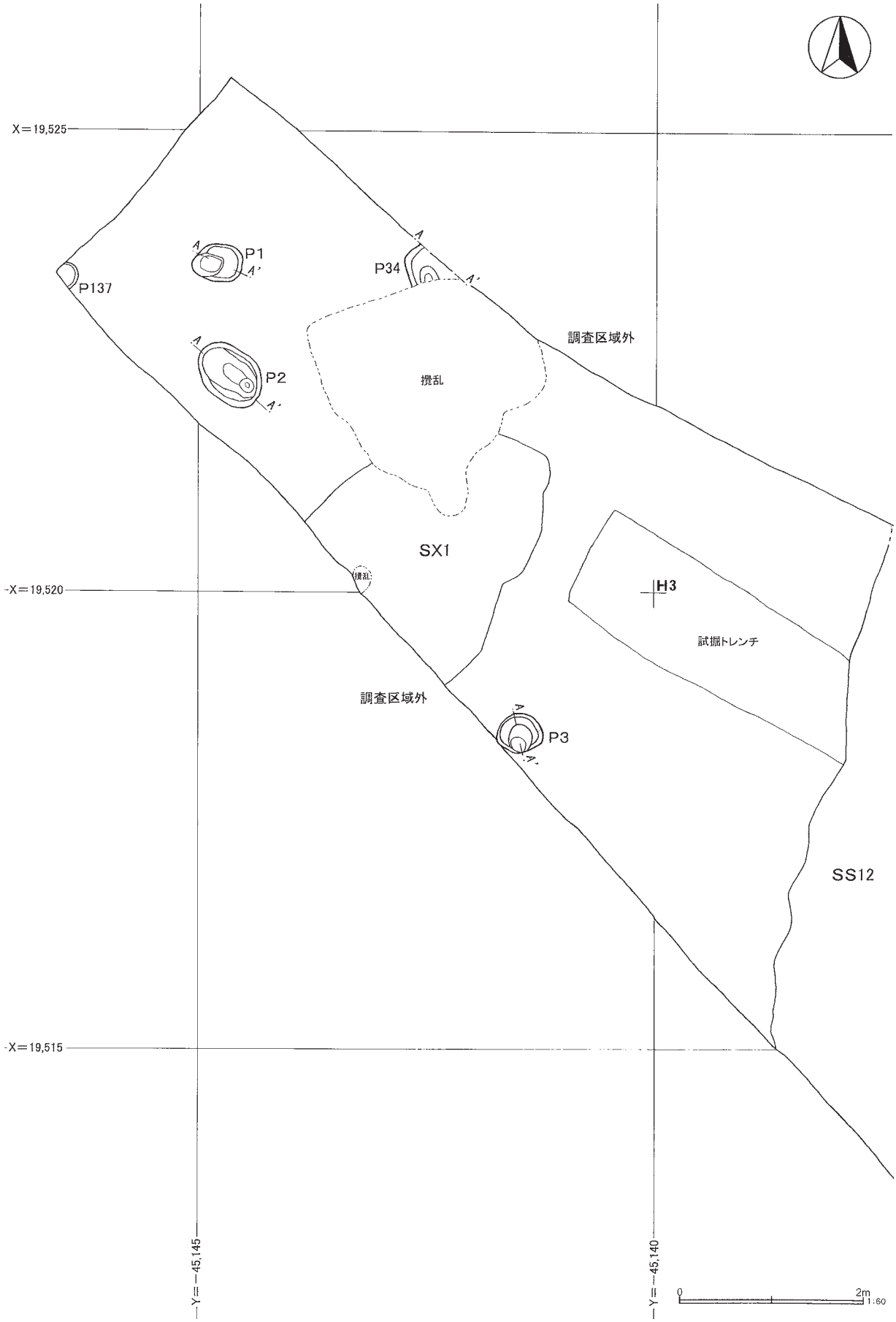
第23図　A区ピット平面図（2）



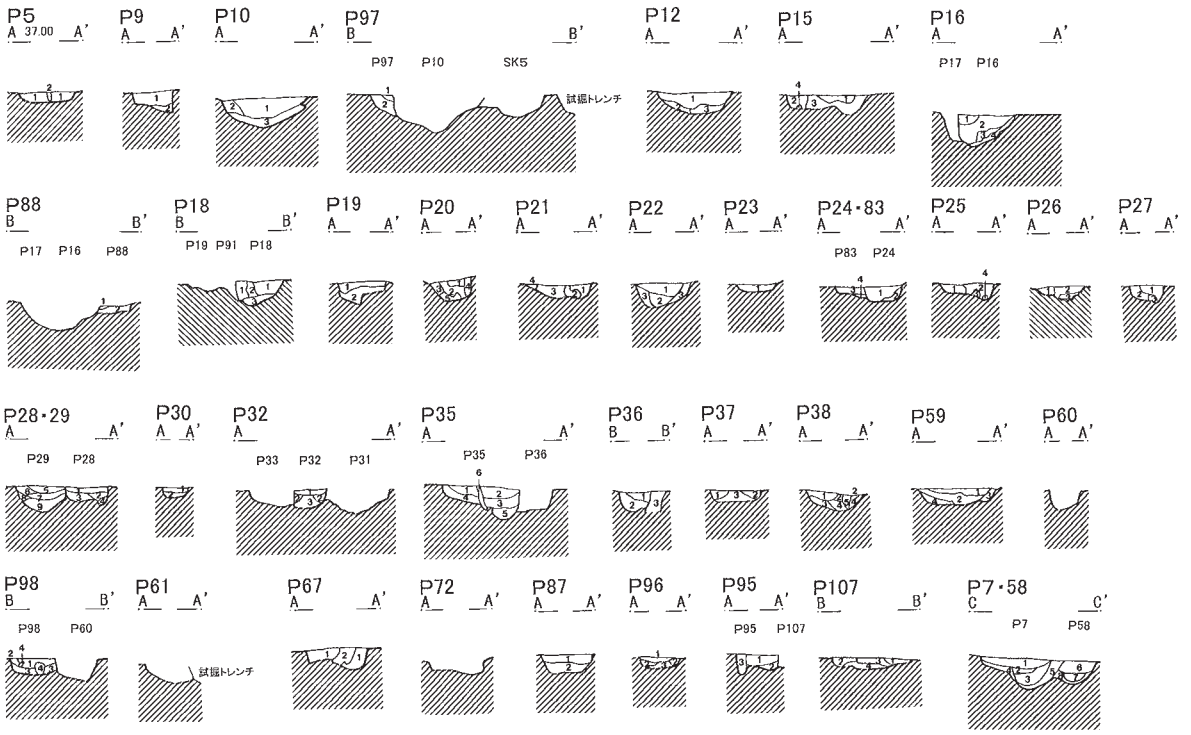
第24図　A区ピット平面図（3）



第25図　A区ピット平面図（4）



第26図　A区ピット平面図（5）



土層説明

P5(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土若干混
2 にぶい黄橙色土

P9(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P10(A-A')
1 黒褐色土
2 灰黄褐色土
3 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P97(B-B')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含

P12(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 黄灰色土　明黄褐色土若干混
3 オリーブ黒色土と明黄褐色土の混合層

P15(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土と明黄褐色土の混合層
3 褐灰色土
4 黒褐色土

P16(A-A')
1 灰黄褐色土
2 黒褐色土
3 明黄褐色土と黒褐色土の混合層
4 明黄褐色土

P88(B-B')
1 黒色土　ソフトローム土ブロック多量含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P18(B-B')
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土若干混
2 褐灰色土
3 明黄褐色土

P19(A-A')
1 暗灰黄色土
2 にぶい黄橙色土　暗灰黄色土混、黄灰色土ブロック、黒褐色土ブロック含

P20(A-A')
1 灰黄褐色土
2 褐灰色土
3 黄灰色土
4 黒褐色土
5 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P21(A-A')
1 黒褐色土とにぶい黄色土の混合層
2 にぶい黄橙色土
3 黒褐色土
4 にぶい黄色土

P22(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土若干混
2 暗灰黄色土
3 黒褐色土　明黄褐色土多量混

P23(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土若干混

P24・83(A-A')
P24
1 オリーブ黒色土
2 オリーブ黒色土と明黄褐色土の混合層
P83
3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P25(A-A')
1 にぶい黄橙色土　黒褐色土若干混
2 黒褐色土
3 灰黄褐色土
4 黒褐色土

P26(A-A')
1 褐灰色土
2 黒褐色土
3 暗灰黄色土

P27(A-A')
1 黒褐色土
2 褐灰色土　にぶい黄橙色土若干混
3 黒褐色土

P28・29(A-A')
P28
1 オリーブ黒色土
2 暗灰黄色土
3 明黄褐色土とオリーブ黒色土の混合層
4 黒褐色土
P29
5 オリーブ黒色土
6 灰黄褐色土
7 黒褐色土
8 にぶい黄橙色土　明黄褐色土ブロック若干含
9 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P30(A-A')
1 暗灰黄色土
2 暗灰黄色土と明黄褐色土の混合層

P32(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土と明黄褐色土の混合層
3 黒褐色土

P35(A-A')
1 灰オリーブ色土
2 黒褐色土　明黄褐色土粒子少量含
3 黒褐色土
4 灰オリーブ色土と明黄褐色土の混合層
5 黒褐色土と明黄褐色土の混合層　褐灰色土粒子含
6 攪乱

P36(B-B')
1 黒褐色土
2 暗灰黄色土　にぶい黄橙色土若干混
3 攪乱

P37(A-A')
1 暗灰黄色土
2 黒褐色土
3 にぶい黄橙色土

P38(A-A')
1 灰黄褐色土
2 暗灰黄色土
3 にぶい黄橙色土
4 暗灰黄色土と明黄褐色土の混合層
5 黒褐色土

P59(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 黒褐色土とにぶい黄橙色土の混合層
3 黒褐色土と明黄褐色土の混合層
4 黒褐色土

P98(B-B')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土混
3 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含
4 ソフトローム土ブロック

P67(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土とにぶい黄橙色土の混合層

P87(A-A')
1 暗褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含

P96(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含

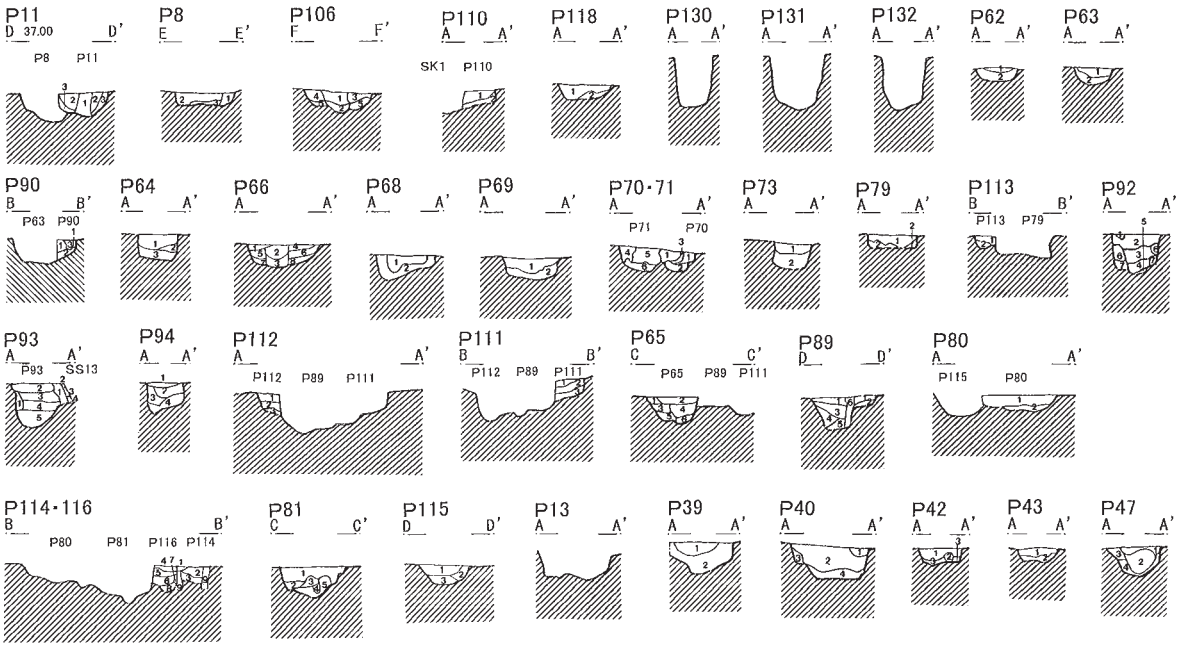
P95(A-A')
1 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土ブロック多量含
3 攪乱

P107(B-B')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
2 暗褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック多量含

P7・58(C-C')
P7
1 黒褐色土
2 暗灰黄色土
3 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土若干混
4 にぶい黄橙色土
5 灰黄褐色土と明黄褐色土の混合層
P58
6 暗灰黄色土
7 黒褐色土と暗灰黄色土の混合層
8 明黄褐色土

0　2m
1:60

第27図　A区ピット土層断面図（1）



土層説明

P11(D-D')
1 黒褐色土と明黄褐色土の混合層
2 褐灰色土
3 にぶい黄橙色土　褐灰色土のブロック含

P8(E-E')
1 灰オリーブ色土
2 オリーブ黒色土　黒褐色土ブロック若干含
3 灰オリーブ色土とオリーブ黒色土の混合層　にぶい黄橙色土若干混

P106(F-F')
1 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
5 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P110(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土ブロック若干含
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土ブロック若干、ソフトローム土粒子若干含

P118(A-A')
1 黒褐色土
2 明黄褐色土　黒褐色土少量混

P62(A-A')
1 暗灰黄色土
2 明黄褐色土と暗灰黄色土の混合層

P63(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 灰オリーブ色土

P90(B-B')
1 暗褐色土　にぶい黄色土微粒子若干、火山灰粒少量含
2 暗褐色土　ソフトローム土粒子若干含
3 攪乱

P64(A-A')
1 暗灰黄色土　オリーブ黒色土少量混
2 暗灰黄色土
3 オリーブ褐色土　にぶい黄橙色土混

P66(A-A')
1 褐灰色土
2 黒褐色土
3 黒褐色土と明黄褐色土の混合層
4 黒褐色土
5 褐灰色土　明黄褐色土少量混
6 黒褐色土
7 明黄褐色土　褐灰色土少量混
8 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P68(A-A')
1 灰黄褐色土
2 オリーブ黒色土

P69(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P70・71(A-A')
P70
1 暗灰黄色土
2 にぶい黄褐色土
3 にぶい黄橙色土
P71
4 オリーブ黒色土　にぶい黄橙色土混
5 黒褐色土
6 にぶい黄褐色土とにぶい黄橙色土の混合層

P73(A-A')
1 灰黄褐色土　黄灰色土ブロック多量、にぶい黄色土粒子若干含
2 褐灰色土　にぶい黄色土粒子少量含

P79(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土ブロックわずかに含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック小若干含

P113(B-B')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土ブロック多量含
2 暗褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子多量含

P92(A-A')
1 攪乱
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック小・粒子少量含
3 暗褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子・微粒子少量含
4 褐灰色土　ソフトローム土微粒子少量含
5 黒褐色土　ソフトローム土ブロック多量含
6 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子多量含
7 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P93(A-A')
1 攪乱
2 黒褐色土　ソフトローム土微粒子多量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子若干含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含
5 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含

P94(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック多量含
2 黄灰色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
3 褐灰色土
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子・ブロック下層付近に少量含

P112(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P111(B-B')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック多量含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック多量、黒褐色土ブロック若干含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含

P65(C-C')
1 黒褐色土と灰黄褐色土の混合層
2 灰黄褐色土
3 黒褐色土　灰黄褐色土、にぶい黄褐色土混
4 黒褐色土
5 明黄褐色土と黒褐色土の混合層
6 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P89(D-D')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずかに含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずかに含
3 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずかに含
4 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずかに含
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土微粒子多量含
6 攪乱

P80(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック・粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P114・116(B-B')
P114
1 褐灰色土
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック多量含
P116
4 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
5 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
6 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
7 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子多量含
8 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック小少量含
9 攪乱

P81(C-C')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック・粒子若干含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
4 黒色土
5 にぶい黄褐色土

P115(D-D')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子若干、ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック多量含
3 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック多量含

P39(A-A')
1 黒褐色土　明黄褐色土粒子若干含
2 黒褐色土　明黄褐色土ブロック少量含

P40(A-A')
1 暗灰黄色土
2 黒褐色土
3 オリーブ褐色土と黒褐色土の混合層
4 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

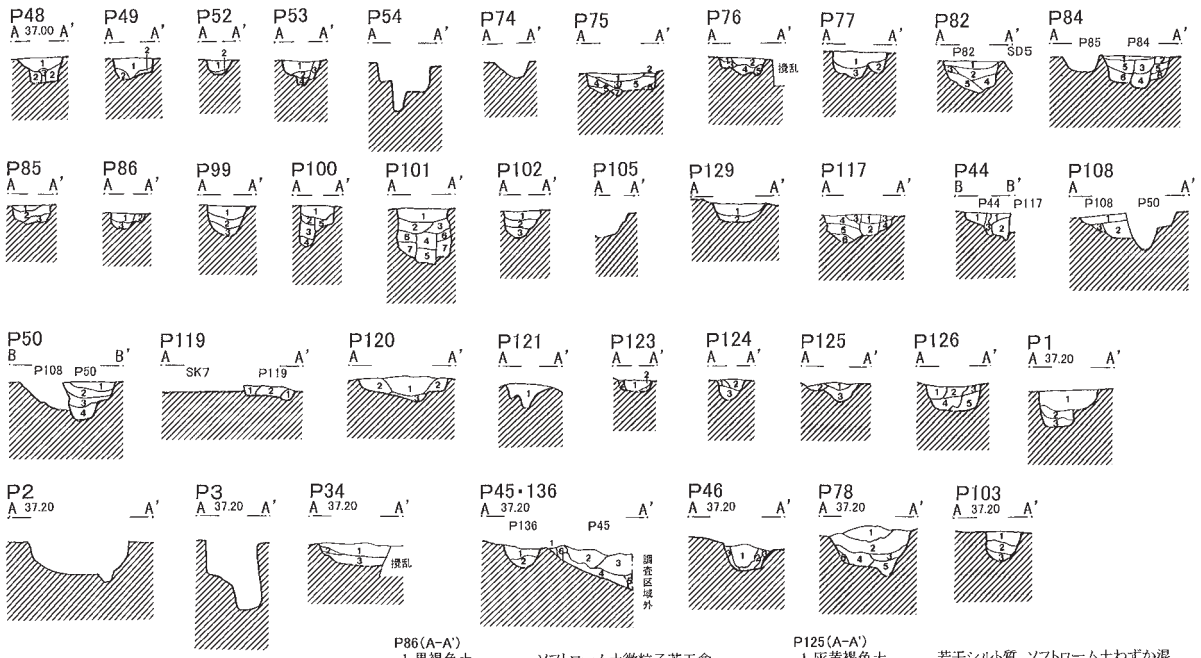
P42(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層
3 にぶい黄褐色土

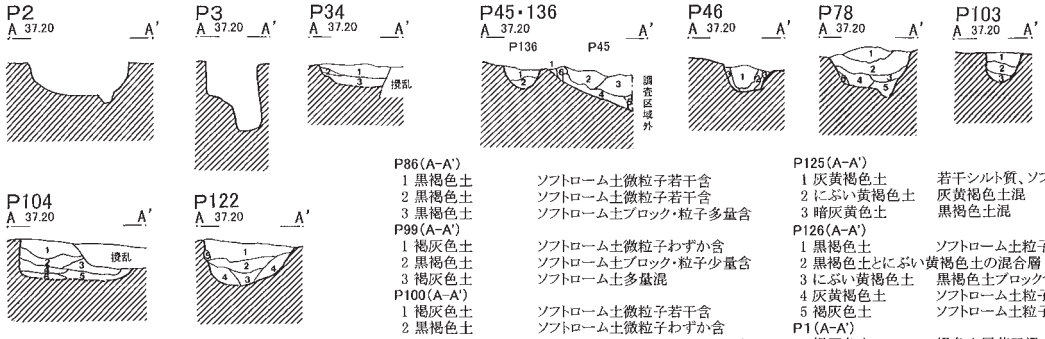
P43(A-A')
1 暗灰黄色土
2 暗灰黄色土　ソフトローム土混

P47(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 黒褐色土
3 灰黄褐色土
4 明黄褐色土と黒褐色土の混合層

0　2m
1:60

第28図　A区ピット土層断面図（2）





土層説明

P48(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 暗灰黄色土
3 撹乱

P49(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 暗灰黄色土

P52(A-A')
1 褐灰色土
2 灰黄褐色土

P53(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 オリーブ黒色土
3 黒褐色土
4 明黄褐色土とオリーブ黒色土の混合層

P75(A-A')
1 黒色土　にぶい黄褐色土混、浅黄色粘質土ブロック小わずか含
2 灰黄褐色土
3 黄灰色粘質土
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
5 にぶい黄褐色土　色土ブロックわずか含
6 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
7 黒褐色土ブロック

P76(A-A')
1 暗灰黄色土
2 黒褐色土
3 明黄褐色土と暗灰黄色土の混合層
4 灰黄褐色土
5 黒褐色土

P77(A-A')
1 暗オリーブ褐色土
2 灰黄褐色土
3 灰黄褐色土とにぶい黄橙色土の混合層

P82(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロックわずか含
3 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
4 暗褐色土　ソフトローム土ブロック少量含
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック多量、黒褐色土ブロック少量含

P84(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含
2 暗褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
3 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
5 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子若干含
6 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含

P85(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土微粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含

P86(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
2 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含

P99(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
3 褐灰色土　ソフトローム土多量混

P100(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土微粒子若干含
2 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
3 灰黄色土　ソフトローム土微粒子若干、黒褐色土ブロック若干含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子若干含

P101(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄橙色帯びる
2 灰黄褐色土
3 褐灰色土
4 暗褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
5 黒色土　ソフトローム土ブロック大・粒子多量含
6 黒褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
7 黒褐色土　ソフトローム土ブロック小・粒子少量含

P102(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 暗褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子若干含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含

P129(A-A')
1 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含

P117(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土　黒褐色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子わずか含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
4 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
5 暗褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子多量含
6 暗褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック小少量含

P44(B-B')
1 褐灰色土
2 黒褐色土
3 撹乱

P108(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土ブロック小わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含

P50(B-B')
1 にぶい黄褐色土
2 暗灰黄色土
3 黒褐色土
4 黒褐色土と明黄褐色土の混合層

P119(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P120(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
2 にぶい黄橙色土　黒褐色土多量混
3 黒褐色土

P121(A-A')
1 オリーブ褐色土　浅黄色土少量混

P123(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子含

P124(A-A')
1 褐灰色土　若干シルト質
2 にぶい黄褐色土
3 黒褐色土

P125(A-A')
1 灰黄褐色土　若干シルト質、ソフトローム土わずか混
2 にぶい黄褐色土　灰黄褐色土混
3 暗灰黄色土　黒褐色土混

P126(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
5 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含

P1(A-A')
1 褐灰色土　褐色土層若干混
2 褐灰色砂質土とにぶい橙色土の混合層
3 にぶい橙色土　一部褐灰色土混

P34(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
2 暗灰黄色土
3 暗オリーブ褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子若干含

P45・136(A-A')
P45
1 黒褐色土
2 暗褐色土　にぶい黄褐色土ブロック少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック大・粒子若干含
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック大多量含
5 黒色土　ソフトローム土粒子若干含
6 撹乱
P136
1 黒褐色土　黒褐色土ブロック大若干含
2 ソフトローム土ブロック

P46(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 にぶい黄褐色土
3 灰黄褐色土

P78(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子下層付近に若干含
3 灰黄褐色土　黒色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子若干含
4 にぶい黄褐色土　黒色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
5 にぶい黄褐色土　黒色土ブロック多量(全体の70%程占める)、ソフトローム土粒子多量含

P103(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック・粒子少量含
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロックわずか含

P104(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土粒子若干含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック小わずか含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒わずか含
4 黒色土　にぶい黄褐色土粒子わずか含
5 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含
6 黒褐色土　ソフトローム土ブロック若干含

P122(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子微量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子含
5 黒褐色土ブロック

0 2m
1:60

第29図　A区ピット土層断面図（3）

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
12	B-7	隅丸方形	61 × 56 × 18	なし	—		
13	E-6	楕円形	〔59〕× 26 × 23	なし	—	P117	
14	E-5	不整形	〔72〕× 60 × 35	なし	—	P133、P135	
15	A-7	隅丸方形	70 ×〔48〕× 16	なし	—	SK5	
16	A-6	楕円形	49 × 40 × 24	なし	—	P17、P88	
17	A-6	円形？	〔35〕×〔19〕× 22	なし	—	P16	
18	A-6	円形	49 × 42 × 19	なし	—	P91	
19	A-6	楕円形	39 × 23 × 17	なし	—	P91	
20	A-6	楕円形	32 × 31 × 16	なし	—		
21	A-6	楕円形	55 × 41 × 16	なし	—		
22	A-6	楕円形	45 × 34 × 19	なし	—		
23	A-6	楕円形	34 × 28 × 6	なし	—		
24	A-6	楕円形	30 × 29 × 12	なし	—	P83	
25	A-6	楕円形	44 × 34 × 15	なし	—		
26	A-6	楕円形	42 × 36 × 11	なし	—		
27	A-6	楕円形	33 × 30 × 14	なし	—		
28	A-6	楕円形	36 × 33 × 14	なし	—	P29	
29	A-6	楕円形	(45) × 41 × 21	なし	—	P28	
30	A-6	円形	20 × 20 × 8	なし	—		
31	A-6	円形	56 × 54 × 16	なし	—	P32	
32	A-6	円形	30 × 30 × 15	なし	—	P31、P33	
33	A-6	楕円形	(48) × 35 × 14	なし	—	P32	
34	H-2	隅丸方形？	〔58〕×〔38〕× 21	なし	—		
35	A-6	楕円形	59 × 54 × 26	なし	—	P36	
36	A-6	楕円形	(30) × 27 × 15	なし	—	P35	
37	A-6	三角形	45 × 43 × 8	なし	—		
38	A-6	楕円形	47 × 44 × 13	なし	—		
39	E-5･6	楕円形	51 × 49 × 25	なし	—		
40	E-5	楕円形	60 × 56 × 27	なし	—	P76	
41	E･F-5	楕円形	〔32〕× 34 × 7	なし	—	P45、P136	
42	E-6	楕円形？	35 ×〔33〕× 13	なし	—		
43	E-6	楕円形	38 × 34 × 12	なし	—		
44	E-6	隅丸方形	37 × 36 × 22	なし	—	P117	
45	E-5	楕円形	〔66〕× 51 × 32	なし	—	P137	
46	D･E-6	楕円形？	〔36〕×〔24〕× 42	なし	—		
47	E-5	楕円形	39 × 34 × 31	なし	—	P75	
48	D･E-5	楕円形	46 × 36 × 28	なし	—		
49	D-6	楕円形	34 × 31 × 18	なし	—		
50	D-6	楕円形	43 × 40 × 30	なし	—	SD5、P108	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
51	C-5	不明	〔65〕× 17 × 22	なし	—		
52	D-6	楕円形	30 × 21 × 11	なし	—		
53	D-6	円形	32 × 30 × 19	なし	—		
54	D-6	楕円形？	44 ×〔28〕× 36	なし	—		
55	B-7	楕円形？	24 ×〔11〕× 13	なし	—		
56	B-7	楕円形？	38 ×〔25〕× 28	なし	—		
57	B-7	円形？	〔37〕× 34 × 20	なし	—		
58	B-7	隅丸方形？	51 ×〔31〕× 17	なし	—	P7、P8、P11、P107	
59	B-7	隅丸方形	58 × 53 × 13	なし	—	P98	
60	A-7	楕円形	34 × 26 × 16	なし	—	P98	
61	A-7	不明	〔72〕× 37 × 13	なし	—		
62	C-6	楕円形	39 × 35 × 11	なし	—		
63	C-6	楕円形	35 × 30 × 18	なし	—	P90	
64	C-6	円形	33 × 31 × 28	なし	—		
65	C-6	楕円形	43 × 33 × 22	なし	—	P89	
66	C-6	円形	60 × 57 × 24	なし	—		
67	B-7	楕円形	50 × 37 × 17	なし	—		
68	B-7	隅丸方形	48 × 35 × 19	なし	—		
69	B-7	楕円形	54 × 40 × 19	なし	—		
70	B･C-7	楕円形	38 × 29 × 16	なし	—	P71	
71	C-7	楕円形	44 × (35) × 18	なし	—	P70	
72	B-7	楕円形	45 × 38 × 12	なし	—	P110	
73	C-7	楕円形	35 × 29 × 20	なし	—		
74	D･E-5･6	楕円形	30 × 26 × 13	なし	—		
75	E-5	隅丸方形	50 ×〔40〕× 16	なし	—	P47	
76	E-5	楕円形	44 × 36 × 13	なし	—	P40	
77	E-5	円形	45 × 45 × 21	なし	—		
78	E-5･6	不明	60 ×〔36〕× 37	なし	—		
79	D-6	楕円形	45 × 43 × 10	なし	—	P113	
80	C-6	楕円形	61 × 52 × 13	なし	—	P81、P115	
81	C-6	隅丸方形	56 × 53 × 26	なし	—	P80、P116	
82	D-5･6	楕円形	45 × 42 × 33	なし	—		
83	A-6	楕円形	32 × (31) × 8	なし	—	P24	
84	D-5	楕円形	52 × 51 × 25	なし	—		
85	D-5	楕円形	46 × 29 × 14	なし	—		
86	E-5	隅丸方形	28 × 27 × 12	なし	—		
87	A･B-6	円形？	42 ×〔20〕× 14	なし	—		
88	A-6	楕円形	(37) × 28 × 6	なし	—	P16	
89	C-6	楕円形	67 × 52 × 26	なし	—	P65、P111、P112	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
90	C-6	楕円形？	(35) × 31 × 20	なし	—	P63	
91	A-6	円形？	31 ×〔12〕× 13	なし	—	P18、P19	
92	D-6	楕円形	39 × 37 × 32	なし	—		
93	D-5	楕円形	〔50〕× 54 × 37	なし	—	SS13	
94	D-6	楕円形	41 × 26 × 25	なし	—		
95	B-7	隅丸方形	34 × 33 × 11	なし	—	P107	
96	B-7	隅丸方形	40 × 33 × 9	なし	—		
97	A-7	隅丸方形？	57 ×〔44〕× 15	なし	—	P10	
98	A･B-7	楕円形	〔40〕×〔38〕× 12	なし	—	P59、P60	
99	E-5	円形	32 × 30 × 24	なし	—		
100	D-5	楕円形	32 × 27 × 33	なし	—		
101	D-4	楕円形	44 × 38 × 44	なし	—	P102	
102	D-4	台形	38 × 27 × 20	なし	—	P101	
103	D-4	楕円形	41 × 38 × 23	なし	—		
104	D-6	隅丸方形	〔90〕×〔55〕× 51	なし	—	SD4	
105	D-5	円形？	32 ×〔22〕× 20	なし	—		
106	A･B-7	不整形	〔45〕× 52 × 15	なし	—	SD1、P8	
107	B-7	不明	66 ×〔45〕× 8	なし	—	P7、P58、P95	
108	D-6	楕円形？	〔36〕×〔36〕× 16	なし	—	SD5、P50	
109	E-5	不整形	105 × 102 × 60	なし	—	SS12	
110	B-7	不整形	38 ×〔28〕× 17	なし	—	SK1、P72	
111	C-6	楕円形	50 ×〔19〕× 16	なし	—	P89	
112	C-6	円形？	41 ×〔18〕× 16	なし	—	P89	
113	D-6	楕円形？	26 ×〔18〕× 10	なし	—	P79	
114	C-6	円形	25 × 24 × 13	なし	—	P116	
115	C･D-6	楕円形	73 × 45 × 16	なし	—	P80	
116	C-6	楕円形	(45) × 38 × 19	なし	—	P81、P114	
117	E-6	楕円形？	53 ×〔34〕× 22	なし	—	P44、P118	
118	B-7	楕円形	50 × 39 × 12	なし	—		
119	G-3	円形	41 × 37 × 10	なし	—	SK7	SS12墳丘下
120	G-3	楕円形	70 × 60 × 20	なし	—		SS12墳丘下
121	G-3	隅丸方形	36 × 36 × 19	なし	—		SS12墳丘下
122	F-3	円形？	72 ×〔38〕× 34	なし	—		SS12墳丘下
123	F-3	楕円形	30 × 28 × 8	なし	—		SS12墳丘下
124	F-3	楕円形	30 × 24 × 16	なし	—	P125	SS12墳丘下
125	F-3	楕円形	(65) × 41 × 26	なし	—	P124	SS12墳丘下
126	F-3	楕円形	63 × 49 × 20	なし	—		SS12墳丘下
127	F-3･4	楕円形	〔50〕× 50 × 20	なし	—	P128	SS12墳丘下
128	F-3･4	楕円形	42 × (35) × 17	なし	—	P127	SS12墳丘下

規模単位：㎝

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
129	E-5	楕円形	39 × 33 × 17	なし	—	P136	
130	B-5	円形	30 × 30 × 40	なし	—		SS13墳丘下
131	B-5	三角形	43 × 37 × 43	なし	—		SS13墳丘下
132	B-5	円形	37 × 34 × 42	なし	—		SS13墳丘下
133	E-5	楕円形	76 × 59 × 29	なし	—	P14、P134	
134	E-5	隅丸方形？	40 ×〔20〕× 10	なし	—	P133	
135	E-5	不明	(55) ×〔22〕× 7	なし	—	P14	
136	E-5	三角形	34 ×〔34〕× 17	なし	—	P129、P41	
137	I-2	円形？	〔23〕×〔21〕× 10	なし	—		

（6） 性格不明竪穴遺構

第１号性格不明竪穴遺構（第30図）

調査区の西部南寄り、Ｈ－２・３グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,515～19,525、Ｙ＝－45,140～－45,145内にある。単独で所在するが、北西部が大きく攪乱を受けていた。

規模は、南部が調査区域外となっているため詳細は不明であるが、検出長軸2.52ｍ、短軸2.05～2.33ｍを測る。平面形は、おおよそ長方形をなすと推定される。

底面は、概ね平坦であるが、北東部から二段のゆるやかな段をもって、南西部から一段のゆるやかな段をもって深くなり双方から最深部に至る。深さは、土層断面観察から0.23～0.39ｍを測る。最深部は、一段浅い底面とは約７㎝の落差をもって深くなる。埋土については、概ね明灰黄色土、灰黄褐色土、黒褐色土、褐灰色土の順に、ややレンズ状に水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第２号性格不明竪穴遺構（第30図）

調査区の東部中央寄り、Ｂ・Ｃ－６グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,500～19,505、Ｙ＝－45,110～－45,120内にある。

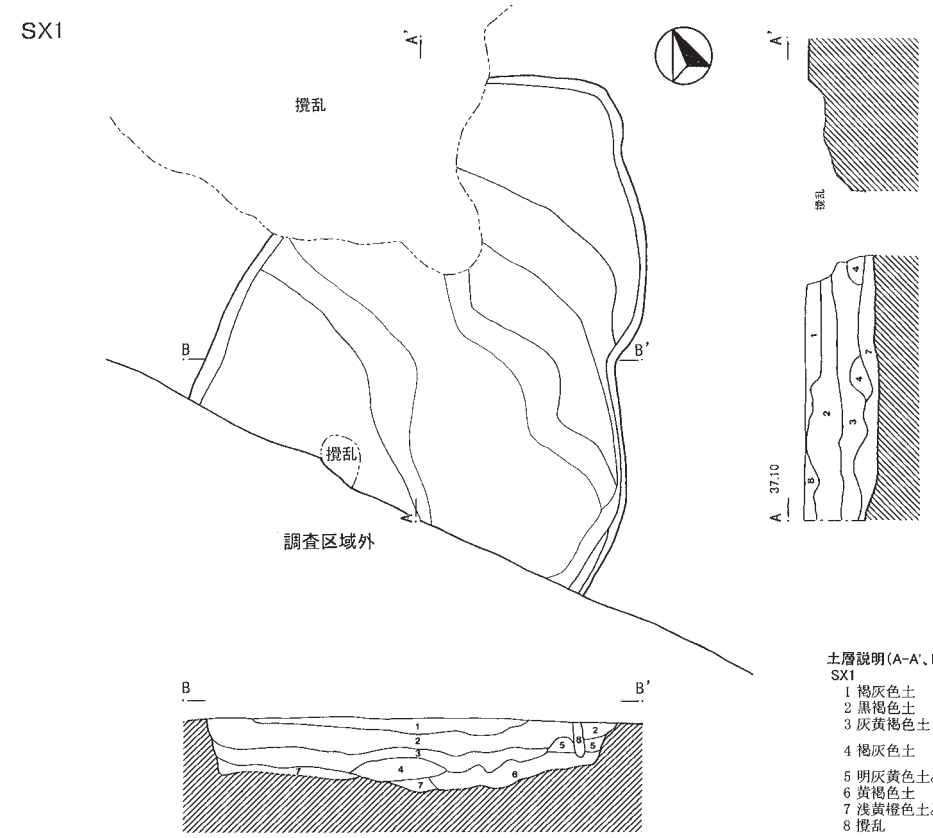
第６号溝跡及び第13号墳南西部周溝と重複関係にあり、本遺構がいずれにも切られている。また、北側は試掘トレンチにより壊されているため、第13号墳の墳丘との関係は不明である。

規模は、前述の状況から北側が不明であるが、東西軸3.12ｍ、残存南北軸0.66～1.59ｍを測る。平面形は、おおよそ隅丸長方形をなすと推定される。

底面は、残存している東西及び南側の掘り方の際が幅約15～60㎝の平坦部をもち、中央部に向かって深くなり、最深部がほぼ平坦になっている。深さは、土層断面観察から周囲の平坦部が0.09ｍ、最深部が0.26～0.36ｍを測る。埋土については、概ね黒褐色土、黒色土、黒褐色土の順にほぼ水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

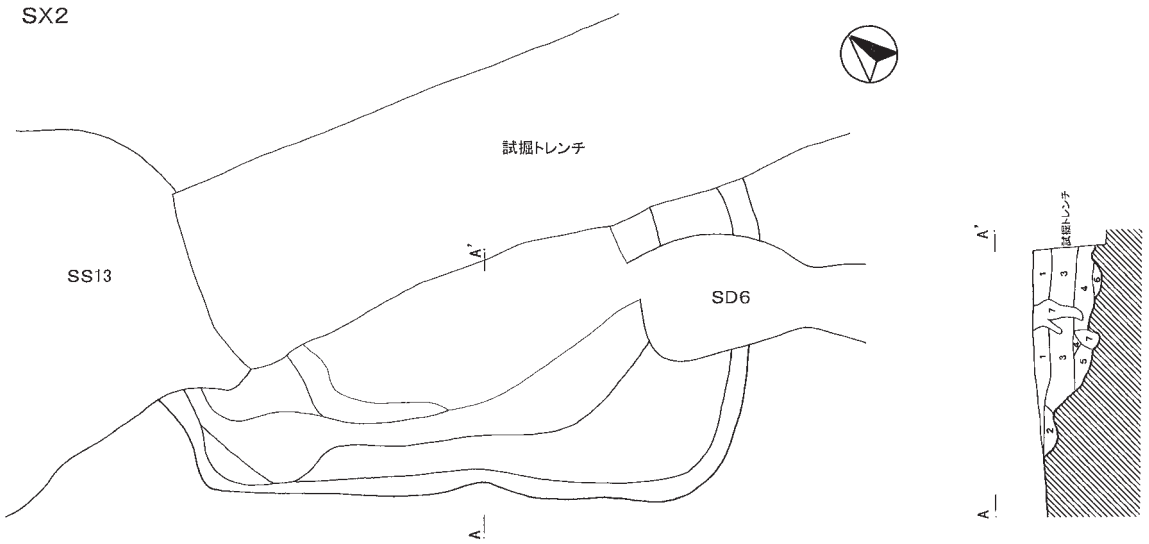
なお、検出状況からは、第６号溝跡が接続するような形での検出であるので、一見双方が一体として機能した遺構のようにも見える。

出土遺物は、検出できなかった。



土層説明(A-A'、B-B')
SX1

1 褐灰色土	灰白色土ブロック少量含
2 黒褐色土	
3 灰黄褐色土	
4 褐灰色土	ハードローム土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含
5 明灰黄色土とにぶい黄褐色土の混合層	
6 黄褐色土	ソフトローム土粒子少量含
7 浅黄橙色土と明灰黄色土の混合層	
8 撹乱	



土層説明(A-A')
SX2

1 黒褐色土	浅黄色粘質土粒子若干、ソフトローム土微粒子若干含
2 黒褐色土	にぶい黄褐色土混
3 黒色土	ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒わずか含
4 黒褐色土	黒色土ブロック多量、にぶい黄褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
5 灰黄褐色土	黒色土粒子少量、ソフトローム土粒子ごくわずか含
6 暗灰黄色土	黒色土粒子多量含
7 撹乱	

0 1m 1:40

第30図　第１・２号性格不明竪穴遺構

2　Ｂ区の調査

調査区は、東西幅約20～25ｍ、南北幅約20ｍの台形状で、籠原裏遺跡遺跡範囲の中央部南端に位置し、籠原裏古墳群遺跡範囲においては最南西端に位置する。調査区の座標は、Ｘ＝19,470～19,500、Ｙ＝－45,110～－45,145内にあり、グリッドについてはＢ～Ｈ－７～12グリッド内にある（第31図）。

調査区周辺の標高は約37.5ｍで、遺構確認面までの深さは、古墳の墳丘か所で約0.75～1.37ｍ、その他の遺構か所で約1.10～1.27ｍあった。

基本土層は、現地表面から、第Ａ層：旧駐車場路盤砕石、第Ｂ層：盛土、第Ｃ層：灰オリーブ色粘質土、第Ｄ・Ｅ層：暗灰黄色粘質土、第Ｆ層：浅黄色粘質土（シルト質）、第Ｇ層：暗灰黄色粘質土（シルト質）、第Ｈ層：黒褐色土（粘性有り）、第Ｉ層：灰黄褐色土、第Ｊ層：にぶい黄褐色土であり、以下は第Ｋ層：ソフトローム土が堆積し、第Ｉ層または第Ｋ層面が集落跡の遺構確認面であった。また、第Ｆ層は厚さ14～21㎝をもち、Ａ区基本土層第Ｇ層と同様に、中世段階の洪水層と想定され、古墳の墳丘はこの層に覆われていた。さらに、第Ｈ層は厚さ12～16㎝をもち、今回の調査では遺物を伴わないが、遺跡内の過去の調査成果から、Ａ区と同様に遺物包含層に相当する層であると思われる。加えて、Ｂ区の遺物包含層相当層は、北側のＡ区より厚みがなくなることから、現況での籠原裏遺跡の範囲が示すとおり、Ｂ区近辺が遺跡の縁辺部になっていくことの裏付けともなると思われる。なお、基本土層を観察し、図示したか所は調査区中央部南端である（第32・58図）。

（１）　古墳

第14号墳（第33～37図）

位置・状態

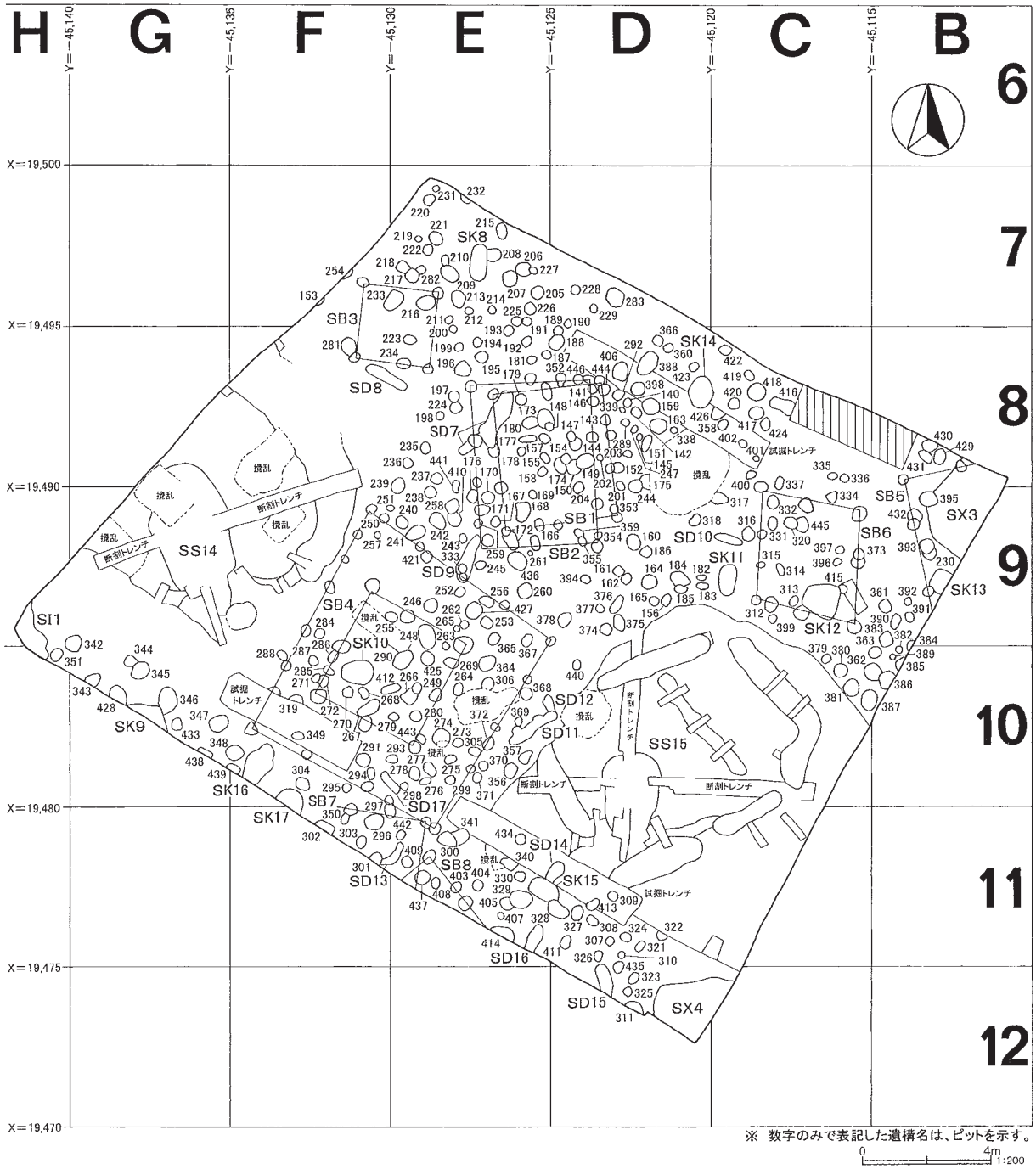
調査区西部、Ｆ～Ｈ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝－45,130～－45,145内にある。現在確認されている15基の古墳のうち最南西端にあり、東に隣接して第15号墳、北約25ｍに第12号墳、北東約35ｍに第13号墳が所在する。なお、これまで最南端であった第８号墳からの距離は、約105ｍである。

他遺構とは重複関係になく、単独で所在する。なお、墳丘の一部、主体部（石室の玄室）の一部が後世の攪乱を受け著しく破壊されていた。また、墳丘の西側が攪乱を受けている上に、表土除去の際に削平をしてしまい墳丘が失われる状況になった。

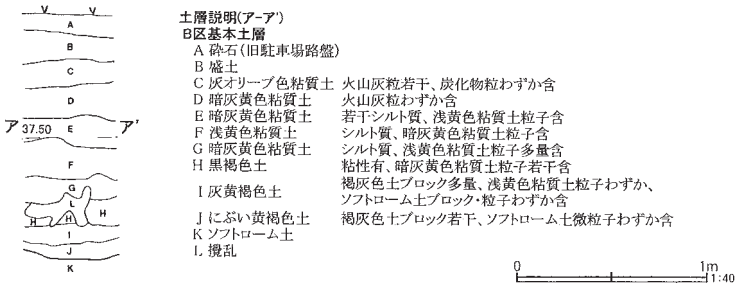
墳丘・外部施設（第33～35図）

墳丘は、現地表面下約0.75～1.25ｍで検出された。前述のとおり墳丘の一部が破壊を受けており、墳頂部も既に削平されていた。葺石については、東側の周溝内に礫が数個検出されたが、葺石が葺かれていた積極的な証拠とはならないと思われる。

墳丘の規模は、相対する東西の周溝間で約8.70ｍ、石室奥壁の中心から周溝までの距離を墳丘半径として考えると約8.48ｍを測る。墳丘盛土は、主体部の構築に合わせて、下から概ねにぶい黄褐色土、灰黄褐色土、にぶい黄橙色土、灰黄褐色土の順でほぼ水平に盛り、その上ににぶい黄褐色土、灰黄褐色土、黒褐色土等を主体部寄りから外側へ積み重ねていったようである。いずれの層にも褐灰色土、にぶい黄褐色土、黒褐色土、ソフトローム土ブロック・粒子等の混入物を含む。盛土は、全体的にしまりがあまり良くない。また、墳丘断割りトレンチでの観察ではあるが、ソフトローム土直上の墳丘盛土を貫くよ



第31図　B区全測図



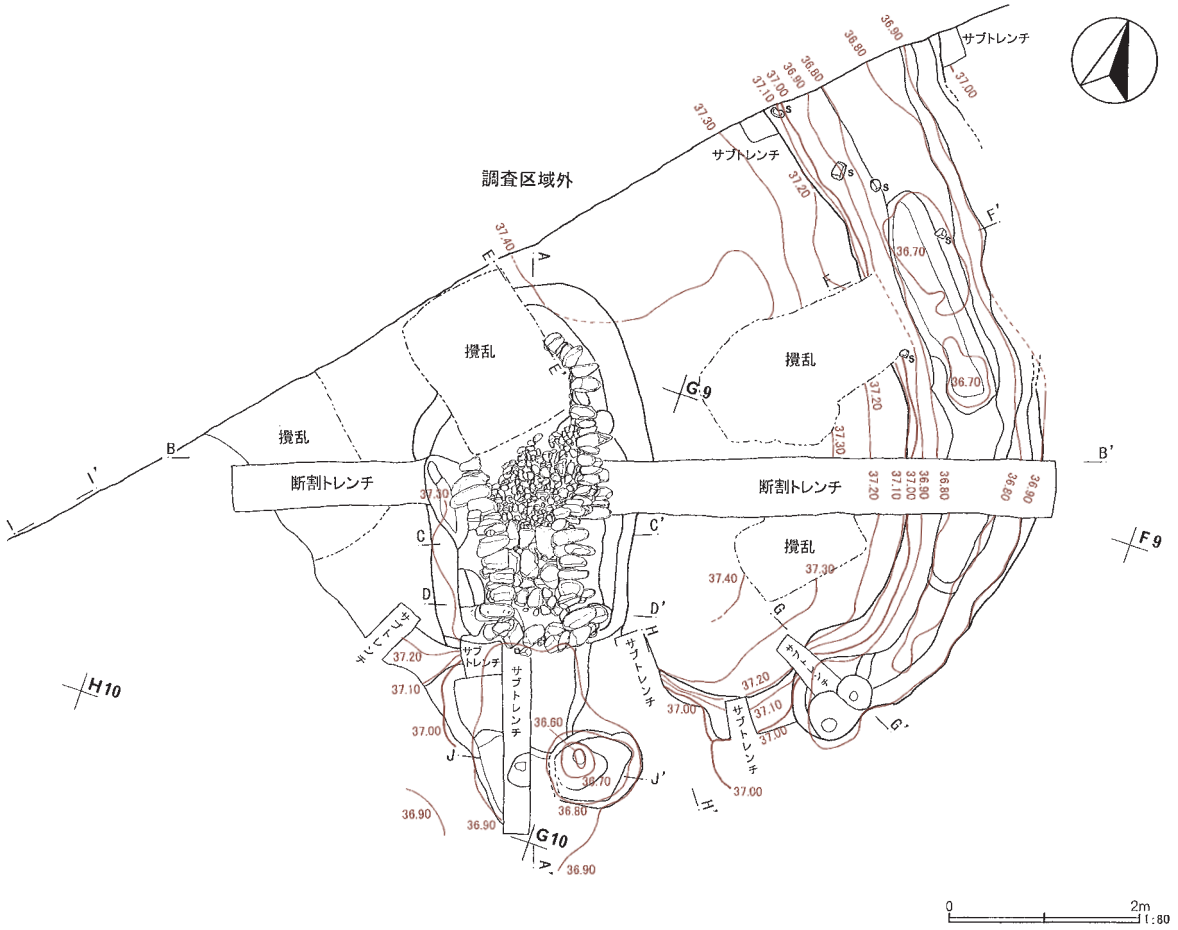
第32図　B区基本土層図

うに大きく植物の根による攪乱層が見受けられた。

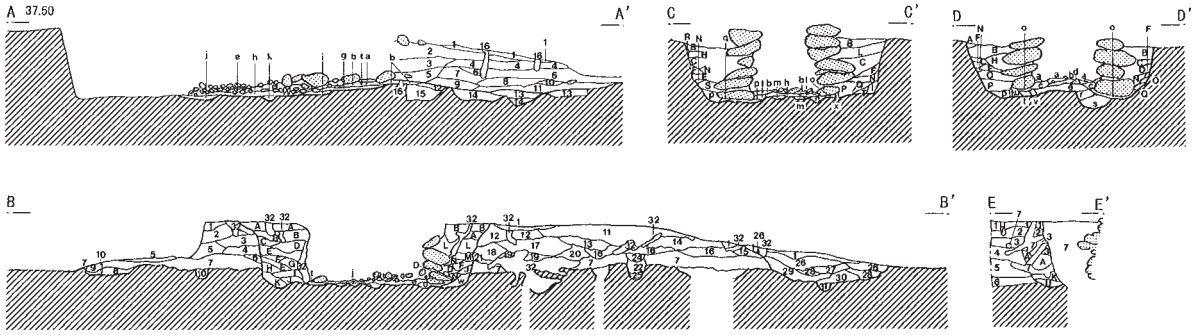
周溝は、現地表面下約0.85～1.25ｍで検出された。北部及び北西部は調査区域外にあり、東側及び南西側の状況からではあるが、主体部・石室前庭部前は途切れているようで、前庭部前を除き全周していた可能性が考えられる。平面形は、東側に検出されたか所を見る限り、第12・13号墳のそれとは異なり円形を意識していると考えられた。周溝を含む規模は、相対する東西の周溝間で約10.70ｍ、石室奥壁の中心から周溝までの距離を半径として考えると約10.60ｍを測る。なお、半径の距離は東溝までのそれよりも西溝までの距離の方が約１ｍ長い。上面幅は0.98～2.00ｍ、深さは0.30～0.35ｍを測る。残存していた東側の周溝の観察からではあるが、断面形は、舟底または逆台形の平底をなすが、底面の一部がさらに掘り込まれているか所もあり、最深の数値はそのか所である。また、立ち上がりの状況は、内外側とも急峻気味で、第12号墳のような墳丘との境には犬走り状の平坦部は確認できなかった。また、外側の立ち上がりは、立ち上がりきるまでの途中に幅10～20㎝ほどの平坦部を造っているようである。周溝内には、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、黒褐色土等が主体で堆積しており、その上に本古墳群及び本遺跡を覆う黒褐色土、灰黄褐色土等が堆積していた。墳丘及び周溝から埴輪の検出はなかった。

主体部（第34・36・37図）

主体部は、川原石を乱石積みした胴張型の横穴式石室である。天井部は既に失われ、玄室奥壁から左側壁にかけては後世の攪乱により破壊されていた。なお、奥壁の状況は、いわゆる鏡石があったか否か



第33図　第14号墳



土層説明(A-A')
SS14

1 暗灰黄色土	浅黄色粘質土ブロックわずか、浅黄色粘質土微粒子若干、火山灰粒わずか含
2 暗灰黄色土	浅黄色粘質土微粒子少量、ソフトローム土粒子ごくわずか含
3 オリーブ黒色土	浅黄色粘質土微粒子若干、ソフトローム土粒子ごくわずか、焼土粒わずか含
4 オリーブ黒色土	浅黄色粘質土ブロック小ごくわずか、浅黄色粘質土微粒子若干、ソフトローム土微粒子若干含
5 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子わずか含
6 灰オリーブ色土	浅黄色粘質土微粒子若干、ソフトローム土微粒子若干含
7 灰黄褐色土	焼土塊、焼土粒多量含
8 黒褐色土	にぶい黄色シルト質土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干含
9 黒褐色土	粘性強い、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
10 暗灰黄色土	灰黄色シルト質土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干含
11 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック若干含
12 黒褐色土	ハードローム土ブロック小ごくわずか、炭化物粒わずか含
13 黄灰色土	ソフトローム土ブロック・粒子わずか、ハードローム土粒子若干含
14 灰黄褐色土	黄灰色土ブロック多量、ハードローム土ブロック少量含
15 灰黄褐色土	ハードローム土ブロック多量含
16 攪乱	

土層説明(A-A'～D-D')
SS14石室床面下

a 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
b 暗灰黄色土	しまる、ソフトローム土粒子・微粒子わずか含
c 黒褐色土	
d にぶい黄褐色土	
e 黒褐色土	ややしまる、黒色土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
f 黒褐色土	
g 黒褐色土【ロームブロック・粒子混入して堅く叩き絞めた層】	
h 黒褐色土	ややしまる、ソフトローム土ブロック小・粒子少量含
i 暗灰黄色土	比較的しまる
j 黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量含
k にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック多量混
l 黒褐色土	ややしまる、ソフトローム土粒子ごくわずか含
m 褐灰色土	ソフトローム土粒子若干含
n 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
o にぶい黄褐色土	褐灰色土粒子少量、ソフトローム土ブロック・粒子ごくわずか含
p にぶい黄褐色土	軟弱、ソフトローム土ブロックわずか、ソフトローム土微粒子少量含
q 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子少量、ソフトローム土粒子わずか含
r 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
s 褐灰色土	ソフトローム土粒子、ハードローム土粒子少量含
t 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
u ソフトローム土ブロック	
v にぶい黄色土	
w 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
x 攪乱	

土層説明(B-B'～E-E')
SS14石室裏込め土

A 灰黄褐色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子少量含
B 黒褐色土	浅黄色粘質土粒子・ブロック小多量含
C 黒褐色土	黄褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子若干含
D 黒褐色土	黄褐色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子わずか含
E にぶい黄褐色土	褐灰色土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含
F 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子わずか、炭化物粒わずか含
G にぶい黄褐色土	褐灰色土粒子若干、ソフトローム土微粒子わずか含
H にぶい黄褐色土	褐灰色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
I 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干、黒褐色土わずか含
J 黒褐色土	黒褐色土多量混、ソフトローム土微粒子若干含
K 黒褐色土	ハードローム土ブロック多量、ソフトローム土粒子わずか含
L 灰黄褐色土	浅黄色粘質土ブロックわずか、にぶい黄橙色土ブロック若干、ソフトローム土粒子わずか含
M 褐灰色土	ソフトローム土微粒子わずか含
N 黒褐色土	にぶい黄褐色帯びる、ソフトローム土微粒子わずか含
O にぶい黄褐色土	黒褐色土粒子多量、ソフトローム土粒子わずか含
P にぶい黄褐色土	褐灰色土粒子少量、ソフトローム土ブロック・粒子ごくわずか含
Q にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
R 灰黄褐色土ブロック	
S にぶい黄褐色土	ソフトローム土微粒子少量含
T 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子少量含
U 暗灰黄色土	ソフトローム土粒子・微粒子多量、黒褐色土ブロック小・粒子多量含

土層説明(B-B')
SS14

1 暗灰黄色土	
2 暗灰黄色土	浅黄色粘質土微粒子若干含
3 暗灰黄色土	にぶい黄褐色土ブロック小・粒子若干、マンガン粒わずか含
4 黄褐色土	にぶい黄褐色土ブロック小少量含
5 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土粒子わずか含
6 褐灰色土	ソフトローム土粒子わずか含
7 にぶい黄褐色土	黒褐色土粒子若干、ソフトローム土ブロック・粒子少量含
8 灰黄褐色土	暗灰黄色土粒子少量、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
9 暗灰黄色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干含
10 にぶい黄褐色土	ソフトローム土微粒子少量含
11 灰黄褐色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子少量、火山灰粒若干含
12 灰黄褐色土	浅黄色粘質土微粒子少量、ソフトローム土微粒子若干含
13 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土ブロック少量、浅黄色粘質土ブロック若干含
14 黒褐色土	ソフトローム土ブロック小・粒子若干、火山灰粒若干含
15 褐灰色土	にぶい黄褐色土ブロックわずか、浅黄色粘質土粒子・微粒子若干含
16 にぶい黄橙色土	ソフトローム土微粒子わずか、火山灰粒若干含
17 にぶい黄橙色土	褐灰色土粒子若干、ソフトローム土微粒子少量、にぶい黄橙色土微粒子多量含
18 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子若干、灰黄色シルト質土粒子若干含
19 灰黄褐色土	灰黄色シルト質土わずか混、ソフトローム土微粒子わずか含
20 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土ブロックわずか含
21 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土粒子・微粒子少量含
22 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
23 灰黄褐色土	ソフトローム土ブロック小・粒子少量含
24 暗灰黄色土	にぶい黄褐色土ブロック若干含
25 にぶい黄褐色土	灰黄褐色土ブロックわずか含
26 黒褐色土	にぶい黄色土粒子若干、ソフトローム土ブロック・粒子わずか含
27 黒褐色土	にぶい黄色土粒子わずか、ソフトローム土ブロック・粒子わずか含
28 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック少量、ハードローム土ブロック小わずか含
29 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロックわずか含
30 灰黄褐色土	ハードローム土ブロック多量、黒褐色土ブロックわずか、黒色土ブロックわずか含
31 灰黄褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子非常に多く含
32 攪乱	

土層説明(E-E')
SS14

1 灰黄褐色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子多量含
2 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか、浅黄色粘質土粒子わずか含
3 黒褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
4 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子わずか含
5 にぶい黄褐色土	にぶい黄褐色土ブロック多量含
6 にぶい黄褐色土	ハードローム土ブロック若干含
7 攪乱	

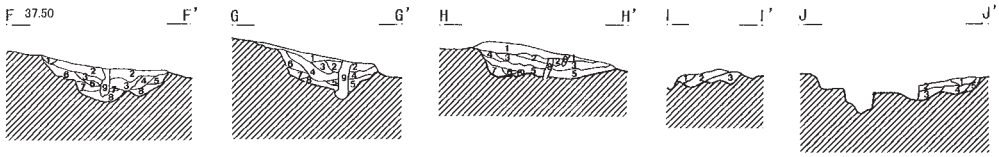
0 2m
1:80

第34図　第14号墳土層断面図（1）

は不明である。側壁については、右側壁においても最も外へ張り出す中央部付近の上部が後世の攪乱により破壊されており、基底部の根石から0.40ｍ程度の高さしか残存していなかったか所も見られた。全体的には石室の一部を失っていたが、全体の様子を残存していた右側壁より推定できる状況であった。

石室の主軸はＮ－22°－Ｗを示し、南に開口する。第12号墳と比較すると、やや西に傾いた主軸方位を採る。石室の規模は、内側で推定全長2.95ｍ、玄室の推定長は2.10ｍ、幅は主軸線から残存する右側壁までの距離の反転による推定長で、奥壁0.74ｍ、ほぼ中央の最大幅が1.20ｍであり、玄門部が0.68ｍを測る。羨道部は長さ0.89ｍ、幅は中央部付近が0.58ｍ、羨門部が0.61ｍを測る。玄室と羨道部の長さの比率は、およそ2.3：１の割合である。平面形は、いわゆる胴張型であり、奥壁の状況が不明であるが、側壁が奥壁から弧を描きながらほぼ中央部で最大幅となり玄門部に向かってすぼまる細長い三味線胴形をなしていると推定され、羨道部は直線で羨門部へとつながり、全面にはハの字状に広がる前庭部が接続すると思われる。奥壁から左側壁のほぼ全体は、基底部の根石までも失われていた。側壁は川原石による小口積みであり、大ぶりな石の隙間を小ぶりな石で充填するものであり、緑泥石片岩や絹雲母片岩等も見られた。小口積みにされた川原石には､内側の面に平坦面をもつ大きめの川原石も一部に見られ、意識的に平坦面を作る工夫がなされていた。玄室側壁の最大残存高は根石から約0.75ｍ、遺存状態の良い羨道部側壁が最大約0.72ｍの高さまで残存していた。なお、前庭部の石積みは確認されなかった。

根石は、棺床面の高さから基本的に一段であり、扁平な川原石を据えていた。なお、根石は大きいもので長軸22㎝、短軸16㎝、厚さ６㎝、小さいもので短軸９㎝、厚さ４㎝であり、当然ながら玄門部及び羨門部の根石には大きな石が据えられていた。その大きさは、玄門部で大きく長軸25～39㎝、短軸14～17㎝、厚さ８～11㎝、羨門部で長軸26～42㎝、短軸20㎝、厚さ14～18㎝であり、羨門部のものがやや大ぶりなものであった。また、根石の上の石は、玄門部左において最大で短軸23㎝、厚さ20㎝を測り、羨門部左において短軸23㎝、厚さ17㎝を測り、玄門部では内側に大きな平坦面をもつ石がやや多く用いられていた。



土層説明(F-F')
SS14周溝

1 暗灰黄色土	浅黄色粘質土ブロックわずか、浅黄色粘質土微粒子若干、火山灰粒わずか含
2 黒褐色土	にぶい黄色土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干含
3 黒褐色土	にぶい黄色土粒子わずか、ソフトローム土ブロック・粒子わずか含
4 黒褐色土	ソフトローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子若干含
5 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック少量、ハードローム土ブロック小わずか含
6 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロックわずか含
7 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロックわずか、ハードローム土粒子わずか含
8 灰黄褐色土	ハードローム土ブロック多量、黒褐色土ブロックわずか、黒色土ブロックわずか含
9 攪乱	

土層説明(G-G')
SS14周溝

1 暗灰黄色土	浅黄色粘質土ブロックわずか、浅黄色粘質土微粒子若干、火山灰粒わずか含
2 黄灰色土	にぶい黄褐色土混、浅黄色粘質土粒子・微粒子若干含
3 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック多量含
4 黒褐色土	にぶい黄色土ブロック・粒子若干、ソフトローム土微粒子若干含
5 黒褐色土	にぶい黄色土粒子・微粒子若干、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
6 にぶい黄褐色土	ソフトローム土微粒子わずか、マンガン粒子わずか含
7 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
8 暗灰黄色土	にぶい黄色土粒子・微粒子多量、マンガン粒子わずか含
9 攪乱	

土層説明(H-H')
SS14前庭部

1 暗灰黄色土	浅黄色粘質土ブロックわずか、浅黄色粘質土微粒子若干、火山灰粒わずか含
2 暗灰黄色土	浅黄色粘質土粒子若干含
3 暗灰黄色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子若干含
4 灰オリーブ色土	浅黄色粘質土粒子・微粒子若干含
5 黄灰色土	ハードローム土微粒子わずか含
6 灰黄褐色土	ハードローム土微粒子ごくわずか含
7 黒褐色土	ハードローム土微粒子ごくわずか含
8 攪乱	

土層説明(I-I')
SS14周溝

1 黒褐色土	ハードローム土粒子・微粒子少量含
2 暗灰黄色土	ハードローム土粒子多量、黒褐色土粒子少量含
3 灰黄褐色土	ハードローム土粒子、ソフトローム土粒子わずか、黄灰色土ブロック少量含

土層説明(J-J')
SS14前庭部内土坑

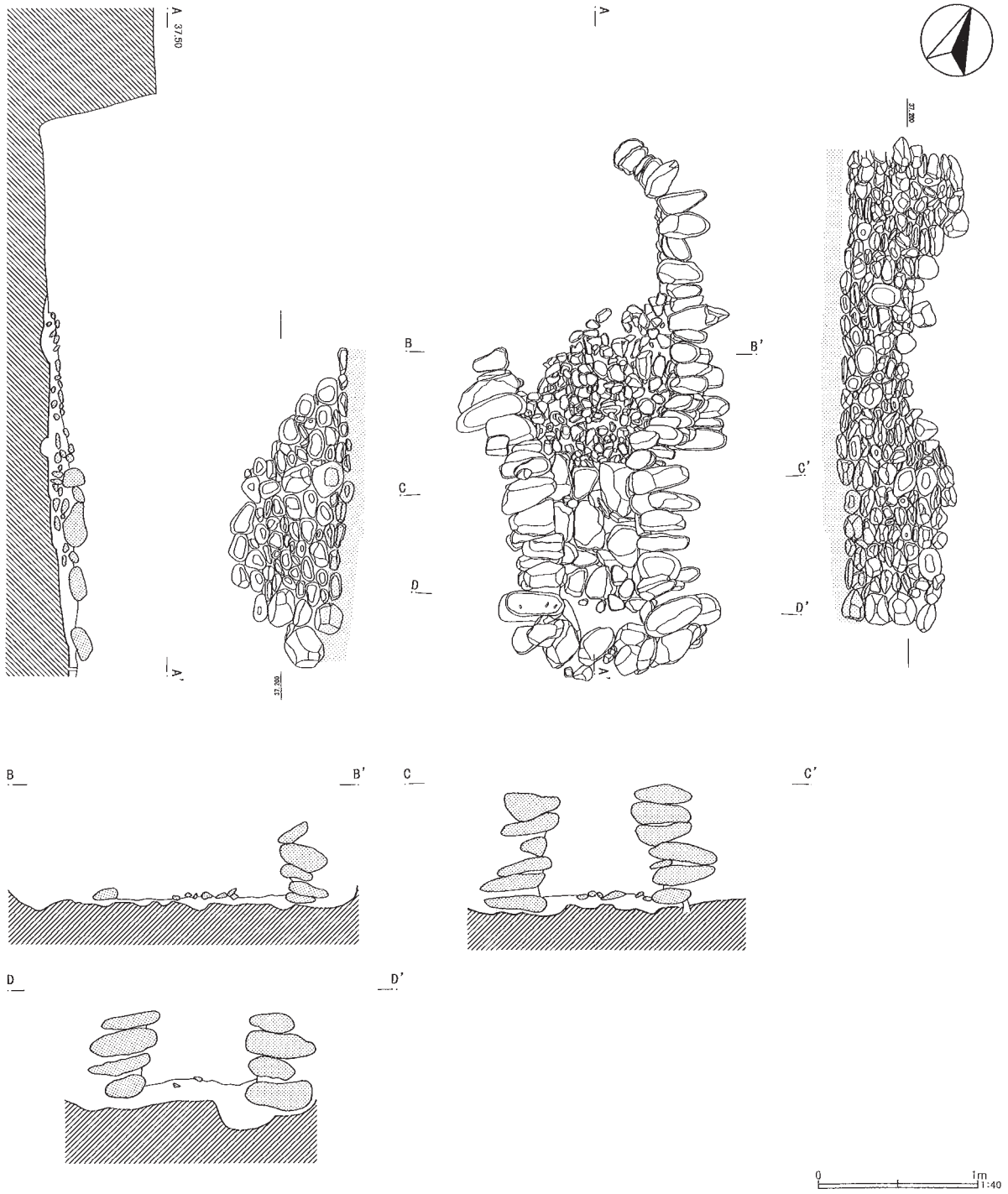
1 黒褐色土	にぶい黄橙色土粒子若干含
2 暗灰黄色土	黒褐色土ブロック・粒子少量、ソフトローム土微粒子わずか、火山灰粒わずか含
3 黒褐色土	ハードローム土粒子・微粒子少量含
4 暗灰黄色土	黒褐色土ブロック小少量、ハードローム土粒子若干含
5 黒褐色土	ハードローム土微粒子ごくわずか含

0　2m
1:80

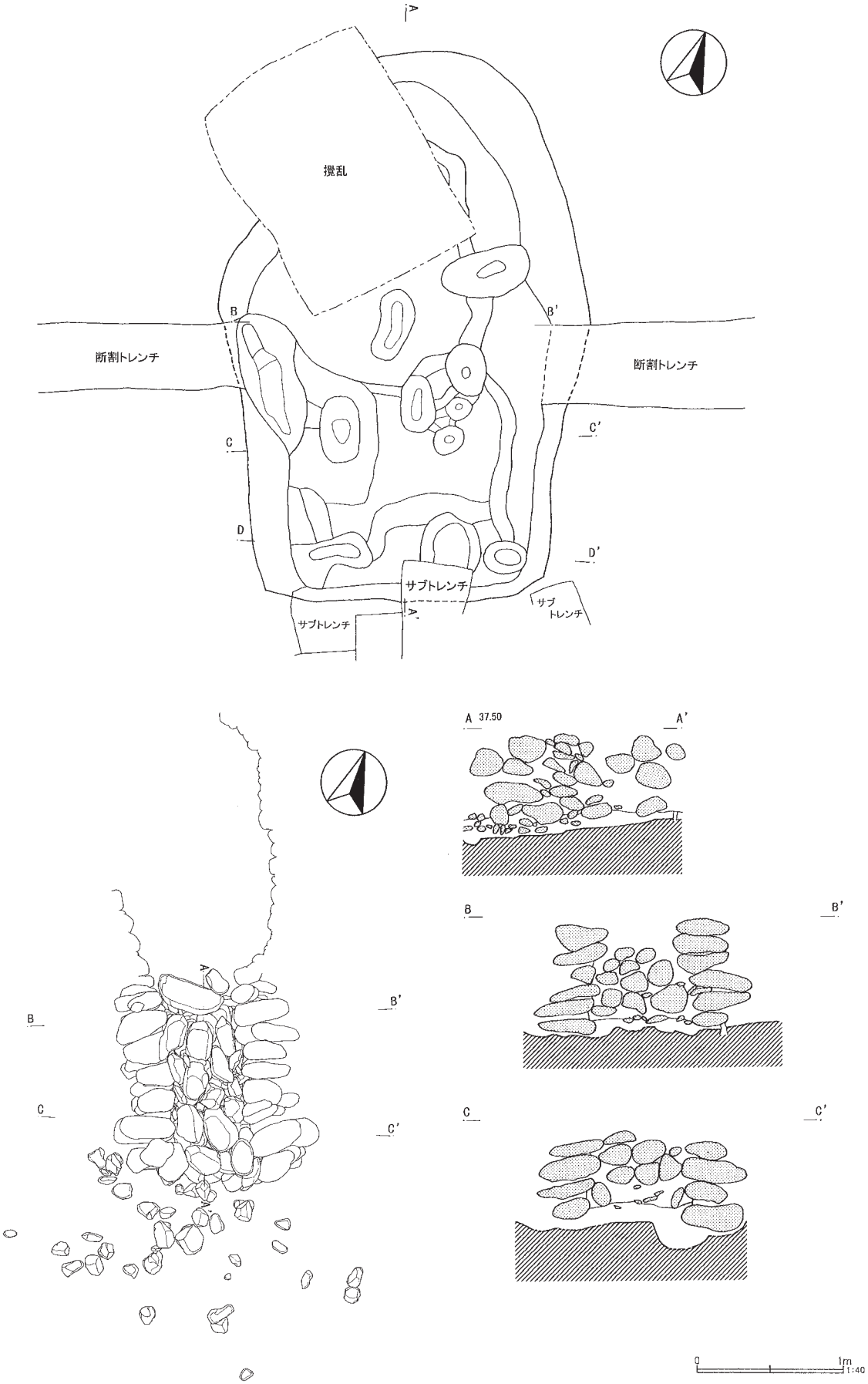
第35図　第14号墳土層断面図（２）

玄室と羨道部との境の梱石は、川原石の長軸を石室の主軸方位の南北にして、３個並列で据えてあった。その大きさは､左から長軸31㎝･短軸15㎝､長軸22㎝･短軸18㎝､長軸35㎝･短軸25㎝を測るものであった。厚さについては、中央の石が14㎝を測る。なお、梱石として使われた石の下、石室掘り方までの間には土が充填され石が据えられていたが、その充填土中には5～12㎝大の細長い川原石があり、梱石の安定を図るための隙間石の役目を果たしたと考えられるものであった。

羨門部には明確な梱石のような機能をもたせた石は検出されなかったが、長軸27～30㎝、短軸13～19㎝の大ぶりな川原石が、玄門部の整然と並べられた梱石とは様相を異にして向きは一定ではないが横方



第36図　第14号墳石室



第37図　第14号墳石室掘り方（上）、石室閉塞状況図（下）

向に３個並んで検出された。これは、ある程度羨門部と前庭部の空間を分かつ機能があったのかも知れない。

床面については、玄室内は最大で長軸19㎝、短軸９㎝の大きさから拳大以下の小さな川原石を用い、その大半が平坦面を上にしてほぼ水平に敷き詰められ棺床面を造りだしていた。また、その棺床面は、上下二重構造にも見受けられ、下の川原石の状況とは異なる大ぶりな川原石（最大長軸18㎝前後、短軸10㎝前後）を比較的多く使った面が、下の面の上に形成されていたように検出された。これについては、下の面が第一次埋葬面、上の面が第二次埋葬面とも捉えることができると思われる。なお、下の面の下、石室掘り方までの充填土中にも絶対量は少ないが小ぶりな川原石が検出され、その川原石に混じって緑泥石片岩も数点確認された。羨道部は一部遺存状態が悪かったか所もあるが、玄室とは異なり大ぶりな川原石が敷かれていた。その大きさは、最大で長軸26㎝、短軸23㎝から小さいもので10㎝四方のものが主体で、幾つかの石は７㎝以下の川原石であった。床面のレベルは、玄室から羨道部に移行すると10～14㎝程一段高くなるものであり、各々の面は石の上面でほぼ水平であった。その前の前庭部については、緩やかな傾斜をもって下がり、羨門部からの距離約1.50ｍのか所で最も下がり羨門部との落差は約20㎝となる。さらに手前は羨門部からの距離約2.40ｍのか所に向かって緩やかに再度上がって行き羨門部との落差は約10㎝となって、その後は平坦な面となる。

羨門部の閉塞状況は、羨道部のほぼ全体に川原石が充填され、それは大ぶりな川原石が主体であり大きさ40×17㎝の大ぶりのものから大きさ５㎝四方の小ぶりなものまで用いていた。川原石間には小砂利混じりの土が充填され、玄門部まで入念に閉塞されており、最大で床面から約0.47ｍまで遺存していた。なお、閉塞石とした石の中には羨道部の側壁が倒壊したものも含まれている可能性もあると思われる。

石室の構築については、まず墳丘盛土の形成時に、石材に合わせて帯状またはピット状に根石を据えるための掘り方をソフトローム土面に掘りくぼめて作成し、次にその掘り方ににぶい黄褐色土や灰黄褐色土を主体にした土を充填し根石を据えていた。その後、墳丘盛土を形成し、おそらく天井部架橋前の途中の段階で石室全体の掘り方を平面形・馬蹄形状に作成し、側壁の石積みと並行してその掘り方に石室崩壊防止のための補強として裏込め土を充填しながら構築していったものと推定された。その裏込め土は、黒褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、暗灰黄色土等を用い交互に充填していったものと考えられた。また、その作業単位は、玄室については側壁の石を概ね２個積んだ後に裏込め土を充填し、これを繰り返していったと推定される。一方、玄門部や羨門部は大ぶりな石のせいか、概ね１個を積むごとに裏込め土を充填していったと推定される。玄室及び羨道部の床面形成は、根石より浅くソフトローム土面を５㎝前後全体的に掘りくぼめた掘り方に、黒褐色土、暗灰黄褐色土、灰黄褐色土等を充填し、床面の石を据えていた。なお、掘りくぼめた床面は、玄室については一部ピット状に掘りくぼめられたか所もあったがほぼ一定の深さの平坦面であったのに対し、羨道部についてはピット状及び土坑状に複雑に掘りくぼめてあったか所が見受けられた。また、前述した石室全体の掘り方についてだが、土層断面観察を行った一部のか所では、根石の掘り方と石室全体の掘り方のラインが一致するか所も見られたので、根石の掘り方も含めて一体として掘り方を形成した可能性もあるであろうか。

出土遺物

本墳に伴う遺物は、図示はできなかったが、前庭部東側から古墳時代後期の土師器甕破片と思われる

土器片が検出できた。しかし、石室内からは１点も検出できなかった。

よって、本墳の築造時期を確実に特定できる遺物はないが、石室の形態的特徴及び同古墳群内の他の古墳の時期をも鑑み、７世紀後半から８世紀初頭と考えたい。

第15号墳（第38～41図）

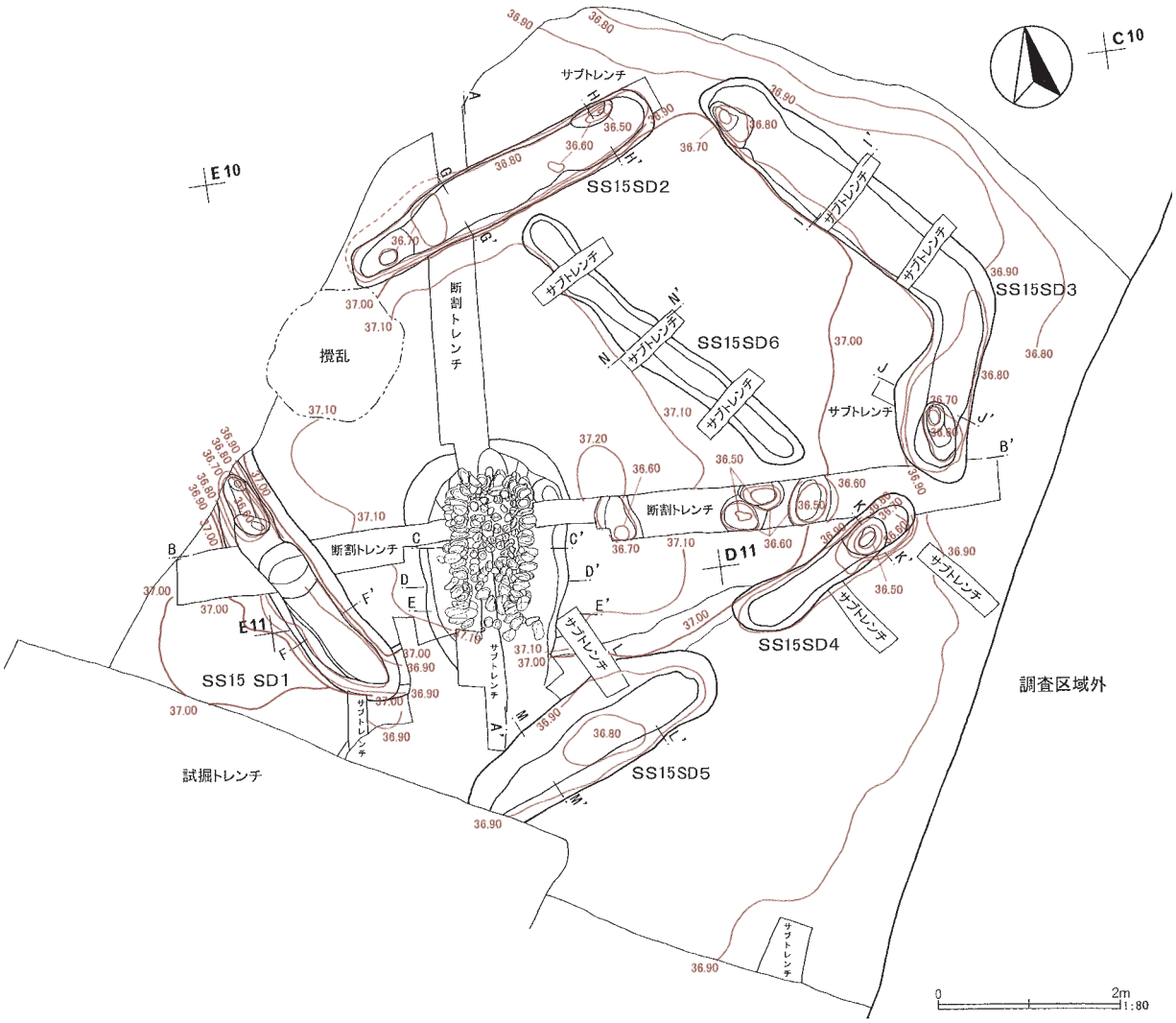
位置・状態

調査区南東部、Ｃ～Ｅ－９～11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,490、Ｙ＝－45,115～－45,130内にある。現在確認されている15基の古墳のうち最南東端にあり、西に隣接して第14号墳、北約30ｍに第13号墳、北西約30ｍに第12号墳が所在する。なお、これまで最南端であった第８号墳からの距離は、約100ｍである。

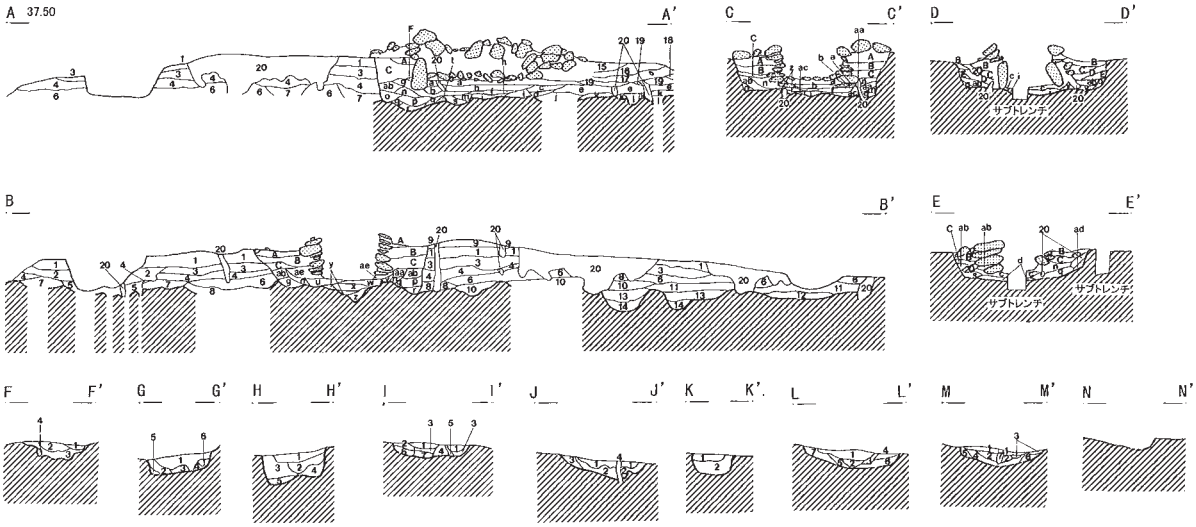
他遺構とは重複関係になく、単独で所在する。なお、墳丘と思われるか所の西部のごく一部が後世の攪乱を受け破壊されていた。また、その西側は表土除去の際に削平をしてしまい一部が失われる状況になった。

墳丘・外部施設（第38・39図）

墳丘は、現地表面下約0.90～1.37ｍで検出された。前述のとおり表土除去の際に削平をしてしまい墳



第38図　第15号墳



土層説明(A-A'～E-E')
SS15

1 黒褐色土	灰黄色粘質土ブロック・粒子若干、ソフトローム土粒子若干含
2 黒色土	ソフトローム土粒子・微粒子若干、黒色土ブロック若干含
3 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック小・粒子若干含
4 にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック小・粒子若干含
5 黒褐色土	ソフトローム土粒子多量含
6 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量含
7 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子少量、にぶい黄褐色土ブロック小・粒子若干含
8 暗灰黄色土	ソフトローム土ブロック小・粒子若干含
9 黒褐色土	灰黄色粘質土ブロック小・粒子多量含
10 にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック小・粒子・微粒子若干、黒褐色土ブロック小わずか含
11 暗褐色土	黒褐色土ブロック小・粒子若干、ソフトローム土ブロック大小わずか、ソフトローム土粒子若干含
12 暗灰黄色土	黒褐色土ブロック小ごくわずか、ソフトローム土ブロック小・粒子若干含
13 褐色土	黒褐色土ブロック小わずか、ソフトローム土粒子ごくわずか含
14 黄褐色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子少量含
15 黒褐色土	明黄褐色土微粒子若干、火山灰粒若干、焼土粒わずか含
16 褐灰色土	明黄褐色土微粒子若干、焼土粒ごくわずか含
17 黒褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか、礫含
18 暗褐色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
19 灰黄褐色土	暗褐色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子わずか含
20 撹乱	

土層説明(A-A'～E-E')
SS15石室裏込め土

A オリーブ黒色土	灰黄褐色粘質土微粒子若干、礫含
B 黒褐色土	しまる、ソフトローム土微粒子わずか含
C 黒褐色土	ややしまる、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
D にぶい黄褐色土	ソフトローム土ブロック多量含
E 黒褐色土	ソフトローム粒子若干含
F 灰オリーブ色土	

土層説明(A-A'～E-E')
SS15床面下

a 暗灰黄色土	ソフトローム土粒子わずか含
b 黒褐色土	かたくしまる、ソフトローム土粒子微量含
c 暗灰黄色土	ソフトローム土ブロック・粒子若干、黒褐色土ブロック・粒子多量含
d 灰黄褐色土	黒褐色土ブロック・粒子少量含
e にぶい黄褐色土	暗褐色土ブロック大小少量、ソフトローム土粒子若干含
f 黄灰色土	
g 暗灰黄色土	
h 黒褐色土	ソフトローム土混
i 暗オリーブ褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
j にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子わずか含
k 褐色土	暗褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子わずか含
l 黒褐色土	黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック小わずか含
m 黒褐色土	ソフトローム土微粒子わずか、黒色土粒子ごくわずか含
n にぶい黄褐色土	ややしまる、ソフトローム土ブロック多量含
o 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干、黒褐色土粒子ごくわずか含
p 暗灰黄色土	黄褐色土粒子少量含
q ソフトローム土主体にして、暗灰黄色土ブロック小わずか含	
r 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子少量含
s 灰黄褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
t 黄褐色土	ソフトローム土ブロック、黒褐色土ブロック含
u 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
v にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
w 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック若干含
x 暗オリーブ褐色土	ソフトローム土ブロックわずか、黒褐色土ブロックわずか含
y にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含
z 黒褐色土	ソフトローム土ブロック小わずか含
aa 灰オリーブ色土	若干砂質
ab 灰黄褐色土	ややしまる
ac 黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干含
ad 暗褐色土	ややしまる、ソフトローム土微粒子若干含
ae 暗灰黄色土	ソフトローム土微粒子若干含

土層説明(F-F')
SS15

1 にぶい黄褐色土	黒褐色土ブロック含
2 黒褐色土	にぶい黄褐色土ブロック少量含
3 黒褐色土	にぶい黄褐色土わずか含
4 にぶい黄褐色土	

土層説明(G-G')
SS15

1 黄灰色土	ソフトローム土粒子若干含
2 暗灰黄色土	ソフトローム土粒子若干、黒褐色土少量含
3 暗灰黄色土	黄灰色土若干含
4 黄褐色土	
5 黄褐色土	黒褐色土混、ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(H-H')
SS15

1 褐灰色土	黒褐色土多量混
2 黄灰色土	
3 灰黄褐色土	
4 暗灰黄色土	
5 黄褐色土	

土層説明(I-I')
SS15

1 にぶい黄褐色土	にぶい黄橙色土粒子少量含
2 灰黄褐色土	にぶい黄橙色土ブロック多量含
3 にぶい黄褐色土	
4 暗灰黄色土	若干粘質
5 にぶい黄褐色土	
6 灰黄褐色土	にぶい黄橙色土若干混
7 灰黄褐色土	

土層説明(J-J')
SS15

1 灰黄褐色土	にぶい黄橙色土ブロック多量含
2 にぶい黄褐色土	
3 灰黄褐色土	にぶい黄橙色土若干混
4 撹乱	

土層説明(K-K')
SS15

1 褐灰色土	黒褐色土多量混
2 灰黄褐色土	

土層説明(L-L')
SS15

1 褐灰色土	にぶい黄褐色土少量混、酸化鉄わずか含
7 灰黄褐色土	黒褐色土粒子少量含
4 黒褐色土	にぶい黄褐色土・褐灰色土わずか混
6 黒褐色土	にぶい黄褐色土多量混
3 黒褐色土	褐灰色土混
2 黒褐色土	褐灰色土混、酸化鉄わずか含
5 褐灰色土	酸化鉄わずか含

土層説明(M-M')
SS15

1 褐灰色土	黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土	ソフトローム土わずか混
3 褐灰色土	ソフトローム土粒子含
4 黒褐色土	
5 灰黄褐色土	
6 灰黄褐色土	黒褐色土混、ソフトローム土ブロック若干含
7 撹乱	

0 2m
1:80

第39図　第15号墳土層断面図

丘の西側の一部が失われる状況になった。墳頂部は、第41図で示すとおり主体部の上部が大量の礫で覆われていたため、おそらく削平を受けていない状況であると判断された。葺石については、主体部の上部には大量の礫が積まれていたが、その他のか所には検出さなかったことから、葺石は葺かれていなかった可能性が高いと思われる。

墳丘の規模については、周溝を頼りに考えたいが、墳丘上の周囲に廻る６条の溝跡が、本墳に伴うものかは確証がない。その大きな理由は、通常古墳の墳丘は主体部の石室を中心にしてほぼバランスよく周溝が廻るのだが、本墳は周囲を廻る溝跡の位置関係がアンバランスな状況であるからである。同様な掘り方をなす溝跡は、第15号墳第１号溝跡（以下、溝跡については、第15号墳を省略する。）、第２号溝跡、第３号溝跡、第４号溝跡、第５号溝跡である。そして、第６号溝跡は掘り方が非常に浅く幅も狭く、他の５条とは様相を異にする。仮に第６号溝跡を除く５条の溝跡が本墳の周溝と捉えると、第１号溝跡の中心と石室の奥壁の中心間の距離は約2.50ｍ、以下同じく第２号溝跡までは約3.20ｍ、第３号溝跡までは約5.00ｍ、第４号溝跡までは約3.80ｍ、第５号溝跡までは約3.20ｍと、石室を中心にして溝跡が北東方向に大きく偏る配置となる。一方、第６号溝跡までは約2.40ｍであり、同じ形態を採る溝跡同士ではアンバランスな位置関係が、この第６号溝跡を含め、第３号溝跡を除外して見てみると、石室を中心にして割とバランスよく溝跡が配置されることになる。よって、掘り方の状況を無視してバランスだけで見ると、第３号溝跡を除く溝跡が周溝の機能をもっていたと考えられなくもない。しかし、第６号溝跡と第４・５号溝跡との位置関係が、第３号溝跡が墳丘の内側・石室方向を意識してＬ字に屈曲していて、その第３号溝跡に接続するかの如く第４・５号溝跡が配置されているのを鑑みると、やはり第６号溝跡を除く５条の溝跡同士が互いに関連する溝跡と判断できる。したがって、これらの溝跡が本墳の周溝か否かの判断については、築造プランとしてこのアンバランスな配置を採ったとも言えるため、判断に難しいと思われる。

以下、相対する溝跡間を墳丘と捉えて記述する。相対する東西の溝跡間は、第１号溝跡・第３号溝跡間で約6.50ｍを測り、因みに第１号溝跡･第６号溝跡間で約4.00ｍを測る。南北の溝跡間は、第２号溝跡･第４・５号溝跡間で約4.80ｍを測る。これらの溝跡に囲まれた空間を墳丘とすると、北東から南西方向に細長い長方形の平面形をもつ墳丘となる。墳丘盛土は、主体部の構築に合わせて、下から概ね暗灰黄色土・暗褐色土、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土、黒褐色土の順でほぼ水平に盛って造っていったようである。いずれの層にも黒褐色土、灰黄色土、にぶい黄褐色土、ソフトローム土ブロック・粒子等の混入物を含み、特にソフトローム土ブロック・粒子の含有量は比較的多かった。盛土は、全体的にしまりがあまり良くない。また、墳丘断割りトレンチでの観察であるが、東側墳丘盛土下には数基のピットが検出され、墳丘構築前の遺構と考えられる。

周囲を廻る溝跡は、現地表面下約1.10～1.30ｍで検出された。前述のとおり溝跡は配置され、各々の溝跡は接続せず、途切れた状況で廻る。また、前庭部前にも溝跡が配置されていた。平面形は、前述のとおり長方形をなす。周囲廻る溝跡を含む規模は、相対する東西の溝跡間、第１号溝跡・第３号溝跡間で約8.00ｍを測り、因みに第１号溝跡･第６号溝跡間で約5.26ｍを測る。南北の溝跡間、第１号溝跡･第４・５号溝跡では約6.06～6.50ｍを測る。なお、石室奥壁から周囲を廻る溝跡までの距離は、繰り返すが石室を中心にして溝跡が北東方向に大きく偏る配置となるため、その距離は西の第１号溝跡までのそれよ

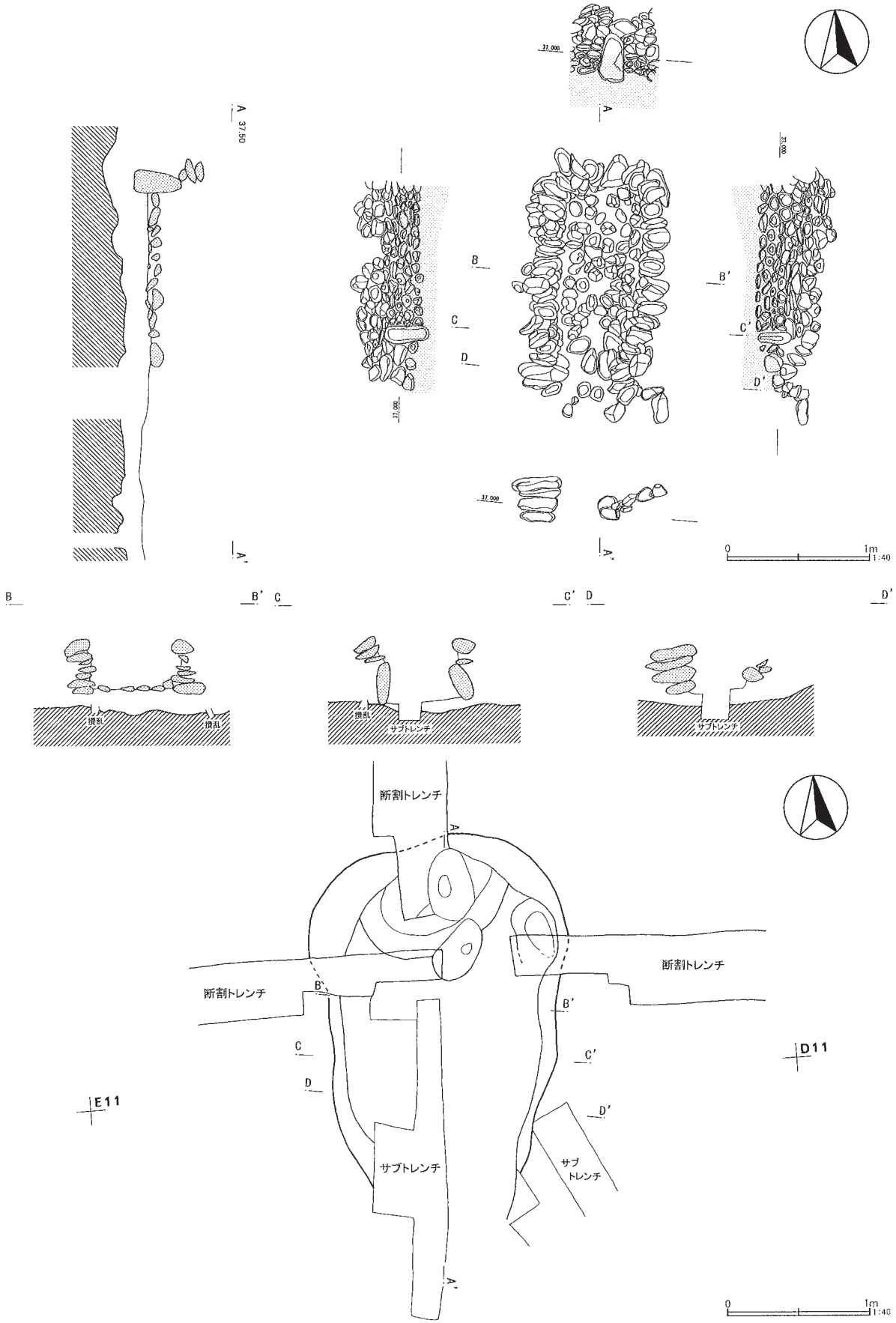
りも東の第３号溝跡までの距離の方が約2.50ｍ長く、約２倍の距離である。なお、第６号溝跡までの距離と比較すると、ほぼ同じ距離間である。一方、同じように南北に廻る第２号溝跡と第４・５号溝跡との距離を比較すると、約3.20ｍと約3.2ｍ・3.5ｍであるので、ほぼ同じ距離間である。

各溝跡の規模を上面幅・深さの順に列記すると、第１号溝跡が0.60～0.76ｍ・0.18～0.36ｍ、第２号溝跡が0.50～0.69ｍ・0.18～0.34ｍ、第３号溝跡が0.71～0.89ｍ・0.17～0.20ｍ、第４号溝跡が0.39～0.60ｍ・0.13～0.21ｍ、第５号溝跡が0.75～1.05ｍ・0.18～0.20ｍ、第６号溝跡が0.33～0.51ｍ・0.10ｍを測る。断面形は、第２・４号溝跡が箱形をなすのに対して、その他の溝跡は舟底状をなす。第１～４号溝跡については、底面の一部がさらにピット状に掘り込まれているか所があり、最深の数値はそのか所である。また、立ち上がりの状況は、第３・６号溝跡については、内側・石室側が緩やかで、外側が急峻気味であるが、その他の溝跡については内外側とも急峻気味である。周溝内には、灰黄褐色土、黒褐色土、黄灰色土、黄褐色土、暗灰黄色土、にぶい黄褐色土、褐灰色土等と様々な土が堆積しており、いずれも自然堆積であると思われる。また、その上に本古墳群及び本遺跡を覆う黒褐色土、灰黄褐色土等が堆積していた。墳丘及び周溝から埴輪の検出はなかった。

主体部（第39～41図）

主体部は、平面形態からは川原石を乱石積みしたやや胴張状の短冊型横穴式石室であるが、機能面から考えると、幅が狭小な平面形を採っているので、竪穴式石室であるともいえる。よって、ここでは竪穴系横穴式石室として捉えておきたい。天井部は前述のとおり、あたかも積石塚のごとく、石室の上部をすっかり覆う形でこんもりと川原石が積まれて（堆積して）いたためか、あまり削平を受けずに残存していたようにも見えた（第41図）。ただし、天井部として架橋した石材は検出できなかったため、有機質の物質（例えば板材のようなもの）で架橋していた可能性が残される。玄室の左側壁の一部がおそらく攪乱によるもの思われるが破壊されていた。奥壁の状況は、比較的良好に遺存していて、基底部の根石から最大で0.50ｍ程の高さまで残存していた。側壁については、前述とおり左側壁の一部の遺存状態が悪く、根石から0.28ｍ程しか残存していなかったが、他については遺存状態が良好で根石から最大で0.52ｍ程の高さまで残存していた。右側壁については全体的に遺存状態が良好で、奥壁付近が最大で0.56ｍ程の高さまで残存していた。全体的には石室のごく一部を失っていたにもかかわらず、全体の様子を把握できる程度の良好な状態で検出できた。

石室の主軸はＮ－８°－Ｅを示し、南に開口する。今回検出された他の古墳と比較すると、唯一東に傾いた主軸方位を採る。石室の規模は、内側で全長1.44ｍ、玄室長は1.06ｍ、幅は、奥壁0.38ｍ、ほぼ中央部の最大幅が0.56ｍであり、玄門部が0.42～0.51ｍを測る。羨道部は長さ0.38ｍ、幅は中央部付近が0.42ｍ、羨門部が0.29ｍを測る。玄室と羨道部の長さの比率は、およそ2.8：１の割合である。平面形は、やや胴張型であるが、短冊型といった方がよい形状である。奥壁の状況は、いわゆる鏡石を、川原石の長軸を上下方向にして据え、その鏡石を中心にして囲むように川原石を積み上げ構築されていた。側壁は、奥壁からやや弧を描きながらほぼ中央部で最大幅となり玄門部に向かってすぼまる細長い短冊状をなしていて、左側壁はほぼ直線で右側壁がやや外側に張るものである。羨道部は直線で羨門部へとつながり、前面には前庭部が接続すると思われるが、前庭部の詳細は不明である。側壁は川原石による小口積みであり、平均してあまり大ぶりな石は使用せず、その隙間にはさらに小ぶりな石を充填するもので



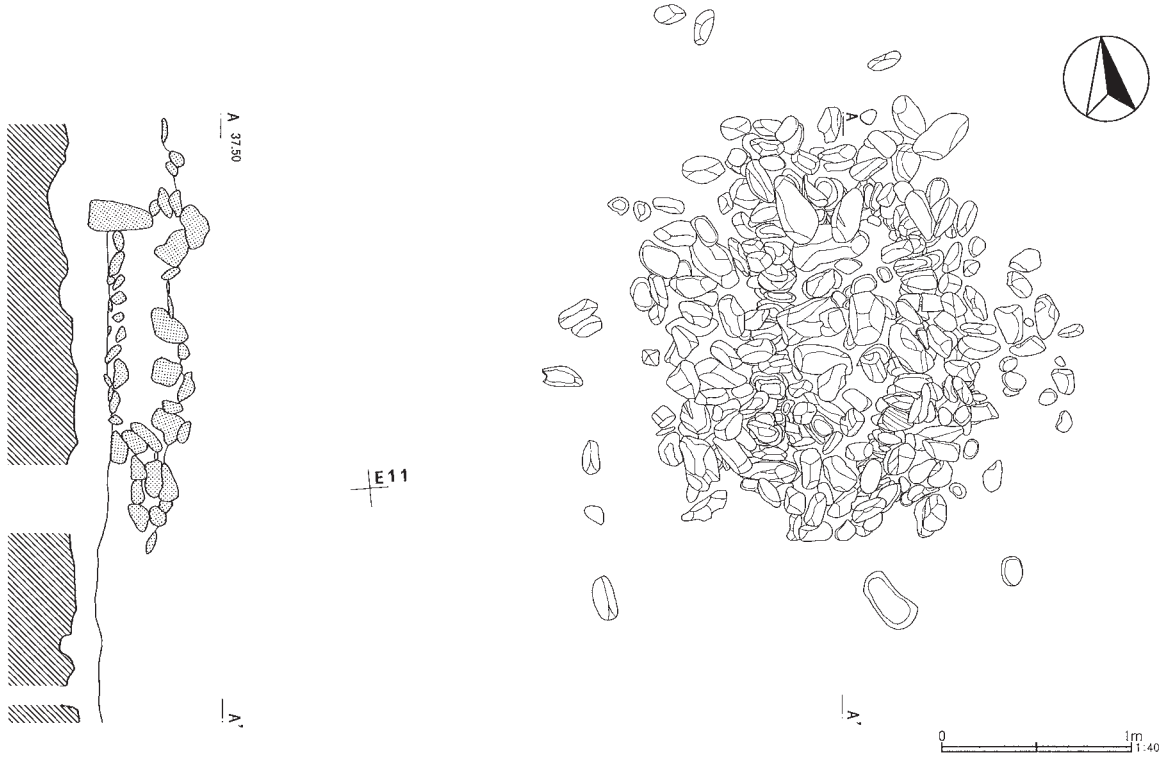
第40図　第15号墳石室（上）、石室掘り方（下）

あった。小口積みにされた川原石には、内側の面に平坦面をもつ大きめの川原石も見られたが、あまり意識的に平坦面を作る工夫はなされていなく、川原石の突出した小口の面が内側で揃うように構築しているように見受けられた。また、上部に行くほど大ぶりな石を選択し側壁を構築していた。玄室奥壁・側壁及び羨道部側壁の残存高は前述のとおりである。なお､前庭部の明確な石積みは確認されなかった。

根石は、棺床面の高さから基本的には三段であり、右側壁の奥壁寄りの一部は二段であった。概ね扁平な川原石を選択して据えていたが、厚みのある円礫も割と多く使用されていた。なお、根石は大きいもので短軸14㎝、厚さ６㎝、小さいもので短軸５㎝、厚さ４㎝であった。基底部の根石の上にはさらに二段の川原石が積まれ､扁平な石よりも円礫が使用されているか所が多い｡その大きさは､短軸４～12㎝、厚さ３～７㎝であり、その石と石の間は、棺床面より上部に露出しているか所とは異なり、あまり密に配置されておらず､隙間の多くを土で埋めて固定していた。羨門部の根石には大きな石が据えられおり、その大きさは短軸９～13㎝、厚さ８～９㎝であった。また、根石の上の石も大ぶりなもので、羨門部左で最大で長軸35㎝、短軸12㎝、厚さ９㎝を測り、長軸を石室主軸方向と直交の向きにして積み上げていた。一方、玄門部は根石から大きな川原石を、長軸を上下方向にして据え、側壁の根石の上部、棺床面から二～三段までを一つの石でカバーしていた。この石は、門柱石も兼ねていたと思われ、左が長軸32㎝、短軸10㎝前後、右が長軸24㎝、短軸８㎝前後であった。この門柱石の上には、川原石を小口積みにして側壁を構築していた。

玄室と羨道部との境の梱石については、明確に検出できなかった。羨門部についても同様で、明確な梱石のような機能をもたせた石は検出されなかった。

床面については、玄室内は最大で長軸13㎝、短軸９㎝、厚さ７㎝の大きさから拳大以下の小さな川原石を用い、その大半が平坦面を上にしてほぼ水平に敷き詰められ棺床面を造りだしていた。羨道部は一



第41図　第15号墳石室第１次検出状況図

部遺存状態が悪かったが、玄室とは異なり大ぶりな川原石が敷かれていた。その大きさは、最大で長軸21㎝、短軸11㎝であり、ほぼ同じ大きさの石が使用されていた。床面の石の上面レベルは、玄室から羨道部まで通してほぼ水平であった。その手前の前庭部については、羨門部から10㎝程低くなり、その後はほぼ水平な平坦面となっていた。

羨門部の閉塞状況は、詳細が不明である。ただし、羨門部付近では、断面観察から四段程度の川原石が積まれて検出されており、その高さは床面から約0.34ｍであった。これが閉塞のためのものかは判断できなかった。

石室の構築については、まず墳丘の盛土を形成し、次におそらく天井部架橋前の途中の段階で石室全体の掘り方を平面形・人頭状にソフトローム土面まで掘り下げて作成し、その後根石の基底石及びその上二段程の石を据えるために、その掘り方に灰黄褐色土、暗灰黄色土、にぶい黄褐色土等を充填し、最後に、側壁の石積みと並行してその掘り方に石室崩壊防止のための補強として裏込め土を充填しながら構築していったものと推定された。その裏込め土は、黒褐色土、オリーブ黒色土、にぶい黄褐色土等を用いほぼ水平に充填していったものと考えられた。また、その作業単位は、玄室については側壁の石を概ね２個、小ぶりな石が含まれた場合は３個、大ぶりな石の場合は１個積んだ後に裏込め土を充填し、これを繰り返していったと推定される。一方、羨門部は大ぶりな石のせいか、概ね１個を積むごとに裏込め土を充填していったと推定される。玄門部については、門柱石部分に３層程度の裏込め土が充填されていたことから、直立する門柱石を基準とするのではなく、他の側壁の石を基準にして裏込め土を充填していったものと推定される。玄室及び羨道部の床面形成は、石室全体の掘り方と一体に掘り方を作成し、根石とほぼ同じか、若干深くソフトローム土面を掘りくぼめた掘り方に、褐色土、にぶい黄褐色土、暗灰黄色土、黒褐色土、灰黄色土等を充填し、床面の石を据えていた。因みに、土層断面観察からは、この床面形成と根石の据え付けはほぼ同時に行われたのではないかと判断された。なお、掘りくぼめた床面だが、玄室については、奥壁及び奥壁寄りの中央部が、さらに深く土坑及びピット状に掘りくぼめられたか所もあり、ある程度凹凸であったのに対し、羨道部についてはほぼ平坦であった。

出土遺物

本墳に直接伴う遺物は石室も含めて検出できなかったが､墳丘盛土中や周囲を廻っていた溝跡からは、数点縄文土器深鉢土器破片が検出された。

よって、本墳の築造時期を特定できる遺物はないが、石室の形態的特徴を他の事例と比較対照して、古墳時代終末期の時期が与えられ、他の古墳とほぼ同時期の７世紀末から８世紀初頭と考えたい。

（２） 竪穴住居跡

第１号竪穴住居跡（第42図）

調査区の南西端、Ｈ－９・10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,490、Ｙ＝－45,140～－45,145内にある。

重複関係にある遺構はなく、単独で所在し、北・南・西側の大部分が調査区域外となる。

規模は、検出南北軸長1.59ｍを測り、平面プランは、方形をなすと推定される。なお、東西軸長はカマドの主軸方向であり、その検出長は0.40ｍ程であった。主軸方位は、Ｎ－97°－Ｅを示す。

確認面から床までの深さは最大0.72ｍを測り、覆土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

床面はほぼ平坦であり、土層断面観察から、床面にハードローム土粒子を含むオリーブ黒色土や黒色土、黒色土ブロックを含むハードローム土による貼り床が確認された。

壁溝、柱穴等床面の施設は検出できなかった。

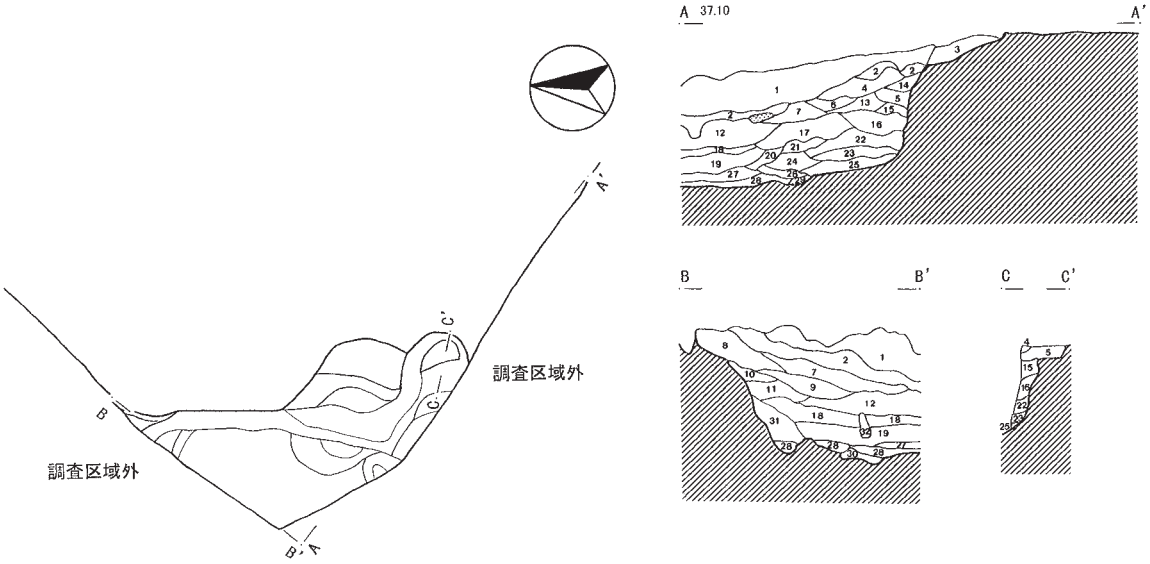
カマドは、東壁に設置されていた。検出長0.7ｍであり、焚口から落差約0.40ｍをもって急に立ち上がり平坦部に至る構造であったが、煙道部については削平されて確認できなかった。焚口前に残存最大幅0.2ｍのピット、カマド左には袖がわずかに確認された。なお、カマド脇の左壁（北側）には、わずかではあるが幅32×13㎝の平坦部が検出された。

出土遺物は、検出できなかった。

（３） 掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第43図）

調査区の中央部北寄り、Ｄ・Ｅ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝



土層説明（A-A、B-B'、C-C'）
SI1

1	攪乱	
2	灰黄褐色粘質土	灰白色粘質土ブロック・粒子多量混
3	灰黄褐色土　〈カマド〉	浅黄色粘質土微粒子わずか、ソフトローム土微粒子ごくわずか含
4	黒褐色土　〈カマド〉	ソフトローム土微粒子少量、炭化物粒わずか含
5	褐灰色土	ソフトローム土・ハードローム土粒子多量、焼土粒若干、黒褐色土粒子若干含
6	褐灰色土	ソフトローム土粒子わずか含
7	黒褐色土	ソフトローム土微粒子少量、灰白色粘質土粒子わずか含
8	黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干、焼土粒わずか含
9	黒褐色土	黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子若干、灰白色粘質土ブロック小わずか含
10	黒色土	ソフトローム土ブロック・粒子少量含
11	黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子わずか含
12	黒褐色土	ソフトローム土微粒子少量含
13	黒褐色土	ソフトローム土粒子・微粒子少量、炭化物粒若干含
14	暗灰黄色土	ハードローム土粒子・微粒子多量、焼土粒わずか、炭化物若干含
15	灰黄褐色土　〈カマド〉	ハードローム土微粒子多量、焼土塊・粒子若干、炭化物粒若干含
16	黒褐色土　〈カマド〉	ハードローム土粒子・微粒子多量、焼土塊・粒子若干含
17	暗灰黄色土	黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土微粒子若干含
18	黒褐色土	ソフトローム土微粒子若干、焼土粒わずか含
19	黒色土	ソフトローム土微粒子、ハードローム土微粒子少量含
20	黒褐色土	ソフトローム土微粒子わずか含
21	ハードローム土塊	
22	黒褐色土　〈カマド〉	ハードローム土粒子・微粒子多量、焼土粒少量、炭化物粒わずか含
23	黄灰色土　〈カマド〉	ハードローム土微粒子少量、焼土塊・粒子若干、炭化物粒わずか含
24	灰黄色粘質土	ハードローム土多量混、黄灰色土ブロックわずか、焼土粒若干含
25	褐灰色土　〈カマド〉	ハードローム土粒子若干、焼土塊・粒子多量含
26	ハードローム土塊	
27	オリーブ黒色土	ハードローム土粒子・微粒子若干含
28	黒色土	ハードローム土粒子・微粒子少量含
29	黒色土【炭化物多量混入層】	ハードローム土粒子若干含
30	ハードローム土	黒色土ブロック少量含
31	黒褐色土	ソフトローム土ブロックわずか含
32	攪乱	

0　1m　1:40

第42図　第１号竪穴住居跡

－45,120～－45,130内にある。

第２号掘立柱建物跡、第７号溝跡、第152・172・353・444号ピットと直接重複関係にあり、本遺構は、第７号溝跡、第353号ピットに切られ、第２号掘立柱建物跡、第152・172・444号ピットを切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第141・143・144・146～150・154・155・157・158・166・168・169・173・174・177～180・202・204号ピットと重複関係にある。

２間×３間の南北棟側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行4.20～4.25ｍ（約14尺）、梁行3.45～3.48ｍ（約11.5尺）、面積は約14.8㎡を測る。柱間は、桁行が北から東面で1.70ｍ－1.00ｍ－1.50ｍ、西面で1.70ｍ－1.20ｍ－1.35ｍ、梁行が東から北面で1.75ｍ－1.70ｍ、南面で1.80ｍ－1.68ｍを測り、桁行が約3.3～5.6尺、梁行が5.6～６尺である。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｗを指す。

柱穴は基本的に円形または楕円形の掘り方で、長軸0.29～0.58ｍ、短軸0.30～0.36ｍを測る。梁行側北面の柱穴２基の掘り方が南北に長い楕円形であるが、他の柱穴の掘り方はほぼ円形をなす。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が22㎝、Ｐ２が21㎝、Ｐ３が９㎝、Ｐ４が15㎝、Ｐ５が27㎝、Ｐ６が11㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８が23㎝、Ｐ９が20㎝、Ｐ10が16㎝を測る。

柱は、柱痕跡が確認できたもので、掘り方の中央部付近のものと北及び南側に寄っているものとまちまちであった。また、柱痕跡が確認されなかったが柱穴Ｐ１・２の柱筋が揃っていなく、柱筋の通りが悪い建物である。土層断面観察による掘り方から推定された柱痕跡はＰ８・10で確認され、平面確認の柱痕跡がＰ５・８・10で確認された。これらから推定される柱の直径は小さく、約10～15㎝と推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

第２号掘立柱建物跡（第43図）

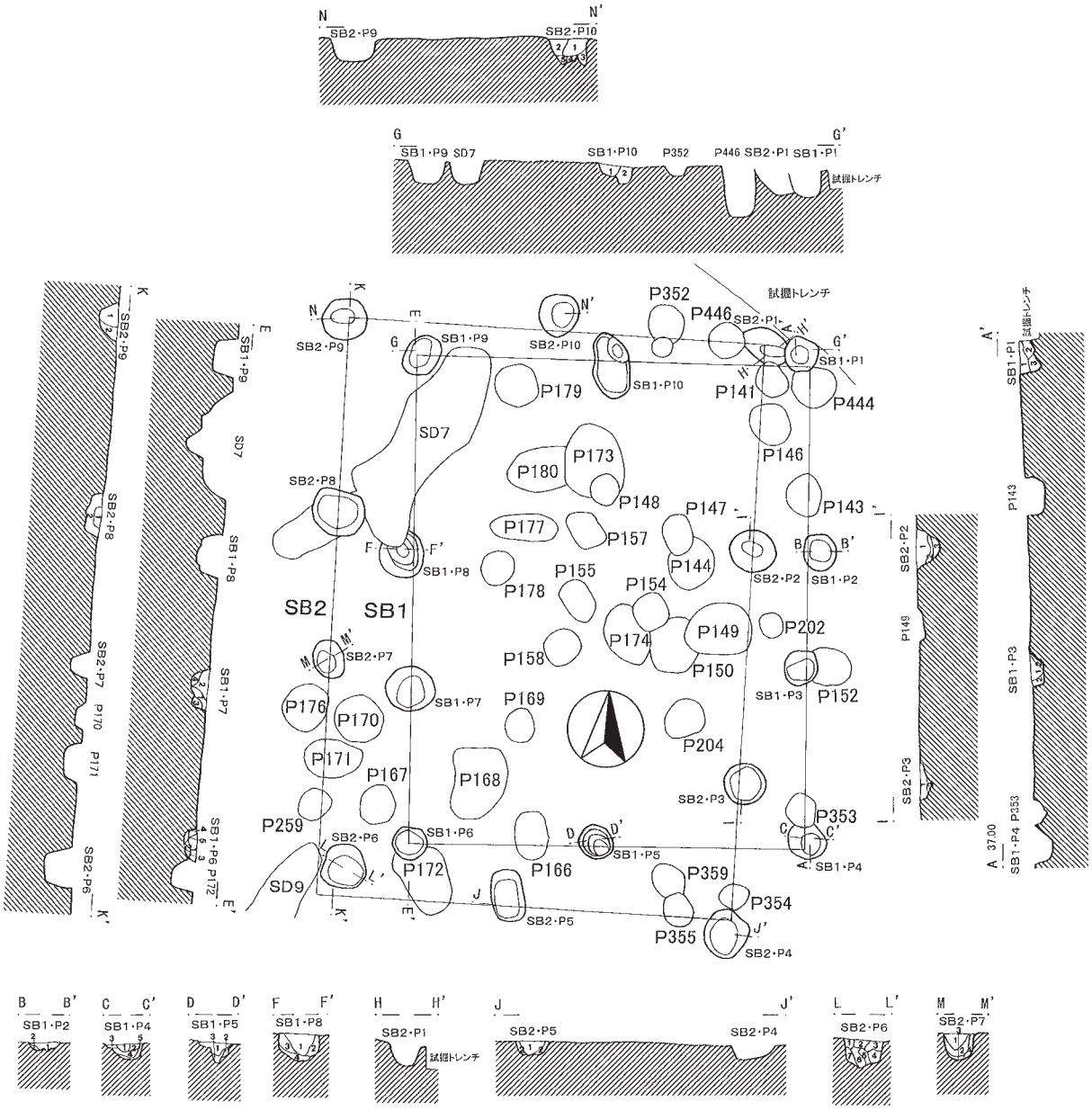
調査区の中央部北寄り、Ｄ・Ｅ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝－45,120～－45,130内にある。

第１号掘立柱建物跡、第７号溝跡、第446号ピットと直接重複関係にあり、本遺構は、第１号掘立柱建物跡、第446号ピットに切られ、第７号溝跡を切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第９号溝跡、第141・144・146～150・154・155・157・158・166～174・176～180・204・259・352・354・355・359号ピットと重複関係にある。

２間×３間の南北棟側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行5.06ｍ（約17尺）、梁行3.66ｍ（約12尺）、面積は約18.5㎡を測る。柱間は、桁行が北から東面で1.80ｍ－2.00ｍ－1.25ｍ、西面で1.70ｍ－1.30ｍ－2.06ｍ、梁行が東から北面で1.80ｍ－1.86ｍ、南面で1.95ｍ－1.71ｍを測り、桁行が約４～７尺、梁行が5.7～6.5尺である。主軸方位は、Ｎ－３°－Ｗを指す。

柱穴は基本的に円形または楕円形の掘り方で、長軸0.35～0.47ｍ、短軸0.27～0.39ｍを測る。北東隅の柱穴Ｐ１の掘り方が、唯一桁行梁行方向に対して約45°の傾きの長い楕円形である。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が25㎝、Ｐ２が21㎝、Ｐ３が９㎝、Ｐ４が11㎝、Ｐ５が13㎝、Ｐ６が24㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８が14㎝、Ｐ９が20㎝、Ｐ10が22㎝を測り、四隅の柱穴の掘り方が深い傾向を示す。

柱は、明確な柱痕跡が確認できたものは少なく、土層断面観察による掘り方から推定された柱痕跡はＰ７で確認されただけである。また、柱穴Ｐ４・６・10の柱筋が揃っていなく、柱筋の通りが悪い建物である。柱痕跡から推定される柱の直径は小さく、約15㎝と推定される。



土層説明(A-A')
SB1P1・P3
1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含

土層説明(B-B')
SB1P2
1 灰黄褐色土
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子含

土層説明(C-C')
SB1P4
1 暗灰黄色土　ハードローム土ブロック若干、黒褐色土ブロック多量含
2 黒褐色土　ハードローム土粒子わずか、ソフトローム土微粒子わずか含
3 暗灰黄色土　ハードローム土粒子多量含
4 黒色土　ハードローム土ブロック・粒子多量含
5 にぶい黄色土　黒褐色土粒子わずか含

土層説明(D-D')
SB1P5
1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
3 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

土層説明(E-E')
SB1P6・P7
1 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
4 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
5 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(F-F')
SB1P8
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 にぶい黄橙色土　黒褐色土ブロック含
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

土層説明(G-G')
SB1P10
1 にぶい黄褐色土　黒色土少量混
2 黒色土　ソフトローム土粒子多量含

土層説明(I-I')
SB2P2
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含
SB2P3
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 灰黄褐色土

土層説明(J-J')
SB2P5
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

土層説明(K-K')
SB2P8
1 灰黄褐色土　黒色土・ソフトローム土ブロック少量含
2 にぶい黄褐色土　黒色土・ソフトローム土混
SB2P9
1 灰黄褐色土　黒色土・ソフトローム土ブロック少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混

土層説明(L-L')
SB2P6
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
2 褐灰色土
3 褐灰色土　灰黄褐色土若干混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混、黒褐色土ブロック含
5 灰黄褐色土　黒褐色土若干混
6 灰黄褐色土　黒褐色土若干混、ソフトローム土粒子含
7 にぶい黄褐色土　黒褐色土・ソフトローム土粒子含

土層説明(M-M')
SB2P7
1 灰黄褐色土
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(N-N')
SB2P10
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含む
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含む
3 褐灰色土
4 にぶい黄褐色土
5 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層

第43図　第１・２号掘立柱建物跡

出土遺物は、検出できなかった。

第３号掘立柱建物跡（第44図）

調査区の北西部、Ｅ・Ｆ－７・８グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,490～19,500、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。

第216・281号ピットと直接重複関係にあり、本遺構が、いずれの遺構も切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第223・233・234号ピットと重複関係にある。

１間×１間の側柱式掘立柱建物跡で、規模は、桁行・梁行とも2.40ｍ（８尺）、面積は約5.7㎡を測る。柱間も、桁行・梁行とも2.40ｍ（８尺）である。主軸方位は、Ｎ－８°－Ｅを指す。

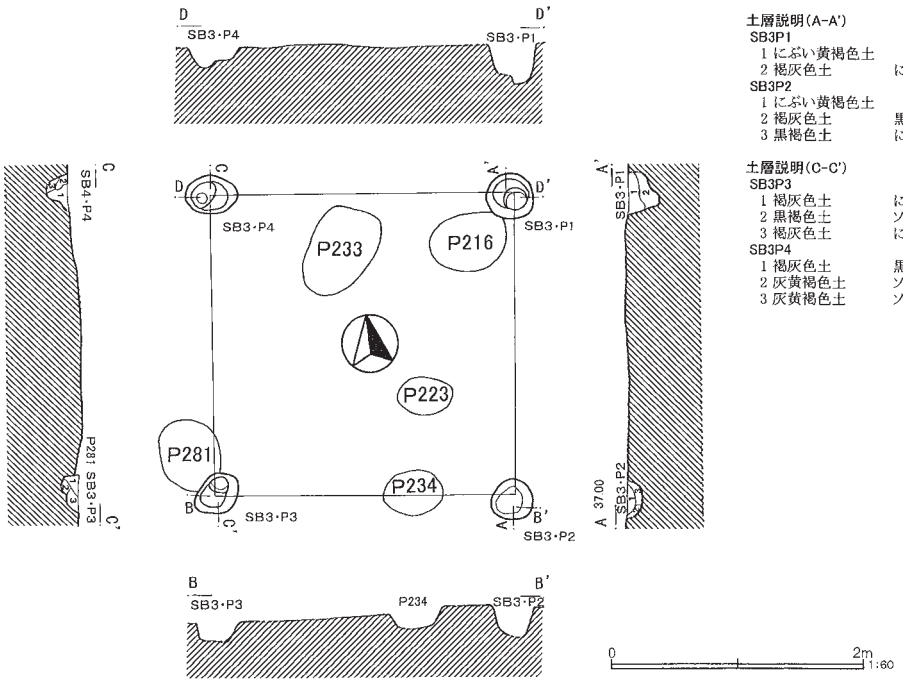
柱穴は円形、楕円形、台形状と様々な掘り方で、長軸0.31～0.41ｍ、短軸0.30～0.35ｍを測る。柱穴の掘り方は、北西隅のものが東西に、南西隅のものが南北に長い楕円形である。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が30㎝、Ｐ２が25㎝、Ｐ３が16㎝、Ｐ４が16㎝を測り、西側の柱穴の掘り方が浅いが、表土除去の際に掘削深度が少々深かったのが要因であると思われる。

柱は、柱穴Ｐ２を除き平面確認で柱痕跡が確認でき、その全てにおいて掘り方の中央部より外に偏っていた。また、Ｐ２以外柱痕跡が確認されなかったが、柱筋の通りが概ね良い建物である。土層断面観察からは明確な柱痕跡が確認できなかったが、平面確認での柱痕跡から推定される柱の直径は小さく、約15㎝と推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

第４号掘立柱建物跡（第45・46図）

調査区の中央部南寄り、Ｅ・Ｆ－９～11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,490、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。



土層説明（A-A'）
SB3P1
1 にぶい黄褐色土
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土若干、ソフトローム土混
SB3P2
1 にぶい黄褐色土
2 褐灰色土　黒褐色土わずか混
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

土層説明（C-C'）
SB3P3
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土混、ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土多量混
SB3P4
1 褐灰色土　黒褐色土粒子わずか含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混

第44図　第３号掘立柱建物跡

第９号溝跡、第267・286・288・297号ピットと直接重複関係にあり、本遺構は、第267号ピットに切られ、第９号溝跡、第286・288・297号ピットを切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第７号掘立柱建物跡、第17号溝跡、第10号土坑、第241・246・248～250・252・253・255～257・262～266・268～280・284・285・287・290・291・293・294・298・299・305・306・319・349・364・365・367・368・372・412・421・425・427・443号ピットと重複関係にある。

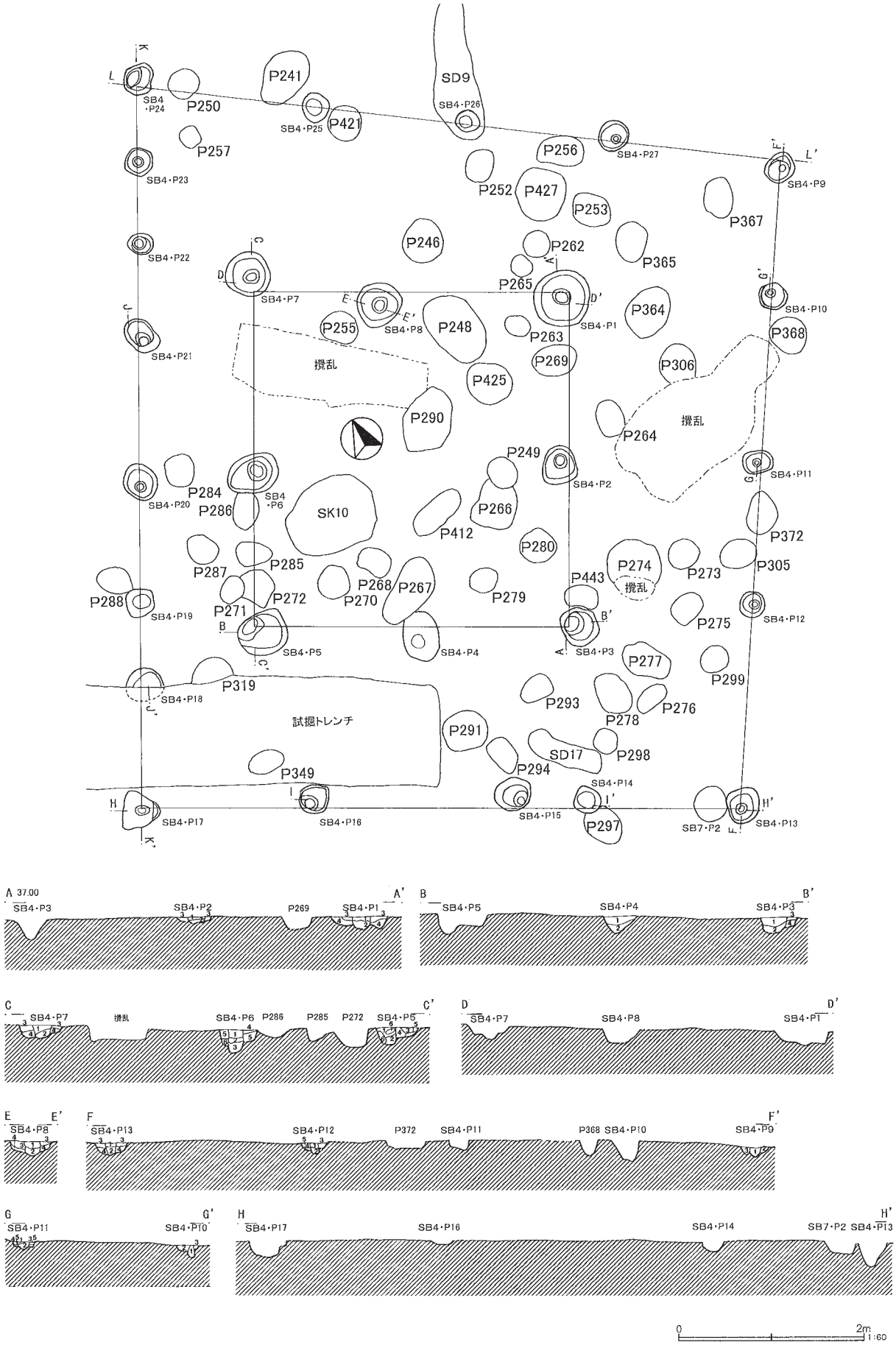
身舎が２間×２間の南北棟側柱式掘立柱建物跡で、その周囲に掘立柱列が廻る建物である。掘立柱列については、身舎を囲む掘立柱塀であると推定される。この掘立柱列は、北面と南面が４間、東面が４間、西面が７間である。身舎の規模は、桁行3.60ｍ（12尺）、梁行3.40ｍ（約11尺）、面積は約12.2㎡を測る。柱間は、桁行が北から東面が各々1.80ｍ、西面で1.90ｍ－1.70ｍ、梁行が東から北面で2.00ｍ－1.40ｍ、南面で1.60ｍ－1.80ｍを測り、桁行が約5.6～６尺、梁行が約4.6～6.6尺である。主軸方位は、Ｎ－25°－Ｅを指す。一方、掘立柱列の規模は、東面が7.00ｍ、西面が7.75ｍ、北面が6.97ｍ、南面が6.45ｍを測り、北面と西面が広くなるやや台形状の平面形である。また、身舎に対して、西面がやや接近する平面形を採る。面積は約49.5㎡を測る。柱間は、東面が北から1.45ｍ－1.85ｍ－1.50ｍ－2.20ｍ、西面が北から0.80ｍ－0.90ｍ－1.05ｍ－1.55ｍ－1.20ｍ－0.90ｍ－1.35ｍ、北面が東から1.80ｍ－1.60ｍ－1.60ｍ－1.97ｍ、南面が東から1.65ｍ－0.70ｍ－2.25ｍ－1.85ｍを測り、東面が約4.8～７尺、西面が約2.6～５尺、北面が約５～6.5尺、南面が約２～7.5尺である。西面の柱間が一定せず北及び南が狭まっており、南面の柱間も一部一定せずＰ14－Ｐ15間が狭い。

身舎の柱穴は基本的に円形または楕円形の掘り方で、長軸0.41～0.59ｍ、短軸0.39～0.59ｍを測る。梁行側南面の柱穴２基（Ｐ３・５）の掘り方が建物中心に向かってハの字の向きでやや長い楕円形であり、中央のＰ４が南北に（建物中心に向かって）長い楕円形であった。また、桁行側西面の柱穴Ｐ６も東西に（建物中心に向かって）長い楕円形であった。他の柱穴の掘り方はほぼ円形または円形を意識した掘り方であった。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が13㎝、Ｐ２が７㎝、Ｐ３が20㎝、Ｐ４が18㎝、Ｐ５が20㎝、Ｐ６が25㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８が15㎝を測る。

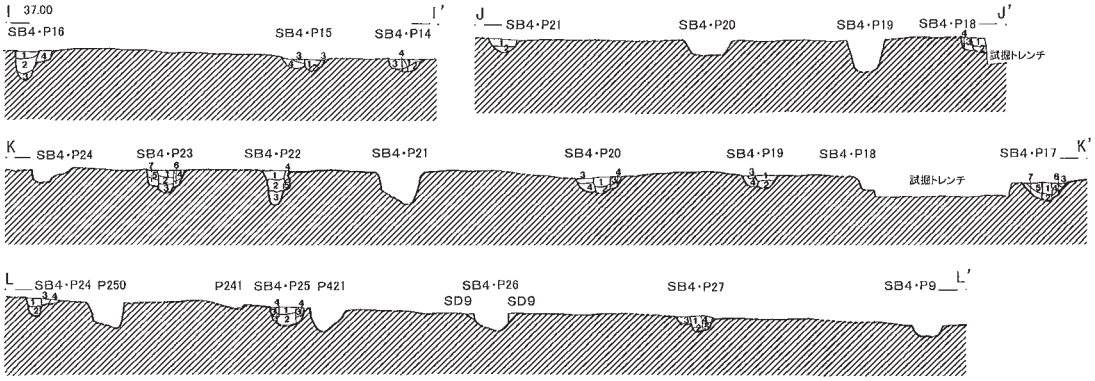
身舎の柱は、全ての柱穴で柱痕跡が確認でき、掘り方のほぼ中央部のものが５基（Ｐ１・２・６～８）、西側に寄っているものが２基（Ｐ３・５）、南側に寄っているものが１基（Ｐ４）であった。また、柱穴Ｐ２・４・７・８の柱筋が揃っていなく、柱筋の通りが悪い建物である。平面確認及び土層断面観察により確認された柱痕跡から推定される柱の直径は、他の掘立柱建物跡と比べるとやや大きく、約15～20㎝と推定される。

一方、周囲を廻る掘立柱列の柱穴も基本的に円形または楕円形の掘り方であるが、Ｐ11・14・16・19・20のように隅丸方形状や、Ｐ17のように三角形状をなすものも見られた。その規模は、平均して小規模であり、長軸0.28～0.40ｍ、短軸0.28～0.36ｍを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ９が８㎝、Ｐ10が21㎝、Ｐ11が11㎝、Ｐ12が11㎝、Ｐ13が25㎝、Ｐ14が11㎝、Ｐ15が５㎝、Ｐ16が４㎝、Ｐ17が17㎝、Ｐ18が12㎝、Ｐ19が25㎝、Ｐ20が12㎝、Ｐ21が26㎝、Ｐ22が25㎝、Ｐ23が17㎝、Ｐ24が14㎝、Ｐ25が15㎝、Ｐ26が14㎝、Ｐ27が12㎝を測る。

掘立柱列の柱は、平面確認及び土層断面観察により19基の柱穴のうち14基で柱痕跡が確認でき、掘り方のほぼ中央部のものが10基（Ｐ９～13・17・20・22・23・27）、東側に寄っているものが１基（Ｐ15）、



第45図　第４号掘立柱建物跡



土層説明(A-A')

SB4P1
- 1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干含
- 4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含

SB4P2
- 1 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子若干含
- 2 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子若干含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック小・微粒子若干含

土層説明(B-B')

SB4P3
- 1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干、ハードローム土粒子わずか含
- 2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック小多量、ソフトローム土粒子若干含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含

SB4P4
- 1 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
- 2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック・粒子多量、ソフトローム土粒子多量含

土層説明(C-C')

SB4P5
- 1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- 2 灰黄褐色土　黒褐色土粒子少量、ソフトローム土微粒子若干含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 4 暗オリーブ褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか、ソフトローム土微粒子若干含
- 5 暗灰黄色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- 6 攪乱

SB4P6
- 1 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子わずか含
- 2 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 3 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック小若干、ソフトローム土粒子わずか含
- 4 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- 5 暗灰黄色土　にぶい黄褐色土ブロック若干、ソフトローム土粒子・微粒子若干含
- 6 暗褐色土　黒褐色土粒子若干、ソフトローム土粒子若干含

SB4P7
- 1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- 2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子少量、ハードローム土ブロック小わずか含

土層説明(E-E')

SB4P8
- 1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
- 2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土微粒子わずか含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
- 4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子少量、ハードローム土ブロック小わずか含

土層説明(F-F')

SB4P9
- 1 黒褐色土　ソフトローム土混
- 2 にぶい黄褐色土　褐灰色土わずか混
- 3 攪乱

SB4P12
- 1 灰黄褐色土　ソフトローム土わずか混
- 2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土混
- 3 褐灰色土と黒褐色土の混合層
- 4 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
- 5 灰黄褐色土　ソフトローム土・黒褐色土わずか混

SB4P13
- 1 黒褐色土　ソフトローム土、褐灰色土混
- 2 黒褐色土　ソフトローム土若干混
- 3 褐灰色土　ソフトローム土多量混
- 4 褐灰色土　ソフトローム土少量混、黒褐色土ブロック含

土層説明(G-G')

SB4P10
- 1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
- 2 褐灰色土　灰黄褐色土混
- 3 にぶい黄褐色土　黒褐色土若干混

SB4P11
- 1 黒褐色土
- 2 にぶい黄褐色土と黒褐色土の混合層
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土わずか混
- 4 褐灰色土　ソフトローム土わずか混
- 5 にぶい黄褐色土

土層説明(I-I')

SB4P14
- 1 黒褐色土と褐灰色土の混合層
- 2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
- 3 灰黄褐色土　黒褐色土・ソフトローム土少量混
- 4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

SB4P15
- 1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
- 2 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混
- 3 黒褐色土　ソフトローム土混
- 4 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混

SB4P16
- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土　ソフトローム土少量、灰黄褐色土混
- 3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
- 4 黒褐色土　ソフトローム土多量混

土層説明(J-J')

SB4P18
- 1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
- 2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
- 3 黒褐色土
- 4 黒褐色土　ソフトローム土少量混

SB4P21
- 1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
- 2 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック・粒子含

土層説明(K-K')

SB4P17
- 1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
- 2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
- 3 褐灰色土　ソフトローム土少量混
- 4 黒褐色土わずかとソフトローム土混合層
- 5 黒褐色土とソフトローム土の混合層
- 6 灰黄褐色土少量とソフトローム土の混合層
- 7 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土わずか混

SB4P19
- 1 灰オリーブ色土
- 2 黒褐色土　灰オリーブ色土少量混
- 3 灰黄褐色土　灰オリーブ色土粒子わずか含
- 4 灰黄褐色土　褐灰色土多量混

SB4P20
- 1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
- 2 黒褐色土　ソフトローム土多量、にぶい黄褐色土少量混
- 3 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
- 4 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

SB4P22
- 1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
- 2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
- 3 黒褐色土　ソフトローム土多量混
- 4 にぶい黄褐色土
- 5 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック多数含

SB4P23
- 1 灰黄褐色土　黒褐色土若干混
- 2 灰黄褐色土と黒褐色土の混合層
- 3 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量
- 4 黒褐色土　褐灰色土少量混
- 5 にぶい黄褐色土　灰黄褐色土少量混
- 6 暗褐色土
- 7 にぶい黄褐色土　褐灰色土粒子、ソフトローム土粒子含

土層説明(L-L')

SB4P24
- 1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
- 2 黒褐色土　ソフトローム土・灰黄褐色土少量含
- 3 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混
- 4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

SB4P25
- 1 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
- 2 黒褐色土　灰黄褐色土若干混、ソフトローム土粒子少量含
- 3 灰黄褐色土
- 4 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干含

SB4P27
- 1 黒褐色土と褐灰色土の混合層　ソフトローム土混
- 2 黒褐色土と灰黄褐色土の混合層　ソフトローム土わずか混
- 3 褐灰色土　ソフトローム土混
- 4 褐灰色土　ソフトローム土若干混
- 5 黒褐色土　ソフトローム土少量混

0 2m 1:60

第46図　第４号掘立柱建物跡土層断面図

西側に寄っているものが２基（Ｐ16・24)、南側に寄っているものが１基（Ｐ21）であった。なお、柱筋の通りがやや悪い柱穴は南面のＰ14～16の３基であった。主として土層断面観察における柱痕跡から推定される柱の直径は約７～15㎝と小さく、平均すると10㎝前後であると推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

第５号掘立柱建物跡（第47図）

調査区の北東隅、Ｂ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。東及び南側が調査区域外となっている。

第13号土坑、第432号ピット、第３号性格不明竪穴遺構と直接重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構も切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第230・393・395号ピットと重複関係にある。

建物の東及び南が調査区域外のため詳細は不明であるが、２間以上×３間以上の南北棟側柱式掘立柱建物跡と推定される。検出された規模は桁行4.30ｍ、梁行2.40ｍで、面積は約10㎡以上と推定される。柱間は、検出された西面の桁行が北から1.45ｍ－2.10ｍ、北面の梁行が西から1.80ｍを測り、桁行が約５～７尺、梁行が６尺である。主軸方位は、Ｎ－15°－Ｗを指すと推定される。

柱穴は基本的に隅丸方形状で、Ｐ４だけやや三角形状の掘り方であった。規模については、長軸0.33～0.38ｍ、短軸0.29～0.35ｍを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が14㎝、Ｐ２が18㎝、Ｐ３が30㎝、Ｐ４が24㎝を測り、北西の隅柱の柱穴と考えられるＰ３が最も深い掘り方であった。

柱は、全ての柱穴において柱痕跡が確認でき、掘り方の中央部付近のものはなく、梁行の２基（Ｐ３・４）は南に、桁行の２基（Ｐ１・２）は西に寄っていた。また、全ての柱穴の柱筋が揃っており、柱筋の通りが良い建物である。土層断面観察により確認された柱痕跡はＰ１・３で確認され、平面確認ではＰ２・４で確認された。これらから推定される柱の直径は小さく、10㎝前後と推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

第６号掘立柱建物跡（第47図）

調査区の北東部、Ｃ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝－45,115～－45,120内にある。

第12号土坑及び第373号ピットと直接重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構にも切られている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第312～315・320・331・332・396・397・415・445号ピットと重複関係にある。

２間×２間の南北棟側柱式掘立柱建物跡であるが、柱筋が直交せず平面形が平行四辺形状をなす。規模は、桁行3.45～3.50ｍ（約11.5尺)、梁行3.05～3.15ｍ（約10尺)、面積は約11㎡を測る。柱間は、桁行が北から東面で1.50ｍ－2.00ｍ、西面で1.50ｍ－1.95ｍ、梁行が東から北面で1.60ｍ－1.45ｍ、南面で1.75ｍ－1.40ｍを測り、桁行が５～約6.6尺、梁行が約4.6～６尺である。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｗを指す。

柱穴は基本的にやや隅丸方形状の楕円形の掘り方で、長軸0.32～0.48ｍ、短軸0.29～0.45ｍを測る。梁行側北面の柱穴２基（Ｐ７・８）の掘り方が楕円形で、Ｐ７が東西に、Ｐ８が南北に長い。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が15㎝、Ｐ２が17㎝、Ｐ３が21㎝、Ｐ４が９㎝、Ｐ５が22㎝、Ｐ６が14㎝、Ｐ７が15㎝、Ｐ８が12㎝を測る。

柱は、柱痕跡が確認できたものが５基（Ｐ２・５～８）で、掘り方の中央部付近のものはＰ２の１基

だけで、その他の柱穴は南側に寄っているものであった。また、柱穴Ｐ５・７・８の柱筋が揃っていなく、柱筋の通りが悪い建物である。土層断面観察により柱痕跡が確認された柱穴はＰ２・５～７の４基であり、平面確認から柱痕跡が確認されたのは土層断面により確認された４基に加えＰ８の１基であった。これらから推定される柱の直径は小さく、約10～15㎝であると推定され、おそらく10㎝前後と思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第７号掘立柱建物跡（第48図）

調査区の中央部南端、Ｅ・Ｆ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。南側が調査区域外となっている。

第350号ピットと直接重複関係にあり、本遺構が切っている。なお、直接切り合いの関係にはないが、第４号掘立柱建物跡、第13号溝跡、第296・297・301～303・409・437号ピットと重複関係にある。

建物の南側の多くが調査区域外にあると推定され、また西側については全く不明であるため、詳細が分からないが、２間以上×２間以上の側柱式掘立柱建物跡と推定される。よって、東西棟であるか、南北棟であるかも不明である。仮に検出された他の掘立柱建物跡と同様に南北棟とすれば、検出された規模は桁行2.30ｍ、梁行2.30ｍ以上と推定される。柱間は、検出された東面の桁行が北から2.40ｍ以上、北面の梁行が東から2.30ｍを測り、桁行が８尺以上、梁行が約８尺である。主軸方位は、Ｎ－８°－Ｅを指すと推定される。

柱穴は遺存していた柱穴のＰ１が楕円形、Ｐ２が隅丸方形状での掘り方であった。規模については、長軸0.36～0.43ｍ、短軸0.35ｍを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が９㎝、Ｐ２が８㎝を測り、いずれも浅い掘り方であった。

柱は、柱穴のＰ１・２とも柱痕跡が確認でき、Ｐ１が掘り方の中央部付近で、Ｐ２がやや北に寄っていた。また、確認された柱穴からだけの判断だが、柱筋の通りが良い建物である。平面観察及び土層断面観察により確認された柱痕跡から推定される柱の直径は小さく、10～15㎝と推定される。

出土遺物は、検出できなかった。

第８号掘立柱建物跡（第48図）

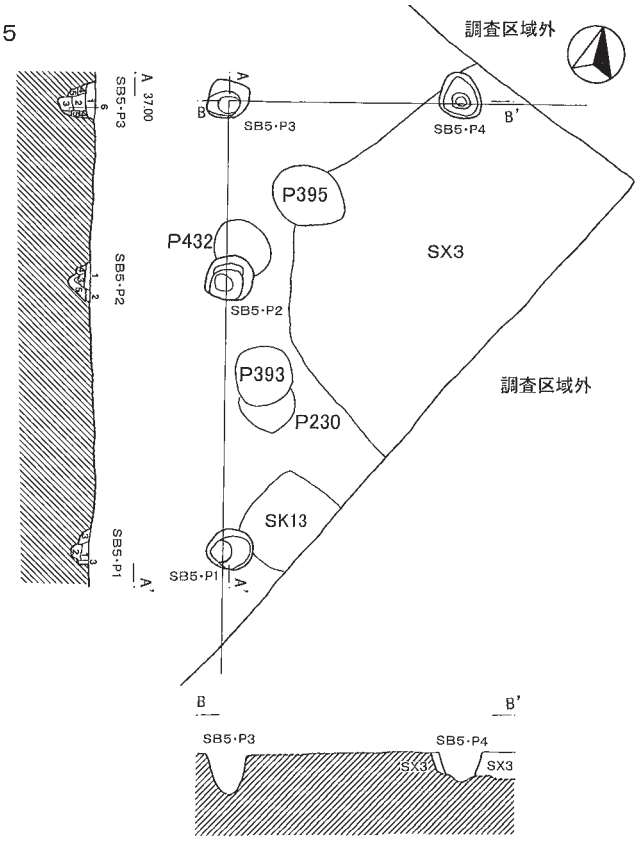
調査区の中央部南端付近、Ｅ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,125～－45,130内にある。南側が調査区域外となっている。

直接重複関係にある遺構はなく、直接切り合いの関係にはないが第403・408・437号ピットと重複関係にある。

建物の南側の大部分が調査区域外にあると推定され、また東側についても不明であるため、詳細が分からないが、側柱式掘立柱建物跡と推定される。よって、東西棟であるか南北棟であるか以前に桁行・梁行の規模さえも不明である。仮に検出された他の掘立柱建物跡と同様に南北棟とすれば、検出された規模は梁行2.90ｍ以上を測る。柱間は、検出された柱穴Ｐ１－Ｐ２間で1.80ｍを測り、６尺である。主軸方位は、Ｎ－48°－Ｅを指すと推定され、検出された他の掘立柱建物跡と異なり、大きく主軸方位が東に傾くと推定される。

柱穴は遺存していた柱穴のＰ１が南北に長い隅丸方形状の楕円形、Ｐ２がやや台形状をなす隅丸方形

SB5



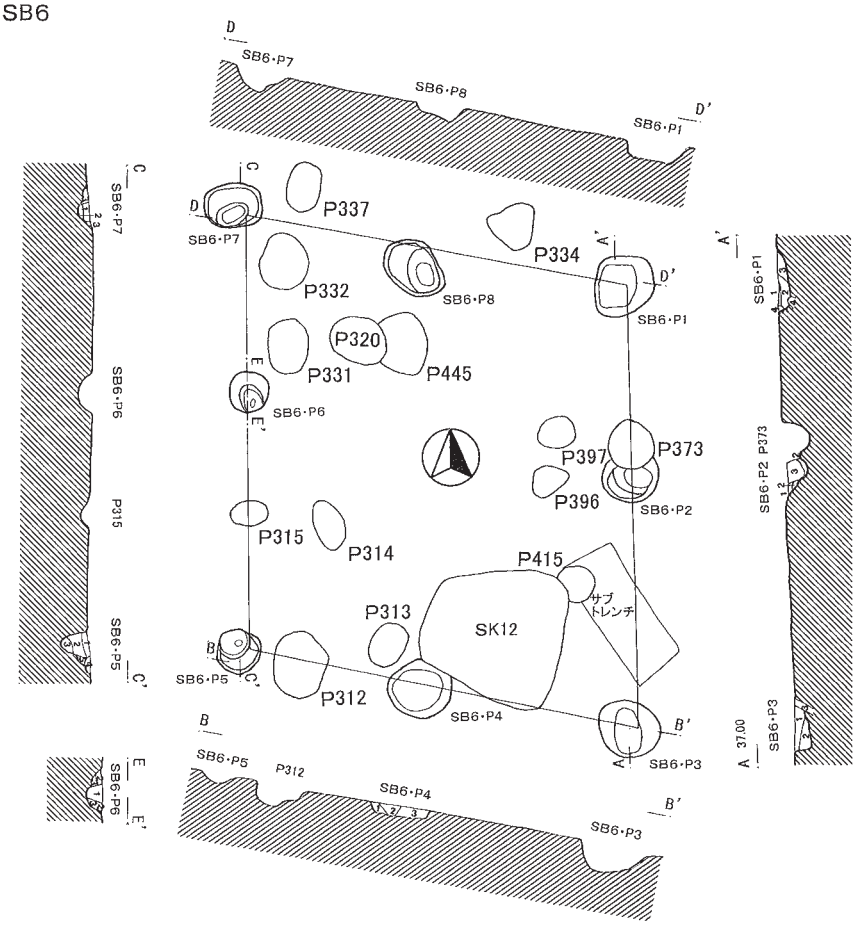
土層説明(A-A')

SB5P1
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子少量含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含

SB5P2
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量、黒褐色土ブロック若干含
3 灰黄褐色土
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック含
5 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子少量含

SB5P3
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干、炭化物粒わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒色土　ソフトローム土ブロック小わずか含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
6 黒色土

SB6



土層説明(A-A')

SB6P1
1 灰黄褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含
3 褐灰色土
4 攪乱

SB6P2
1 黒褐色土　褐灰色土若干混
2 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 灰黄褐色土

SB6P3
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土粒子若干含
2 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含
3 攪乱

土層説明(B-B')

SB6P4
1 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子わずか含

土層説明(C-C')

SB6P5
1 黒褐色土　黄褐色土若干混
2 黒褐色土　ソフトローム土わずか、暗灰黄色土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 オリーブ黒色土
5 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子少量含

SB6P7
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか、暗灰黄色土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 暗褐色土

土層説明(E-E')

SB6P6
1 黒褐色土　暗灰黄色土少量混
2 黒褐色土　黄褐色土若干混
3 暗灰黄色土

0　2m　1:60

第47図　第５・６号掘立柱建物跡

の掘り方であった。規模については、長軸0.45～0.47ｍ、短軸0.35～0.43ｍを測る。掘り方の深さは、いずれも確認面からＰ１が17㎝、Ｐ２が19㎝を測る。

柱は、平面観察及び土層断面観察から、いずれの柱穴においても柱痕跡が確認できなかった。また、柱痕跡が確認されていなく柱穴からの判断だが、柱筋の通りが良い建物である。

出土遺物は、検出できなかった。

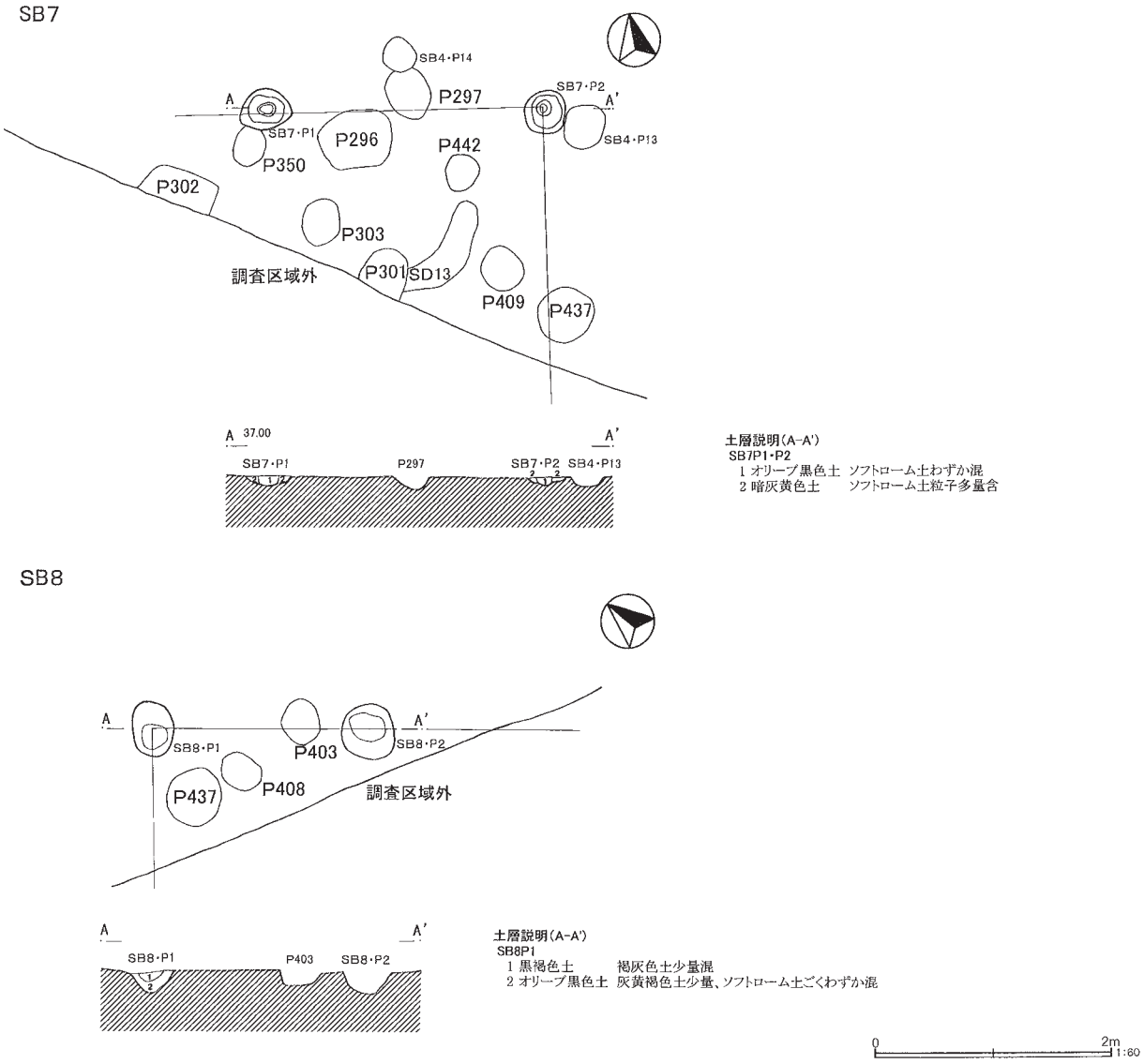
（４） 溝跡

第７号溝跡（第49図）

調査区の中央部北寄り、Ｅ－８グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,490～19,495、Ｙ＝－45,125～－45,130内にある。

第１・２号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本遺構が第２号掘立柱建物跡に切られ、第１号掘立柱建物跡を切っている。

規模は、長さ2.58ｍ、幅0.33～0.66ｍを測り、幅については局所的に0.80ｍを測る幅広のか所がある。



第48図　第７・８号掘立柱建物跡

走行軸の方位は、およそＮ－32°－ＥからＮ－57°－Ｅに変化し、第２号掘立柱建物跡の柱穴Ｐ８に切られているか所からややくの字に屈曲する。

断面形は基本的に船底状をなし、西側の立ち上がりは緩やかなか所が多い。底面の４か所が、円形、楕円形、瓢箪形のピット状に掘り込まれている。また、くの字に屈曲した後の西端部へは、一旦段をもって立ち上がり、西ではまた同程度の深さとなる。その深さは、土層断面観察から0.20ｍ前後を測る。埋土は、東部はレンズ状に堆積し、西部は第２層を除きレンズ状に堆積していることから、基本的に自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第８号溝跡（第49図）

調査区の北西部、Ｅ・Ｆ－８グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,490～19,495、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。単独で、第３号掘立柱建物跡の南面に沿うように所在する。

規模は、長さ1.44ｍ、幅0.28～0.39ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－60°－Ｗを示す。

断面形は、箱形をなす。深さは、土層断面観察から0.24ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第９号溝跡（第49図）

調査区の中央部付近、Ｅ－９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,490、Ｙ＝－45,125～－45,130内にある。

第４号掘立柱建物跡及び第333号ピットと重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構にも切られている。

規模は、長さ1.59ｍ、幅0.32～0.51ｍを測り、南に行くにしたがい幅広となる。走行軸の方位は、Ｎ－21°－Ｅを示す。

断面形は、浅い船底状であり、北半の底面が長さ50㎝程一段深く掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.14ｍを測る。埋土は、ややランダムな状況も見受けられるが、基本的にはレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第10号溝跡（第49図）

調査区の北東部、Ｃ－９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,490、Ｙ＝－45,115～－45,120内にある。単独で、第６号掘立柱建物跡の桁行西面に直交して所在する。

規模は、長さ0.91ｍ、幅0.26～0.30ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－78°－Ｗを示す。

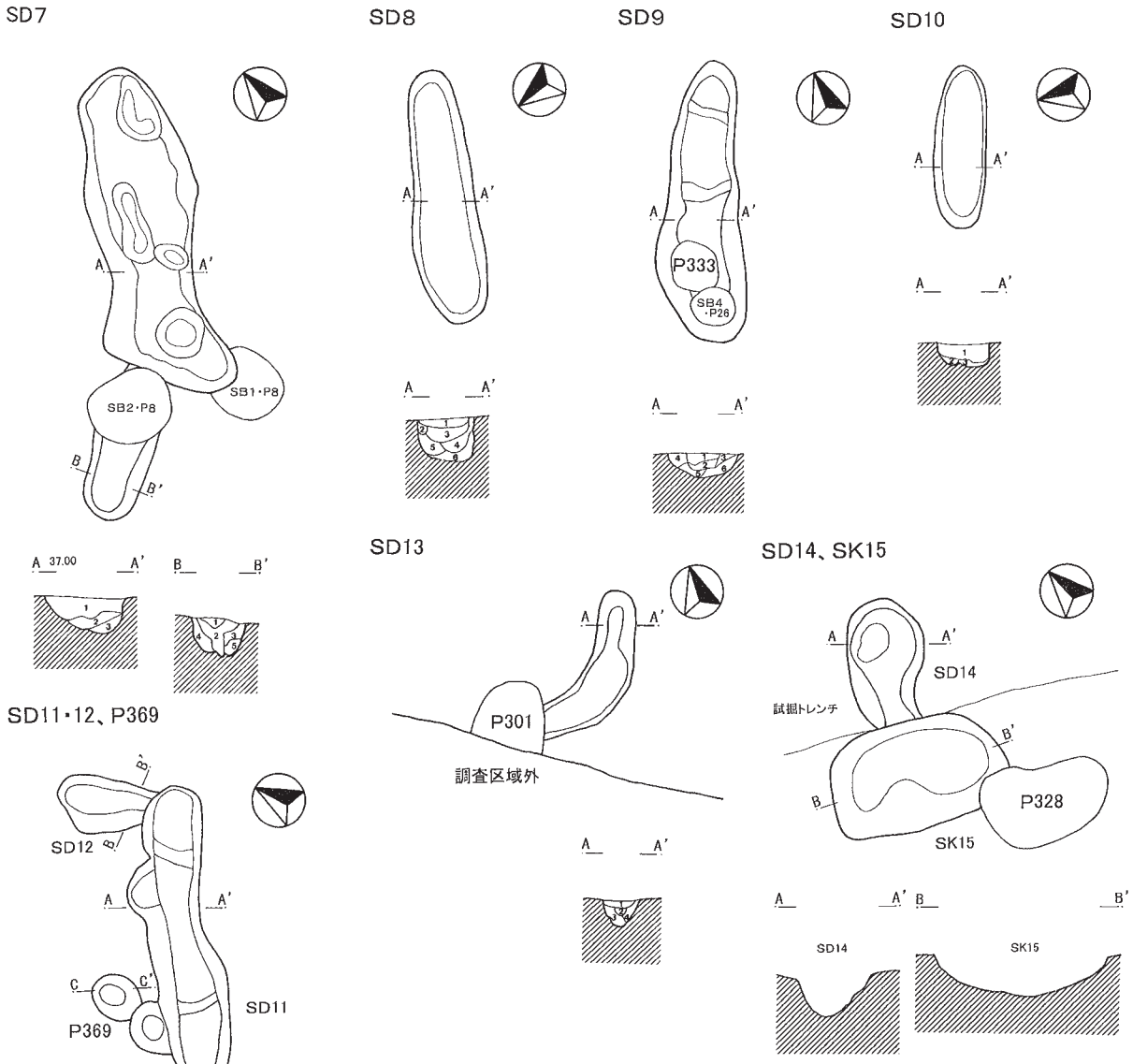
断面形は、箱形状をなす。深さは、土層断面観察から0.12ｍを測る。埋土は、ややレンズ状に水平堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第11号溝跡（第49図）

調査区の中央部南東寄り、Ｄ・Ｅ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,120～－45,130内にある。なお、位置的には、東に隣接する第15号墳の墳丘下の溝跡とも考えられる。

第12号溝跡、第369号ピットと重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構も切っている。



土層説明(A-A')
SD7
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土と灰黄褐色土の混合層
3 にぶい黄橙色土

土層説明(B-B')
SD7
1 褐灰色土　灰黄褐色土少量混
2 黒褐色土
3 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子少量含
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

土層説明(A-A')
SD8
1 褐灰色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土ブロック少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土ブロック・粒子含
4 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混、黒褐色土ブロック含
5 褐灰色土
6 灰黄褐色土　ソフトローム土混

土層説明(A-A')
SD9
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　褐灰色土わずか混
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土　ソフトローム土少量混
5 黒褐色土　褐灰色土混、ソフトローム土粒子少量含
6 にぶい黄褐色土　黒褐色土混、ソフトローム土粒子多量

土層説明(A-A')
SD10
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土粒子ごくわずか含
2 褐灰色土　灰黄褐色土少量混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混

土層説明(A-A')
SD11
1 黒褐色土　ハードローム土少量混
2 黒褐色土　ハードローム土若干混
3 黒色土　ソフトローム土微量混
4 黒褐色土　ハードローム土ごくわずか混
5 黒褐色土　ハードローム土少量混

土層説明(A-A')
SD13
1 黒褐色土
2 黒褐色土
3 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
4 灰黄褐色土と黒褐色土の混合層

0　1m
1:40

第49図　第７～14号溝跡、第15号土坑、第369号ピット

規模は、長さ1.75ｍ、幅0.28～0.41ｍを測る。走行軸の方位は、おおよそＮ－122°－Ｗを示す。平面形は、北側にピットが付随する形状をなす。

断面形は、北側がやや緩やかに立ち上がるＶ字状の船底をなし、底面は西から東へと二段階下がる。深さは、土層断面観察から0.20ｍを測る。埋土は、ランダムに堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。これは、前述した第15号墳との関係があるとも考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

第12号溝跡（第49図）

調査区の中央部南東寄り、Ｄ・Ｅ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,120～－45,130内にある。なお、位置的には、第11号溝跡と同様に東に隣接する第15号墳の墳丘下の溝跡とも考えられる。

第11号溝跡と重複関係にあり、本遺構が切られている。

規模は、検出長約0.51ｍ、幅0.20～0.34ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－19°－Ｗを示す。

断面形は、西側が緩やかに立ち上がる逆台形をなす。深さは、土層断面観察から0.14ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

第13号溝跡（第49図）

調査区の中央部南端、Ｅ・Ｆ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。

第301号ピットと重複関係にあり、本遺構が切られている。また、直接切り合いの関係にはないが、位置的に第７号掘立柱建物跡と重複関係にある。

規模は、残存長0.92ｍ、幅0.21～0.26ｍを測る。走行軸の方位は、およそＮ－29°－ＥからＮ－96°－Ｗに変化し、Ｌの字に屈曲し第301号ピットに切られる。

断面形は、Ｖ字状をなす。深さは、土層断面観察から0.14ｍを測る。埋土は、最上層の第１層はレンズ状に堆積しているが、その他はランダムに堆積していることから、基本的に人為的に埋め戻されたと思われる。これは、位置的に第７号掘立柱建物跡と重複していることに関係があるとも考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

第14号溝跡（第49図）

調査区の東南部、Ｄ・Ｅ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,120～－45,130内にある。

第15号土坑と重複関係にあり、本遺構が切られている。

規模は、残存長0.71ｍ、幅0.27～0.44ｍを測る。走行軸の方位は、およそＮ－28°－Ｅを示し、ややくの字状の平面形をなす。

断面形は、船底状をなす。深さは、土層断面観察から0.22ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

第15号溝跡（第50図）

調査区の東南部、Ｄ－12グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,470～19,475、Ｙ＝－45,120～－45,125内にある。単独で所在し、南端は調査区域外となっている。

規模は、検出長1.02ｍ、幅0.38～0.43ｍを測る。走行軸の方位は、およそＮ－14°－Ｗを示す。

断面形は、底が幅広の逆台形をなす。深さは、土層断面観察から最深部で0.10ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

第16号溝跡（第50図）

調査区の東南部、Ｅ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,125～－45,130内にある。単独で所在し、南端は調査区域外となっている。

規模は、検出長0.95ｍ、幅0.33～0.42ｍを測る。走行軸の方位は、およそＮ－36°－Ｅを示す。

断面形は、丸底をなす。底面は、北端が一段下がり、南端がピット状に掘りくぼめられて深くなっていた。深さは、土層断面観察から0.05ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

第17号溝跡（第50図）

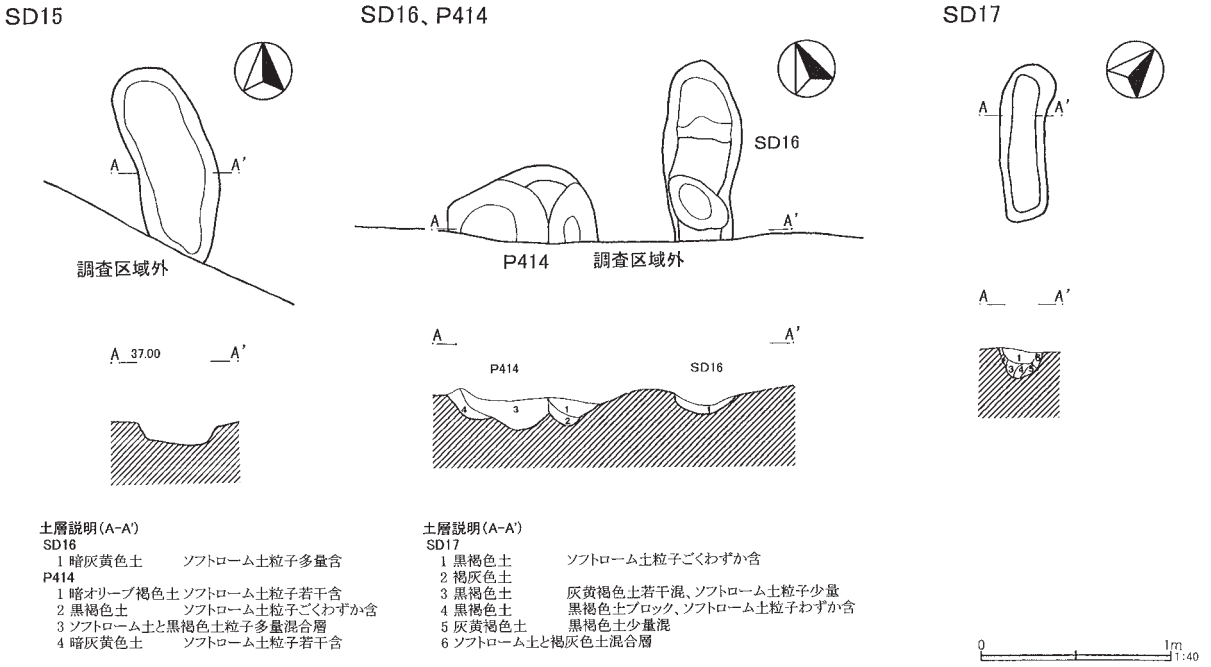
調査区の中央部南寄り、Ｅ・Ｆ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,125～－45,135内にある。

単独で所在し、直接切り合いの関係にはないが、位置的に第４号掘立柱建物跡と重複関係にある。

規模は、長さ0.84ｍ、幅0.23～0.25ｍを測る。走行軸の方位は、Ｎ－43°－Ｗを示す。

断面形は、逆台形状の船底をなす。深さは、土層断面観察から0.15ｍを測る。埋土は、ランダムに堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。これは、位置的に第４号掘立柱建物跡と重複していることに関係があるとも考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。



第50図　第15～17号溝跡、第414号ピット

（５） 土坑

第８号土坑（第51図）

調査区の北西部、Ｅ－７グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,495～19,500、Ｙ＝－45,125～－45,130内にある。

第208号ピットと重複関係にあり、本遺構が切っている。

規模は、長軸1.15ｍ、短軸0.51～0.55ｍを測る。平面形は、南北に長い楕円形をなす。

底面は、北半が一段深く掘りくぼめられていた上に南寄りがピット状に掘りくぼめられており、南半も西寄りが楕円形にやや深く掘りくぼめられていた。深さは、土層断面観察から0.17ｍを測り、北半のピット状の掘り方は深さ0.30ｍを測る。埋土は、ややランダム気味に堆積しているか所もあるが、概ねレンズ状に堆積していることから自然堆積であると思われるが、北半のピット状の掘り方部は、完全に埋まった段階で掘り直され、後に埋め戻されたと思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第９号土坑（第51図）

調査区の南西部南端、Ｇ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,135～－45,140内にある。

第428号ピットと重複関係にあり、本遺構が切っている。また、南側が調査区域外となっている。

規模は、検出長軸1.14ｍ、短軸0.80ｍを測る。平面形は、方形をなすと推定されるが、正方形をなすのか長方形をなすのかは不明である。

底面はほぼ一定で、深さは土層断面観察から0.30～0.37ｍを測る。埋土は、ほぼレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第10号土坑（第51図）

調査区の中央部南寄り、Ｆ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,130～－45,135内にある。

単独で所在する。直接切り合いの関係にはないが、位置的に第４号掘立柱建物跡と重複関係にある。

規模は、長軸0.98ｍ、短軸0.50～0.76ｍを測る。平面形は、基本的には楕円形をなすが、西側が突出した形状をなす。

底面は、東西がピット状に深くなり、平面的にはピットが東西に接している形状である。深さは、土層断面観察から0.18～0.19ｍを測る。埋土は、概ねレンズ状に堆積していることから自然堆積であると思われるが、その堆積順は、東側がまず堆積し埋まり、その後西側が一旦ピット状に掘られ、その後堆積し埋まっていったと考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

第11号土坑（第51図）

調査区の北東部、Ｃ－９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,490、Ｙ＝－45,115～－45,120内にある。単独で所在する。

規模は、長軸0.99ｍ、短軸0.58ｍを測る。平面形は、南北に長い楕円形をなす。

底面は、北端の一部及び南半が一段やや深くなる。深さは、土層断面観察から0.14～0.18ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第12号土坑（第51図）

調査区の北東部、Ｃ－９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,490、Ｙ＝－45,115～－45,120内にある。

第６号掘立柱建物跡及び第415号ピットと重複関係にあり、本遺構がいずれの遺構も切っている。

規模は、推定長軸1.12ｍ、短軸0.71～1.08ｍを測る。平面形は、西辺の長さが短い台形状をなす。

底面は、東端に幅約10㎝の平坦部をもち、その西側が一段深くなっていた。深さは、土層断面観察から平坦部が0.06ｍ、深いか所が0.14～0.20ｍ測る。埋土は、縦方向にややランダムに堆積していることから、人為的に埋め戻されたと思われる。これは、第６号掘立柱建物跡と重複関係にあることから、第６号掘立柱建物跡を建築する際に行われたとも考えられる。

出土遺物は、検出できなかった。

第13号土坑（第51図）

調査区の北東部東端、Ｂ－９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,490、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第５号掘立柱建物跡と重複関係にあり、本遺構が切られている。また、東側が調査区域外となっている。

規模は、検出東西軸0.56ｍ、南北軸0.73ｍを測る。平面形は、正方形または長方形をなすと推定される。

底面は一定だが、西寄りにピット状に掘りくぼめられたか所があった。深さは、土層断面観察から0.13ｍ測るが、ピット状に深いか所は0.21ｍを測る。埋土は、一部水平、その他はレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第14号土坑（第52・68図、第６表）

調査区の北部中央、Ｃ・Ｄ－８グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,490～19,495、Ｙ＝－45,115～－45,125内にある。単独で所在し、南端が試掘調査の際のトレンチにより切られている。

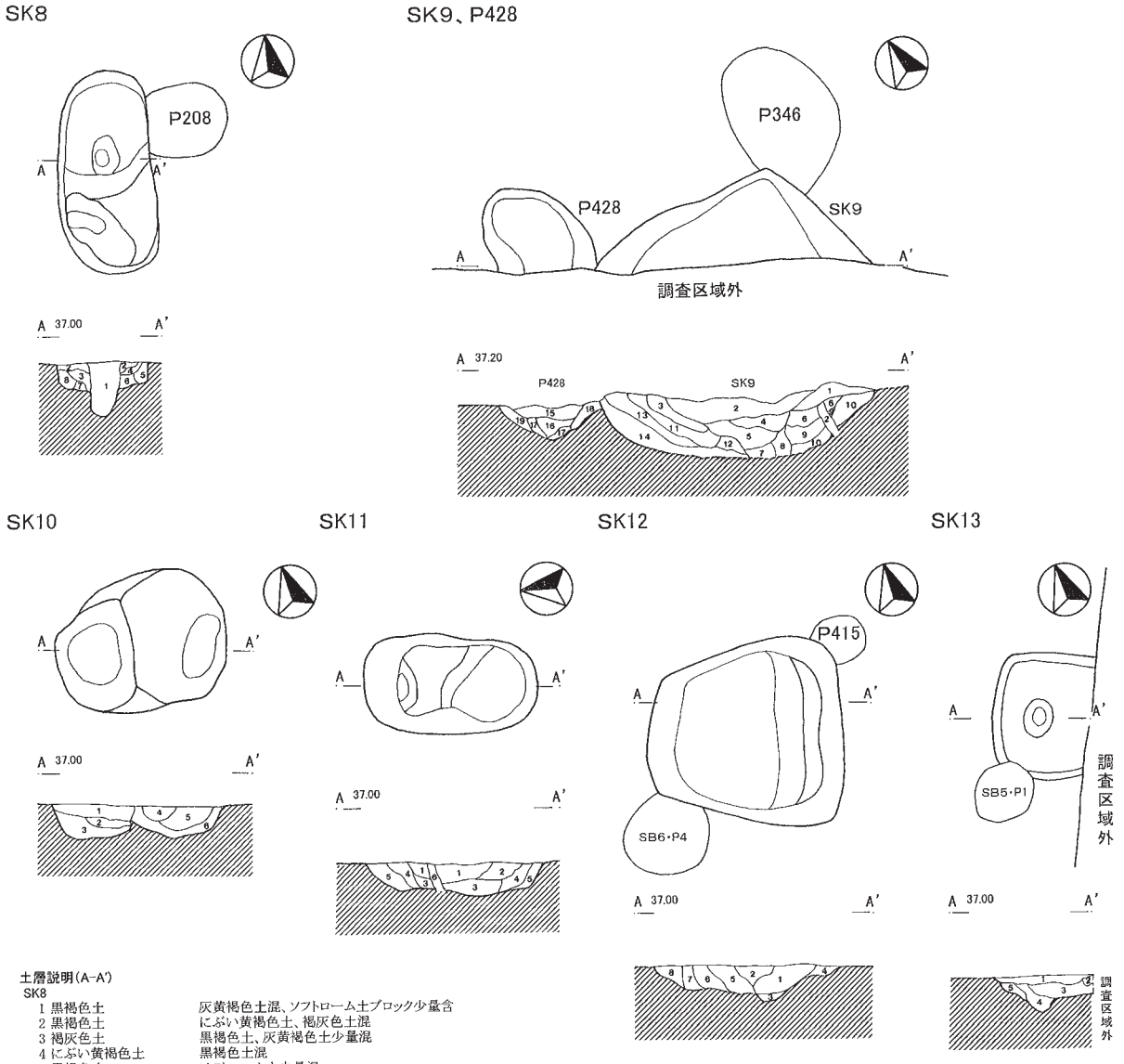
規模は、長軸0.99ｍ、短軸0.82ｍを測る。平面形は、南北に長い楕円形をなしているが、東西辺のほぼ中央部が東西に幅広でやや不整形である。

底面は、北半が大きく土坑状にやや深く掘りくぼめられている。深さは、土層断面観察から0.13～0.24ｍを測る。埋土は、レンズ状に堆積していることから自然堆積であると思われるが、大きく分けて二段階にわたり埋まったと考えられる。それは、一度完全に埋まった後に東側を掘り直し、その東側も後に埋まっていったと考えられる。

出土遺物は、縄文土器深鉢土器破片１点が検出された。これは縄文時代中期、加曾利Ｅ式期のものであるが、本遺構の時期を直接示すものではなく、この周辺に当該期の集落があったことの傍証であると思われる。

第15号土坑（第49図）

調査区の南東部、Ｄ・Ｅ－11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,480、Ｙ＝－45,120～



土層説明(A-A')
SK8

1 黒褐色土	灰黄褐色土混、ソフトローム土ブロック少量含
2 黒褐色土	にぶい黄褐色土、褐灰色土混
3 褐灰色土	黒褐色土、灰黄褐色土少量混
4 にぶい黄褐色土	黒褐色土混
5 黒褐色土	ソフトローム土少量混
6 黒褐色土	ソフトローム土多量混
7 にぶい黄褐色土	黒褐色土少量混
8 黒褐色土	にぶい黄褐色土わずか混

土層説明(A-A')
SK9

1 オリーブ黒色土	ソフトローム土ブロックごくわずか含
2 にぶい黄褐色土	オリーブ黒色土全体的若干混、ソフトローム土ブロック含
3 暗灰黄色土	黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子わずか含
4 にぶい黄褐色土	ソフトローム土粒子多量含
5 オリーブ黒色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
6 オリーブ黒色土	ソフトローム土微粒子多量含
7 オリーブ黒色土	
8 オリーブ黒色土	ソフトローム土粒子若干含
9 暗灰黄色土	
10 黒褐色土	ソフトローム土多量、灰黄褐色土少量混
11 黒褐色土	暗灰黄色土粒子若干含
12 灰オリーブ色土	黒褐色土全体的に若干混
13 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
14 黒褐色土	ソフトローム土ブロック・粒子多量含
P428	
15 灰黄褐色土	黒褐色土わずか混
16 オリーブ黒色土	黒褐色土わずか混
17 暗灰黄色土	ソフトローム土混
18 にぶい黄褐色土	
19 暗灰黄色土	ソフトローム土ブロック若干含
20 攪乱	

土層説明(A-A')
SK10

1 黒褐色土	灰黄褐色土わずか混、ソフトローム土粒子わずか含
2 灰黄褐色土	黒褐色土・ソフトローム土粒子少量含
3 にぶい黄褐色土	黒褐色土若干混、ソフトローム土混
4 黒褐色土	ソフトローム土ごくわずか混
5 黒褐色土	ソフトローム土多量混
6 灰黄褐色土	ソフトローム土多量混

土層説明(A-A')
SK11

1 黄灰色土	
2 褐灰色土	灰白色土若干混、ソフトローム土粒子
3 黒褐色土	褐灰色土わずか混
4 黒褐色土	灰白色土ブロック多量含
5 黄灰色土	黒褐色土少量混
6 攪乱	

土層説明(A-A')
SK12

1 黒褐色土	黒褐色土若干混、ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土	
3 灰黄褐色土	黒褐色土わずか混
4 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子含
5 暗オリーブ褐色土	ソフトローム土若干混
6 黒褐色土	ソフトローム土若干混
7 褐灰色土と黒褐色土の混合層	
8 灰黄褐色土	黒褐色土若干、ソフトローム土わずか混

土層説明(A-A')
SK13

1 暗褐色土	ソフトローム土粒子わずか含
2 灰黄褐色土	ソフトローム土若干混
3 暗褐色土	ソフトローム土多量混
4 黒褐色土	
5 黒褐色土	ソフトローム土多量混

0 1m 1:40

第51図　第８～13号土坑、第428号ピット

－45,130内にある。

第14号溝跡及び第328号ピットと重複関係にあり、本遺構が第328号ピットに切られ、第14号溝跡を切っている。

規模は、長軸1.00ｍ、短軸0.61ｍを測る。平面形は、東西に長いやや隅丸方形状の楕円形をなす。

底面は、船底状で中央部が最も深くなり、南辺の立ち上がりは緩やかである。深さは、土層断面観察から最深部が0.24ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。

第16号土坑（第52図）

調査区の中央部南端西寄り、Ｆ－10グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,480～19,485、Ｙ＝－45,130～－45,135内にある。単独で所在するが、南端が調査区域外となっている。

規模は、検出長軸1.33ｍ、短軸0.47～0.85ｍを測る。平面形は、やや菱形状の不整形な楕円形をなす。

底面は、西側がやや大きくピット状に掘りくぼめられ、南端が一段やや深くなっていた。深さは、土層断面観察から平坦部が0.14～0.16ｍ、最深部が0.29ｍ測る。

出土遺物は、検出できなかった。

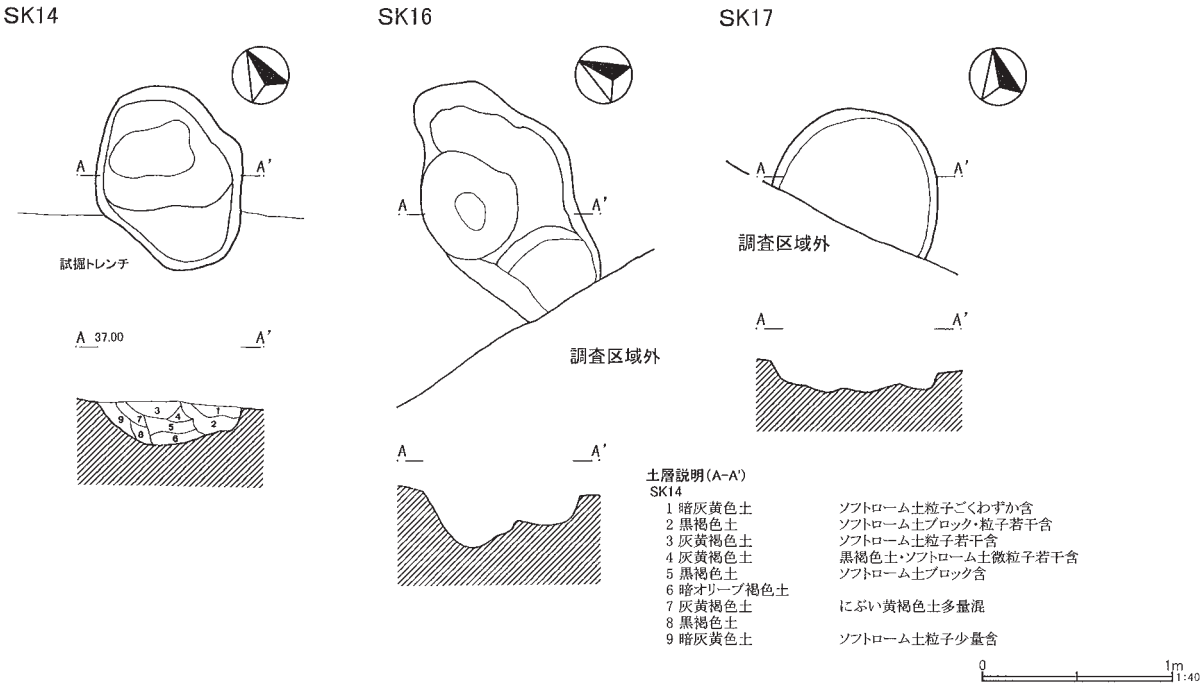
第17号土坑（第52図）

調査区の中央部南端、Ｆ－10・11グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,475～19,485、Ｙ＝－45,130～－45,135内にある。単独で所在するが、南端が調査区域外となっている。

規模は、東西軸0.92ｍ、検出南北軸0.63ｍを測る。平面形は、円形をなすと推定される。

底面は、やや起伏がある。深さは、土層断面観察から0.07～0.14ｍを測る。

出土遺物は、検出できなかった。



第52図　第14・16・17号土坑

（6） ピット

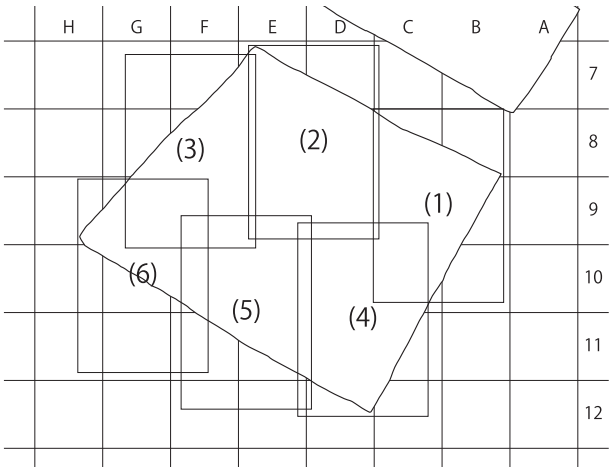
ピットは、総数307基が検出された。分布状況は、調査区全体に集中して分布していたが、南西端部がやや希薄な分布状況であった。最も集中して分布していたか所は、中央部の北寄りから南寄り、第１・２号掘立柱建物跡及び第４号掘立柱建物跡が所在するか所、次は北西部、その次は北東部、第６号掘立柱建物跡が所在する周辺である。また、ピット同士や他遺構と重複関係にあるものも見受けられるが、比較的単独で所在するピットが多い状況である。

平面形は、円形または楕円形をなすものが多いが、一部に隅丸方形状、具体的な形状を示すことが少々困難な不整形なものもあった。また、土層断面観察から、建物の柱穴状のものもあり、第160・162・165・184・195・197・199・227・250・282～284・273・274・276～278・297・334・346・390・392・431・432号ピットのように柱痕と思われる痕跡が確認できたものや、次に挙げるように平面観察からも底面が一段深くなる掘り方が確認され、柱が据えられていた痕跡の可能性があるものも見られた。底面の中央に柱痕跡が確認されたものは第162・184・186・195・239・274・277・278・281・287・361・368・392・398・420・432号ピット、どちらか寄りに柱痕跡が確認されたものは第160・163・165・188・197・207・217・222・258・273・283・291・301・304・312・322・327・345・347・352・362・366・367・371・372・375・379・384・385・387・406・429・434・445号ピットである。

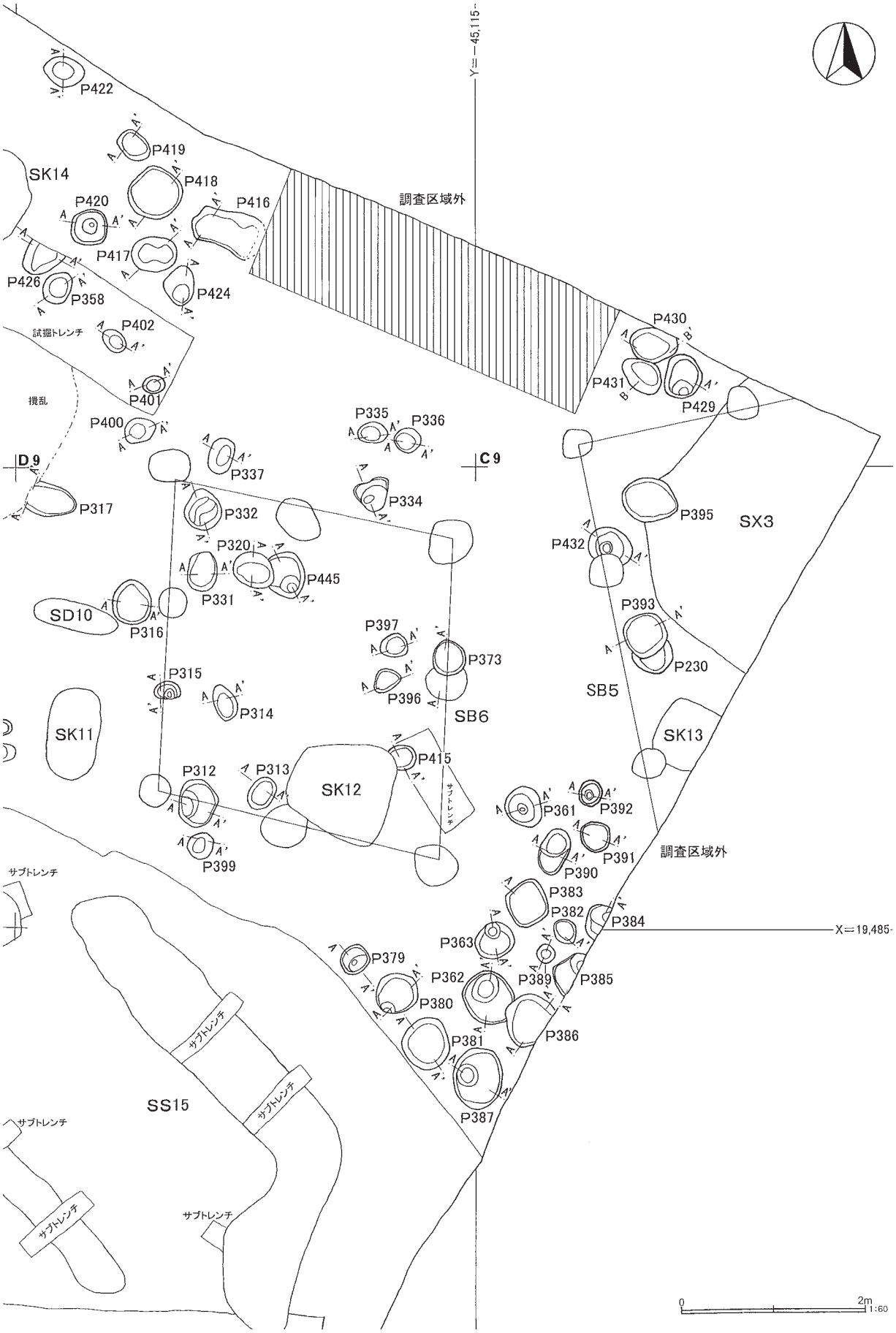
出土遺物は、いずれのピットからも検出できなかった。

以下、一覧表で掲載する（第49～51・53～66図、第５表）。なお、平面図については、第53図で示す区割図に沿って掲載した。土層断面図については、原則として平面図の区割に沿って掲載した順番通りに掲載したため順不同であるが、なるべく平面図の掲載順と対応するように心掛けた。

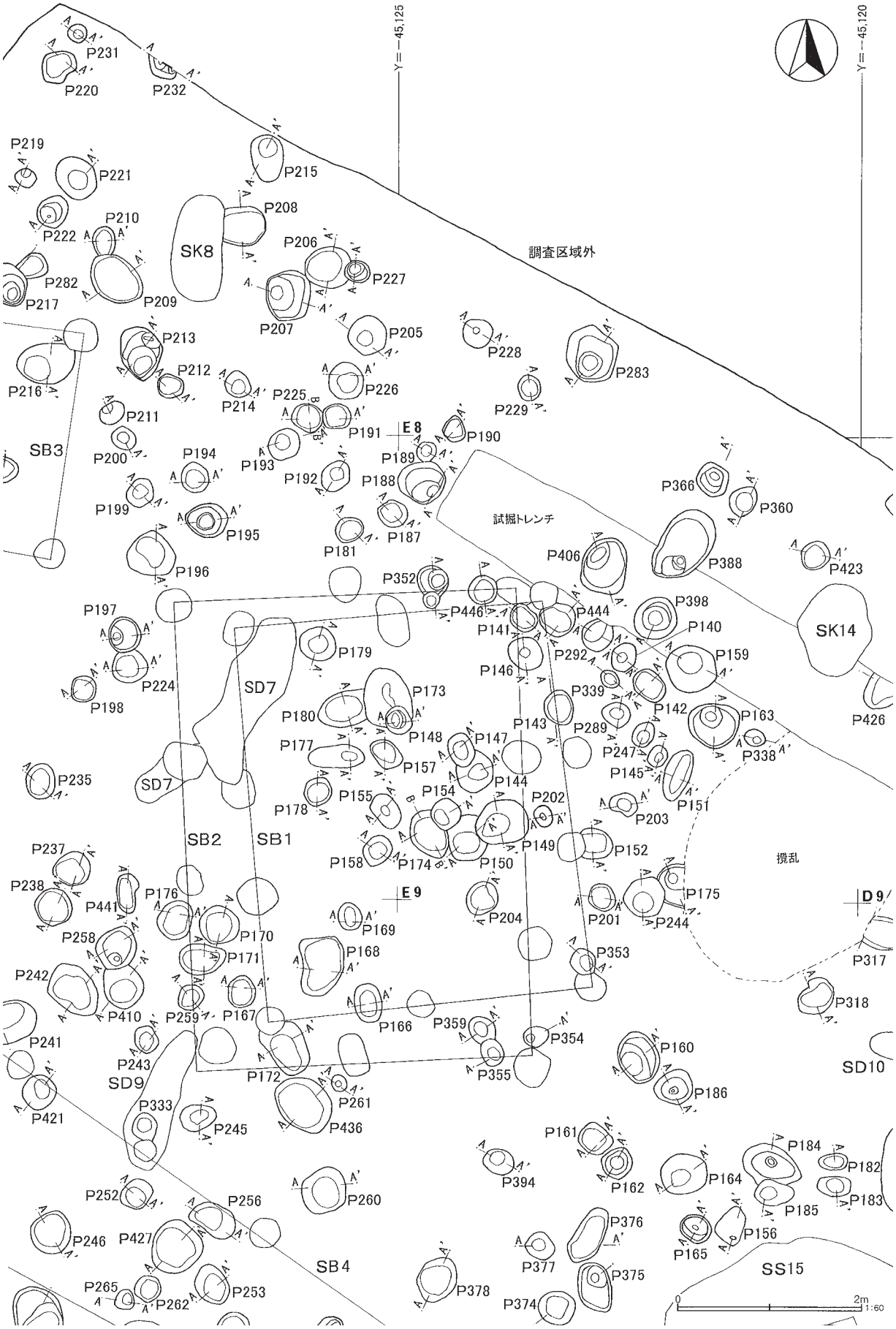
なお、繰り返しになるが、調査時点ではＡ区・Ｂ区を通して通し番号でピットを呼称したが、報告書刊行の際に都合で振り替えたものや新規で呼称したものもあり、第138・139号は欠番号である。新旧対照については、第１表を参照されたい。



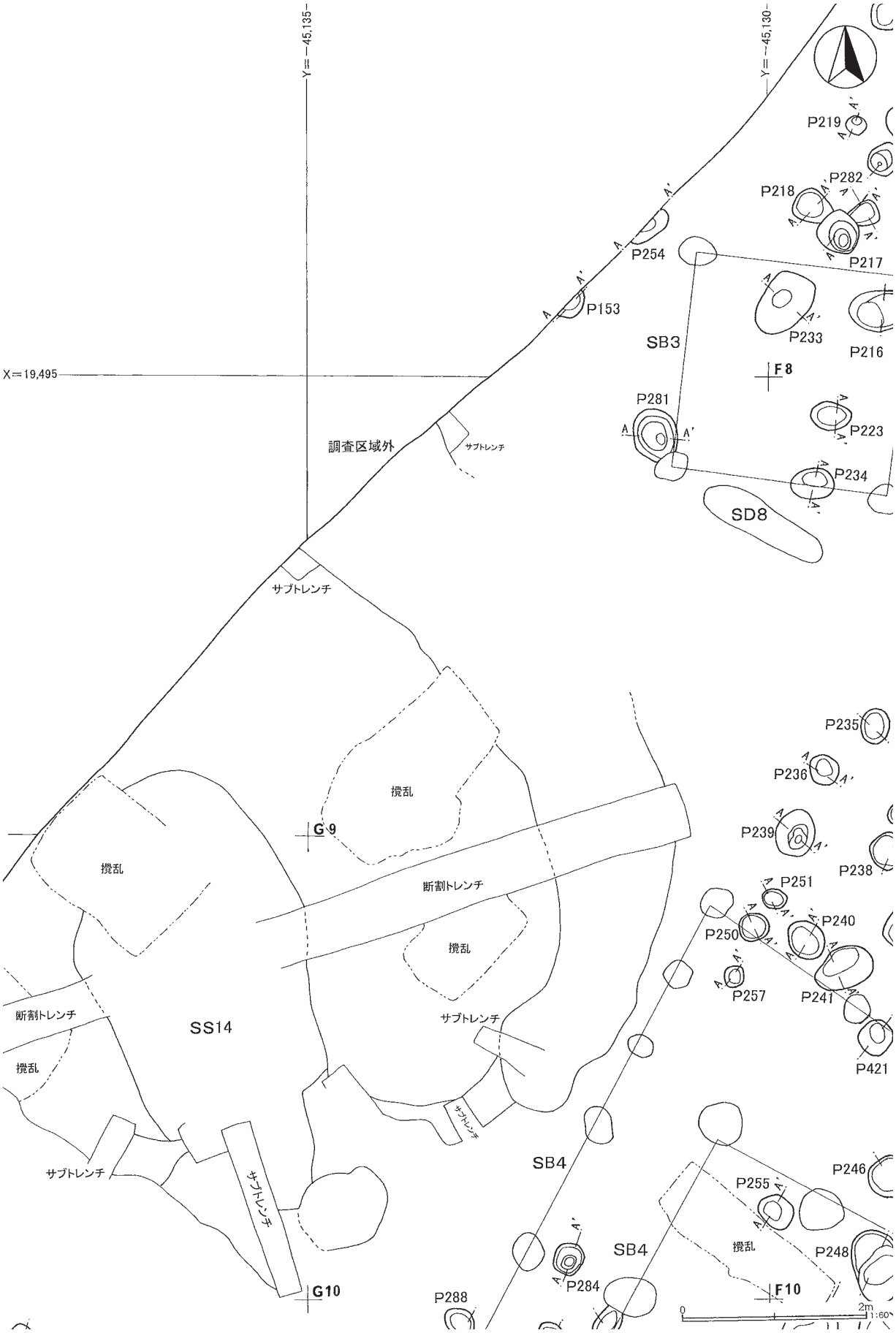
第53図　Ｂ区ピット全体図区割図



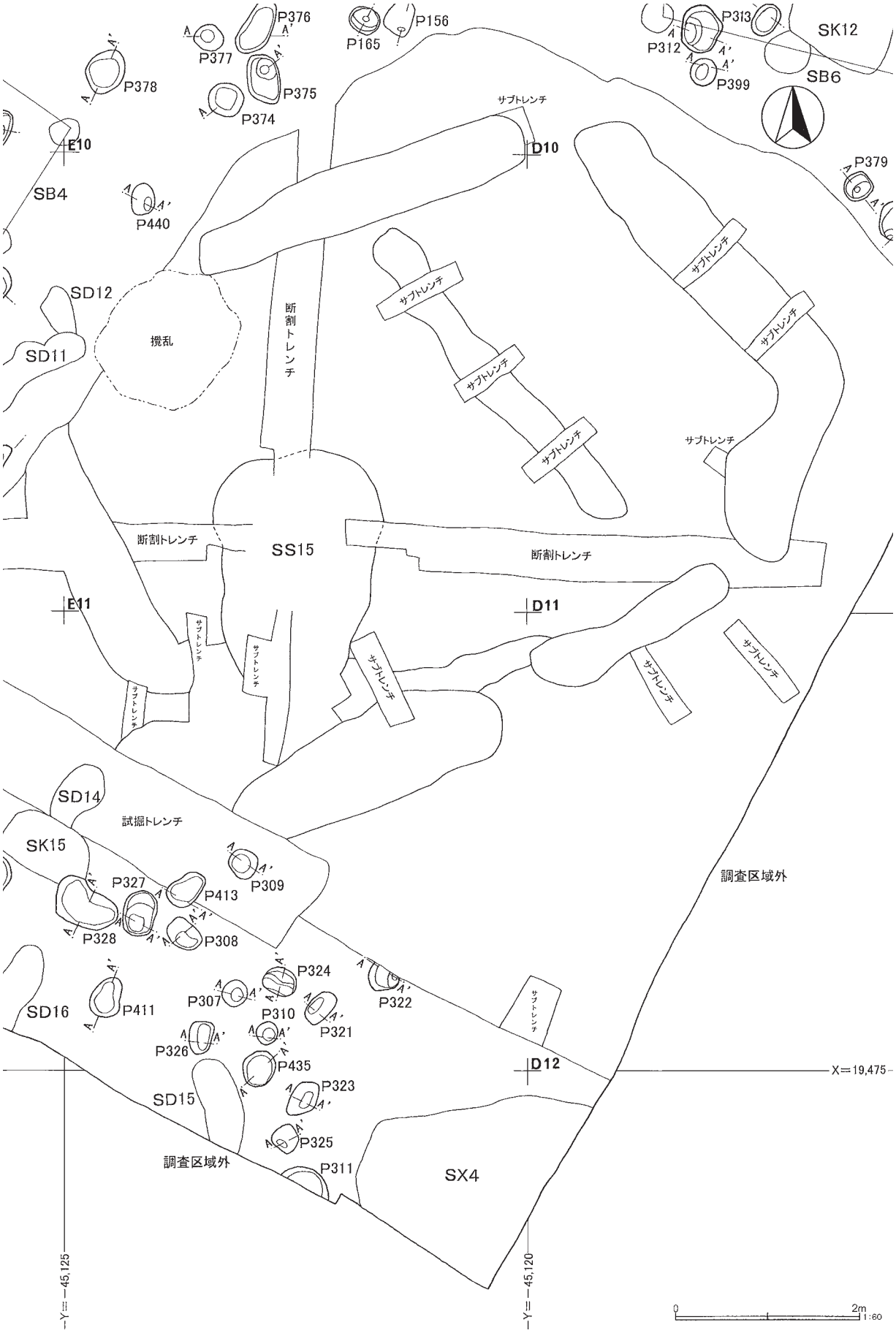
第54図　B区ピット平面図（1）



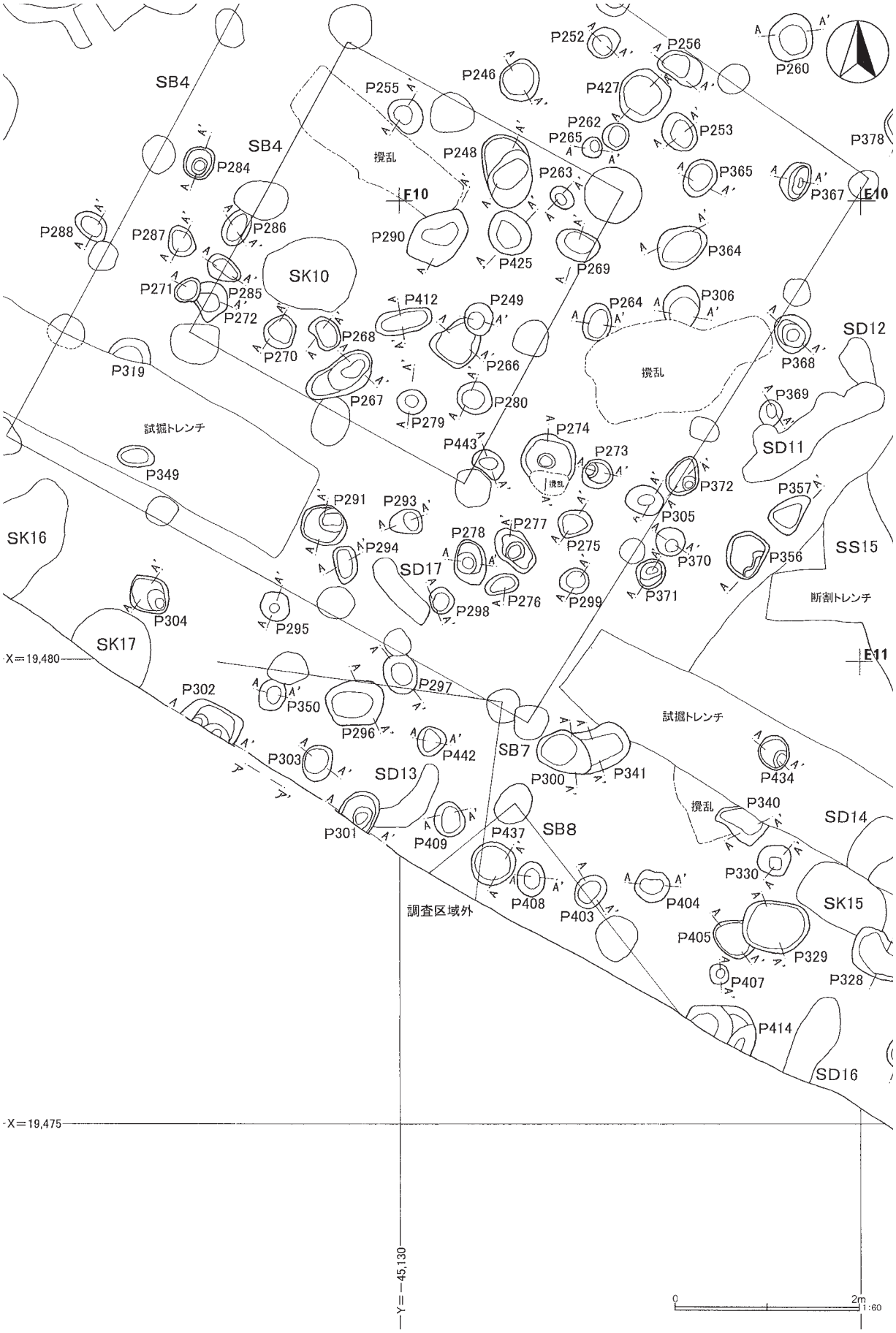
第55図　B区ピット平面図（2）



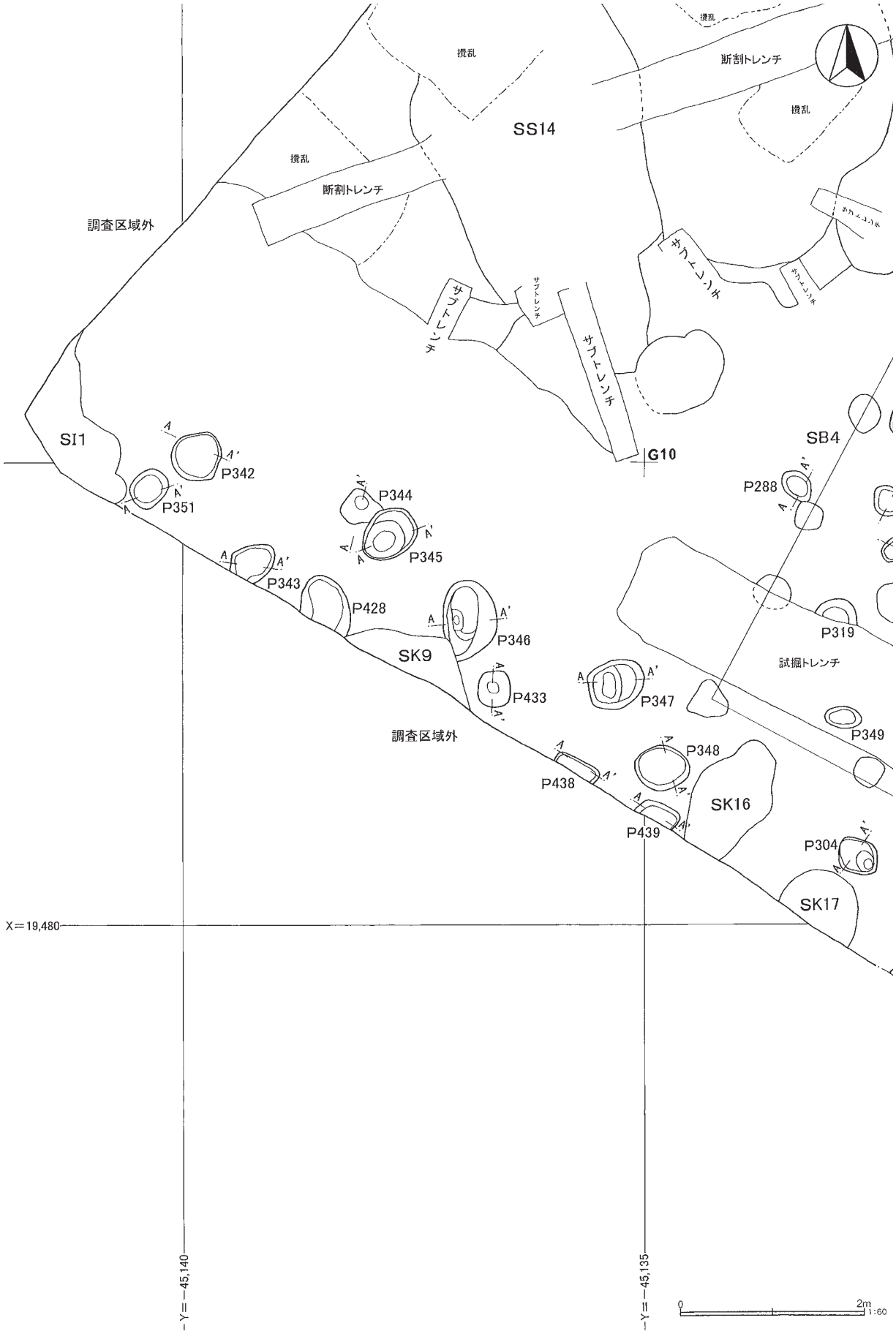
第56図　B区ピット平面図（3）



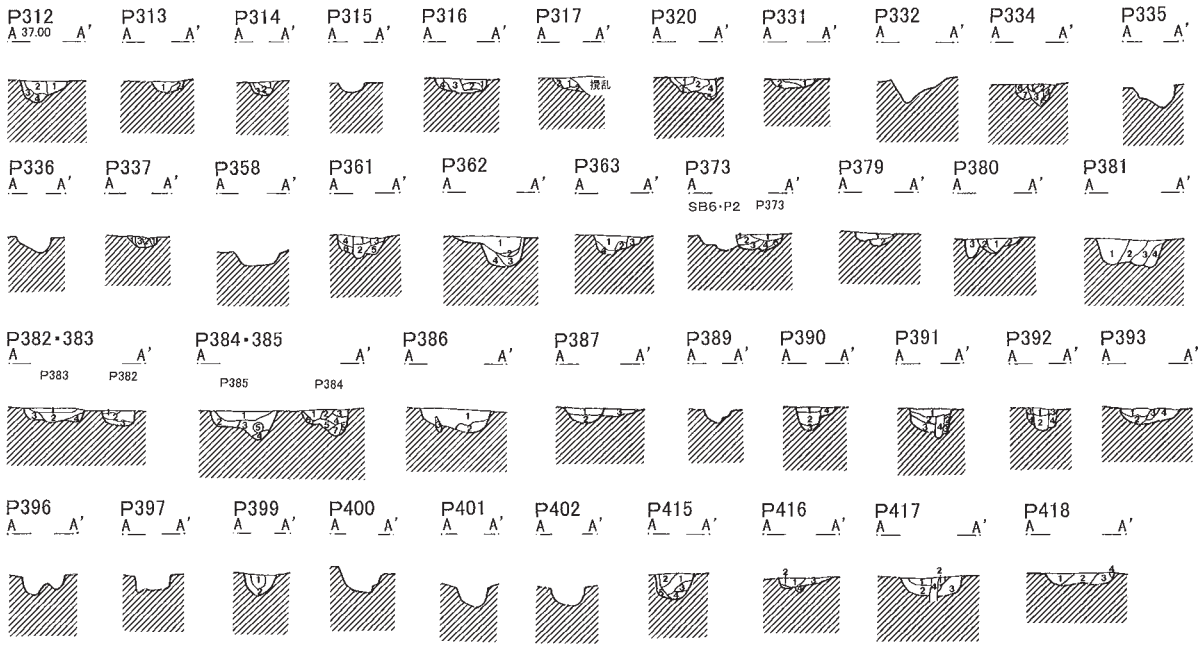
第57図　B区ピット平面図（4）



第58図　B区ピット平面図（5）



第59図　B区ピット平面図（6）



土層説明

P312(A-A')
1 黒褐色土　ハードローム土若干混
2 黒褐色土　ハードローム土少量混
3 黒褐色土　ハードローム土若干混
4 黒褐色土　灰黄褐色土多量混

P313(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土わずか混

P314(A-A')
1 暗灰黄色土
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P316(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　灰黄褐色土若干混
3 灰黄褐色土　ハードローム土混
4 黒褐色土　ハードローム土混

P317(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土ブロック若干含
2 灰黄褐色土　ハードローム土若干混

P320(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
3 暗灰黄色土　ソフトローム土多量混
4 黒褐色土　ソフトローム土ブロック少量含
5 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P331(A-A')
1 黒褐色土　ハードローム土粒子少量含
2 灰黄褐色土

P334(A-A')
1 暗オリーブ色土
2 灰オリーブ色土　ソフトローム土多量混
3 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子少量含
4 灰オリーブ色土
5 暗灰黄色土
6 灰黄褐色土
7 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混

P337(A-A')
1 暗灰黄色土　ソフトローム土多量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土

P361(A-A')
1 黒褐色土　暗灰黄色土わずか混
2 黒褐色土　灰黄褐色土わずか混
3 暗灰黄色土　黒褐色土混
4 黒褐色土
5 暗灰黄色土　黒色土ブロック含
6 黒褐色土　灰黄褐色土少量混

P362(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
2 暗灰黄色土　ソフトローム土多量混
3 黒褐色土　ソフトローム土多量混
4 黒褐色土　ソフトローム土少量、灰黄褐色土少量混

P363(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
2 黒褐色土
3 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混

P373(A-A')
1 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土
3 オリーブ黒色土　ハードローム土多量混
4 黒褐色土　ハードローム土わずか混
5 黒褐色土　ソフトローム土少量混

P379(A-A')
1 オリーブ黒色土　暗灰黄色土わずか混
2 暗灰黄色土　黒褐色土少量混

P380(A-A')
1 暗灰黄色土　黒褐色土わずか混
2 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
3 黒褐色土　ソフトローム土少量混

P381(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含
3 暗灰黄色土　ソフトローム土多量混
4 黒褐色土　ソフトローム土ブロック若干含

P382・383(A-A')
P382
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 黒褐色土　ソフトローム土若干混
P383
1 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 オリーブ黒色土　黒褐色土・ソフトローム土ブロック含
3 オリーブ黒色土
4 暗オリーブ色土　ソフトローム土粒子多量含

P384・385(A-A')
P384
1 暗灰黄色土　ソフトローム土ブロック・粒子含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 灰黄褐色土
4 灰黄褐色土　黒褐色土粒子若干含
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
6 暗灰黄色土　黒褐色土若干混
7 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
P385
1 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土多量混
4 暗オリーブ褐色土
5 撹乱

P386(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 撹乱

P387(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 オリーブ黒色土　にぶい黄褐色土粒子少量含

P390(A-A')
1 黒褐色土　黄灰色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P391(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
3 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混

P392(A-A')
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土粒子含
2 灰黄褐色土　黒色土少量、ソフトローム土少量混
3 暗灰黄色土　ソフトローム土少量混
4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子多量含

P393(A-A')
1 黄灰色土　ハードローム土粒子少量含
2 褐灰色土　ハードローム土粒子少量含
3 黒褐色土　暗灰黄色土わずか混
4 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子若干含

P399(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

P415(A-A')
1 オリーブ黒色土
2 オリーブ黒色土　ソフトローム土ブロック含
3 黒褐色土
4 オリーブ黒色土　ソフトローム土若干混
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

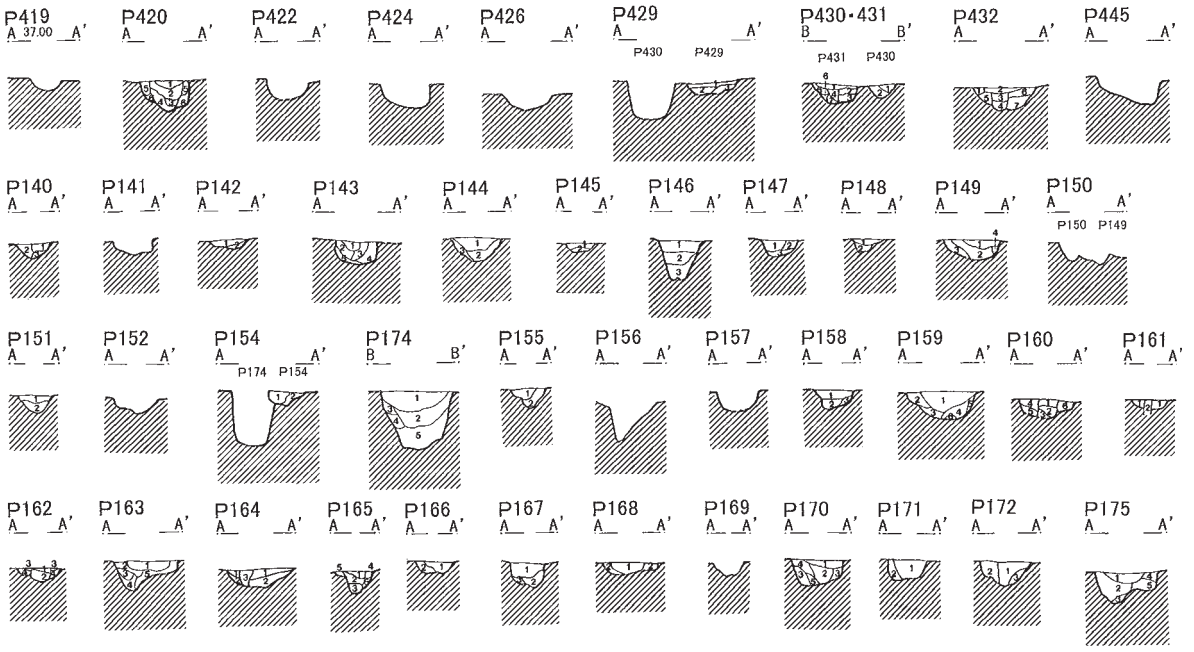
P416(A-A')
1 灰黄褐色土
2 にぶい黄褐色土
3 黒褐色土
4 黒褐色土　ソフトローム土若干混

P417(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土若干混
3 にぶい黄褐色土
4 撹乱

P418(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土
3 オリーブ褐色土
4 黒褐色土

0　2m
1:60

第60図　B区ピット土層断面図（1）



土層説明

P420(A-A')
1 暗灰黄色土
2 灰黄褐色土
3 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子非常に多く含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
5 黄褐色土　黒褐色土粒子わずか含
6 黒褐色土　黄褐色土若干混

P429(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混、ソフトローム土微粒子含
3 黒褐色土　暗オリーブ褐色土、ソフトローム土少量混

P430・431(B-B')
P430
1 黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 暗灰黄色土　黒褐色土若干混
P431
1 暗オリーブ褐色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
2 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土微粒子含
3 灰黄褐色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土微粒子少量含
4 オリーブ黒色土　灰黄褐色土少量混
5 黒褐色土
6 黒褐色土　ソフトローム土多量混
7 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含

P432(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土
3 黒褐色土
4 黒褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土ブロック若干含
5 黒褐色土　ソフトローム土多量混
6 黒褐色土　ソフトローム土多量混
7 暗灰黄色土　ソフトローム土微粒子多量含

P140(A-A')
1 褐灰色土
2 にぶい黄褐色土
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含

P142(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子含

P143(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 にぶい黄橙色土　ソフトローム土少量混
4 黒褐色土
5 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P144(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 にぶい黄褐色土

P145(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子含

P146(A-A')
1 黒色土　にぶい黄褐色土わずか混
2 黒色土　にぶい黄褐色土わずか混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック含

P147(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
3 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含

P148(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 黒褐色土

P149(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土若干混
4 攪乱

P151(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P154(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土混
2 黒褐色土

P174(B-B')
1 灰黄褐色土　黒褐色土・ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　灰黄褐色土・ソフトローム土微粒子少量含
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土多量混

P155(A-A')
1 褐灰色土　黒色土少量混、ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土　褐灰色土少量混

P158(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 黒色土　ソフトローム土わずか混
3 褐灰色土

P159(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
2 黒褐色土
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子含
5 にぶい黄褐色土
6 にぶい黄褐色土

P160(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土混
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 にぶい黄褐色土　ソフトローム土多量混
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土混
5 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
6 にぶい黄褐色土　黒褐色土混

P161(A-A')
1 暗灰黄色土　ハードローム土ブロック、ソフトローム土ブロック小わずか含
2 攪乱

P162(A-A')
1 暗灰黄色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 褐灰色土　ソフトローム土ブロック・粒子多量含
3 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 黄灰色土　ソフトローム土粒子少量含

P163(A-A')
1 褐灰色土　黒色土少量混、ソフトローム土ブロック含
2 にぶい黄褐色土　黒色土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土
5 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含

P164(A-A')
1 暗灰黄色土　ソフトローム土粒子・微粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
3 攪乱

P165(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土微粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック若干含
3 暗褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 暗灰黄色土
5 黒褐色土
6 黒褐色土　ソフトローム土微粒子若干含

P166(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土混

P167(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P168(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混

P170(A-A')
1 灰黄褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含
4 灰黄褐色土　黒色土粒子含
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

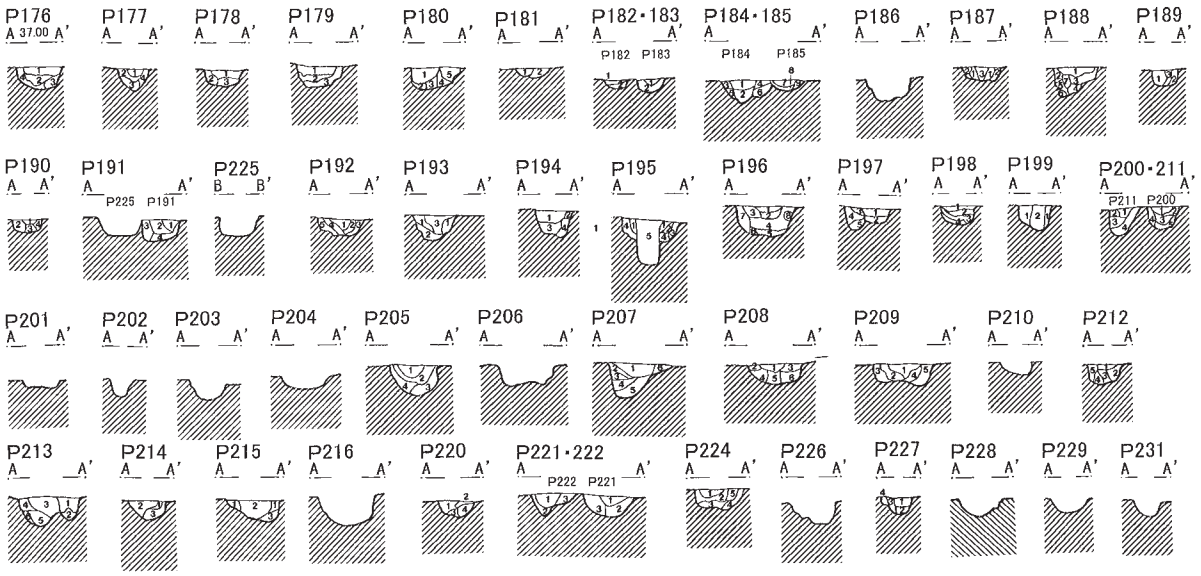
P171(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土・ソフトローム土粒子含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P172(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
2 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
3 にぶい黄橙色土　黒褐色土少量混

P175(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
2 黒褐色土
3 にぶい黄褐色土
4 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含

0 2m 1:60

第61図　B区ピット土層断面図（2）



土層説明

P176(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P177(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P178(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含
2 にぶい黄褐色土
3 黒褐色土　灰黄褐色土少量混

P179(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄橙色土粒子少量含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黄褐色土　ソフトローム土混

P180(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
5 撹乱

P181(A-A')
1 黒褐色土　若干シルト質
2 褐灰色土　ソフトローム土ブロック含

P182・183(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土混

P184・185(A-A')
P184
1 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量、にぶい黄褐色土ブロック含
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土多量混
4 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
5 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
6 褐灰色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土粒子多量含
P185
7 褐灰色土　ソフトローム土多量混
8 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
9 黒褐色土　ソフトローム土わずか混

P187(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土多量混
3 撹乱

P188(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロック、褐灰色土ブロック含
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
5 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
6 黒褐色土
7 撹乱

P189(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 撹乱

P190(A-A')
1 灰黄褐色土　火山灰わずか含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含

P191(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土粒子少量含
2 黒褐色土と灰黄褐色土の混合層　にぶい黄褐色土粒子ごくわずか含
3 撹乱
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロックわずか含

P192(A-A')
1 にぶい黄褐色土　褐色土少量混
2 灰黄褐色土　ソフトローム土ブロックわずか含
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック含
4 褐灰色土
5 褐灰色土　シルト質ブロック含

P193(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土混、火山灰わずか含
2 にぶい黄褐色土　砂質、灰黄褐色土少量混
3 撹乱

P194(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土わずか混
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック含
4 褐灰色土　ソフトローム土少量混

P195(A-A')
1 褐灰色土　黒褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土
3 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
5 撹乱

P196(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混、黒褐色土ブロック含
3 灰黄褐色土
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土混
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
6 黒褐色土
7 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック少量含
8 撹乱

P197(A-A')
1 褐色土　灰黄褐色土わずか混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土わずか混
4 褐灰色土　黒褐色土粒子わずか含
5 黒褐色土　灰黄褐色土少量混

P198(A-A')
1 暗褐色土
2 暗褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混

P199(A-A')
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土混

P200・211(A-A')
P200
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
2 灰黄褐色土
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
4 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
5 黒色土　ソフトローム土粒子わずか含
P211
1 にぶい黄褐色土　黒色土少量混
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土混
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

P205(A-A')
1 灰黄褐色土　黒褐色土多量混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量、ソフトローム土わずか混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混

P207(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土わずか混
2 灰黄褐色土
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
5 にぶい黄褐色土　黒褐色土多量混
6 褐灰色土　ソフトローム土少量混

P208(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
2 黒褐色土
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
4 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量、黒褐色土わずか混
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
6 褐色土　黒褐色土混

P209(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
2 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
3 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混、ソフトローム土粒子少量含

P212(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
3 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層
4 褐灰色土　ソフトローム土少量混
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混

P213(A-A')
1 褐色土　ソフトローム土微粒子多量含
2 黄褐色土　黒褐色土粒子多量含
3 灰黄褐色土　褐灰色土多量混
4 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混
5 黒褐色土　灰黄褐色土多量混
6 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混

P214(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土多量混
3 黒褐色土　灰黄褐色土少量混

P215(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土微粒子多量含
2 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土微粒子少量含
3 褐灰色土　にぶい黄褐色土わずか混

P220(A-A')
1 褐灰色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 にぶい黄橙色土　黒褐色土ブロック少量含
3 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
4 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層

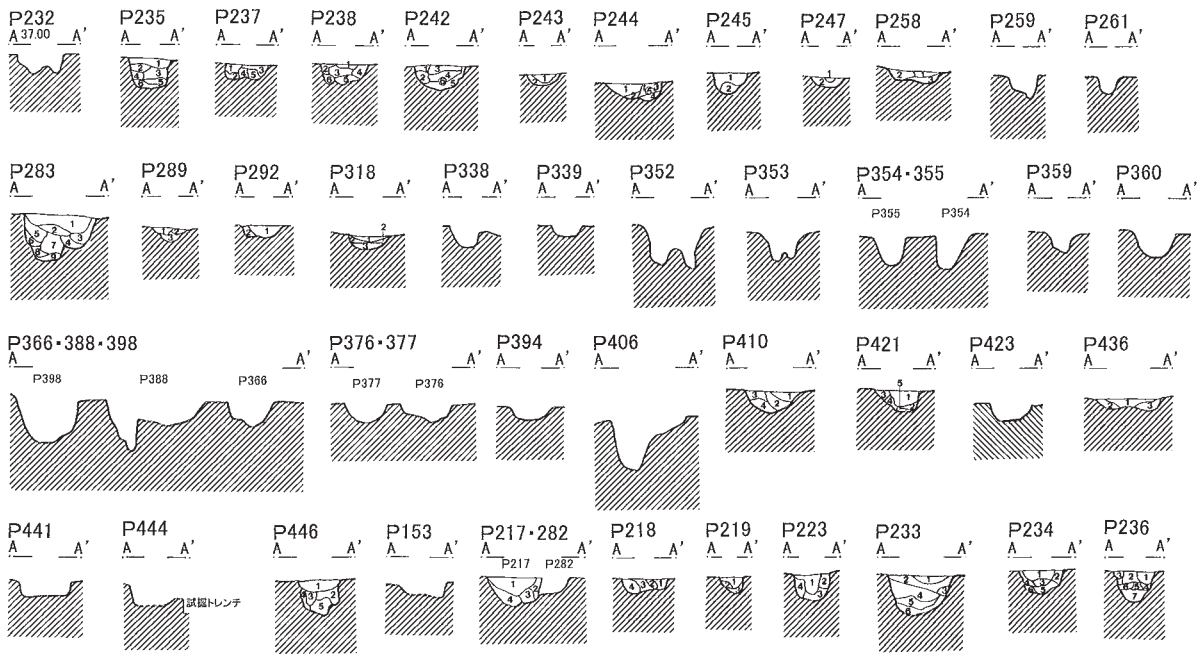
P221・222(A-A')
P221
1 黒褐色土　ソフトローム土微量混
2 にぶい黄褐色土
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
P222
1 黒褐色土　ソフトローム土多量混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
3 黒褐色土　ソフトローム土少量混

P224(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　褐灰色土若干混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土、褐灰色土少量混
5 撹乱

P227(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
2 黒色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 褐灰色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土ブロック含
4 灰黄褐色土　黒褐色土多量混

0　2m
1:60

第62図　B区ピット土層断面図（3）



土層説明

P235(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 にぶい黄褐色土　褐灰色土混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土　褐灰色土混、ソフトローム土粒子少量含
5 褐灰色土　ソフトローム土多量混
6 褐灰色土　ソフトローム土わずか混

P237(A-A')
1 暗褐色土　にぶい黄褐色土混
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土混
3 灰黄褐色土　褐色土若干混
4 褐灰色土　ソフトローム土少量混
5 褐灰色土

P238(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
2 黒褐色土　黒褐色土若干混
3 黒褐色土と褐灰色土の混合層　ソフトローム土若干混
4 褐灰色土　ソフトローム土多量混
5 黒褐色土　褐灰色土、ソフトローム土若干混
6 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混

P242(A-A')
1 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
2 褐灰色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土粒子含
3 黒褐色土
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
5 黒褐色土　ソフトローム土多量混
6 攪乱

P243(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土混

P244(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
2 黒色土　ソフトローム土粒子少量含
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土混
4 褐灰色土
5 攪乱

P245(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土

P247(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 にぶい黄褐色土　黒色土少量混

P258(A-A')
1 灰黄褐色土
2 褐灰色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土微粒子多量含
3 黒褐色土　ハードローム土微粒子少量含

P283(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土少量、黒褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含
3 褐灰色土と黒褐色土の混合層
4 黒褐色土　ソフトローム土多量混
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
6 褐灰色土　ソフトローム土多量混
7 ソフトローム土　黒褐色土多量混
8 褐灰色土　ソフトローム土少量混
9 褐灰色土　ソフトローム土少量混、ハードローム土粒子若干含

P289(A-A')
1 褐灰色土
2 灰黄褐色土
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含

P292(A-A')
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土混
2 灰黄褐色土　褐灰色土ブロック含

P318(A-A')
1 黒褐色土
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土若干混

P410(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土・ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混、ソフトローム土ブロック含
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
4 褐灰色土　ソフトローム土多量混

P421(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
3 褐灰色土
4 黒褐色土　ソフトローム土多量混
5 黒褐色土　褐灰色土少量混
6 攪乱

P436(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土多量混
2 褐灰色土　ソフトローム土、黒褐色土少量混
3 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土粒子多量含

P446(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
2 褐灰色土　黒褐色土粒子含
3 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
4 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
5 黒褐色土　灰黄褐色土少量混

P217(A-A')
1 褐灰色土　黒褐色土多量混、ソフトローム土ブロック含
2 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土ブロック含
3 灰黄褐色土　黒褐色土多量混、ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含

P218(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
3 暗褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混

P219(A-A')
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土多量混
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P223(A-A')
1 褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
4 にぶい黄褐色土　灰黄褐色土混

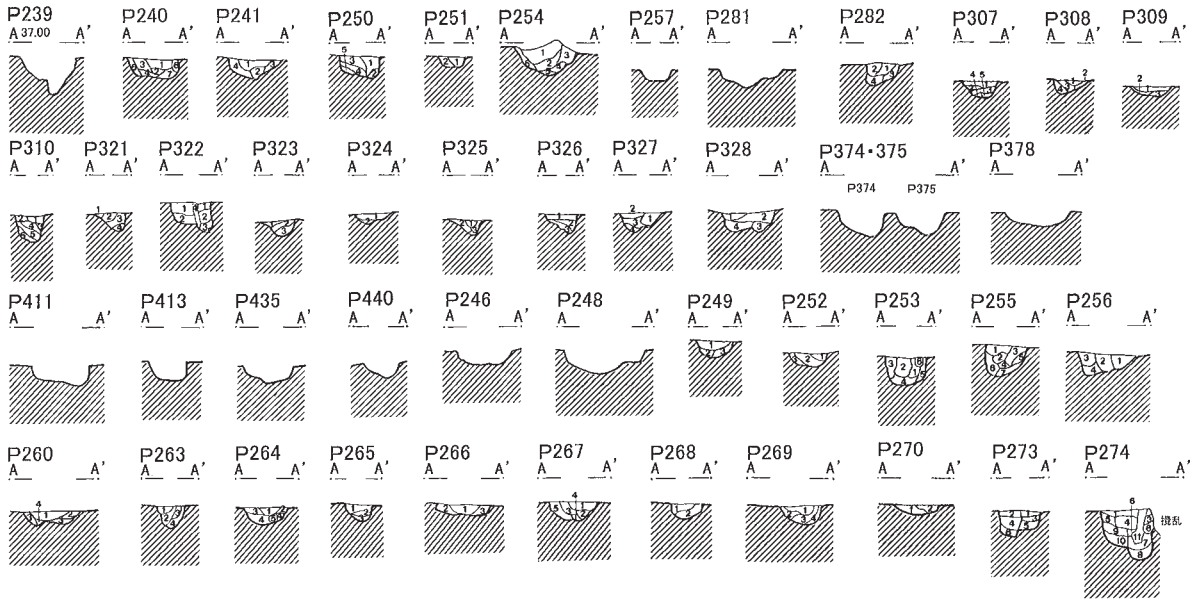
P233(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 黒褐色土　褐灰色土わずか混、ソフトローム土粒子含
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子含
4 黒褐色土　褐灰色土混、ソフトローム土ブロック・粒子含
5 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含
6 暗褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

P234(A-A')
1 灰黄褐色土　火山灰わずか含
2 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
5 黒褐色土　ソフトローム土少量混
6 にぶい黄褐色土　ソフトローム土混

P236(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土、黒褐色土混
3 にぶい黄橙色土　黒褐色土少量混
4 黒褐色土　褐灰色土、ソフトローム土混
5 褐灰色土　黒褐色土少量混
6 灰黄褐色土　褐灰色土わずか混
7 灰黄褐色土　黒褐色土多量混

0　2m
1:60

第63図　B区ピット土層断面図（4）



土層説明

P240(A-A')
1 灰黄褐色土　褐灰色土若干混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子含
3 褐灰色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含
4 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
5 褐灰色土　黒褐色土わずか混
6 褐灰色土　ソフトローム土粒子若干含
7 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混

P241(A-A')
1 にぶい黄褐色土　黒褐色土わずか混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土若干混
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P250(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土ごくわずか混
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 灰黄褐色土　黒褐色土若干、ソフトローム土わずか混
4 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混
5 にぶい黄褐色土　ソフトローム土少量混

P251(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土わずか混

P254(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土、ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
3 にぶい黄褐色土
4 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
5 黒色土
6 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混

P282(A-A')
1 暗褐色土
2 灰黄褐色土　黒褐色土ブロック含
3 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土多量混
4 灰黄褐色土　褐灰色土多量混

P307(A-A')
1 暗オリーブ灰色土
2 オリーブ黒色土
3 暗灰黄色土
4 暗灰黄色土と黒褐色土の混合層
5 黒褐色土

P308(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
2 黄褐色土　黒褐色土わずか混
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
4 暗灰黄色土　黒褐色土わずか混

P309(A-A')
1 灰黄褐色土
2 暗灰黄色土　黒褐色土若干混
3 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混

P310(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土多量混
2 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
3 ソフトローム土　黒褐色土少量混
4 灰黄褐色土　黒褐色土若干混
5 黒褐色土　灰黄褐色土少量混、ソフトローム土微粒子わずか含
6 黒褐色土

P321(A-A')
1 黒褐色土
2 黄灰色土　灰黄褐色土ブロック多量含
3 にぶい黄褐色土　ソフトローム土ブロック含
4 褐灰色土

P322(A-A')
1 灰黄褐色土
2 暗灰黄色土　ソフトローム土わずか混
3 黒褐色土
4 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子非常に多く含

P323(A-A')
1 灰オリーブ色土
2 暗オリーブ色土
3 オリーブ黒色土

P324(A-A')
1 灰オリーブ色土　にぶい黄色土少量混
2 黒褐色土

P325(A-A')
1 暗灰黄色土
2 暗灰黄色土　黄灰色土少量混
3 黒褐色土　暗灰黄色土若干混

P326(A-A')
1 灰色土
2 オリーブ黒色土　灰色土少量混
3 オリーブ黒色土　ハードローム土粒子少量含

P327(A-A')
1 黒褐色土　黄灰色土少量混
2 暗オリーブ灰色土
3 オリーブ黒色土
4 暗オリーブ灰色土

P328(A-A')
1 暗オリーブ灰色土
2 暗オリーブ灰色土
3 オリーブ黒色土　ハードローム土少量混
4 オリーブ黒色土　ハードローム土少量混

P249(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P252(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 黒褐色土　灰黄褐色土わずか混、ソフトローム土粒子含
3 ソフトローム土　黒褐色土粒子含

P253(A-A')
1 灰黄褐色土　黒褐色土、ソフトローム土ごくわずか混
2 黒褐色土　灰黄褐色土少量、ソフトローム土わずか混
3 黒褐色土　ソフトローム土ごくわずか混
4 褐灰色土　ソフトローム土混
5 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
6 攪乱

P255(A-A')
1 にぶい黄褐色土
2 黒褐色土　褐灰色土少量混
3 黒褐色土　褐灰色土多量混、ソフトローム土粒子ごくわずか含
4 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
5 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干、ソフトローム土少量混
6 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
7 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層

P256(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 黒褐色土　ハードローム土粒子若干含
3 灰黄褐色土　ハードローム土粒子若干含
4 黒褐色土　ハードローム土多量混

P260(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土若干混
2 黒褐色土　ハードローム土多量混
3 灰黄褐色土　ハードローム土若干混
4 ハードローム土　黒褐色土わずか混

P263(A-A')
1 黒褐色土　灰黄褐色土若干混
2 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土若干混
3 黒褐色土　ソフトローム土少量混
4 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P264(A-A')
1 黒褐色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 褐灰色土　ソフトローム土微粒子ごくわずか含
3 灰黄褐色土　黒褐色土若干混
4 褐灰色土と灰黄褐色土の混合層
5 黒褐色土

P265(A-A')
1 褐灰色土　ハードローム土粒子少量含
2 褐灰色土　黒褐色土・ハードローム土わずか混
3 黒褐色土　ハードローム土粒子少量含

P266(A-A')
1 褐灰色土　黒褐色土少量、ハードローム土少量混
2 黒褐色土　ハードローム土混
3 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混

P267(A-A')
1 灰黄褐色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土ブロック含
2 褐灰色土　黒褐色土、ソフトローム土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含
4 褐灰色土　ソフトローム土多量混
5 黒褐色土と褐灰色土の混合層　ソフトローム土粒子わずか含

P268(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄橙色土多量混、ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土　ソフトローム土ブロック・粒子含

P269(A-A')
1 黒褐色土
2 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
3 黒褐色土　ソフトローム土ごくわずか混
4 黒褐色土　ソフトローム土多量混

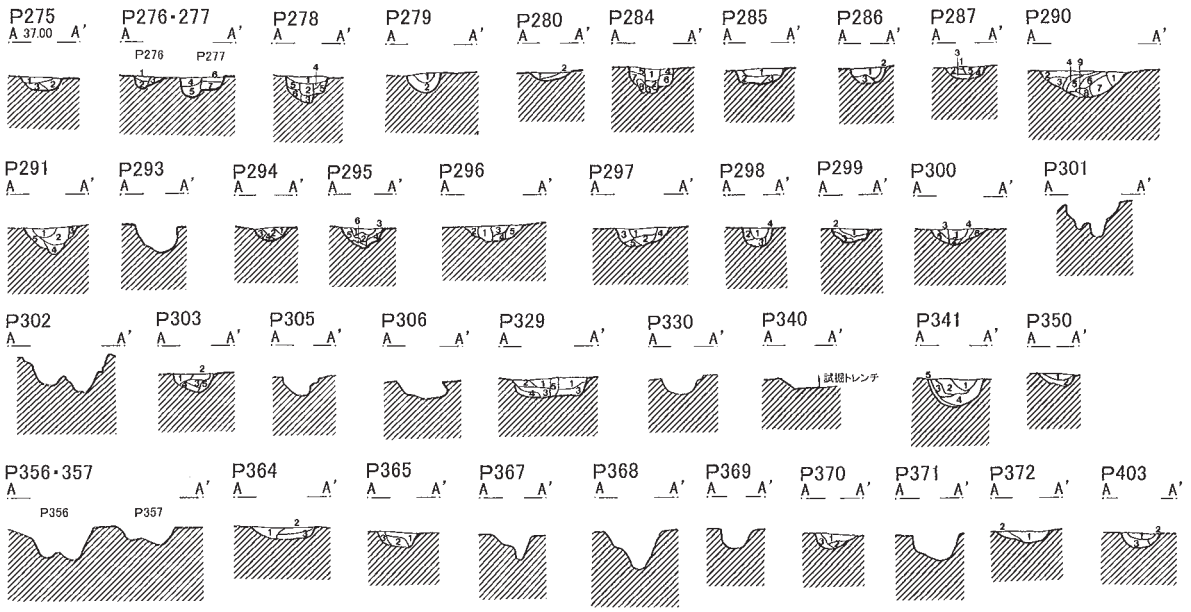
P270(A-A')
1 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子含
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

P273(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 灰黄褐色土　黒褐色土粒子わずか、ソフトローム土粒子少量含
5 黒褐色土と灰黄褐色土の混合層
6 黒褐色土　ソフトローム土ごくわずか混

P274(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土混
2 黄褐色土　黒褐色土若干、ソフトローム土多量混
3 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含
4 褐色土　ソフトローム土若干混、にぶい黄橙色土ブロック含
5 にぶい黄褐色土
6 ソフトローム土
7 褐灰色土　ハードローム土粒子多量含
8 黒褐色土　ハードローム土少量混
9 褐灰色土　黒褐色土少量混、ハードローム土粒子多量含
10 黒褐色土　褐灰色土多量混
11 黒褐色土　ソフトローム土少量混

0　2m　1:60

第64図　B区ピット土層断面図（5）



土層説明

P275(A-A')
1 暗灰黄色土　灰黄褐色土若干混
2 灰黄褐色土　ハードローム土粒子少量、黒褐色土粒子少量含
3 黒褐色土　灰黄褐色土混、ソフトローム土粒子少量含

P276・277(A-A')
P276
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土混、ソフトローム土粒子ごくわずか含
3 灰黄褐色土　褐灰色土少量、ソフトローム土少量混
P277
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量、黒褐色土ブロック若干含
5 黒褐色土　灰黄褐色土わずか混
6 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
7 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土ブロック含

P278(A-A')
1 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　褐灰色土・ソフトローム土粒子少量含
3 褐灰色土　黒褐色土ブロック少量、ソフトローム土ブロック少量含
4 黒褐色土　褐灰色土・ソフトローム土粒子少量含
5 褐灰色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
6 褐灰色土と灰黄褐色土の混合層

P279(A-A')
1 にぶい黄褐色土　褐灰色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　ハードローム土粒子少量含

P280(A-A')
1 灰黄褐色土
2 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混

P284(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土わずか混
3 黒褐色土と褐灰色土の混合層
4 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混
5 灰黄褐色土　黒褐色土若干混
6 褐灰色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土粒子少量含
7 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混
8 撹乱

P285(A-A')
1 黒褐色土　褐灰色土多量混
2 褐灰色土　ソフトローム土少量混
3 にぶい黄褐色土　黒褐色土混、ソフトローム土粒子微量含

P286(A-A')
1 褐灰色土　ソフトローム土少量混
2 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混
3 褐灰色土　ソフトローム土多量混

P287(A-A')
1 撹乱
2 黒褐色土　にぶい黄橙色土ブロック含
3 黒褐色土　ソフトローム土少量混
4 黒褐色土　灰黄褐色土少量混
5 黒褐色土　灰黄褐色土多量混

P290(A-A')
1 黄褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　灰黄褐色土若干、ソフトローム土混
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
5 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子含
6 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子少量、灰黄褐色土ブロック含
7 灰黄褐色土　ソフトローム土混
8 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
9 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P291(A-A')
1 黒褐色土　褐灰色土多量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
4 黒褐色土　ソフトローム土、褐灰色土少量混
5 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子含

P294(A-A')
1 褐灰色土と黒褐色土の混合層　ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 褐灰色土　暗灰黄色土少量、ソフトローム土若干混
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P295(A-A')
1 褐灰色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子少量含
2 黒褐色土　褐灰色土少量混、ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　褐灰色土少量混
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
5 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含
6 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含

P296(A-A')
1 黒褐色土とにぶい黄褐色土の混合層　ソフトローム土粒子わずか含
2 灰黄褐色土　黒褐色土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
4 黒褐色土　黒褐色土わずか混、ソフトローム土粒子わずか含
5 褐灰色土　ソフトローム土粒子わずか含

P297(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土少量混
3 褐灰色土　ソフトローム土少量混、黒褐色土ブロック含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土少量混
5 黒褐色土　ソフトローム土ごくわずか混

P298(A-A')
1 灰黄褐色土　黒褐色土少量混、ソフトローム土粒子ごくわずか含
2 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 褐灰色土　ソフトローム土粒子少量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子多量含

P299(A-A')
1 灰黄褐色土　褐灰色土少量混
2 褐灰色土　ソフトローム土微粒子少量含
3 黒褐色土　褐灰色土わずか、ソフトローム土少量混

P300(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 褐灰色土　黒褐色土わずか混
4 黒褐色土と褐灰色土の混合層
5 褐灰色土　ソフトローム土粒子多量含
6 黒褐色土　褐灰色土少量混

P303(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
2 黒褐色土
3 褐灰色土　ソフトローム土わずか混
4 褐灰色土　黒褐色土若干、ソフトローム土わずか混
5 灰黄褐色土　ソフトローム土混

P329(A-A')
1 暗オリーブ褐色土　黒色土ブロック、黒褐色土粒子わずか含
2 黒褐色土
3 オリーブ黒色土　ソフトローム土少量混
4 黒褐色土　ソフトローム土少量混
5 撹乱

P341(A-A')
1 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子ごくわずか含
2 オリーブ黒色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 オリーブ黒色土　灰オリーブ色土少量混
4 暗灰黄色土　ソフトローム土多量混
5 暗灰黄色土　ソフトローム土ブロック・粒子少量含

P350(A-A')
1 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量、ソフトローム土ブロック少量含
2 黒褐色土ブロックとソフトローム土ブロック混合層

P364(A-A')
1 灰黄褐色土　黒色土わずか、ソフトローム土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混
3 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P365(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土ブロック含
2 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
3 黒褐色土　ソフトローム土わずか混

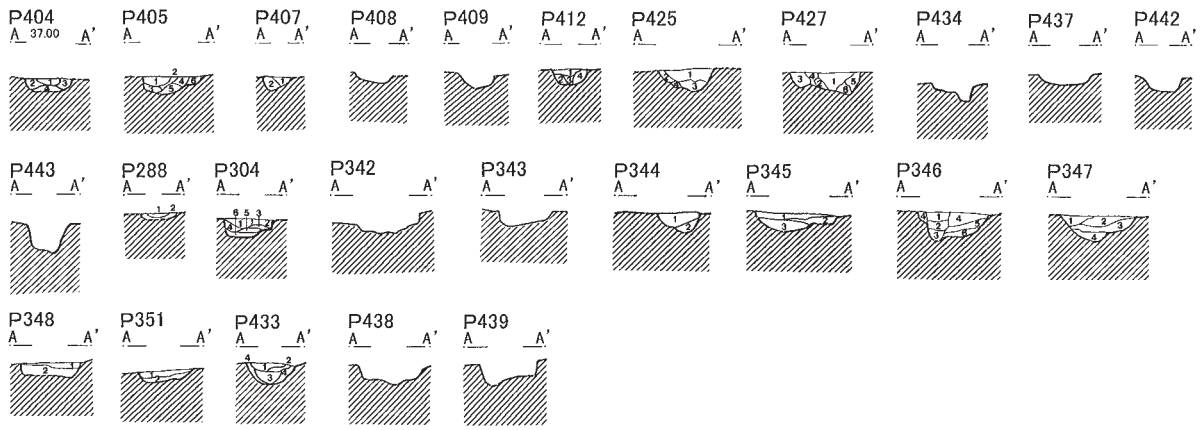
P370(A-A')
1 黒褐色土　暗灰黄色土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混、黒色土ブロック含
3 黒褐色土

P372(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
2 暗灰黄色土

P403(A-A')
1 灰黄褐色土
2 灰黄褐色土　黒褐色土混
3 黒褐色土　ソフトローム土少量混

0　2m
1:60

第65図　B区ピット土層断面図（6）



土層説明

P404(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
3 オリーブ黒色土　ソフトローム土若干混
4 黒褐色土　ソフトローム土多量混

P405(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土若干混
2 黒褐色土　ソフトローム土粒子少量含
3 暗灰黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 オリーブ黒色土　ソフトローム土少量混
5 黒褐色土　ソフトローム土粒子多量含
6 黒褐色土

P407(A-A')
1 黒褐色土　にぶい黄褐色土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土少量混

P412(A-A')
1 黒褐色土
2 にぶい黄褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
3 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
4 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含

P425(A-A')
1 褐灰色土　灰白色土ブロック、ソフトローム土ブロック含
2 褐灰色土　黒褐色土若干混
3 黒褐色土
4 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混

P427(A-A')
1 にぶい黄褐色土　褐灰色土少量混
2 黒褐色土　ソフトローム土わずか混
3 黒褐色土と褐灰色土の混合層　ソフトローム土粒子少量含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土多量混
5 暗灰黄色土　黒褐色土混、ソフトローム土粒子わずか含
6 灰黄褐色土　黒褐色土若干、ソフトローム土混

P288(A-A')
1 暗褐色土　ソフトローム土粒子少量含
2 にぶい黄褐色土　灰黄褐色土わずか混

P304(A-A')
1 褐灰色土　にぶい黄褐色土少量混、ソフトローム土ブロック少量含
2 黄灰色土　黒褐色土混
3 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
4 黒褐色土　ソフトローム土少量混
5 灰黄褐色土　黒褐色土わずか混
6 にぶい黄褐色土　ソフトローム土多量混

P344(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子わずか含
2 黒褐色土　黒褐色土ブロック若干、ソフトローム土粒子わずか含

P345(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土微粒子わずか、ハードローム土粒子ごくわずか含
2 灰黄褐色土　ハードローム土ブロックわずか含
3 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子わずか、黒褐色土ブロック若干、ハードローム土粒子わずか含

P346(A-A')
1 灰黄褐色土　にぶい黄褐色土ブロック若干含
2 にぶい黄褐色土　黒褐色土ブロック若干含
3 にぶい黄褐色土　ハードローム土粒子若干含
4 黒褐色土　ハードローム土粒子わずか含
5 暗褐色土　黒褐色土ブロック多量含
6 黒褐色土　ハードローム土ブロック・粒子多量含

P347(A-A')
1 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 暗灰黄色土　ソフトローム土微粒子若干含
3 黒褐色土　黒褐色土ブロック多量含
4 黒褐色土　ハードローム土ブロック多量、黒褐色土ブロック多量含

P348(A-A')
1 褐灰色土
2 黒褐色土　にぶい黄褐色土ブロック少量、ソフトローム土微粒子若干含

P351(A-A')
1 黒褐色土　黒色土ブロック小若干、ソフトローム土ブロック・粒子含
2 にぶい黄褐色土　黒色粘土ブロック、ソフトローム土ブロック少量含

P433(A-A')
1 黒褐色土　ソフトローム土粒子若干含
2 黄灰色土　黒色土ブロックわずか含
3 黒色土　ソフトローム土粒子若干含
4 灰黄褐色土　ソフトローム土粒子若干、黒色土粒子少量含

0　2m
1:60

第66図　B区ピット土層断面図（7）

第5表　B区ピット一覧表（第49～51・54～66図）

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
140	D-8	楕円形	32 × 27 × 13	なし	—		
141	D-8	楕円形	32 × 28 × 13	なし	—	SB2·P1	
142	D-8	隅丸方形	38 × 30 × 8	なし	—		
143	D-8	楕円形	38 × 33 × 17	なし	—		
144	D-8	楕円形	45 × 40 × 20	なし	—	P147	
145	D-8	楕円形	23 × 19 × 7	なし	—		
146	D-8	楕円形	38 × 33 × 44	なし	—		
147	D-8	楕円形	35 × 26 × 13	なし	—	P144	
148	D·E-8	隅丸方形	29 × 24 × 12	なし	—	P173	
149	D-8	楕円形	59 × 50 × 21	なし	—	P150	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
150	D-8	楕円形	50 × 43 × 21	なし	—	P149、P154、P174	
151	D-8	楕円形	58 × 28 × 17	なし	—		
152	D-8	楕円形	(38) × 33 × 14	なし	—	SB1･P3	
153	F-7	不明	35 ×〔17〕× 11	なし	—		
154	D-8	隅丸方形	32 × 30 × 11	なし	—	P150、P174	
155	D･E-8	楕円形	39 × 26 × 15	なし	—		
156	D-9	台形	38 × 30 × 32	なし	—		
157	D･E-8	楕円形	40 × 28 × 16	なし	—		
158	E-8	楕円形	32 × 30 × 22	なし	—		
159	D-8	円形	58 × 50 × 22	なし	—		
160	D-9	楕円形	54 × 44 × 14	なし	—		
161	D-9	隅丸方形	35 × 31 × 7	なし	—		
162	D-9	楕円形	35 × 34 × 10	なし	—		
163	D-8	楕円形	56 × 49 × 48	なし	—		
164	D-9	楕円形	52 × 46 × 25	なし	—		
165	D-9	楕円形	34 × 28 × 18	なし	—		
166	E-9	楕円形	42 × 28 × 10	なし	—		
167	E-9	楕円形	35 × 31 × 20	なし	—		
168	E-9	不整形	64 × 45 × 10	なし	—		
169	E-9	楕円形	31 × 25 × 11	なし	—		
170	E-9	円形	43 × 41 × 22	なし	—		
171	E-9	不整形	51 × 35 × 16	なし	—		
172	E-9	楕円形	(61) × 42 × 18	なし	—	SB1･P6	
173	D･E-8	楕円形	(66) × 52 × 16	なし	—	P148、P180	
174	D-8	楕円形	56 × (38) × 46	なし	—	P154	
175	D-8･9	楕円形？	47 ×〔30〕× 27	なし	—	P244	
176	E-9	楕円形	43 × 37 × 18	なし	—		
177	E-8	楕円形	59 × 25 × 17	なし	—		
178	E-8	円形	30 × 29 × 13	なし	—		
179	E-8	円形	40 × 37 × 18	なし	—		
180	E-8	楕円形	(60) × 38 × 18	なし	—	P173	
181	E-8	楕円形	31 × 29 × 8	なし	—		
182	D-9	楕円形	31 × 17 × 7	なし	—		
183	D-9	楕円形	38 × 22 × 11	なし	—		
184	D-9	楕円形	67 ×〔45〕× 20	なし	—	P185	
185	D-9	楕円形	43 × 28 × 10	なし	—	P184	
186	D-9	楕円形	40 × 35 × 25	なし	—		
187	D･E-8	隅丸方形	33 × 29 × 12	なし	—		
188	D-8	三角形	39 × 37 × 35	なし	—		

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
189	D-8	円形	21 × 21 × 23	なし	—		
190	D-7･8	台形	27 × 24 × 12	なし	—		
191	E-7	円形	30 × 28 × 19	なし	—	P225	
192	E-8	楕円形	36 × 29 × 14	なし	—		
193	E-7･8	円形	37 × 33 × 20	なし	—		
194	E-8	円形	36 × 34 × 21	なし	—		
195	E-8	楕円形	46 × 36 × 17	なし	—		
196	E-8	三角形	52 × 50 × 25	なし	—		
197	E-8	円形	36 × 36 × 19	なし	—	P224	
198	E-8	隅丸方形	28 × 28 × 15	なし	—		
199	E-8	楕円形	33 × 28 × 21	なし	—		
200	E-7･8	隅丸方形	25 × 23 × 18	なし	—		
201	D-8･9	円形	28 × 28 × 6	なし	—		
202	D-8	楕円形	22 × 19 × 13	なし	—		
203	D-8	不整形	30 × 22 × 17	なし	—		
204	D-8･9	楕円形	39 × 37 × 11	なし	—		
205	E-7	円形	43 × 41 × 23	なし	—		
206	E-7	楕円形	52 × 46 × 21	なし	—	P227	
207	E-7	隅丸方形	52 × 48 × 28	なし	—		
208	E-7	楕円形	(52) × 43 × 16	なし	—	SK8	
209	E-7	楕円形	65 × 47 × 18	なし	—	P210	
210	E-7	楕円形	(34) × 24 × 9	なし	—	P209	
211	E-7	楕円形	31 × 22 × 21	なし	—		
212	E-7	楕円形	29 × 25 × 16	なし	—		
213	E-7	不整形	54 × 45 × 23	なし	—		
214	E-7	楕円形	30 × 27 × 16	なし	—		
215	E-7	楕円形	52 × 35 × 17	なし	—		
216	E-7	楕円形	63 × 45 × 25	なし	—	SB3･P1	
217	E-7	隅丸方形	45 × 42 × 23	なし	—	P218、P282	
218	E-7	楕円形	(42) × 35 × 12	なし	—	P217	
219	E-7	楕円形	24 × 21 × 14	なし	—		
220	E-7	不整形	37 × 35 × 14	なし	—		
221	E-7	楕円形	49 × 41 × 18	なし	—		
222	E-7	楕円形	36 × 30 × 19	なし	—		
223	E-8	楕円形	53 × 37 × 21	なし	—		
224	E-8	円形	39 × (34) × 17	なし	—	P197	
225	E-7	楕円形	35 × 32 × 16	なし	—	P191	
226	E-7	楕円形	41 × 37 × 19	なし	—		
227	E-7	円形	27 × 24 × 13	なし	—	P206	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
228	D-7	円形	33 × 32 × 15	なし	—		
229	D-7	円形	28 × 24 × 13	なし	—		
230	B-9	楕円形？	(44) × 41 × 9	なし	—	P393	
231	E-7	円形	23 × 21 × 11	なし	—		
232	E-7	不明	37 ×〔16〕× 18	なし	—		
233	E･F-7	楕円形	76 × 52 × 33	なし	—		
234	E-8	楕円形	47 × 38 × 19	なし	—		
235	E-8	楕円形	36 × 31 × 24	なし	—		
236	E-8	楕円形	34 × 33 × 24	なし	—		
237	E-8	楕円形	42 × 34 × 12	なし	—		
238	E-8･9	楕円形	38 × 37 × 16	なし	—		
239	E-8･9	楕円形	51 × 42 × 30	なし	—		
240	E-9	楕円形	45 × 38 × 18	なし	—		
241	E-9	楕円形	66 × 44 × 15	なし	—		
242	E-9	楕円形	64 × 44 × 10	なし	—		
243	E-9	楕円形	30 × 24 × 11	なし	—		
244	D-8･9	円形	43 × 42 × 21	なし	—	P175	
245	E-9	台形	35 × 29 × 17	なし	—		
246	E-9	楕円形	45 × 44 × 13	なし	—		
247	D-8	楕円形	27 × 23 × 8	なし	—		
248	E-9	楕円形	80 × 52 × 20	なし	—		
249	E-10	楕円形	35 × 31 × 16	なし	—	P266	
250	F-9	楕円形	32 × 32 × 18	なし	—		
251	E･F-9	楕円形	27 × 22 × 8	なし	—		
252	E-9	楕円形	35 × 30 × 11	なし	—		
253	E-9	隅丸方形	45 × 38 × 21	なし	—		
254	F-7	楕円形？	50 × 15 × 27	なし	—		
255	E･F-9	楕円形	41 × 33 × 24	なし	—		
256	E-9	隅丸方形	48 × 32 × 18	なし	—		
257	F-9	隅丸方形	22 × 22 × 9	なし	—		
258	E-9	隅丸方形	45 × 40 × 10	なし	—	P420	
259	E-9	楕円形	30 × 28 × 20	なし	—		
260	E-9	隅丸方形	54 × 50 × 12	なし	—		
261	E-9	円形	19 × 17 × 13	なし	—		
262	E-9	円形	30 × 30 × 15	なし	—		
263	E-9･10	楕円形	27 × 23 × 18	なし	—		
264	E-10	楕円形	40 × 30 × 14	なし	—		
265	E-9	楕円形	23 × 22 × 13	なし	—		
266	E-10	不整形	(56) × 47 × 10	なし	—	P249	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
267	F-10	楕円形	80 × 40 × 30	なし	—	SB4・P4	
268	F-10	不整形	37 × 28 × 13	なし	—		
269	E-10	楕円形	47 × 33 × 16	なし	—		
270	F-10	五角形	37 × 37 × 8	なし	—		
271	F-10	楕円形	30 × 25 × 10	なし	—	P272	
272	F-10	不整形	39 × 35 × 11	なし	—	P271	
273	E-10	楕円形	17 × 12 × 20	なし	—		
274	E-10	楕円形？	58 × 52 × 42	なし	—		
275	E-10	隅丸方形	37 × 29 × 11	なし	—		
276	E-10	楕円形	46 × 28 × 9	なし	—		
277	E-10	不整形	55 × 38 × 29	なし	—		
278	E-10	楕円形	50 × 38 × 28	なし	—		
279	E・F-10	楕円形	32 × 26 × 20	なし	—		
280	E-10	楕円形	40 × 37 × 12	なし	—		
281	F-8	楕円形	(56) × 47 × 14	なし	—	SB3・P3	
282	E-7	楕円形	〔30〕× 27 × 17	なし	—	P217	
283	D-7	五角形	63 × 57 × 38	なし	—		
284	F-9	楕円形	35 × 32 × 20	なし	—		
285	F-10	楕円形	40 × 26 × 12	なし	—		
286	F-10	楕円形	(41) × 28 × 13	なし	—	SB5・P6	
287	F-10	楕円形	36 × 32 × 19	なし	—		
288	F-10	楕円形	40 × 28 × 19	なし	—	SB4・P19	
289	D-8	楕円形	30 × 26 × 12	なし	—		
290	E-10	不整形	74 × 52 × 32	なし	—		
291	F-10	楕円形	51 × 49 × 21	なし	—		
292	D-8	円形	〔39〕× 38 × 10	なし	—		
293	E・F-10	楕円形	37 × 26 × 23	なし	—		
294	F-10	隅丸方形	39 × 33 × 11	なし	—		
295	F-10	円形	33 × 32 × 15	なし	—		
296	F-11	楕円形	64 × 49 × 17	なし	—		
297	E・F-10・11	楕円形	45 × 37 × 15	なし	—	SB4・P14	
298	E-10	円形	27 × 26 × 15	なし	—		
299	E-10	楕円形	32 × 30 × 11	なし	—		
300	E-11	三角形	64 × 43 × 12	なし	—	P341	
301	F-11	楕円形？	〔37〕× 42 × 28	なし	—	SD13	
302	F-11	隅丸方形	64 ×〔30〕× 32	なし	—		
303	F-11	楕円形	40 × 33 × 15	なし	—		
304	F-10	隅丸方形	42 × 38 × 22	なし	—		
305	E-10	楕円形	43 × 36 × 16	なし	—		

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
306	E-10	楕円形	(47) × 40 × 14	なし	—		
307	D-11	円形	30 × 28 × 12	なし	—		
308	D-11	楕円形	40 × 28 × 12	なし	—		
309	D-11	隅丸方形	32 × 30 × 8	なし	—		
310	D-11	円形	24 × 24 × 22	なし	—		
311	D-12	楕円形？	〔58〕×〔22〕× 13	なし	—		
312	C-9	不整形	53 × 44 × 18	なし	—		
313	C-9	楕円形	36 × 26 × 10	なし	—		
314	C-9	楕円形	40 × 24 × 12	なし	—		
315	C-9	楕円形	30 × 20 × 8	なし	—		
316	C-9	楕円形	47 × 41 × 13	なし	—		
317	C-9	楕円形？	〔53〕× 36 × 11	なし	—		
318	D-9	不整形	44 × 36 × 11	なし	—		
319	F-10	円形?	46 ×〔25〕× 16	なし	—		
320	C-9	楕円形	48 × 36 × 18	なし	—	P449	
321	D-11	楕円形	40 × 24 × 15	なし	—		
322	D-11	楕円形？	34 ×〔22〕× 29	なし	—		
323	D-12	不整形	40 × 29 × 13	なし	—		
324	D-11	楕円形	38 × 28 × 10	なし	—		
325	D-12	隅丸方形	30 × 29 × 14	なし	—		
326	D-11	隅丸方形	35 × 25 × 15	なし	—		
327	D-11	楕円形	50 × 36 × 16	なし	—		
328	D･E-11	不整形	72 × 48 × 21	なし	—	SK15	
329	E-11	楕円形	72 × 54 × 17	なし	—	P405	
330	E-11	隅丸方形	34 × 32 × 15	なし	—		
331	C-9	楕円形	43 × 34 × 8	なし	—		
332	C-9	不整形	44 × 40 × 19	なし	—		
333	E-9	楕円形	28 × 27 × 11	なし	—	SB4･P26、SD9	
334	C-9	三角形	38 × 34 × 23	なし	—		
335	C-8	楕円形	34 × 23 × 18	なし	—		
336	C-8	楕円形	30 × 27 × 12	なし	—		
337	C-8･9	楕円形	41 × 26 × 9	なし	—		
338	D-8	楕円形	23 × 18 × 17	なし	—		
339	D-8	楕円形	24 × 18 × 9	なし	—		
340	E-11	不整形？	50 ×〔30〕× 10	なし	—		
341	E-11	楕円形	〔48〕× 44 × 22	なし	—	P300	
342	G･H-9･10	楕円形	52 × 51 × 16	なし	—		
343	G-10	楕円形？	41 ×〔46〕× 18	なし	—		
344	G-10	不整形	〔40〕× 38 × 26	なし	—	P345	

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
345	G-10	楕円形	65 × 52 × 21	なし	—	P344	
346	G-10	楕円形	86 × 60 × 24	なし	—	SK9	
347	G-10	不整形	62 × 52 × 21	なし	—		
348	F･G-10	楕円形	61 × 49 × 16	なし	—		
349	F-10	楕円形	40 × 24 × 7	なし	—		
350	F-11	楕円形	(35) × 28 × 16	なし	—	SB7･P1	
351	H-10	楕円形	43 × 36 × 19	なし	—		
352	D-8	瓢箪形	47 × 35 × 35	なし	—		
353	D-9	楕円形	36 × 30 × 23	なし	—	SB1･P4	
354	D-9	楕円形	28 × 24 × 28	なし	—		
355	D-9	楕円形	32 × 26 × 22	なし	—	P359	
356	E-10	五角形	49 × 42 × 26	なし	—		
357	E-10	三角形	48 × 33 × 15	なし	—		
358	C-8	楕円形	38 × 29 × 11	なし	—		
359	D-9	楕円形	(34) × 27 × 16	なし	—	P355	
360	D-8	楕円形	35 × 28 × 20	なし	—		
361	B-9	楕円形	45 × 38 × 19	なし	—		
362	B･C-10	楕円形	58 × 52 × 29	なし	—	P386	
363	B-9･10	楕円形	43 × 38 × 16	なし	—		
364	E-10	楕円形	55 × 45 × 19	なし	—		
365	E-9	楕円形	43 × 34 × 19	なし	—		
366	D-8	隅丸方形	35 × 35 × 19	なし	—		
367	E-9	不整形	43 × 32 × 19	なし	—		
368	E-10	楕円形	42 × 40 × 30	なし	—		
369	E-10	楕円形	28 × 25 × 15	なし	—	SD11	
370	E-10	円形	37 × 34 × 13	なし	—		
371	E-10	円形	33 × 31 × 21	なし	—		
372	E-10	三角形	43 × 30 × 20	なし	—		
373	C-9	楕円形	40 × 36 × 22	なし	—	SB6･P2	
374	D-9	楕円形	40 × 36 × 20	なし	—		
375	D-9	隅丸方形	53 × 35 × 22	なし	—		
376	D-9	楕円形	65 × 34 × 14	なし	—		
377	D-9	楕円形	32 × 30 × 16	なし	—		
378	D-9	楕円形	51 × 40 × 12	なし	—		
379	C-10	隅丸方形	31 × 30 × 23	なし	—		
380	C-10	円形	46 × 46 × 16	なし	—		
381	C-10	楕円形	60 × 50 × 23	なし	—		
382	B-9･10	楕円形	25 × 25 × 12	なし	—		
383	B-9	隅丸方形	46 × 44 × 13	なし	—		

規模単位：cm

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
384	B-9･10	楕円形？	38 ×〔22〕× 21	なし	—		
385	B-10	隅丸方形？	〔43〕×〔30〕× 24	なし	—		
386	B-10	隅丸方形	(55) × 55 × 20	なし	—	P362	
387	B･C-10	楕円形	66 × 53 × 13	なし	—		
388	D-8	楕円形	82 × 52 × 40	なし	—		
389	B-10	円形	20 × 20 × 11	なし	—		
390	B-9	楕円形	51 × 30 × 20	なし	—		
391	B-9	円形	32 × 32 × 24	なし	—		
392	B-9	円形	27 × 26 × 20	なし	—		
393	B-9	隅丸方形	46 × 46 × 18	なし	—	P230	
394	D-9	楕円形	35 × 27 × 10	なし	—		
395	B-9	楕円形	61 × 46 × 12	なし	—	SX3	
396	C-9	三角形	31 × 23 × 16	なし	—		
397	C-9	楕円形	31 × 24 × 15	なし	—		
398	D-8	円形	48 × 46 × 35	なし	—		
399	C-9	円形	30 × 27 × 18	なし	—		
400	C-8	楕円形	36 × 27 × 22	なし	—		
401	C-8	楕円形	25 × 21 × 16	なし	—		
402	C-8	楕円形	28 × 20 × 14	なし	—		
403	E-11	楕円形	38 × 32 × 12	なし	—		
404	E-11	不整形	38 × 32 × 10	なし	—		
405	E-11	楕円形	45 × (38) × 14	なし	—	P329	
406	D-8	楕円形	60 × 47 × 41	なし	—		
407	E-11	楕円形	22 × 20 × 10	なし	—		
408	E-11	楕円形	36 × 30 × 9	なし	—		
409	E-11	楕円形	38 × 31 × 11	なし	—		
410	E-9	楕円形	50 × 44 × 17	なし	—	P258	
411	D-11	瓢箪形	46 × 35 × 16	なし	—		
412	E･F-10	楕円形	62 × 27 × 12	なし	—		
413	D-11	瓢箪形	46 × 29 × 14	なし	—		
414	E-11	楕円形？	80 ×〔43〕× 19	なし	—		
415	C-9	楕円形	(32) × 27 × 21	なし	—	SK12	
416	C-8	楕円形？	(77) × 45 × 12	なし	—		
417	C-8	楕円形	50 × 40 × 17	なし	—		
418	C-8	隅丸方形	60 × 57 × 15	なし	—		
419	C-8	楕円形	36 × 27 × 10	なし	—		
420	C-8	円形	40 × 40 × 42	なし	—		
421	E-9	円形	36 × 35 × 26	なし	—		
422	C-8	楕円形	44 × 33 × 16	なし	—		

規模単位：㎝

番号	位置(グリッド)	平　面　形	長軸 × 短軸 × 深さ	出土遺物	時期	重 複 関 係	備　考
423	D-8	隅丸方形	33 × 32 × 14	なし	—		
424	C-8	三角形	43 × 33 × 20	なし	—		
425	E-10	楕円形	50 × 44 × 26	なし	—		
426	C-8	楕円形	34 ×〔43〕× 12	なし	—		
427	E-9	楕円形	57 × 53 × 27	なし	—		
428	G-10	楕円形	〔50〕× 57 × 21	なし	—		
429	B-8	楕円形	48 × 40 × 23	なし	—		
430	B-8	楕円形	52 × 38 × 30	なし	—	P431	
431	B-8	楕円形	50 × 31 × 22	なし	—	P430	
432	B-9	楕円形	50 × (40) × 23	なし	—	SB5･P2	
433	G-10	隅丸方形	40 × 34 × 16	なし	—		
434	E-11	円形	36 × 34 × 14	なし	—		
435	D-11･12	楕円形	38 × 36 × 13	なし	—		
436	E-9	楕円形	68 × 51 × 8	なし	—		
437	E-11	楕円形	50 × 47 × 7	なし	—		
438	G-10	隅丸方形？	52 ×〔16〕× 14	なし	—		
439	F･G-10	隅丸方形？	47 ×〔22〕× 21	なし	—		
440	D-10	楕円形	32 × 25 × 11	なし	—		
441	E-8･9	不整形	42 × 24 × 11	なし	—		
442	E-11	円形	32 × 31 × 12	なし	—		
443	E-10	隅丸方形	32 × 24 × 23	なし	—		
444	D-8	楕円形	38 × 37 × 16	なし	—	SB1･P1	
445	C-9	楕円形	50 × (42) × 22	なし	—	P320	
446	D-8	円形	32 × 32 × 28	なし	—	SB2･P1	

（７）　性格不明竪穴遺構

第３号性格不明竪穴遺構（第67図）

調査区の北東隅、Ｂ－８・９グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,485～19,495、Ｙ＝－45,110～－45,115内にある。

第５号掘立柱建物跡及び第395号ピットと重複関係にあり、本遺構がいずれにも切られている。また、北及び東側は調査区域外となっている。

規模は、前述の状況から北及び東側は不明であるが、検出南北軸2.92ｍ、短軸1.56～1.85ｍを測る。平面形は、おおよそ長方形をなすと推定される。

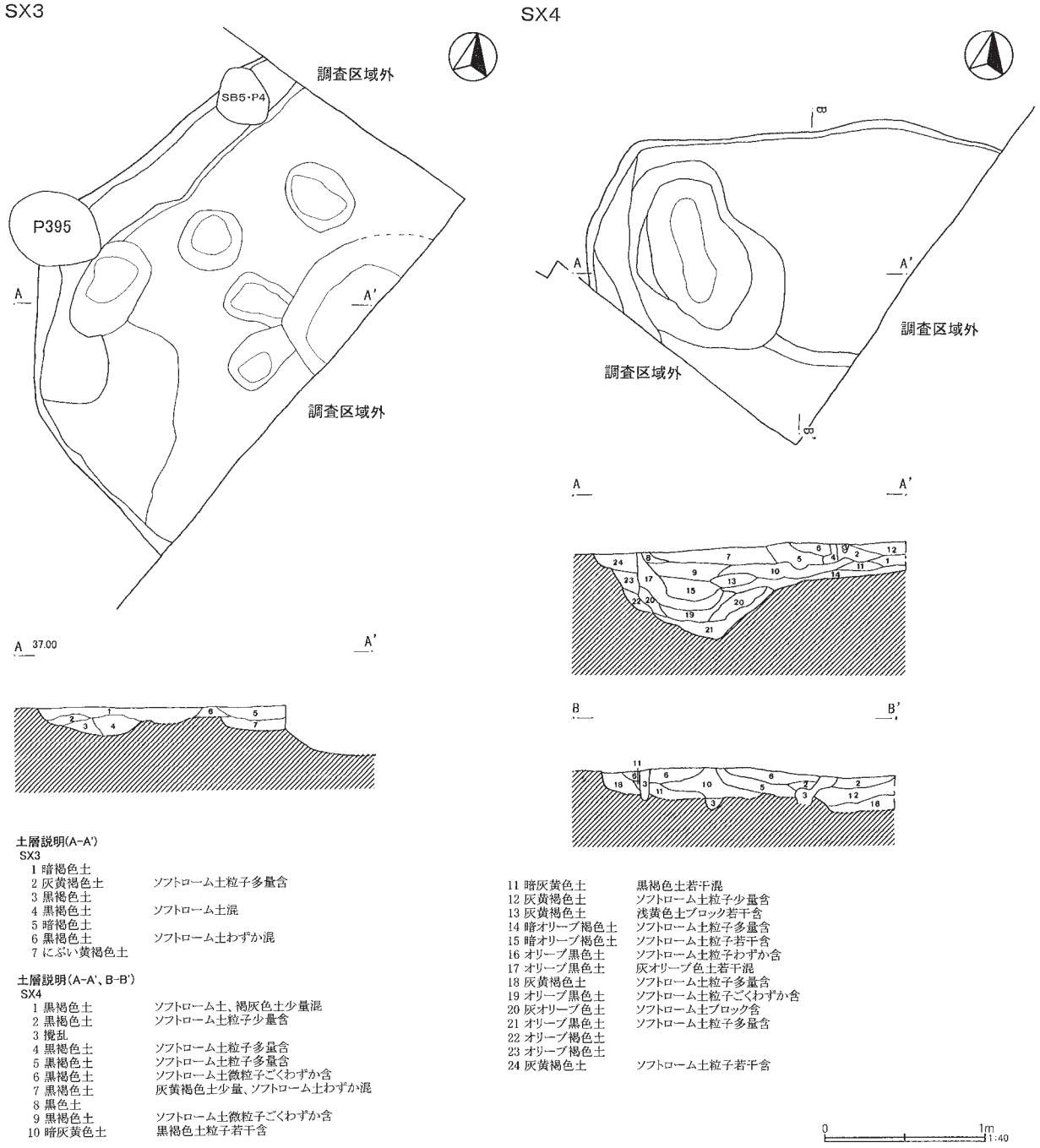
底面は一定しておらず、幅24～43㎝を測る平坦部が西側の掘り方に沿ってあり、その東側は一段やや深くなり平坦になる。その平坦面にはピット状に掘りくぼめられたか所が５か所あり、一つは西側掘り方に沿う平坦部と一段深くなる平坦面の挟間にある。さらに、平坦面の東端には、検出南北軸1.14ｍを測る大きめな土坑状の掘り込みがある。深さは、土層断面観察から0.07～0.34ｍを測る。平坦面は0.07

～0.10ｍを測り、ピット状の掘り込みは0.15～0.18ｍを測る。また、東端の土坑状の掘り込みが最深部で、0.34ｍを測る。埋土については、概ね黒褐色土を主体とし、暗褐色土が堆積していた。ピット状の掘り込みには灰黄褐色土やにぶい黄褐色土も見られた。その堆積状況は、ややランダムなか所も見られる水平堆積であり、人為的に埋め戻された可能性も考えられた。これは、第５号掘立柱建物跡と重複関係にあることが要因であるとも思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

第４号性格不明竪穴遺構（第67図）

調査区の南東部隅、Ｃ・Ｄ－12グリッドに位置する。また、座標Ｘ＝19,470～19,475、Ｙ＝－45,115



土層説明(A-A')
SX3

1 暗褐色土	
2 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子多量含
3 黒褐色土	
4 黒褐色土	ソフトローム土混
5 暗褐色土	
6 黒褐色土	ソフトローム土わずか混
7 にぶい黄褐色土	

土層説明(A-A'、B-B')
SX4

1 黒褐色土	ソフトローム土、褐灰色土少量混
2 黒褐色土	ソフトローム土粒子少量含
3 攪乱	
4 黒褐色土	ソフトローム土粒子多量含
5 黒褐色土	ソフトローム土粒子多量含
6 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
7 黒褐色土	灰黄褐色土少量、ソフトローム土わずか混
8 黒色土	
9 黒褐色土	ソフトローム土微粒子ごくわずか含
10 暗灰黄色土	黒褐色土粒子若干含
11 暗灰黄色土	黒褐色土若干混
12 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子少量含
13 灰黄褐色土	浅黄色土ブロック若干含
14 暗オリーブ褐色土	ソフトローム土粒子多量含
15 暗オリーブ褐色土	ソフトローム土粒子若干含
16 オリーブ黒色土	ソフトローム土粒子わずか含
17 オリーブ黒色土	灰オリーブ色土若干混
18 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子多量含
19 オリーブ黒色土	ソフトローム土粒子ごくわずか含
20 灰オリーブ色土	ソフトローム土ブロック含
21 オリーブ黒色土	ソフトローム土粒子多量含
22 オリーブ褐色土	
23 オリーブ褐色土	
24 灰黄褐色土	ソフトローム土粒子若干含

第67図　第３・４号性格不明竪穴遺構

〜ー45,125内にある。単独で所在し、南及び東側が調査区域外となっている。

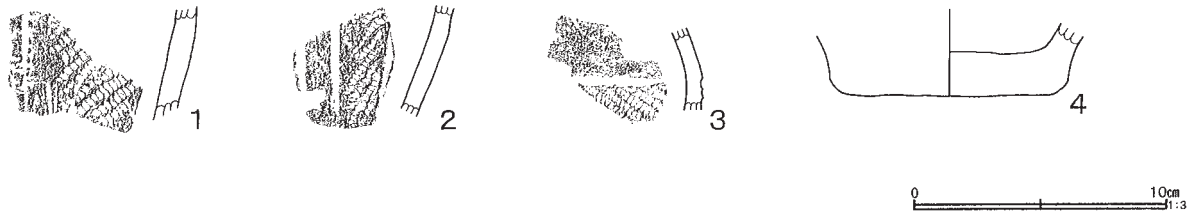
規模は、前述の状況から南及び東側が不明であるが、最大で検出東西軸2.28ｍ、同南北軸1.96ｍを測る。平面形は、おおよそ正方形または長方形をなすと推定される。

底面は、西端の一部に平坦部をもち、東側の大半は一段深くなる大きな平坦面となっていた。その平坦面の南側にはさらに一段深い平坦面が存在した。なお、西端のわずかな平坦部と東側の大きな平坦面との間には長軸1.30ｍ、短軸0.69〜0.91ｍ、大きな平坦面からの深さ0.40ｍを測る、平面形がやや瓢箪状の土坑状の掘り込みがあった。深さは、土層断面観察から西端の平坦部が0.09ｍ、大きな平坦面が0.22〜0.24ｍ、最も深い平坦面が0.30ｍを測る。埋土については、黒褐色土を主体にして暗灰黄色土、灰黄褐色土､暗オリーブ褐色土等が上半に堆積し､最深部である土坑状の掘り込みの最下層付近には灰オリーブ色土やオリーブ黒色土が堆積し、それは概ねレンズ状に堆積していることから、自然堆積であると思われる。

出土遺物は、検出できなかった。

（８）　Ｂ区出土遺物

Ｂ区の遺構からの出土遺物及び遺構に伴わないと判断した出土遺物のうち図示できるものについて、一括して掲載する（第68図、第６表）。調査区内から出土した遺物は非常に少なく、掲載した出土遺物は全て縄文時代中期の土器である。また、その出土か所は、第14号土坑、グリッド、第15号墳の墳丘盛土中及び周溝内であるが、遺構からの出土遺物も含めて、全ての出土遺物が直接遺構に関わる遺物とは判断し難く、遺構外の遺物として捉えられるものである。



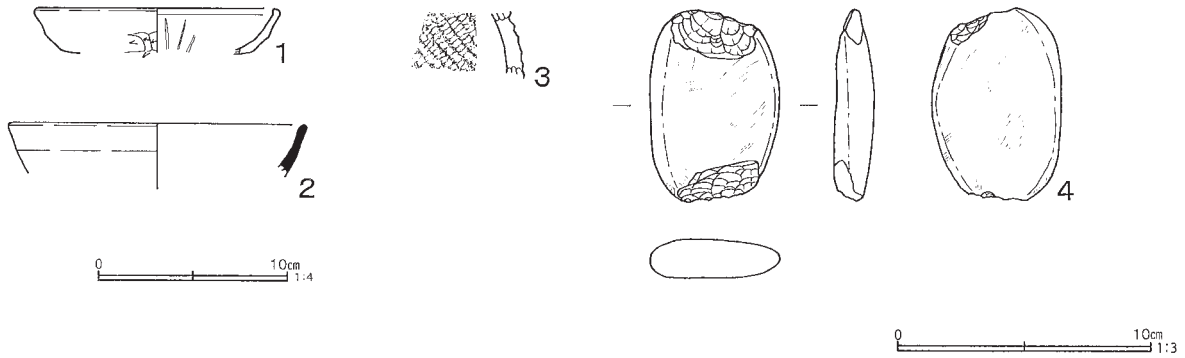
第68図　Ｂ区出土遺物

第６表　Ｂ区出土遺物観察表（第68図）

番号	出土位置	器　種	口 径	器 高	底 径	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	SK14	縄文土器 深鉢	厚さ0.9			B	橙色	胴部破片	磨消し懸垂文。 ＬＲ単節縄文。 加曾利Ｅ式。
2	D-11グリッド	縄文土器 深鉢	厚さ0.7			B	にぶい橙色	胴部破片	磨消し懸垂文。 ＲＬ単節縄文。 加曾利Ｅ式。
3	SS15墳丘盛土中	縄文土器 深鉢	厚さ0.6			B	浅黄色	胴部破片	区画文内にＲＬ単節縄文。 加曾利Ｅ式。
4	SS15SD5	縄文土器 深鉢	―	残存高 3.0	(8.3)	B	にぶい橙色	底部25％	

3　遺構外出土遺物

A・B区の表土除去の際に出土した遺物のうち図示できるものについて、一括して掲載する（第69図、第７表）。縄文時代中期、平安時代（９世紀前半）の土器、石器等が出土したほか、A区では、図示していないが近世に属すると思われる土師質土器坏、陶器・火鉢、瓦質土器・焙烙等が出土した。



第69図　遺構外出土遺物

第７表　遺構外出土遺物観察表（第69図）

番号	器　種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼成	色　調	残存率	備　　考
1	土師器 坏	(13.0)	残存高 2.4	－	ABIK	B	橙色	口縁部破片	内面に放射状暗文。
2	須恵器 坏	(15.7)	残存高 2.7	－	ABFIJ	A	灰色	口縁部破片	南比企産。
3	縄文土器 深鉢	厚さ0.7				A	にぶい橙色	胴部破片	区画文内にＲＬ単節縄文。 加曽利Ｅ式。
4	石錘	最大長7.60　最大幅5.10　最大厚1.50　重量92.9g						－	チャート。

Ⅴ　調査のまとめ

籠原裏古墳群及び籠原裏遺跡は、土地区画整理事業に伴い昭和61年度から調査が始められ、今回の調査まで６年度（７次）にわたる調査が行われてきた。また、途中には共同住宅建設に伴う調査も２回、熊谷市籠原裏遺跡調査会を調査主体として行われた（第３図）。ここでは、このたびの調査で新たに発見され本報告した４基の古墳について、これまで確認されていた11基等との比較から、特筆すべき点について述べていきたいと思う。

１　籠原裏古墳群第12・13・14号墳の墳丘築造企画について

通常古墳のような構造物は、一定の築造企画をもって築造される。籠原裏古墳群中の15基についても、築造企画に基づいて築造されたと思われる。第１・10号墳は八角形の平面形をもつ古墳であり、その他の古墳については円形の平面形をもつ古墳である。ただし、一概に平面形といっても、第２・12・13号墳のように、一見多角形を意識しているかのような墳丘や周溝の平面形をもつものも見受けられ、いずれの平面形を企画して築造されたのか確定が難しいものが存在する。第２号墳については、発掘調査当時は八角形の墳形としていた古墳であるが、第１号墳のような明確な企画性が見られなかったことから円墳の範疇として捉えることとした。その理由は、八角形の決め手としていた葺石の直線的配列を、むしろ築造段階の作業単位によるものと判断したからである（松田 2005）。

さて、本報告の第12・13号墳についてであるが、第２号墳とは少々状況が異なり、葺石の状況は不明であり（第12号墳は葺石がなかったと推定している）、第12号墳については、西側の墳丘裾部及び東側の周溝外側に稜角を意識したかのようなか所が各々１か所認められ、第13号墳については、西側の周溝外側に稜角を意識したか所２か所、さらに西側の墳丘裾部に１か所認められたのである。

第１号墳は、次に挙げる４点を根拠に八角形の平面形企画をもって築造されたと判断している。①残存していた葺石の配列が約５ｍ単位で直線的になっており、八角形の辺に沿って廻る。②等高線が葺石残存か所において直線的であり、八角形をなす。③墳丘裾部のラインが八角形をなす。④周溝が主体部を挟んだ八角形に稜角の延長上から掘り込まれ、八角形に廻る。加えて、北辺と南西辺の稜角の延長上には張り出し部が設けられている。第１号墳は、石室開口部を南辺中央に据えた八角形の企画を採るが、その内角の数値は、葺石が残存していたか所で138°、134°、145°、138°を測り、葺石が崩落した墳丘裾部で140°、136°、134°、142°を測り、正八角形ならばそれぞれ内角が135°となるのであるが、数値にバラツキがある中で八角形の平面形を採るように角辺が閉じている。一方、第10号墳は、北東部１／４程の墳丘しか調査できず、葺石もほとんどが崩落し、東側葺石の根石付近のみ原位置で遺存しその遺存部が直線的な配列であった。八角形の平面形とした稜角は推定で137°を測り、葺石に伴い等高線も直線的であり、八角形に沿った形状をしていた。前庭部付近の上面のみ遺存の葺石か所も内角138°を測り八角形の辺に合致し、その辺は第１号墳と同様に約５ｍとなる。以上のことから、断定ではないが、八角形の平面形を採る可能性が高いとしている。

それでは、第12･13号墳の状況はどうであろうか。第12号墳から見てみることにしよう。第12号墳は、前述のとおり、墳丘裾部及び周溝外側に多角形の平面形を意識した稜角が認められる。その角度は、墳丘裾部で約140～150°、周溝外側で約156°を測る。この角度は、第１号墳のそれと比較すると、墳丘裾

部でぎりぎりで八角形の企画の範疇に入るが、周溝外側では当てはまらない。ところで、第１号墳は、墳丘については企画性をもっているが、周溝については企画性を度外視して築造されたと推定していることから、本墳もそうであった可能性がある。しかし、墳丘の稜角の角度だけ見ても、幅が10°程あり仮に最大の150°で角辺が廻ると推定すると八角形では一周回って角辺が閉じない可能性がある。よって、少ない情報での判断ではあるが、ここでは八角形である可能性は低いと判断せざるを得ない。それでは、八角形ではない多角形を想定すると、次に考えられるのが十角形以上の平面形である。全国的に例はないと思われるが、仮に十角形とすると正十角形で内角が144°、十二角形とすると正十二角形で内角が150°となる。数値だけを当てはめると、第12号墳は、十角形ないしは十二角形となるのが妥当とも見えるが、これまで多くの辺をもつ多角形とすると、果たして墳丘の平面形の企画として多角形を採る意味がなくなり、円墳と理解したほうが良いとさえ思ってしまう。さらに、第12号墳の周溝掘り方の様子を見てみると、東側西側とも底面の深度が稜角か所を境にして深さが異なるような掘り方になっている。これは、墳丘の築造企画に直接関係があるとは言えないにしてもある程度の作業単位をもって周溝が掘られたと判断するのが妥当であると思われる。この状況は、前述の第２号墳の葺石の状況とも合致し、周溝においても一定の作業単位があったとしてもおかしくない。なお、葺石については従来、作業単位があるとされ、その根拠となる調査成果も複数の古墳で確認されている。これらから、第12号墳の状況も多角形の企画性をもって築造されたのではなく、単なる作業単位の産物があたかも多角形であるかのように意識させたと考えたい。よって、第12号墳の墳形は円形の範疇と捉えることとする。

次に、第13号墳を見てみる。本墳も第12号墳と同様に、前述のとおり、墳丘裾部及び周溝の外側おいて多角形の平面形を意識した稜角が認められる。その角度は、墳丘裾部で約143°、周溝外側で約123°及び134°を測る。この角度は、第１号墳のそれと近似するか所もあるが、稜角が認められた周溝外側の隣同士の角度に、約10°の差がある。内角134°及び143°は第１号墳でも検証された八角形の企画性でも当てはまるが、内角123°については、かなり鋭角であり、むしろ正六角形の内角120°に近似し、八角形の企画性からは遊離しているように思われる。ただし、この鋭角な角度を測るか所が墳丘裾ではなく周溝外側のか所であり、しかも現段階では１か所において認められるだけあるので、墳形の企画性を判断するには材料が乏しい状況であることは否めない。以上のことから、第１号墳において推定したように、周溝については企画性を度外視して築造されたと考えれば、この鋭角の問題も墳丘の企画性を考える上で影響はなく、八角形の企画性を用いた築造の可能性が視野に入ってくる。第13号墳の状況は、第12号墳より明確に八角形の企画性を傍証し、視覚的にも稜角のあり方は多角形を意識していることが明瞭である。１つだけ気掛かりな点は、第12号墳と同様に、周溝の底面の深度が稜角か所を境にして深さが異なるような掘り方になっている点である。これは、第12号墳と同じく作業単位の現れと判断すれば、多角形の企画性はないものと判断され、八角形の墳形を証明することはできない。さらに、検出された墳丘・周溝の範囲も一部であり、全体像が不明な点も判断を渋らせる要因である。よって、ここでは、八角形という企画性があったという余地を残し、現段階では作業単位の産物という判断の下、円形の範疇と捉えることとしておきたい。

最後に、円形と判断された古墳の墳丘築造企画について見てみたい。円形の墳丘をもつと判断される古墳のうち、墳丘全体の様子を判断または推定できるものは第２・３・４・12・14号墳である。これら

の古墳が円形の平面形の墳丘企画で築造されたからには、当然その円の中心があるはずである。そして、同じ古墳群を形成している古墳間では、共通の基準をもって墳丘企画を決定している可能性があるとも思われる。ここでは、各古墳の墳丘の中心を割り出し、その基準がどうであるかを見出すことを試みたいと思う。まずは参考に、墳形は違うが、八角形の墳形をもつ第１号墳の企画性を見てみることとする。第１号墳の墳丘は、遺存していた葺石の配列から対辺間で約12ｍ（半径約６ｍ）、対角間で約13ｍ（半径約6.5ｍ）を測る。その中心、すなわち墳丘の中心であるが、石室の主軸を中心に考えると、やや西にずれた位置になる。また、その位置は石室の奥壁から0.85ｍで、玄室長3.4ｍの１／４にあたり、石室全長4.9ｍの１／６（5.76）となる。それでは、円形の墳形の５基について見ていくこととする。

第２号墳の墳丘は、遺存していた葺石から径約８ｍ（半径約４ｍ）を測る。この径から墳丘の中心を割り出すことは可能であるが、本墳に関しては石室の遺存状況が非常に悪く、残念ながら比較の基準とした石室玄室長及び全長からの位置関係を明確に割り出すことができない。

第３号墳の墳丘は、周囲を廻る周溝の位置関係が不均衡であり、また葺石の状況も不明であることから、前庭部の石積みや墳丘の等高線を頼りに割り出すしか術がなく、それから推定される径は約9.7ｍ（半径約4.85ｍ）である。その径から墳丘の中心を割り出してみると、その位置は石室の主軸上にほぼ載り、奥壁から0.8ｍで、玄室長2.3ｍの約１／３（2.87）、石室全長3.4ｍの約１／４（4.25）にあたる。

第４号墳の墳丘は、周溝及び墳丘の等高線を頼りに割り出すと、径約7.5ｍ（半径約3.75ｍ）となる。その径から墳丘の中心を割り出してみると、その位置は第４号墳と同様に石室の主軸上に載り、奥壁から0.85ｍで、玄室長2.3ｍの約１／３（2.70）、石室全長3.3ｍの約１／４（3.88）にあたる。

第12号墳の墳丘は、東側と西側に検出された周溝がやや多角形状をなし、また石室を中心にして見ると周溝の配置がやや東に偏っている状況ではあるが、平均して割り出すと径約12.5～14.4ｍ（半径約6.25～7.2ｍ、平均約6.72ｍ）となる。その径から墳丘の中心を割り出してみると、その位置は石室の主軸上に載り、奥壁から0.8ｍで、玄室長2.3ｍの約１／３（2.87）、石室全長3.8ｍの約１／５（4.75）にあたる。

第14号墳の墳丘は、東側に検出された周溝と西側の土層断面で観察された周溝から割り出すと、径約8.5ｍ（半径約4.25ｍ）となる。その径から墳丘の中心を割り出してみると、その位置は石室の主軸上よりやや西にずれ、推定される奥壁の位置から0.75ｍで、玄室長2.1ｍの約１／３（2.80）、石室全長2.9ｍの約１／４（3.86）にあたる。

以上の数値を墳形・円形に限って見てみると、僅かながら法則が読み取れる。墳丘の中心が石室の主軸上からややずれることはあるが、墳丘の中心と奥壁までの距離が、墳丘の径が10ｍ以下の古墳は玄室長の約１／３、石室全長の約１／４であり、墳丘径が10ｍ以上の古墳は玄室長の約１／３、石室全長の約１／５となり、当然ながら墳丘の規模が大きい古墳はその石室の規模も大きくなる傾向があることから、墳丘の中心から奥壁までの距離と石室長との割合が小さくなる。しかし、その比率は、玄室長を基準にすると共通した基準があるように見受けられる。これは、墳丘の中心の設定が、玄室長との比例配分の基準に則って決められていたようにも思われるのである。また、石室及び墳丘規模の関係については、第４号墳を除き、石室長と墳丘半径の比率としては、墳丘半径が石室長の1.5倍前後であり、1.42倍～1.64倍の幅に収まる。この数値のばらつきは、各古墳によって墳丘規模の算出（試算）方法のばらつきがあることや、正円の平面形ではないことが影響したものとも解釈でき、概ね墳丘半径の企画性とし

て、10ｍ以下の墳丘は石室長の６／４、10ｍ以上の墳丘は石室長およそ10／５比例配分という共通した企画があったとも考えられるのではなかろうか。

２　籠原裏古墳群第15号墳の石室について

（１）　石室形態

籠原裏古墳群では、石室全体の形態が分かる古墳は、15基中７基である。それは、第１・３・４・８・12・14・15号墳であるが、そのうち第15号墳を除く全ての古墳の石室はいわゆる胴張型横穴式石室である。この胴張型横穴式石室は、籠原裏古墳群が所属する時期である７世紀後半～８世紀初頭の北関東の当地域における石室形態としては多く見られる形態である。この形態は、渡来系の氏族との関わりにおいて導入された形態との解釈もあったが、構造力学の観点から見て、川原石積み石室においては、側壁のほぼ中央部を張り出させ、天井部に向かい石材を持ち送って上部を内側に迫り出させて狭めドーム状に造り十分な埋葬空間を確保するこの構造は理に適っていて、天井石についてもドーム状にすることにより確保が難しかったであろう板石状の石材も小規模なもので済むという利点がある。

しかし、同時期と考えられる第15号墳は様相が少し異なっていた。胴張型の形態をやや意識しているが、短冊型に近く、しかも小規模であることから石室内の空間が狭小である。一見横穴式石室であるが、機能の観点から見ると横穴式石室の本来の機能である横から埋葬することができない規模である。その規模は、玄室は長さ約１ｍ、最大幅0.5ｍ程、玄門部も幅0.5ｍである。また、羨道部に至っては、最大幅0.4ｍ程、羨門部の幅はなんと0.3ｍ程であり、到底人が横から進入し遺体を埋葬したとは考えられないのである。玄室の空間も成人の遺体をそのまま埋葬するには小さすぎで、子供の遺体ならば埋葬が可能な規模である。例え、成人の遺体を埋葬したとしても、白骨化したものを改葬、火葬等を行い人骨のみを埋葬するしか術がないと思われる。本古墳の具体的な時期は明確ではないが、籠原裏古墳群内の古墳と同時期かそれに近い時期ならば、中央では大化２年（646）３月にいわゆる大化の薄葬令が制定され、官位のランクにより墳墓の規制がなされた時期以降である。ところで、この「薄葬令」がどのように地方へ浸透し、影響を与えたかは不明な点が多々ある。本古墳群の被葬者像については、第１号墳の墳形や副葬品から幡羅郡家の郡司やそれに関わる階層の官人との推論がなされているが、この推論から、政治的には郡司等の官人がなんらかの形で中央と繋がっていたと考えるのが自然であり、この薄葬令の影響が少なからずあり、華美になる大きな古墳を造らず、火葬等を行った人骨を蔵骨器に納めて埋葬した可能性は捨てきれないということである。なお、本墳においては、蔵骨器は検出されなかったことから、木質等有機物の器を用い埋葬したことも想定できる。また、埋葬された人物が成人であったか子供であったかに関わらず、これまでの古墳の規模よりは小さいながら手厚く葬られたことに違いはないと思われる。さらに、本墳の石室形態が胴張型横穴式石室の形態に近く、その形態のミニチュア版であることは、以前の埋葬施設の形態を踏襲していることも考えられ、本古墳群被葬者の同族間で伝統的に使われてきた形態を引き続き採用しながら、または模倣しながらも、徐々に大々的な古墳を造ることから脱却していった様子が窺えるのではないかという点で興味深い。

（２）　在家古墳群第４・５・６号墳の石室

第15号墳のような竪穴系の横穴式石室の検出は、籠原裏古墳群においては初見であったが、近隣の古墳群に目を向けてみると、本古墳群の北東に分布する在家古墳群では、竪穴系石室と呼べる石室をもつ

古墳と胴張型横穴式石室をもつ古墳とが混在している。在家古墳群は、本古墳群から北東へ約800ｍの櫛挽台地東縁辺部に広がる荒川新扇状地に立地する。周辺に広がる在家遺跡は８世紀前半～９世紀末の古代の集落であり、また、西に隣接する櫛挽台地上には最近の発掘調査の成果により、方一町の区画溝内に大型の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が所在する同時期の官衙的施設が検出され、幡羅郡家との関係において、郡家の別院や一時的に郡家機能が移転したとの推論もなされている。

在家古墳群では６基の古墳の存在が確認され、６基全てで石室が検出されているが、その形態が明確に分かる古墳はそのうち５基である。その内訳は、胴張型横穴式石室が２基（第１・２号墳）で、それ以外の古墳（第４・５・６号墳）の石室は機能的に横穴式石室の形態を採らず竪穴系の石室である。しかも、籠原裏古墳群第15号墳のように一見横穴式石室の形態を採るのではなく、奥壁と相対する壁双方が閉じる平面形を採る完全に竪穴式石室とも言ってよいものである。ただし、側壁については、第５号墳を除き明確な胴張型の平面形をなし、埋葬空間を広く確保する工夫がなされている（図版12）。

第４号墳は、直径約７ｍの円墳である。周溝は全周せず、主に墳丘の西側及び東側にあり、北の一部が途切れ、横穴式石室の施設で言えば前庭部にあたる南側は大きく途切れる。石室の規模は、南北長軸約1.3ｍ、側壁最大幅0.4ｍを測り、側壁の最大幅が中央部にある胴張型であり、北及び南において左右側壁の弧が閉じる平面形である。本墳からは、石室の南、周溝が途切れる箇所において、土師器短頸壷（７世紀後半・７世紀第３四半期）が完形で検出されている。

第５号墳は、直径約10.5ｍの円墳である。周溝は全周する。石室の規模は、南北長軸約1.95ｍ、側壁最大幅約0.45ｍを測り、北壁及び南壁幅がやや狭まりやや胴張型をなすが、短冊型に近い平面形を採る。因みに、北壁・南壁とも幅は約0.3ｍを測る。本墳では、主に北側及び東側の周溝から僅かではあるが土師器坏（７世紀後半・７世紀第３四半期）等の遺物が検出されている。

第６号墳は、南側が調査区域外となり不明な点はあるが、直径約８ｍの円墳と推定される。周溝についは、全周している可能性が高い。石室の規模は、南北軸約1.25ｍ、側壁最大幅約0.55ｍを測り、側壁の最大幅が中央部にある胴張型である。北壁及び南壁は幅が狭く、左右側壁の弧が閉じる平面形に近いが、北壁幅が約0.2ｍ、南壁幅が約0.3ｍを測る。本墳では、石室内からわずかに土師器甕破片が、北側の周溝内では土師器甕等が集中して検出され、７世紀末～８世紀初頭の時期と思われる。

（３）　籠原裏古墳群と在家古墳群の比較について

ここで、籠原裏古墳群及び在家古墳群の双方の様相の比較であるが、状況としては、胴張型横穴式石室と竪穴系の石室が混在するといった共通点がある。また、幡羅郡家との関係という観点から見ると、立地こそ違うが、双方の古墳群とも所在する古墳の様相や立地環境から似通っているとも判断される点で共通点があると思われる。そして、築造時期においても、いずれの古墳群も埴輪の樹立がなされなくなった時期であり、７世紀後半以降である点が共通する。ただし、具に比較すると、在家古墳群が籠原裏古墳群よりやや先行して築造され同時期に存在した可能性を残し、８世紀初頭まで築造が続いたものと考えられる。

一方で、相違点は、籠原裏古墳群の例は機能としては竪穴式石室のそれと同じであるが、形態はあくまでも横穴式石室の形態を踏襲しているのに対して、在家古墳群の例は全くもって竪穴式石室の機能そのものの形態である。また、規模についても、埋葬空間である玄室の規模での比較ではあるが、籠原裏

古墳群の例が長さ約１m、幅約0.5mであるのに対し、在家古墳群の例は、幅はさほど変わりがないが、１m以上の1.25～1.95mを測る規模をもつ点で異なり、仮に遺体を直葬したとしても第５号墳の石室は現代の成人でも十分な規模である。なお、第４・６号墳の石室については、必ずしも成人の遺体を埋葬したとは限らないと思われる点では、籠原裏古墳群第15号墳石室と異なるとは言い切れない部分もある。最後に外部施設の点からは、在家古墳群の３古墳が周溝をもち墳形が円形であるの対し、籠原裏古墳群第15号墳は、確たる根拠をもって周溝と呼べるものがなく、仮に周囲を巡る溝跡が周溝とすれば、墳形については方形をなすものであると言わざるを得ない。

以上のことから、両古墳群とも２種類の石室形態をもつ古墳が造営され、時期的にも、歴史・環境的にも、律令制が施行され幡羅郡家（評家）の成立に関わる氏族による造営が推定され、先行して在家古墳群が、その後籠原裏古墳群が遅れて造営されるといった状況であると思われる。ただし、籠原裏古墳群が八角形の墳形をもつ古墳が含まれ特殊な副葬品をもつ一方で、在家古墳群にはそのような様相は見られないという点や、同じ竪穴系の石室でも形態が異なる点から、郡家と関わる点では共通項があるが、異なった出自の氏族の造営によるものであり、その結果生まれたのが石室の形態であり、墳形の相違であると思われる。郡家の成立及び政治運営について言えば、複数の氏族から郡司が登用され、その郡司氏族が協同し政にあたったと考えられる。両古墳群が所在する幡羅郡（評）においては、古来この地を治めていた有力氏族については、傑出した規模の古墳が現在のところ確認されていないことから、小規模な勢力（氏族）が複数存在し、その中の主導的立場の勢力が中心となって立評したと考えられており、その氏族達が造営した古墳群が、別府古墳群、深谷市木の本古墳群、籠原裏古墳群であったと考え、その主導的立場の氏族が造営したのが籠原裏古墳群であったと考えた（吉野 2013）。しかし、このたび確認された籠原裏古墳群第15号墳の実態と在家古墳群の実態との比較から、この幡羅郡家（評家）の政治には、さらに在家古墳群の造営氏族も関わりをもっていたと考える余地が残されると思われる。つまり、別府古墳群や木の本古墳群の造営氏族に加え、在家古墳群造営氏族も政にあたった可能性があるということであり、正に複数氏族が協同しての政であったと思われるのである。しかも、籠原裏古墳群造営氏族が最も優位に立つという見解は未だ変わらないが、在家古墳群造営氏族が別府古墳群・木の本古墳群造営氏族より優位に立つ可能性も考えられ、それは、隣接して官衙的施設が所在する環境からも言え、さらに、先に籠原裏古墳群造営氏族と在家古墳群造営氏族が異なると述べたが、双方の造営時期も踏まえて、在家古墳群造営氏族と籠原裏古墳群造営氏族が何らかの姻戚関係にあった可能性も視野に入れて検討する必要があると考える。

籠原裏古墳群及び籠原裏遺跡については、土地区画整理事業も平成29年度完了予定という最終盤の時期を迎え、土地区画整理事業に係る調査は今回の調査でほぼ終了したものと思われる。今後は、事業地内での個人専用住宅、共同住宅や店舗等の建設に伴う調査が発生する可能性があるが、これらの調査によって新たな古墳の発見や古代の集落跡の実態に迫る成果があがれば、その機会に再考したいと思う。

主な引用・参考文献（紙面の都合で大幅に割愛した。）

熊谷市教育委員会　2004 『籠原裏遺跡』、2005 『籠原裏古墳群』、2006 『拾六間後遺跡』、
2013 『西別府祭祀遺跡、西別府廃寺、西別府遺跡　総括報告書Ⅰ』
熊谷市籠原裏遺跡調査会　2000 『籠原裏古墳群第10号墳』、2009 『籠原遺跡　籠原裏古墳群第11号墳』

附編　籠原裏古墳群第14号墳・第15号墳石室壁の礫種・礫径分析

小川政之（日本第四紀会会員）　　清水康守（熊谷市史調査員）
駒井　潔（埼玉県立和光高等学校）　　武藤博士（化石研究会会員）

1　はじめに

籠原裏古墳群・籠原裏遺跡の発掘では、古墳時代終末期と思われる２基の古墳第14号墳と第15号墳が見つかった。これらの古墳の石室は、川原礫を平面胴張型(注)（馬蹄形）に小口積みにし、８段以上積み上げてつくられている。そこで、石室壁に使用された礫の礫種と礫径の分析から、礫を採取した河川と採取地点の推定を行った。（注：本書の執筆・編集者の見解では第15号墳の石室は胴張型として捉えていない。）

なお、礫種同定は現地において肉眼観察により行い、礫径は長径と中径を計測した。

2　同定された礫種

（1）　堆積岩類

堆積岩類は、「チャート」「砂岩」「礫岩」「泥岩」「凝灰岩」に区分した。

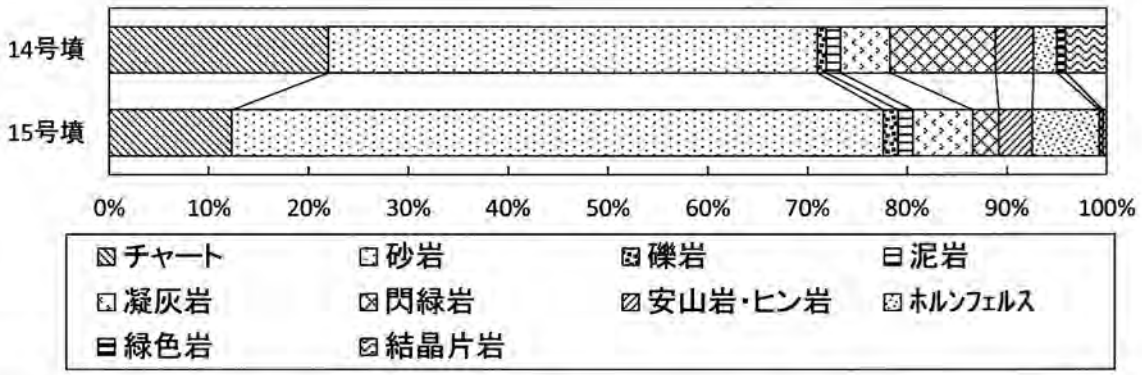
チャートは、珪質緻密で、灰色、褐色、白色、黒灰色、緑灰色、青灰色などである。砂岩は、灰色細粒のものがほとんどで、他に中粒の白色粒子や黒色岩片を含むもの、特に白色粒子が目立つ凝灰質なものなどである。泥岩は、珪質で黒色である。礫岩には、チャート岩片を含むものもある。凝灰岩は、白色ないし緑灰色で細粒白色粒子のものや珪質なものを一括した。

（2）　火成岩類

火成岩類では，深成岩の「閃緑岩」と「安山岩・ヒン岩」に区分した。

閃緑岩は、ゴマ塩状で、表面は風化していない。安山岩・ヒン岩は、暗灰色、褐色で角閃石や長石の斑晶が見られる。

（3）　変成岩類



礫種	チャート	砂岩	礫岩	泥岩	凝灰岩	閃緑岩	安山岩ヒン岩	ホルンフェルス	緑色岩	結晶片岩	合計（個数）
14号墳	75	167	3	5	17	36	13	8	3	14	341
15号墳	33	175	4	4	16	7	9	18	1	1	268

第70図　個数による礫種組成

変成岩類は、「ホルンフェルス」「緑色岩」「結晶片岩」に区分した。

ホルンフェルスは、泥質緻密で暗赤紫色ものと細粒砂質のものである。緑色岩は、暗緑色で細粒である。結晶片岩は、緑泥片岩、絹雲母片岩、石英片岩、黒色片岩などである。

3　個数による礫種組成分析結果

第14号墳と第15号墳の石室壁の礫について、それぞれの全個数341個、268個による礫種組成を第70図に示す。また、各石室壁の礫の礫種組成（%）は次の通りである。

（1）　第14号墳

砂岩（49.0%）、チャート（22.0%）を主体とし、次に閃緑岩（10.6%）がやや多く、次に凝灰岩（5.0%）、結晶片岩（4.1%）、安山岩･ヒン岩（3.8%）、ホルンフェルス（2.3%）と続き、また少量の礫岩（0.9%）、泥岩（1.5%）、緑色岩（0.9%）である。

（2）　第15号墳

砂岩（65.3%）、チャート（12.3%）を主体とし、次にホルンフェルス（6.7%）、凝灰岩（6.0%）、安山岩･ヒン岩（3.4%）、閃緑岩（2.6%）と続き、また少量の礫岩（1.5%）、泥岩（1.5%）、緑色岩（0.4%）、結晶片岩（0.4%）である。

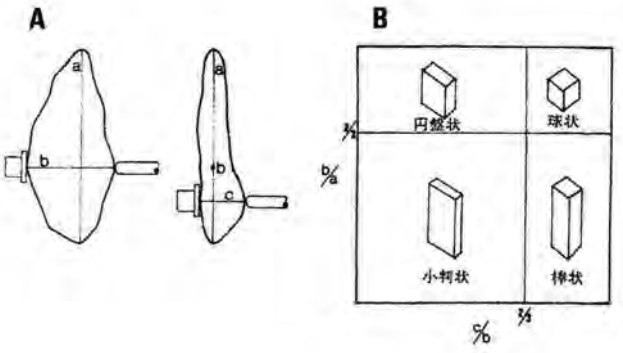
以上の結果から、両石室壁の礫の礫種はともに、特に砂岩とチャートが多い堆積岩礫を主体とし、閃緑岩、結晶片岩、緑色岩を含み、他に安山岩などである。このことは現在の荒川の川原礫と類似する。なお、本遺跡は櫛挽台地に位置し、隣接して荒川新扇状地の礫層と櫛挽台地の関東ローム層の下にも礫層が分布する。荒川新扇状地の礫層の礫種は石室壁の礫と類似するが、砂岩・閃緑岩は風化していることが多い。風化していない礫を選別して採取した可能性もあるが、石室壁の礫の砂岩・閃緑岩は風化していないことから、荒川新扇状地のものではないと考える。また、関東ローム層の下の礫層は近辺の在家遺跡（第74図　地点Ｂ）で見られ、礫種は石室壁の礫と類似するが、厚さ1.5ｍほどの関東ローム層の下の礫層には25.6㎝以上の巨礫はなく、石室に必要な大量の礫を関東ローム層を掘り起こして採取したとは考えにくい。そこで、両石室の石積みに使用した礫は、古墳時代終末期当時の荒川の川原礫であるといえる。

4　礫径（長径・中径）区分による礫の個数分布結果

（1）　礫の形状分類

礫の径は、第71図Ａのように長径（a）、中間径（b）、短径（c）に分けられる。長径は最も長い径で，それと直交する方向に最も長い径が中間径である。また、長径と中間径のそれぞれの方向を含む面に直交する方向で最も長い径が短径である.

第71図Ｂに示された形状分類図は、縦軸に長径と中間径の比（b/a）、横軸に中間径と短径の比（c/b）をとり、それぞれの値の３分の２を境に「円盤状」「球状」「小判状」「棒状」の４つに区分している。



第71図　礫の径区分と形状分類
（公文・立石編（1998）一部図省略）

（２） 長径による礫の個数分布

第14号墳と第15号墳の石室壁の礫について、それぞれの個数342個、269個による長径による個数分布を第72図に示す。この図では、横軸が１㎝間隔での長径で、縦軸は各長径に対する個数であり、また各棒の上の数値はそれぞれの個数である。

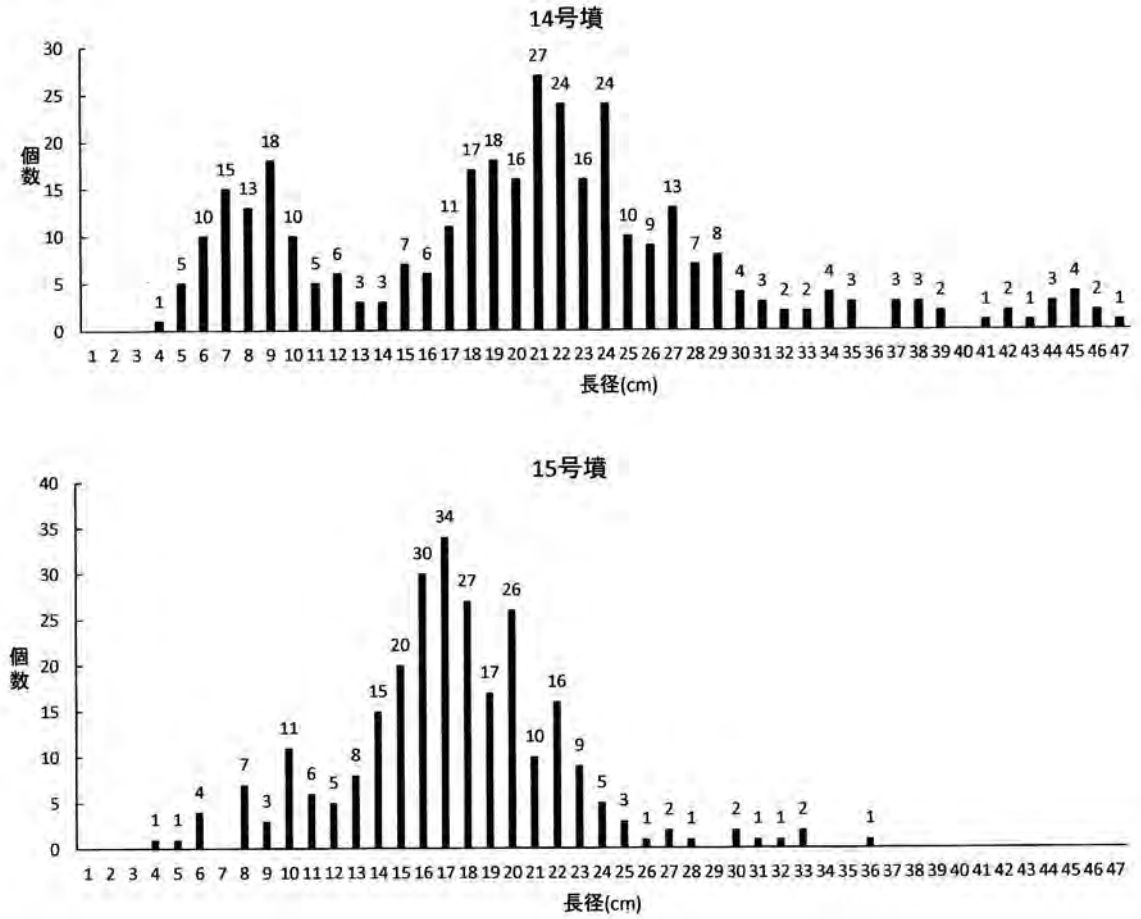
第14号墳についての石室壁の礫の長径は、最小４㎝、最大47㎝、平均20㎝である。個数分布は、長径22㎝付近と８㎝付近にピークをもつバイモーダルになる。

第15号墳についての石室壁の礫の長径は、最小４㎝、最大36㎝、平均17㎝である。個数分布は、長径18㎝付近とやや不鮮明だが10㎝付近にピークをもつバイモーダルになる。

両石室壁の礫を比較すると、第14号墳の方が第15号墳より大きなピークの長径と平均粒径がともに大きくなり、また礫はより大きなものを使用し、全個数も多くなっている。なお、両石室とも小口積みをした礫の間を埋めた礫により、バイモーダルな小さなピークを示すと思われる。

（３） 長径・中径による礫の個数分布

第14号墳と第15号墳の石室壁の礫について、それぞれ個数336個、267個による長径による個数分布を第73図に示す。図の横軸が長径（㎝）で、縦軸は各礫の長径に対する中径（㎝）である。また、図中の直線（傾き中径/長径＝２/３）は、形状の「円盤状・球状」と「小判状・棒状」との境界線で、直線より下の部分は「小判状・棒状」、上の部分は「円盤状・球状」の領域となる。



第72図　長径による礫の個数分布

第14号墳では、小判状・棒状は220個（65.5%）で、円盤状・球状が116個（34.5%）である。

第15号墳では、小判状・棒状は195個（73.0%）で、円盤状・球状が72個（27.0%）である。

これらの結果から、両石室とも小判状・棒状の礫をより多く使用した傾向がある。

なお、礫の円磨度は、超円・円がほとんどであり、少量の亜円・亜角も見られるが、ほとんど加工をしないで石積みを行っている。ただし、第14号墳では礫の間を埋めたと思われる小さな礫に亜円・亜角のものがやや多い。

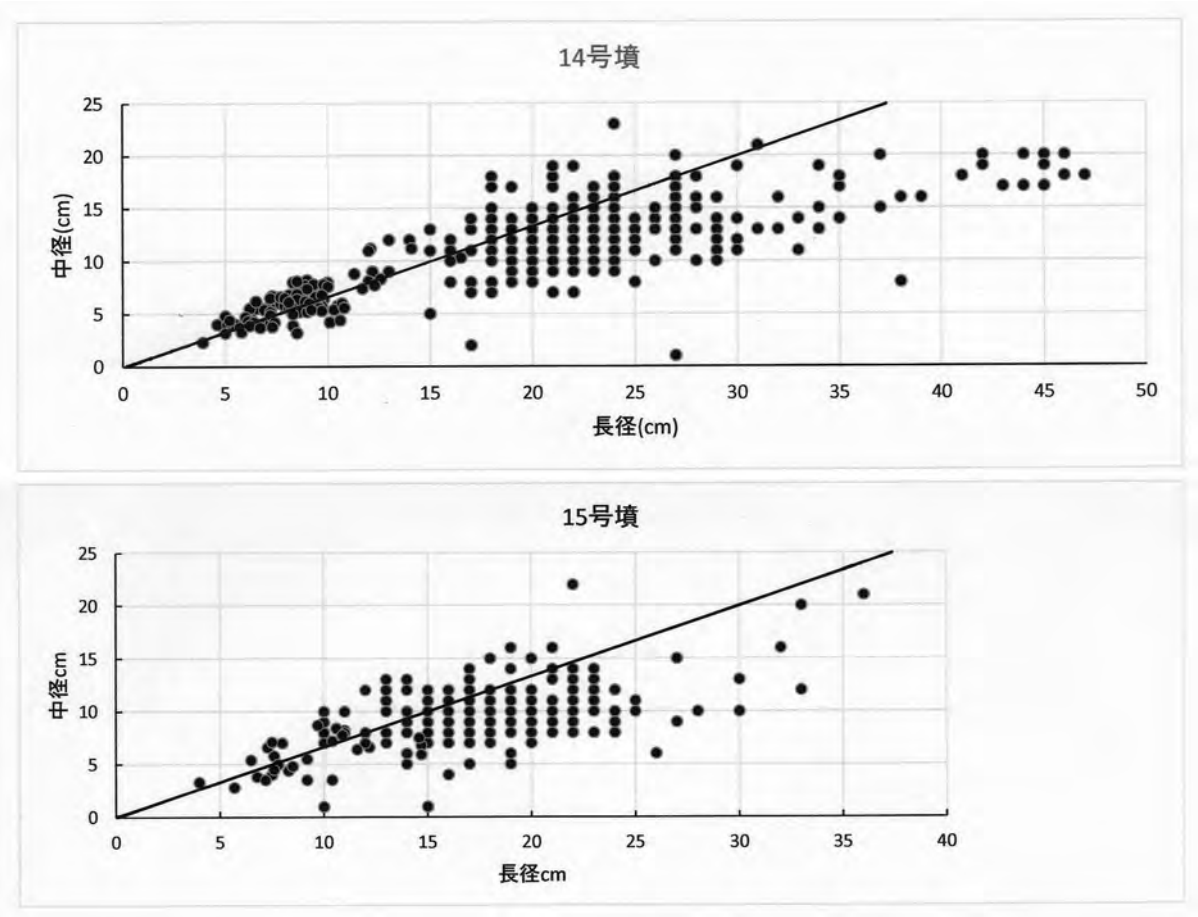
5　礫の採取地点について

第74図に示す現在の荒川の３地点で採取した川原礫の礫径（長径）による個数分布を第75図に示す。

なお、地点１は寄居町正喜橋上流、地点２は深谷市植松橋下流、地点３は熊谷市荒川大橋上流である。また、分析は長径3.2㎝以上について行い、礫径は長径25.6㎝以上、25.6～12.8㎝、12.8～6.4㎝、6.4～3.2㎝の４つに区分した。

石室壁には長径が25㎝以上の礫が使用されていることから、現在の荒川で長径25㎝以上の礫が存在するのは地点１・２であり、地点３では見られない。

このことから、古墳時代終末期の荒川の水量が現在と大きな変化がないとすると、両石室壁の礫は、荒川の植松橋付近より上流の川原から採取されたと推定される。



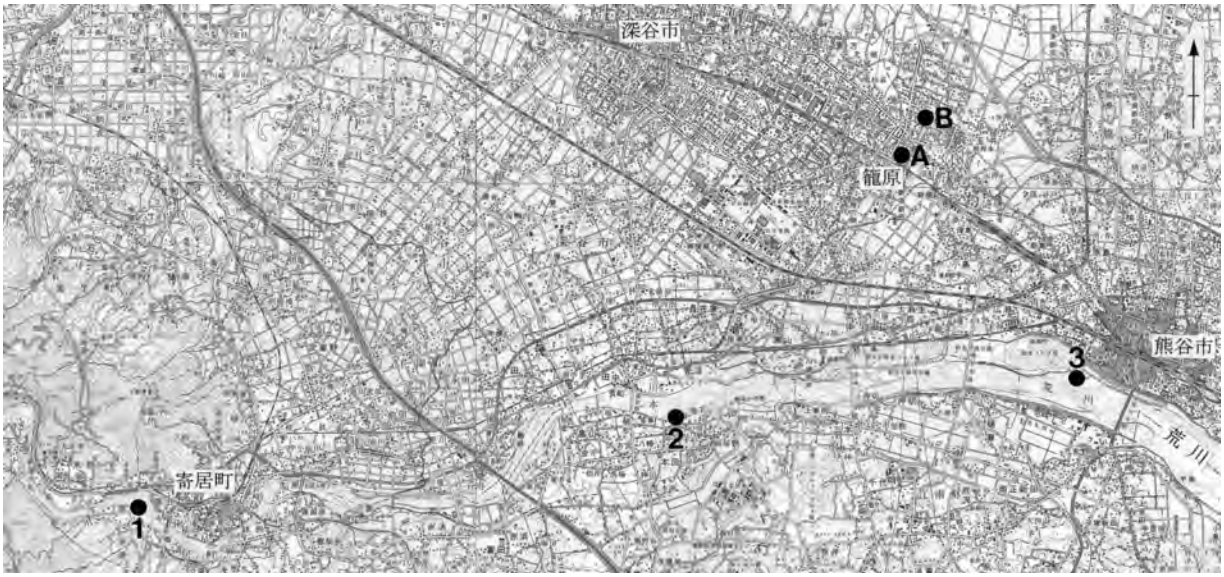
第73図　長径・中径による礫の個数分布

6　まとめ

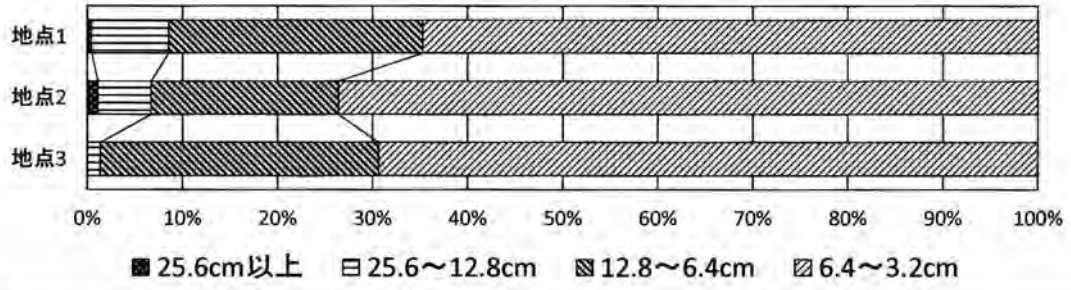
礫種組成から第14号墳・第15号墳の石室壁の礫は荒川の川原礫を使用したといえる。

また、古墳時代終末期の荒川の水量が現在と大きな変化がないとすると、現在の荒川の礫径（長径）による個数分布結果から、石室壁の礫は、荒川新扇状地の扇頂付近の植松橋より上流から運ばれたと推定される。

では、川原礫は籠原裏古墳群・籠原裏遺跡までどのようして運搬されたのか。一般には陸路での運搬が可能であるが、熊谷市教育委員会（2011）で紹介されている荒川の形成と流路変遷にあるように、古墳時代終末期に荒川が本遺跡近くの第Ⅳ流路を流れていたとすると、水上輸送で運ばれた可能性もあるといえる。



第74図　荒川の川原礫採取地点【地点Ａは籠原裏古墳群・籠原裏遺跡、地点Ｂは在家遺跡】
（国土地理院５万分の１地形図「熊谷」「深谷」「寄居」「高崎」を使用）



長径(cm)	25.6cm以上	25.6～12.8cm	12.8～6.4cm	6.4～3.2cm	合計
地点1	22	395	1302	3158	4877
地点2	3	15	53	198	269
地点3		80	1690	4006	5776

第75図　現在の荒川の川原礫における礫径（長径）による礫の個数分布

文　献

熊谷市教育委員会　2011　座談会「荒川の形成と流路の変遷－荒川新扇状地の形成と流路変遷－」『熊谷市史研究第３号』（p１－９）

公文富士夫・立石雅昭　1998 『地学双書29　新版砕屑物の研究法』 地学団体研究会　東京　(p125－126)

写　真　図　版

第12号墳調査風景

Ａ区全景（第12号墳墳丘除去後、上が西）

Ａ区基本土層（南東部南壁、北から）

第12号墳全景（南から）

第12号墳石室完掘状況（南から）

第12号墳石室検出状況（崩落石・閉塞石除去前、南から）

第12号墳石室閉塞石検出状況（南から）

図版2

第12号墳石室完掘状況（左：玄室　右：羨道部、南から）

第12号墳石室羨門部完掘状況（南から）

第12号墳石室前庭部完掘状況（南から）

第12号墳石室全景（棺床面礫除去後、南から）

第12号墳石室奥壁（棺床面礫除去後、南から）

第12号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、西から）

第12号墳石室左側壁（棺床面礫除去後、東から）

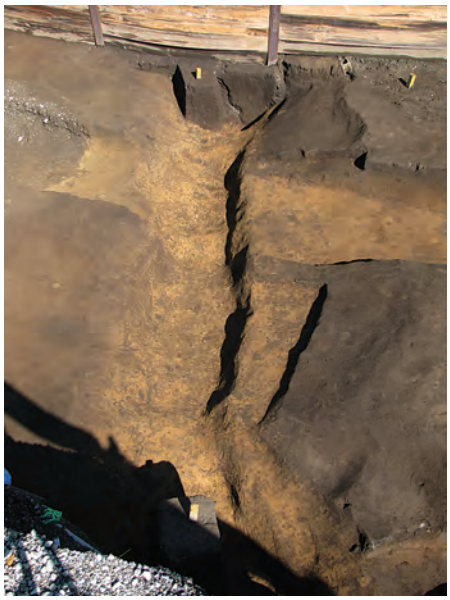
第12号墳石室右側壁（左：玄室　右：羨道部　棺床面礫除去後、西から）

第12号墳石室右側壁（右：玄室　左：羨道部　棺床面礫除去後、東から）

図版4

第12号墳石室根石検出状況（棺床面礫除去後、南から）

第12号墳石室掘り方完掘状況（南から）



第12号墳周溝（西側）完掘状況（南から）

第12号墳周溝（西側）土層断面（南東から）

第12号墳石室右側壁裏込め土（土層断面B-B’、南から）

第12号墳墳丘東側盛土（土層断面B－B’、南東から）

第12号墳墳丘西側盛土（土層断面B－B’、南東から）

第13号墳全景（南から）

第13号墳石室完掘状況（羨道部左側壁、南から）

第13号墳石室羨道部左側壁（東から）

第13号墳墳丘・石室検出状況（南から）

第13号墳周溝（西側）礫出土状況（南から）

図版6

第13号墳周溝（西側）完掘状況（南から）

第13号墳周溝（東側）完掘状況・土層断面（南から）

第１・３号溝跡、第３～５号土坑、第４・５・７～12・15・55～61・67・72・95～98・106・107・110号ピット完掘状況（南から）

第２・６号溝跡、第１号井戸跡、第１号土坑、第６・72・110号ピット完掘状況（南から）

第18～33・38・83・87・91号ピット完掘状況（南から）

第４・５号溝跡、第13・39・40・42～44・46～50・52～54・74～79・82・84～86・92～94・99～102・104・105・117号ピット完掘状況（東から）

第１号性格不明竪穴遺構完掘状況（東から）

Ｂ区全景（北東から）

第14号墳全景（棺床面礫除去後、南から）

第14号墳石室完掘状況（南から）

第14号墳石室検出状況（崩落石・閉塞石除去前、南から）

第14号墳石室閉塞状況（玄門部、北から）

図版8

第14号墳石室完掘状況（左：玄室　右：羨道部、南から）

第14号墳石室全景（棺床面礫除去後、南から）

第14号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、北西から）

第14号墳石室羨道部左側壁（棺床面礫除去後、東から）

第14号墳石室掘り方完掘状況（南から）

第15号墳全景（石室上面礫除去前、北から）

第15号墳石室全景（北から）

第15号墳石室奥壁（棺床面礫除去後、南から）

第15号墳石室右側壁（棺床面礫除去後、西から）

第15号墳石室左側壁（棺床面礫除去後、東から）

第15号墳石室掘り方完掘状況（南から）

図版10

第１号竪穴住居跡完掘状況（右上がカマド､北西から）

第３号掘立柱建物跡、第８号溝跡、第８号土坑、
周辺ピット完掘状況（北から）

第１・２号掘立柱建物跡、第７・９号溝跡、
周辺ピット完掘状況（北から）

第５号掘立柱建物跡、第３号性格不明
竪穴遺構、周辺ピット完掘状況（南から）

第４号掘立柱建物跡、第17号溝跡、第10号土坑、
周辺ピット完掘状況（南から）

第12号墳　第12図２

第12号墳　第12図４・５

第12号墳　第12図１・３
第13号墳　第16図１
遺構外　　第69図１・２

Ｂ区出土　第68図１～４
遺構外　　第69図３

第12号墳　　第12図12
第13号墳　　第16図２
遺構外出土遺物　第69図４

第12号墳　第12図６～11

図版12

在家古墳群第 2 号墳石室

在家古墳群第 4 号墳石室（左：北から　右：左側壁）

在家古墳群第 5 号墳石室
（上：北から　下：右側壁）

在家古墳群第 6 号墳石室
（上：北から　下：左側壁）

報告書抄録

ふりがな	かごはらうらこふんぐん　よん（かごはらうらこふんぐんだいじゅうに・じゅうさん・じゅうよん・じゅうごごうふん）　かごはらうらいせき　さん
書　　名	籠原裏古墳群Ⅳ（籠原裏古墳群第12・13・14・15号墳）　籠原裏遺跡Ⅲ
副 書 名	熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書Ⅲ
シリーズ名	埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第20集
編集者名	吉野 健
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会
所 在 地	〒360－0107　埼玉県熊谷市千代329番地　熊谷市立江南文化財センター　TEL 048－536－5062
発行年月日	西暦2015（平成27）年３月16日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（°′″）	東緯（°′″）	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
籠原裏古墳群第12・13号墳（かごはらうらこふんぐんだいじゅうにごうふん） 籠原裏遺跡（かごはらうらいせき） （第６次）	熊谷市新堀字諏訪前（くまがやしにいぼりあざすわまえ）781番（ばん）1·4·5·6·7、781番（ばん）1·2	11202 11202	59-051 -12·13 59-082	36° 10′ 29″	139° 19′ 54″	20130828～ 20131113	400	区画整理街路築造工事
籠原裏古墳群第14・15号墳（かごはらうらこふんぐんだいじゅうごごうふん） 籠原裏遺跡（かごはらうらいせき） （第７次）	熊谷市新堀字諏訪前（くまがやしにいぼりあざすわまえ）780番（ばん）1·4	11202 11202	59-051 -14·15 59-082	36° 10′ 28″	139° 19′ 54″	20131112～ 20140123	510	区画整理に伴う新店舗建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
籠原裏古墳群第12・13・14・15号墳	古墳跡	古墳時代末	古墳　4基	土師器　須恵器 鉄製品	新たに４基の古墳が検出され、計15基となった。
籠原裏遺跡	集落跡	縄文時代中期 平安時代	竪穴住居跡　1軒 掘立柱建物跡　8棟 溝跡　17条 井戸跡　1基 土坑　17基 ピット　444基 性格不明竪穴遺構４基	縄文土器　石器 土師器　須恵器	平安時代の集落がさらに南へと広がることが確認された。

本報告書は、編集を担当課で行い、印刷は外注により300部作成し、
１部当たりの単価は1,620円です。

埼玉県熊谷市埋蔵文化財調査報告書　第20集

籠 原 裏 古 墳 群 Ⅳ
（籠原裏古墳群第12・13・14・15号墳）
籠 原 裏 遺 跡 Ⅲ

－熊谷都市計画事業籠原中央第一土地区画整理事業地内遺跡発掘調査報告書Ⅲ－

平成27年３月16日　発行

発行／埼玉県熊谷市教育委員会

印刷／巧和工芸印刷株式会社

10th
KUMAGAYA